

税理士会計士学科（4年課程）1年次

第1学年

科目区分	科目整理番号	授業科目	授業形態	必選の別	時間数	単位数	実務教員科目
一般科目	001	社会人基礎Ⅰ	講義	必修	60	3	
	002	社会人基礎Ⅱ	講義	選必	60	3	
	003	社会人基礎Ⅲ	講義	選必	90	3	
専門科目	004	複式簿記の原理	講義	選必	90	3	○
	005	株式会社会計	講義	選必	90	3	○
	006	株式会社会計演習Ⅰ	演習	選必	30	2	○
	007	中小企業会計Ⅰ	講義	選必	90	3	
	008	中小企業会計Ⅱ	講義	選必	90	3	
	009	中小企業会計演習Ⅰ	演習	選必	30	2	
	010	公開企業会計Ⅰ	講義	選必	90	3	
	011	公開企業会計Ⅱ	講義	選必	90	3	
	012	公開企業会計演習Ⅰ	演習	選必	30	2	
	013	商業簿記上級	講義	選必	90	3	
	014	工業簿記上級	講義	選必	90	3	
	015	日商簿記1級Ⅰ	講義	選必	90	3	
	016	日商簿記1級Ⅱ	講義	選必	90	3	
	017	日商簿記1級Ⅲ	講義	選必	90	3	
	018	日商簿記1級演習Ⅰ	演習	選必	40	1	
	019	日商簿記1級演習Ⅱ	演習	選必	40	1	
	020	日商簿記1級演習Ⅲ	演習	選必	40	1	
	021	日商簿記1級演習Ⅳ	演習	選必	40	1	
	022	日商簿記2級Ⅰ	講義	選必	90	3	
	023	日商簿記2級Ⅱ	講義	選必	90	3	
	024	日商簿記2級Ⅲ	講義	選必	90	3	
	025	日商簿記2級演習Ⅰ	演習	選必	30	2	
	026	日商簿記2級演習Ⅱ	演習	選必	30	1	
	027	日商簿記2級演習Ⅲ	演習	選必	30	1	
	028	日商簿記2級演習Ⅳ	演習	選必	30	1	
	029	財務会計の原理	講義	選必	60	2	○
	030	財務会計Ⅰ	講義	選必	60	2	○
	031	財務会計Ⅱ	講義	選必	60	2	○
	032	連結財務諸表Ⅰ	講義	選必	60	2	○
	033	財務報告基準Ⅰ	講義	選必	30	1	○
	034	管理会計の原理	講義	選必	60	2	
	035	原価計算	講義	選必	60	2	
	036	意思決定会計	講義	選必	30	1	
	037	戦略管理会計	講義	選必	30	1	
	038	監査論Ⅰ	講義	選必	60	2	○

039	企業法 I	講義	選必	60	2	○
040	企業法 II	講義	選必	30	1	○
041	消費税法税務会計	講義	選必	90	3	○
042	簿記論 I	講義	選必	120	4	
043	財務諸表論 I	講義	選必	120	4	
044	消費税法 I	講義	選必	120	4	○
045	法人税法 I	講義	選必	120	4	○
046	相続税法 I	講義	選必	120	4	
047	簿記論演習 I	演習	選必	60	2	
048	財務諸表論演習 I	演習	選必	60	2	
049	消費税法演習 I	演習	選必	60	2	○
050	法人税法演習 I	演習	選必	60	2	○
051	相続税法演習 I	演習	選必	60	2	
052	会計学上級	講義	選必	90	3	
053	原価計算上級	講義	選必	90	3	
054	税務会計	講義	選必	120	4	
055	宅地建物取引士 I	講義	選必	60	2	
056	宅地建物取引士 II	講義	選必	60	2	
057	宅地建物取引士 III	講義	選必	60	2	
058	宅地建物取引士 IV	講義	選必	30	1	
059	F P 技能士 3 級	講義	選択	60	2	
060	F P 技能士 3 級演習	演習	選択	15	1	
061	コンピュータ会計	演習	選択	30	2	
1 学年合計授業時間数・取得単位数				900	32	

(備考)

選必は選択必修科目であり、840時間以上を選択し履修規程に従い履修しなければならない。

税理士会計士学科（4年課程）2年次

第2学年

科目区分	科目整理番号	授業科目	授業形態	必選の別	時間数	単位数	実務教員科目
一般科目	062	社会人基礎Ⅰ	講義	選必	60	3	
	063	社会人基礎Ⅱ	講義	選必	60	3	
専門科目	064	簿記論Ⅰ	講義	選必	120	4	
	065	簿記論Ⅱ	講義	選必	180	6	
	066	財務諸表論Ⅰ	講義	選必	120	4	
	067	財務諸表論Ⅱ	講義	選必	180	6	
	068	消費税法Ⅰ	講義	選必	120	4	○
	069	消費税法Ⅱ	講義	選必	180	6	○
	070	消費税法Ⅲ	講義	選必	180	6	○
	071	法人税法Ⅰ	講義	選必	120	4	○
	072	法人税法Ⅱ	講義	選必	180	6	○
	073	相続税法Ⅰ	講義	選必	120	4	
	074	相続税法Ⅱ	講義	選必	180	6	
	075	国税徴収法Ⅰ	講義	選必	60	2	
	076	簿記論演習Ⅰ	演習	選必	60	2	
	077	簿記論演習Ⅱ	演習	選必	90	3	
	078	財務諸表論演習Ⅰ	演習	選必	60	2	
	079	財務諸表論演習Ⅱ	演習	選必	90	3	
	080	消費税法演習Ⅰ	演習	選必	60	2	○
	081	消費税法演習Ⅱ	演習	選必	90	3	○
	082	消費税法演習Ⅲ	演習	選必	90	3	○
	083	法人税法演習Ⅰ	演習	選必	60	2	○
	084	法人税法演習Ⅱ	演習	選必	90	3	○
	085	相続税法演習Ⅰ	演習	選必	60	2	
	086	相続税法演習Ⅱ	演習	選必	90	3	
	087	国税徴収法演習Ⅰ	演習	選必	60	2	
	088	財務会計の原理	講義	選必	60	2	○
	089	財務会計Ⅰ	講義	選必	60	2	○
	090	財務会計Ⅱ	講義	選必	60	2	○
	091	財務会計Ⅲ	講義	選必	60	2	○
	092	財務会計Ⅳ	講義	選必	60	2	○
093	連結財務諸表Ⅰ	講義	選必	60	2	○	
094	連結財務諸表Ⅱ	講義	選必	60	2	○	
095	財務報告基準Ⅰ	講義	選必	30	1	○	
096	財務報告基準Ⅱ	講義	選必	60	2	○	
097	管理会計の原理	講義	選必	60	2		
098	原価計算	講義	選必	60	2		
099	意思決定会計	講義	選必	30	1		

100	戦略管理会計	講義	選必	30	1	
101	監査論 I	講義	選必	60	2	○
102	企業法 I	講義	選必	60	2	○
103	企業法 II	講義	選必	30	1	○
104	財務会計演習 I	演習	選必	60	2	○
105	財務会計演習 II	演習	選必	30	1	○
106	財務会計演習 III	演習	選必	60	2	○
107	財務会計演習 IV	演習	選必	30	1	○
108	管理会計演習 I	演習	選必	60	2	
109	管理会計演習 II	演習	選必	60	2	
110	管理会計演習 III	演習	選必	30	1	
111	監査演習	演習	選必	30	1	○
112	企業法演習	演習	選必	30	1	○
113	公開企業会計 I	講義	選必	90	3	
114	公開企業会計 II	講義	選必	90	3	
115	公開企業会計演習 I	演習	選必	30	2	
116	商業簿記上級	講義	選必	90	3	
117	工業簿記上級	講義	選必	90	3	
118	日商簿記 1 級 III	講義	選必	90	3	
119	日商簿記 1 級演習 II	演習	選必	40	1	
120	日商簿記 1 級演習 III	演習	選必	40	1	
121	日商簿記 1 級演習 IV	演習	選必	40	1	
122	会計学上級	講義	選必	90	3	
123	原価計算上級	講義	選必	90	3	
124	消費税法税務会計	講義	選必	90	3	○
125	宅地建物取引士 I	講義	選必	60	2	
126	宅地建物取引士 II	講義	選必	60	2	
127	宅地建物取引士 III	講義	選必	60	2	
128	宅地建物取引士 IV	講義	選必	30	1	
129	社会保険労務士 I	講義	選択	120	4	
130	社会保険労務士演習 I	演習	選択	60	2	
131	F P 技能士 3 級	講義	選択	60	2	
132	F P 技能士 3 級演習	演習	選択	15	1	
133	コンピュータ会計	演習	選択	30	2	
2 学年合計授業時間数・取得単位数				900	32	

(備考)

選必は選択必修科目であり、900時間以上を選択し履修規程に従い履修しなければならない。

税理士会計士学科（4年課程）3年次

第3学年

科目区分	科目整理番号	授業科目	授業形態	必選の別	時間数	単位数	実務教員科目
専 門 科 目	134	簿記論Ⅰ	講義	選必	120	4	
	135	簿記論Ⅱ	講義	選必	180	6	
	136	財務諸表論Ⅰ	講義	選必	120	4	
	137	財務諸表論Ⅱ	講義	選必	180	6	
	138	消費税法Ⅰ	講義	選必	120	4	○
	139	消費税法Ⅱ	講義	選必	180	6	○
	140	消費税法Ⅲ	講義	選必	180	6	○
	141	法人税法Ⅰ	講義	選必	120	4	○
	142	法人税法Ⅱ	講義	選必	180	6	○
	143	相続税法Ⅰ	講義	選必	120	4	
	144	相続税法Ⅱ	講義	選必	180	6	
	145	事業税Ⅰ	講義	選必	60	2	
	146	事業税Ⅱ	講義	選必	90	3	
	147	簿記論演習Ⅰ	演習	選必	60	2	
	148	簿記論演習Ⅱ	演習	選必	90	3	
	149	財務諸表論演習Ⅰ	演習	選必	60	2	
	150	財務諸表論演習Ⅱ	演習	選必	90	3	
	151	消費税法演習Ⅰ	演習	選必	60	2	○
	152	消費税法演習Ⅱ	演習	選必	90	3	○
	153	消費税法演習Ⅲ	演習	選必	90	3	○
	154	法人税法演習Ⅰ	演習	選必	60	2	○
	155	法人税法演習Ⅱ	演習	選必	90	3	○
	156	相続税法演習Ⅰ	演習	選必	60	2	
	157	相続税法演習Ⅱ	演習	選必	90	3	
	158	事業税演習Ⅰ	演習	選必	60	2	
	159	事業税演習Ⅱ	演習	選必	90	3	
	160	財務会計の原理	講義	選必	60	2	○
	161	財務会計Ⅰ	講義	選必	60	2	○
	162	財務会計Ⅱ	講義	選必	60	2	○
	163	連結財務諸表Ⅰ	講義	選必	60	2	○
	164	財務報告基準Ⅰ	講義	選必	30	1	○
165	管理会計の原理	講義	選必	60	2		
166	原価計算	講義	選必	60	2		
167	意思決定会計	講義	選必	30	1		
168	戦略管理会計	講義	選必	30	1		
169	監査論Ⅰ	講義	選必	60	2	○	
170	企業法Ⅰ	講義	選必	60	2	○	
171	企業法Ⅱ	講義	選必	30	1	○	

172	財務会計演習Ⅰ	演習	選必	60	2	○
173	財務会計演習Ⅱ	演習	選必	30	1	○
174	財務会計演習Ⅲ	演習	選必	60	2	○
175	財務会計演習Ⅳ	演習	選必	30	1	○
176	管理会計演習Ⅰ	演習	選必	60	2	
177	管理会計演習Ⅱ	演習	選必	60	2	
178	管理会計演習Ⅲ	演習	選必	30	1	
179	監査演習	演習	選必	30	1	○
180	企業法演習	演習	選必	30	1	○
181	財務会計Ⅲ	講義	選必	60	2	○
182	財務会計Ⅳ	講義	選必	60	2	○
183	連結財務諸表Ⅱ	講義	選必	60	2	○
184	財務報告基準Ⅱ	講義	選必	60	2	○
185	財務報告基準Ⅲ	講義	選必	60	2	○
186	経営分析	講義	選必	60	2	
187	原価管理	講義	選必	60	2	
188	監査論Ⅱ	講義	選必	60	2	○
189	会社法	講義	選必	60	2	○
190	商法	講義	選必	30	1	○
191	金融商品取引法	講義	選必	30	1	○
192	公開企業会計Ⅰ	講義	選必	90	3	
193	公開企業会計Ⅱ	講義	選必	90	3	
194	公開企業会計演習Ⅰ	演習	選必	30	2	
195	商業簿記上級	講義	選必	90	5	
196	工業簿記上級	講義	選必	90	5	
197	消費税法税務会計	講義	選必	90	3	○
198	宅地建物取引士	講義	選必	210	7	
199	F P 技能士 3 級	講義	選択	60	2	
200	F P 技能士 3 級演習	演習	選択	15	1	
201	コンピュータ会計	演習	選択	30	2	
202	租税法（法人税法Ⅰ）	講義	選択	30	1	
203	租税法（法人税法Ⅱ）	講義	選択	30	1	
204	租税法（所得税法）	講義	選択	30	1	
205	租税法（消費税法）	講義	選択	30	1	
206	経営学の原理	講義	選択	30	1	
207	企業ファイナンス	講義	選択	30	1	

3 学年合計授業時間数・取得単位数

900

32

(備考)

選必は選択必修科目であり、900時間以上を選択し履修規程に従い履修しなければならない。

税理士会計士学科（4年課程）4年次

第4学年

科目区分	科目整理番号	授業科目	授業形態	必選の別	時間数	単位数	実務教員科目
専門科目	208	簿記論Ⅰ	講義	選必	120	4	
	209	簿記論Ⅱ	講義	選必	180	6	
	210	財務諸表論Ⅰ	講義	選必	120	4	
	211	財務諸表論Ⅱ	講義	選必	180	6	
	212	消費税法Ⅰ	講義	選必	120	4	○
	213	消費税法Ⅱ	講義	選必	180	6	○
	214	消費税法Ⅲ	講義	選必	180	6	○
	215	法人税法Ⅰ	講義	選必	120	4	○
	216	法人税法Ⅱ	講義	選必	180	6	○
	217	相続税法Ⅰ	講義	選必	120	4	
	218	相続税法Ⅱ	講義	選必	180	6	
	219	事業税Ⅰ	講義	選必	60	2	
	220	事業税Ⅱ	講義	選必	90	3	
	221	簿記論演習Ⅰ	演習	選必	60	2	
	222	簿記論演習Ⅱ	演習	選必	90	3	
	223	財務諸表論演習Ⅰ	演習	選必	60	2	
	224	財務諸表論演習Ⅱ	演習	選必	90	3	
	225	消費税法演習Ⅰ	演習	選必	60	2	○
	226	消費税法演習Ⅱ	演習	選必	90	3	○
	227	消費税法演習Ⅲ	演習	選必	90	3	○
	228	法人税法演習Ⅰ	演習	選必	60	2	○
	229	法人税法演習Ⅱ	演習	選必	90	3	○
	230	相続税法演習Ⅰ	演習	選必	60	2	
	231	相続税法演習Ⅱ	演習	選必	90	3	
	232	事業税演習Ⅰ	演習	選必	60	2	
233	事業税演習Ⅱ	演習	選必	90	3		
234	財務会計の原理	講義	選必	60	2	○	
235	財務会計Ⅰ	講義	選必	60	2	○	
236	財務会計Ⅱ	講義	選必	60	2	○	
237	連結財務諸表Ⅰ	講義	選必	60	2	○	
238	財務報告基準Ⅰ	講義	選必	30	1	○	
239	管理会計の原理	講義	選必	60	2		
240	原価計算	講義	選必	60	2		
241	意思決定会計	講義	選必	30	1		
242	戦略管理会計	講義	選必	30	1		
243	監査論Ⅰ	講義	選必	60	2	○	
244	企業法Ⅰ	講義	選必	60	2	○	
245	企業法Ⅱ	講義	選必	30	1	○	

246	財務会計演習Ⅰ	演習	選必	60	2	○
247	財務会計演習Ⅱ	演習	選必	30	1	○
248	財務会計演習Ⅲ	演習	選必	60	2	○
249	財務会計演習Ⅳ	演習	選必	30	1	○
250	管理会計演習Ⅰ	演習	選必	60	2	
251	管理会計演習Ⅱ	演習	選必	60	2	
252	管理会計演習Ⅲ	演習	選必	30	1	
253	監査演習	演習	選必	30	1	○
254	企業法演習	演習	選必	30	1	○
255	財務会計Ⅲ	講義	選必	60	2	○
256	財務会計Ⅳ	講義	選必	60	2	○
257	連結財務諸表Ⅱ	講義	選必	60	2	○
258	財務報告基準Ⅱ	講義	選必	60	2	○
259	財務報告基準Ⅲ	講義	選必	60	2	○
260	経営分析	講義	選必	60	2	
261	原価管理	講義	選必	60	2	
262	監査論Ⅱ	講義	選必	60	2	○
263	会社法	講義	選必	60	2	○
264	商法	講義	選必	30	1	○
265	金融商品取引法	講義	選必	30	1	○
266	消費税法税務会計	講義	選必	90	3	○
267	宅地建物取引士	講義	選必	210	7	
268	F P 技能士 3 級	講義	選択	60	2	
269	F P 技能士 3 級演習	演習	選択	15	1	
270	コンピュータ会計	演習	選択	30	2	
271	租税法（法人税法Ⅰ）	講義	選択	30	1	
272	租税法（法人税法Ⅱ）	講義	選択	30	1	
273	租税法（所得税法）	講義	選択	30	1	
274	租税法（消費税法）	講義	選択	30	1	
275	経営学の原理	講義	選択	30	1	
276	企業ファイナンス	講義	選択	30	1	
277	社会人総合演習	演習	選必	120	7	○
278	社会人総合実習Ⅰ	実習	選必	60	2	
279	マナー実習（オフィスワーク）	実習	選必	90	3	
280	ビジネスパソコンスキル実習	実習	選必	120	4	
4 学年合計授業時間数・取得単位数				900	32	

(備考)

選必は選択必修科目であり、900時間以上を選択し履修規程に従い履修しなければならない。

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年・3学年

科目名	社会人基礎Ⅰ		授業形態		講義	
			選必の別		必修	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数		60時間	
			単位数		3単位	
科目教員	鈴木 秀俊、菊地 裕俊、工藤 英一、熊谷 茜美 千葉 菜愛、穴戸 雄翔、大野 直哉、佐藤 舞那		授業回数		30回	
			成績評価方法	筆記試験		: 70 %
授業態度		: 30 %				
		: %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員					: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容						
実務経験教員の 実務経験内容						
授業目的 到達目標	<p>ビジネスの場で即戦力となる一般教養及び計算処理能力を身につけることを目的とし、日本ビジネス技能検定協会主催漢字能力検定試験および日本電卓技能検定協会主催各種段位級取得を到達目標とする。</p> <p>また、様々な視点から自己分析を行い自分に向いている業種、職業等の分析・確認を行う。</p>					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	<p>【一般教養】 漢字（訓読み送り仮名編）①</p> <p>【計算処理能力】 電卓基礎知識（各部の名称や機能）</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第16回	<p>【一般教養】 漢字能力検定試験項目別問題（訓読み送り仮名編）</p> <p>【計算処理能力】 電卓技能検定試験対策問題①</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	

第2回	<p>【一般教養】 漢字（訓読み送り仮名編）②</p> <p>【計算処理能力】 電卓（加減算の基本及び操作方法）</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第17回	<p>【一般教養】 漢字能力検定試験項目別問題 （熟語編）</p> <p>【計算処理能力】 電卓技能検定試験対策問題②</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第3回	<p>【一般教養】 漢字（訓読み送り仮名編）③</p> <p>【計算処理能力】 電卓（見取算の基本及び操作方法）</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第18回	<p>【一般教養】 漢字能力検定試験項目別問題 （熟語編）</p> <p>【計算処理能力】 電卓技能検定試験対策問題③</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第4回	<p>【一般教養】 漢字（熟語編）①</p> <p>【計算処理能力】 電卓（乗算の基本及び操作方法）</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第19回	<p>【一般教養】 漢字能力検定試験項目別問題 （同音異義・異字同訓・ 反対語・類義語編）</p> <p>【計算処理能力】 電卓技能検定試験対策問題④</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第5回	<p>【一般教養】 漢字（熟語編）②</p> <p>【計算処理能力】 電卓（除算の基本及び操作方法）</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第20回	<p>【一般教養】 漢字能力検定試験項目別問題 （誤字訂正・漢字の意味・ 漢字の使い方編）</p> <p>【計算処理能力】 電卓技能検定試験対策問題⑤</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第6回	<p>【一般教養】 漢字（熟語編）③</p> <p>【計算処理能力】 電卓（伝票算の基本及び操作方法）</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第21回	自己分析① （高校時代の自分を振り返る）	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那

第7回	<p>【一般教養】 漢字（熟語編）④</p> <p>【計算処理能力】 電卓（見取算構成比率の考え方及び求め方）</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第22回	自己分析② （周りから見た自分の印象を知る）	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第8回	<p>【一般教養】 漢字（同音異義・異字同訓・ 反対語・類義語編）①</p> <p>【計算処理能力】 電卓（乗算構成比率の考え方 及び求め方）</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第23回	自己分析③ （自分の長所・短所を考 える）	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第9回	<p>【一般教養】 漢字（同音異義・異字同訓・ 反対語・類義語編）②</p> <p>【計算処理能力】 電卓（除算構成比率の考え方 及び求め方）</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第24回	自己分析④ （学生時代打ち込んだこと ～学業面～）	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第10回	<p>【一般教養】 漢字（同音異義・異字同訓・ 反対語・類義語編）③</p> <p>【計算処理能力】 電卓（伝票算構成比率の考 え方及び求め方）</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第25回	自己分析⑤ （学生時代打ち込んだこと ～学業面以外～）	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第11回	<p>【一般教養】 漢字（同音異義・異字同訓・ 反対語・類義語編）④</p> <p>【計算処理能力】 電卓（電卓速度向上レク チャー）①</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第26回	【一般教養】 漢字能力検定試験 直前模擬試験第1回	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那

第12回	<p>【一般教養】 漢字（誤字訂正・漢字の意味・漢字の使い方）①</p> <p>【計算処理能力】 電卓（電卓速度向上レクチャー）②</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第27回	<p>【一般教養】 漢字能力検定試験 直前模擬試験第2回</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第13回	<p>【一般教養】 漢字（誤字訂正・漢字の意味・漢字の使い方）②</p> <p>【計算処理能力】 電卓（電卓速度向上レクチャー）③</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第28回	<p>【一般教養】 漢字能力検定試験 直前模擬試験第3回</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第14回	<p>【一般教養】 漢字（誤字訂正・漢字の意味・漢字の使い方）③</p> <p>【計算処理能力】 電卓（キータッチ正確性向上レクチャー）①</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第29回	<p>【一般教養】 漢字能力検定試験 直前模擬試験第4回</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第15回	<p>【一般教養】 漢字（誤字訂正・漢字の意味・漢字の使い方）④</p> <p>【計算処理能力】 電卓（キータッチ正確性向上レクチャー）②</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第30回	<p>【一般教養】 漢字能力検定試験 直前模擬試験第5回</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
準備学習等	予習と復習については適宜講義中に指示する。				
教科書 参考書等	<p>漢字能力検定試験対策問題集2級・3級（学校法人 大原学園）</p> <p>漢字能力検定試験対策直前模擬試験 第1回～第5回（学校法人 大原学園）</p> <p>電卓技能検定試験 段位、1・2、3・4級問題（大原出版）</p> <p>※受験級に合わせて各自購入</p> <p>電卓技能検定試験 段位、1・2、3・4級伝票算問題（大原出版）</p> <p>※受験級に合わせて各自購入</p>				

備考	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>社会人基礎Ⅰは、上記学科の必修科目であるため、各学科合同授業となる。</p> <p>また、受講生を複数の教室に分けて講義を行うため、科目教員を多く配置している。</p>
----	---

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年

科目名	社会人基礎Ⅱ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	60時間	
			単位数	3単位	
科目教員	鈴木 秀俊、菊地 裕俊、工藤 英一、熊谷 茜美 千葉 菜愛、穴戸 雄翔、大野 直哉、佐藤 舞那		授業回数	30回	
			成績評価方法	筆記試験	: 70 %
授業態度	: 30 %				
	: %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	一般社会常識及び仕事に必要な知識やビジネスマナーを学び、人間関係を良好に保つために必要なコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。また、社会人基礎Ⅰに引き続き、ビジネスの場で即戦力となる一般教養及び集計能力を高めるため、全国経理教育協会主催社会人常識マナー検定試験、日本ビジネス技能検定協会主催漢字能力検定試験及び日本電卓技能検定協会主催各種段位級取得を到達目標とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	【社会人常識マナー】 社会と組織 【一般教養】 漢字（訓読み送り仮名編）①	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第16回	【一般教養】 漢字能力検定試験項目別問題 ①（訓読み送り仮名編） 【集計処理能力】 電卓技能検定試験 対策問題演習⑧	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那

第2回	<p>【一般教養】 漢字（訓読み送り仮名編）②</p> <p>【集計処理能力】 電卓技能検定試験対策問題演習①</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第17回	<p>【社会人常識マナー】 電話応対、交際業務</p> <p>【一般教養】 漢字能力検定試験 項目別問題②（熟語編）</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第3回	<p>【社会人常識マナー】 仕事と成果</p> <p>【一般教養】 漢字（訓読み送り仮名編）③</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第18回	<p>【一般教養】 漢字能力検定試験 項目別問題③（熟語編）</p> <p>【集計処理能力】 電卓技能検定試験 対策問題演習⑨</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第4回	<p>【一般教養】 漢字（熟語編）①</p> <p>【集計処理能力】 電卓技能検定試験対策問題演習②</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第19回	<p>【社会人常識マナー】 文書類の受け取りと発送</p> <p>【一般教養】 漢字能力検定試験項目別問題 ④（同音異義・異字同訓・ 反対語・類義語編）</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第5回	<p>【社会人常識マナー】 一般知識</p> <p>【一般教養】 漢字（熟語編）①</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第20回	<p>【一般教養】 漢字能力検定試験項目別問題 ⑤（誤字訂正・漢字の意味・ 漢字の使い方編）</p> <p>【集計処理能力】 電卓技能検定試験 対策問題演習⑩</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第6回	<p>【一般教養】 漢字（熟語編）②</p> <p>【集計処理能力】 電卓技能検定試験 対策問題演習③</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第21回	<p>【社会人常識マナー】 過去問題 演習・解説①</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那

第7回	<p>【社会人常識マナー】 ビジネス計算</p> <p>【一般教養】 漢字（熟語編）③</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第22回	<p>【社会人常識マナー】 過去問題 演習・解説②</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第8回	<p>【一般教養】 漢字（同音異義・異字同訓・ 反対語・類義語編）①</p> <p>【集計処理能力】 電卓技能検定試験 対策問題演習④</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第23回	<p>【社会人常識マナー】 過去問題 演習・解説③</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第9回	<p>【社会人常識マナー】 ビジネスコミュニケーション</p> <p>【一般教養】 漢字（同音異義・異字同訓・ 反対語・類義語編）②</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第24回	<p>【社会人常識マナー】 過去問題 演習・解説④</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第10回	<p>【一般教養】 漢字（同音異義・異字同訓・ 反対語・類義語編）③</p> <p>【集計処理能力】 電卓技能検定試験 対策問題演習⑤</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第25回	<p>【社会人常識マナー】 過去問題 演習・解説⑤</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第11回	<p>【社会人常識マナー】 社会人にふさわしい言葉遣い</p> <p>【一般教養】 漢字（同音異義・異字同訓・ 反対語・類義語編）④</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第26回	<p>【一般教養】 漢字能力検定試験 直前模擬試験 第1回</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那

第12回	<p>【一般教養】 漢字（誤字訂正・漢字の意味・漢字の使い方）①</p> <p>【集計処理能力】 電卓技能検定試験 対策問題演習⑥</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第27回	<p>【一般教養】 漢字能力検定試験 直前模擬試験 第2回</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第13回	<p>【社会人常識マナー】 ビジネス文書の書き方と留意点</p> <p>【一般教養】 漢字（誤字訂正・漢字の意味・漢字の使い方）②</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第28回	<p>【一般教養】 漢字能力検定試験 直前模擬試験 第3回</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第14回	<p>【一般教養】 漢字（誤字訂正・漢字の意味・漢字の使い方）③</p> <p>【集計処理能力】 電卓技能検定試験 対策問題演習⑦</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第29回	<p>【一般教養】 漢字能力検定試験 直前模擬試験 第4回</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第15回	<p>【社会人常識マナー】 職場のマナー、来客応対</p> <p>【一般教養】 漢字（誤字訂正・漢字の意味・漢字の使い方）④</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第30回	<p>【一般教養】 漢字能力検定試験 直前模擬試験 第5回</p>	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
準備学習等	予習と復習については適宜講義中に指示する。				
教科書 参考書等	<p>社会人常識マナー検定テキスト（株式会社エデュプレス）</p> <p>社会人常識マナー検定試験 過去問題集（公益社団法人 全国経理教育協会）</p> <p>漢字能力検定試験対策問題集2級（学校法人 大原学園）</p> <p>漢字能力検定試験対策直前模擬試験 第1回～第5回（学校法人 大原学園）</p> <p>電卓技能検定試験 段位、1・2、3・4級問題（大原出版）</p> <p>※受験級に応じて各自購入</p> <p>電卓技能検定試験 段位、1・2、3・4級伝票算問題（大原出版）</p> <p>※受験級に応じて各自購入</p>				

備考	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>社会人基礎Ⅱは、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。</p> <p>また、受講生を複数の教室に分けて講義を行うため、科目教員を多く配置している。</p>
----	---

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	社会人基礎Ⅲ		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数		90時間	
			単位数		3単位	
科目教員	鈴木 秀俊、菊地 裕俊、工藤 英一、熊谷 茜美 千葉 菜愛、穴戸 雄翔、大野 直哉、佐藤 舞那		授業回数		30回	
			成績 評価 方法	筆記試験		: 70 %
授業態度		: 30 %				
		: %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員					: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容						
実務経験教員の 実務経験内容						
授業目的 到達目標	科目「社会人基礎Ⅰ」及び「社会人基礎Ⅱ」で学んだ内容を基礎として、自己の履歴書を作成するとともに、業界研究、業種研究等を行い自分にマッチングした仕事を見つけ、社会人として必要なビジネススキル及び対人能力（協調性、リーダーシップ、傾聴力）を養うことを授業目的とする。また、自分の意見や考えを臆することなく述べることができる様にすることを到達目標とする。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	職業理解、会社選びのポイント	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第16回	企業研究① (企業情報、事業内容)	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	

第2回	企業へのアクセス 応募書類の準備	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第17回	企業研究② (採用情報)	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第3回	就職活動におけるスケジュール の管理とトラブル対応 (就職体験報告会)	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第18回	企業研究③ (人事・教育制度、福利厚生)	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第4回	一般常識講義 (時事①、SPI適性試験①)	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第19回	企業研究④ (同業界での他社との比較)	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第5回	一般常識講義 (SPI・適性検査対策①) 対人能力向上 (グループディスカッション ①)	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第20回	企業研究④ (企業とのマッチング具合を 分析する)	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第6回	一般常識講義 (時事②) 社会人マナー (入退室等の作法①)	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第21回	業界研究① (業界の全体像を捉える)	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那

第7回	一般常識講義 (SPI・適性検査対策②) 対人能力向上 (集団面接①)	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第22回	業界研究② (業界ごとの特徴を理解する)	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第8回	一般常識講義 (時事③) 対人能力向上 (集団面接②)	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第23回	業界研究③ (業界の成長性・安定性を知る)	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第9回	一般常識講義 (SPI・適正検査対策③、作文 作成法)	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第24回	職種研究①	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第10回	一般常識講義 (時事④、SPI適性試験②)	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第25回	職種研究②	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第11回	一般常識講義 (SPI・適性検査対策④) 対人能力向上 (グループディスカッション ②)	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第26回	自己分析① (適性検査)	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那

第12回	一般常識講義（時事⑤） 社会人マナー （入退室等の作法②）	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第27回	自己分析② （趣味、余暇活動を振り返る）	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第13回	一般常識講義 （SPI・適性検査対策⑤） 対人能力向上（個人面接①）	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第28回	自己分析③ （ボランティア活動、部活動を振り返る）	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第14回	一般常識講義（時事⑥） 対人能力向上（個人面接②）	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第29回	自己分析④ （自己PRの作成）	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
第15回	効果測定（入退室等の作法）	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那	第30回	履歴書の作成	鈴木 秀俊 菊地 裕俊 工藤 英一 熊谷 茜美 千葉 菜愛 穴戸 雄翔 大野 直哉 佐藤 舞那
準備学習等	予習と復習については適宜講義中に指示する。				
教科書 参考書等	就職ガイドブック（学校法人 大原学園） 就職ノートブック（学校法人 大原学園） 就職模擬試験（実務教育出版）※適性検査で使用 SPI対策テスト Type-B（株式会社 教育企画センター）※適性検査で使用 最新最強のSPIクリア問題集 26年度版（成美堂出版） 最新最強の適性検査クリア問題集 26年度版（成美堂出版）				

備考	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>社会人基礎Ⅲは、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。</p> <p>また、受講生を複数の教室に分けて講義をするため、科目教員を多く配置している。</p>
----	---

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	複式簿記の原理		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間
			単位数	3単位
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数	15回
			成績評価方法	筆記試験 : 50 % ミニテスト : 30 % 授業態度 : 20 % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美			
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。			
授業目的 到達目標	小規模会社を前提とした商業簿記を学習します。簿記の基本となる日々の取引の仕訳ができるようになること、さらには決算処理を行い帳簿記入ができるようになることを目的としています。 また、最終的には日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できる能力を身に付けることを目標としています。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	簿記の目的、 簿記一巡の手続き、 株式会社の資本	熊谷 茜美 工藤 英一	第9回	税金、消費税、法人税等の決算整理 訂正仕訳	熊谷 茜美 工藤 英一
第2回	商品売買Ⅰ（3分法、売掛金、買掛金、返品、分記法の記帳方法）	熊谷 茜美 工藤 英一	第10回	損益計算書および貸借対照表の作成	熊谷 茜美 工藤 英一

第3回	商品売買Ⅱ（仕入諸掛、販売諸掛、前払金、前受金、受取商品券）	熊谷 茜美 工藤 英一	第11回	第2回確認テスト実施および解説	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	繰越商品および仕入の決算整理 精算表の作成	熊谷 茜美 工藤 英一	第12回	主要簿と補助簿 現金出納帳および当座預金出納帳 小口現金出納帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	現金および預金 当座借越の振替え 手形の記帳方法	熊谷 茜美 工藤 英一	第13回	仕入帳、売上帳 売掛金元帳、買掛金元帳 商品有高帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	第1回確認テスト実施および解説 受取手形および売掛金の決算整理	熊谷 茜美 工藤 英一	第14回	手形記入帳 固定資産管理台帳	熊谷 茜美 工藤 英一
第7回	有形固定資産 有形固定資産の決算整理 現金過不足及び現金の決算整理	熊谷 茜美 工藤 英一	第15回	試算表の作成 伝票会計	熊谷 茜美 工藤 英一
第8回	貯蔵品の決算整理 その他の債権および債務の記帳方法	熊谷 茜美 工藤 英一			
準備学習等	日々の復習を欠かさずに行うことが重要です。わからないところはそのままにせず質問するようにしてください。また、授業の始めに前回の授業範囲の確認のためにミニテストを行いますので、復習を徹底するようにしてください。予習は不要です。				
教科書 参考書等	ALFA 3級商業簿記 テキスト（学校法人 大原学園） ALFA 3級商業簿記 問題集（学校法人 大原学園） ALFA 3級商業簿記 解答集（学校法人 大原学園） ステップアップ問題集 日商簿記3級商業簿記（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。複式簿記の原理は、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となります。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	株式会社社会計		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		90時間	
			単位数		3単位	
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数		15回	
			成績 評価 方法	筆記試験		: 50 %
ミニテスト		: 30 %				
授業態度		: 20 %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。					
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。					
授業目的 到達目標	科目「複式簿記の原理」で履修した内容を基に、数多くの問題を科目教員と共に解答し、解答のテクニックを習得します。そして本試験レベルの問題に対応できる力を養うことを目的としています。さらに、項目ごとに一通りの処理を確認するとともに、各自の苦手項目を明確にし重点的に確認を行います。日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できる能力を身に付けることを到達目標としています。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：商品売買 試算表：合計残高試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第9回	直前対策講義実施、解説 仕訳：有形固定資産 個別問題：補助問題 模擬試験問題演習・解説③	熊谷 茜美 工藤 英一	

第2回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：固定資産 試算表：合計試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第10回	直前対策講義実施、解説 仕訳：株式会社の資本 その他の取引① 個別問題：勘定記入 模擬試験問題演習・解説④	熊谷 茜美 工藤 英一
第3回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：貸倒れ、貸付金、 借入金 試算表：残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第11回	直前対策講義実施、解説 仕訳：その他の取引②③ 個別問題：固定資産台帳 模擬試験問題演習・解説⑤	熊谷 茜美 工藤 英一
第4回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：給料、現金過不足 試算表：合計残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第12回	模擬試験問題演習・解説⑥	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：仮受金、仮払金、 その他 試算表：合計試算表 財務諸表：精算表	熊谷 茜美 工藤 英一	第13回	模擬試験問題演習・解説⑦	熊谷 茜美 工藤 英一
第6回	項目別答練問題集実施、解説 仕訳：訂正仕訳 試算表：残高試算表 財務諸表：損益計算書および 貸借対照表	熊谷 茜美 工藤 英一	第14回	模擬試験問題演習・解説⑧	熊谷 茜美 工藤 英一
第7回	直前対策講義実施、解説 仕訳：商品売買 個別問題：伝票 試験対策問題演習・解説①	熊谷 茜美 工藤 英一	第15回	模擬試験問題演習・解説⑨	熊谷 茜美 工藤 英一

第8回	直前対策講義実施、解説 仕訳：債権・債務 個別問題：商品有高帳 模擬試験問題演習・解説②	熊谷 茜美 工藤 英一			
準備学習等	毎回の問題のやり直しを徹底してください。また、授業だけでなく各自で勉強の時間を確保し、苦手項目の復習に力を入れてください。理解が不十分な場合には科目教員に質問し解決したうえで次回の授業に臨むようにし、自宅学習の方法等で迷った場合も科目教員に相談するようにしてください。なお、予習は不要です。				
教科書 参考書等	ALFA 3級商業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) 日商簿記3級 過去問分析より徹底予想！試験によく出る問題集 (大原出版) ESSENTIAL 項目別答練問題集 (学校法人 大原学園) ESSENTIAL 項目別答練解答集 (学校法人 大原学園) 日商3級 直前対策講義 商業簿記 (学校法人 大原学園)				
備考	授業計画の各回の授業内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。株式会社会計は、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合同授業となります。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	株式会社社会計演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	30時間	
			単位数	2単位	
科目教員	熊谷 茜美、工藤 英一		授業回数	5回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
				授業態度	: 30 %
					: %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	熊谷 茜美			: %	
				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	受験簿記が実務に直結することを他の科目教員とともに授業を通して理解させる。 また、実務経験で身につけた会計処理の知識及び経営コンサルティングに必要な経営管理や経営分析を行うための工業簿記、原価計算に関する授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社にて、経理担当者として日々の会計処理・決算整理等の業務に従事しており、税理士事務所と共同して財務諸表の作成等を行っていた。また、他の一般事業会社において財務諸表の会計情報に基づき、事業者の経営コンサルティング業務の実務経験がある。				
授業目的 到達目標	科目「複式簿記の原理」及び「株式会社社会計」で履修した内容を基に、本試験を意識して問題演習を行います。さらに本試験前の時間の使い方や時間配分を意識することで、より本試験に対応できる能力を身に付けることを目的としています。また、日本商工会議所主催簿記検定試験3級に合格できるレベルを目指します。				
授業計画					
回数	授業内容			科目教員	
第1回	ガイダンス 問題演習・解説 直前模擬試験 第1回			熊谷 茜美 工藤 英一	
第2回	問題演習・解説直前模擬試験 第2回			熊谷 茜美 工藤 英一	
第3回	問題演習・解説直前模擬試験 第3回			熊谷 茜美 工藤 英一	

第4回	問題演習・解説オリジナル模擬試験	熊谷 茜美 工藤 英一
第5回	問題演習・解説 最終確認問題 総論	熊谷 茜美 工藤 英一
準備学習等	本試験直前の問題演習です。やり直しを完璧に行い、分からないところがある場合には科目教員に質問し、解決したうえで次の問題演習に臨むようにしてください。また、本試験と同じ時間帯で行いますので、始まる前の時間の使い方や時間配分、見直しの仕方なども意識して臨むようにしましょう。	
教科書 参考書等	ALFA 3級商業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 3級商業簿記 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 3級商業簿記 解答集 (学校法人 大原学園) ステップアップ問題集 日商簿記3級商業簿記 (大原出版) 日商3級 過去問分析より徹底予想! 試験によく出る問題集 (大原出版) ESSENTIAL 項目別答練問題集 (学校法人 大原学園) ESSENTIAL 項目別答練解答集 (学校法人 大原学園) 日商3級 直前対策講義 商業簿記 (学校法人 大原学園) 2024年度 日商簿記検定対策 直前模擬試験 第1回~第3回 (学校法人 大原学園)	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。第1回のガイダンス及び第5回の総論は実務経験教員が行う。 株式会社社会計演習Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となります。	

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	中小企業会計Ⅰ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	菊地 裕俊、穴戸 雄翔、 工藤 英一、熊谷 茜美		授業回数	18回	
			成績評価方法	筆記試験	: 50 %
ミニテスト	: 30 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	中小企業を前提とした商業簿記及び工業簿記を学習する。商業簿記については、日々の会計処理から決算処理を行い、損益計算書及び貸借対照表の財務諸表を作成する知識技術を習得する。工業簿記については、各業態における原価計算の手続きを習得する。財務諸表を作成する知識技術を身につけ、短期利益計画及び損益分岐分析ができることを目的とする。最終的には、日本商工会議所主催簿記検定試験2級及び日本ビジネス技能検定協会主催簿記能力検定試験2級に合格できる能力を身につけることを目標とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	工業簿記総論 原価計算の手続き (個別原価計算・総合原価計算)	菊地 裕俊 熊谷 茜美	第10回	株式会社の純資産、 株式の発行、剰余金の配当	工藤 英一 穴戸 雄翔
第2回	簿記一巡の手続き、財務諸表、現金預金、債権・債務	菊地 裕俊 熊谷 茜美	第11回	標準原価計算 CVP分析	工藤 英一 穴戸 雄翔

第3回	材料費会計 労務費会計 経費会計、製造間接費会計	菊地 裕俊 熊谷 茜美	第12回	企業結合、消費税、 法人税等、税効果会計	工藤 英一 穴戸 雄翔
第4回	棚卸資産、有価証券	菊地 裕俊 熊谷 茜美	第13回	直接原価計算 全部原価計算 固定費調整	工藤 英一 穴戸 雄翔
第5回	部門別計算 単純個別原価計算	菊地 裕俊 熊谷 茜美	第14回	損益計算書、貸借対照表、 精算表、補助簿	工藤 英一 穴戸 雄翔
第6回	有形固定資産、リース会計	菊地 裕俊 熊谷 茜美	第15回	本支店会計	工藤 英一 穴戸 雄翔
第7回	無形固定資産、 ソフトウェア、引当金	菊地 裕俊 熊谷 茜美	第16回	工場会計 公企業の財務諸表	工藤 英一 穴戸 雄翔
第8回	単純総合原価計算 工程別総合原価計算 組別・等級別総合原価計算	菊地 裕俊 熊谷 茜美	第17回	連結会計 連結会社相互間取引の相殺消 去等、未実現損益の消去	工藤 英一 穴戸 雄翔
第9回	収益及び費用、研究開発費、 為替換算会計	工藤 英一 穴戸 雄翔	第18回	製造業を営む会社の決算処理	工藤 英一 穴戸 雄翔
準備学習等	簿記は日々の復習の積み重ねが重要。難易度の高い範囲も含まれていることから、分からないところは質問し、問題集等で繰り返し復習を行うこと。また、毎回の授業の始めに前回の授業範囲から確認テストを実施する。予習は不要。				

<p>教科書 参考書等</p>	<p>【商業簿記】 ALFA 2級商業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 2級商業簿記 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 2級商業簿記 解答集 (学校法人 大原学園) ステップアップ問題集 日商簿記2級商業簿記 (大原出版)</p> <p>【工業簿記】 ALFA 2級工業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 2級工業簿記 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 2級工業簿記 解答集 (学校法人 大原学園) ステップアップ問題集 日商簿記2級工業簿記 (大原出版)</p>
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>中小企業会計Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。</p>

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	中小企業会計Ⅱ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	菊地 裕俊、穴戸 雄翔、 工藤 英一、熊谷 茜美		授業回数	18回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 50 %
ミニテスト	: 30 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	科目「中小企業会計Ⅰ」で履修した内容を前提とし、数多くの問題を科目教員と共に解答し、解答のテクニックを習得する。そして、中小企業の実務における各取引の会計処理ができることを目的とする。また、日本商工会議所主催簿記検定試験2級及び日本ビジネス技能検定協会主催簿記能力検定試験2級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	答練期問題集項目別解説 (材料費会計、労務費会計、 経費会計、製造間接費会計)	菊地 裕俊 熊谷 茜美	第10回	商業簿記問題、解説 演習答練 第10回 (仕訳、リース会計、精算 表)	工藤 英一 穴戸 雄翔
第2回	商業簿記問題、解説 演習答練 第1回、第2回 (仕訳、株主資本等変動計算 書、有価証券、損益計算書)	菊地 裕俊 熊谷 茜美	第11回	答練期問題集項目別解説 (標準原価計算、CVP分析)	工藤 英一 穴戸 雄翔

第3回	答練期問題集項目別解説 (部門別計算)	菊地 裕俊 熊谷 茜美	第12回	商業簿記問題、解説 演習答練 第11回、第12回 (仕訳、伝票会計、残高試算 表、精算表)	工藤 英一 穴戸 雄翔
第4回	商業簿記問題、解説 演習答練 第3回、第4回 (仕訳、商品売買、固定資 産、損益計算書)	菊地 裕俊 熊谷 茜美	第13回	答練期問題集項目別解説 (直接・全部原価計算、固定費 調整)	工藤 英一 穴戸 雄翔
第5回	答練期問題集項目別解説 (個別原価計算、単純総合原価 計算)	菊地 裕俊 熊谷 茜美	第14回	商業簿記問題、解説 演習答練 第13回 (仕訳、外貨建て、残高試算 表)	工藤 英一 穴戸 雄翔
第6回	商業簿記問題、解説 演習答練 第5回、第6回 (仕訳、銀行勘定調整表、株 主資本等変動計算書、貸借対 照表)	菊地 裕俊 熊谷 茜美	第15回	商業簿記問題、解説 演習答練 第14回 (仕訳、語句記入、 サービス業の損益計算書)	工藤 英一 穴戸 雄翔
第7回	商業簿記問題、解説 演習答練 第7回、第8回 (仕訳、有価証券、固定資 産、貸借対照表)	菊地 裕俊 熊谷 茜美	第16回	答練期問題集項目別解説 (工場会計、公企業の財務諸 表)	工藤 英一 穴戸 雄翔
第8回	答練期問題集項目別解説 (工程別総合原価計算、 組別・等級別総合原価計算)	菊地 裕俊 熊谷 茜美	第17回	商業簿記問題、解説 演習答練 第15回 (仕訳、株主資本等変動計算 書、連結精算表)	工藤 英一 穴戸 雄翔
第9回	商業簿記問題、解説 演習答練 第9回 (仕訳、商品売買、 損益計算書・貸借対照表)	工藤 英一 穴戸 雄翔	第18回	商業簿記問題、解説 演習答練 第16回 (仕訳、本支店会計、連結精 算表)	工藤 英一 穴戸 雄翔
準備学習等	簿記は日々の復習の積み重ねが重要。難易度の高い範囲も含まれていることから、分からないところは質問し、問題集等で繰り返し復習を行うこと。また、毎回の授業の始めに前回の授業範囲から確認テストを実施する。予習は不要。				

<p>教科書 参考書等</p>	<p>【商業簿記】 ALFA 2級商業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 2級商業簿記 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 2級商業簿記 解答集 (学校法人 大原学園) ステップアップ問題集 日商簿記2級商業簿記 (大原出版) ESSENTIAL 簿記2級受験用 答練期問題集 演習問題編 (学校法人 大原学園) ESSENTIAL 簿記2級受験用 答練期解答集 演習問題編 (学校法人 大原学園) 日商簿記2級 過去問分析より徹底予想! 試験に出る問題集 (大原出版) 簿記能力検定試験 過去問題集 商業簿記 (一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会) 2級商業簿記 基礎期 模擬試験①～⑥ 問題 (学校法人 大原学園) 2級商業簿記 基礎期 模擬試験①～⑥ 解答・解説 (学校法人 大原学園)</p> <p>【工業簿記】 ALFA 2級工業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 2級工業簿記 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 2級工業簿記 解答集 (学校法人 大原学園) ステップアップ問題集 日商簿記2級工業簿記 (大原出版) ESSENTIAL 簿記2級受験用 答練期問題集 項目別編 (学校法人 大原学園) ESSENTIAL 簿記2級受験用 答練期解答集 項目別編 (学校法人 大原学園) ESSENTIAL 日商簿記過去問 問題編 (学校法人 大原学園) ESSENTIAL 日商簿記過去問 解答編 (学校法人 大原学園) 簿記能力検定試験 過去問題集 工業簿記 (一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会) 2級工業簿記 基礎期 模擬試験①～⑥ 問題 (学校法人 大原学園) 2級工業簿記 基礎期 模擬試験①～⑥ 解答・解説学校法人 大原学園)</p>
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>中小企業会計Ⅱは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。</p>

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	中小企業会計演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	30時間	
			単位数	2単位	
科目教員	菊地 裕俊、穴戸 雄翔、 工藤 英一、熊谷 茜美		授業回数	12回	
			成績 評価 方法	筆記試験	:
授業態度	:	30		%	
	:			%	
	:			%	
科目教員のうち 実務経験教員				:	%
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	科目「中小企業会計Ⅰ」及び「中小企業会計Ⅱ」を前提とし、数多くの問題を解いていく。その過程で、問題の内容を把握する読解力を養うことや、解法が1つではないことから正答を導き出すため自ら考え、判断する力を養成する。なお、日本商工会議所主催簿記検定試験2級及び日本ビジネス技能検定協会主催簿記能力検定試験2級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	直前模擬試験 第1回 演習・解説	菊地 裕俊 穴戸 雄翔 工藤 英一 熊谷 茜美	第7回	直前模擬試験 第5回 演習・解説	菊地 裕俊 穴戸 雄翔 工藤 英一 熊谷 茜美
第2回	直前模擬試験 第2回 演習・解説	菊地 裕俊 穴戸 雄翔 工藤 英一 熊谷 茜美	第8回	直前模擬試験 第6回 演習・解説	菊地 裕俊 穴戸 雄翔 工藤 英一 熊谷 茜美

第3回	弱点克服問題演習①	菊地 裕俊 穴戸 雄翔 工藤 英一 熊谷 茜美	第9回	弱点克服問題演習④	菊地 裕俊 穴戸 雄翔 工藤 英一 熊谷 茜美
第4回	直前模擬試験 第3回 演習・解説	菊地 裕俊 穴戸 雄翔 工藤 英一 熊谷 茜美	第10回	オリジナル模擬試験 第2回 演習・解説	菊地 裕俊 穴戸 雄翔 工藤 英一 熊谷 茜美
第5回	直前模擬試験 第4回 演習・解説	菊地 裕俊 穴戸 雄翔 工藤 英一 熊谷 茜美	第11回	弱点克服問題演習③	菊地 裕俊 穴戸 雄翔 工藤 英一 熊谷 茜美
第6回	オリジナル模擬試験 第1回 演習・解説	菊地 裕俊 穴戸 雄翔 工藤 英一 熊谷 茜美	第12回	最終確認問題演習・解説	菊地 裕俊 穴戸 雄翔 工藤 英一 熊谷 茜美

準備学習等	毎回の問題演習を本試験と考え緊張感を持って挑むこと。間違った問題・論点の復習を徹底する。不明な点は科目教員に質問・相談すること。
-------	--

教科書 参考書等	<p>【商業簿記】 ALFA 2級商業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 2級商業簿記 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 2級商業簿記 解答集 (学校法人 大原学園) 日商簿記2級 過去問分析より徹底予想! 試験に出る問題集 (大原出版) 簿記能力検定試験 過去問題集 商業簿記 (一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会) 2級商業簿記 基礎期 模擬試験①～⑥ 問題(学校法人 大原学園) 2級商業簿記 基礎期 模擬試験①～⑥ 解答・解説(学校法人 大原学園)</p> <p>【工業簿記】 ALFA 2級工業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 2級工業簿記 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 2級工業簿記 解答集 (学校法人 大原学園) ESSENTIAL 日商簿記過去問題 (問題編) (学校法人 大原学園) ESSENTIAL 日商簿記過去問題 (解答編) (学校法人 大原学園) 簿記能力検定試験 過去問題集 工業簿記 (一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会) 2級工業簿記 基礎期 模擬試験①～⑥ 問題(学校法人 大原学園) 2級工業簿記 基礎期 模擬試験①～⑥ 解答・解説(学校法人 大原学園)</p> <p>【共通】 2024年度 日商簿記検定対策 直前模擬試験 第1回～第6回 (学校法人 大原学園) ネット試験と第167回をあてるTAC予想模擬+解き方テキスト日商簿記2級 (TAC出版)</p>
-------------	---

備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。中小企業会計演習Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。
----	--

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年・3学年

科目名	公開企業会計Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	菊地 裕俊、千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験
ミニテスト	: 30 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	大企業及び上場企業を前提とし、日々の取引から財務諸表作成までの簿記一巡の会計処理ができる商業簿記及び会計学の基礎知識を習得する。また、製造業を前提とした企業の会計処理を行うための工業簿記及び原価計算の基礎知識を習得することを目的とする。その上で、本講義終了後の科目「公開企業会計Ⅱ」に積極的に取り組めるようにする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	有価証券、デリバティブ取引、ヘッジ会計、有形固定資産	千葉 菜愛	
第2回	工業簿記総論、費目別計算	菊地 裕俊	
第3回	割引現在価値、リース取引	千葉 菜愛	
第4回	部門別原価計算、個別原価計算	菊地 裕俊	
第5回	研究開発費、ソフトウェア、減損、繰延資産	千葉 菜愛	
第6回	総合原価計算総論、単純総合原価計算、工程別総合原価計算	菊地 裕俊	

第7回	社債、引当金	千葉 菜愛
第8回	退職給付、資産除去債務	千葉 菜愛
第9回	組別総合原価計算、等級別総合原価計算連産品、副産物	菊地 裕俊
第10回	純資産、新株予約権、ストックオプション	千葉 菜愛
第11回	標準原価計算、直接原価計算、全部原価計算	菊地 裕俊
第12回	税効果会計	千葉 菜愛
第13回	CVP分析、原価分解、事業部制	菊地 裕俊
第14回	外貨建取引	千葉 菜愛
第15回	簿記1級本科統一模擬試験 第1回 実施・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛

準備学習等	<p>毎回の授業の始めに確認テストを実施し、前回の授業範囲が理解できているか確認を行う。</p> <p>確認テストを解答できるよう、毎日の授業の復習を怠らないようにすること。</p>
-------	---

教科書 参考書等	<p>【商業簿記・会計学】</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅠ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅰ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅰ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅡ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅱ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅱ (学校法人 大原学園)</p> <p>ステップアップ問題集 日商簿記1級 商簿・会計 (大原出版)</p> <p>【工業簿記・原価計算】</p> <p>ALFA 1級工業簿記・原価計算 テキスト (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級工業簿記・原価計算 問題集 (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級工業簿記・原価計算 解答集 (学校法人 大原学園)</p> <p>ステップアップ問題集 日商簿記1級 工簿・原計 (大原出版)</p> <p>【共通】</p> <p>簿記1級本科統一模擬試験 第1回 (学校法人 大原学園)</p>
-------------	--

備考	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>公開企業会計Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科各学年合同授業となる。</p>
----	--

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年・3学年

科目名	公開企業会計Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	菊地 裕俊、千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験 : 50 % ミニテスト : 30 % 授業態度 : 20 % : :
科目教員のうち 実務経験教員			: % :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	科目「公開企業会計Ⅰ」を前提に、会計専門職(税理士・公認会計士等)を目指す者として 高度な商業簿記・会計学及び工業簿記・原価計算を習得し、会計基準や財務諸表等規則 などの企業会計に関する法規を踏まえて、経営管理や経営分析ができることを目的とす る。また、日本商工会議所主催簿記検定試験1級に合格できる能力を身につけることを到 達目標とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	商品売買等	千葉 菜愛	
第2回	予算管理、予算編成、予算統制	菊地 裕俊	
第3回	工事契約、本支店会計	千葉 菜愛	
第4回	意思決定会計総論、業務的意思決定会計	菊地 裕俊	
第5回	連結財務諸表総論、資本連結、成果連結	千葉 菜愛	
第6回	構造的意意思決定会計	菊地 裕俊	

第7回	持分法、連結税効果会計、包括利益	千葉 菜愛
第8回	簿記1級本科統一模擬試験 第2回 実施・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛
第9回	在外子会社、企業結合	千葉 菜愛
第10回	戦略的原価計算	菊地 裕俊
第11回	事業分離	千葉 菜愛
第12回	過去試験問題演習解説①（日商簿記過去試験問題第161回、第162回）	菊地 裕俊
第13回	キャッシュ・フロー計算書	千葉 菜愛
第14回	連結キャッシュ・フロー計算書、会計上の変更及び誤謬の訂正	千葉 菜愛
第15回	簿記1級本科統一模擬試験 第3回 実施・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛
準備学習等	各回の復習を必ず行うこと。また、難解な項目もあるため、不明な点等は科目教員に質問や相談をすること。予習は不要。	

<p>教科書 参考書等</p>	<p>【商業簿記・会計学】 ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅠ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅰ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅰ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅡ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅱ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅱ (学校法人 大原学園版) ステップアップ問題集 日商簿記1級 商簿・会計 (大原出版)</p> <p>【工業簿記・原価計算】 ALFA 1級工業簿記・原価計算 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 解答集 (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 基礎答練 問題編 (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 基礎答練 解答編 (学校法人 大原学園) 簿記1級受験用 日商簿記過去問 問題編 (学校法人 大原学園) 簿記1級受験用 日商簿記過去問 解答編 (学校法人 大原学園) ステップアップ問題集 日商簿記1級 工簿・原計 (大原出版) 1級工業簿記・原価計算 基礎期 模擬試験①～⑥ 問題 (学校法人 大原学園) 1級工業簿記・原価計算 基礎期 模擬試験①～⑥ 解答・解説 (学校法人 大原学園)</p> <p>【共通】 簿記1級本科統一模擬試験 第2回 (学校法人 大原学園) 簿記1級本科統一模擬試験 第3回 (学校法人 大原学園)</p>
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>公開企業会計Ⅱは、上記学科の選択必修科目であるため各学科各学年合同授業となる。</p>

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年・3学年

科目名	公開企業会計演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	30時間	
			単位数	2単位	
科目教員	菊地 裕俊、千葉 菜愛		授業回数	10回	
			成績評価方法	筆記試験	:
授業態度	:	30		%	
	:			%	
	:			%	
科目教員のうち 実務経験教員				:	%
				:	%
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	科目「公開企業会計Ⅰ」及び「公開企業会計Ⅱ」を前提とし、ここまで習得した知識を活用し、商業簿記・会計学及び工業簿記・原価計算の問題演習を行う。難易度の高い問題を解くことで、知識の定着を図る。さらに、会計基準や会社法、財務諸表等規則などの企業会計に関する法規を踏まえて、経営管理や経営分析ができることを目的とする。また、日本商工会議所主催簿記検定試験1級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	日商簿記検定第167回対策 直前模擬試験 第1回 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛	第6回	日商簿記検定第167回対策 直前模擬試験 第5回 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛
第2回	日商簿記検定第167回対策 直前模擬試験 第2回 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛	第7回	日商簿記検定第167回対策 直前模擬試験 第6回 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛

第3回	日商簿記検定第167回対策 直前模擬試験 第3回 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛	第8回	弱点克服問題演習②	菊地 裕俊 千葉 菜愛
第4回	弱点克服問題演習①	菊地 裕俊 千葉 菜愛	第9回	日商簿記検定第167回対策 全国統一公開模擬試験	菊地 裕俊 千葉 菜愛
第5回	日商簿記検定第167回対策 直前模擬試験 第4回 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛	第10回	最終確認問題演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛
準備学習等	日々の授業が本試験だと考え、常に緊張感をもって取り組むこと。また、基礎論点の復習を中心的に行うことによって応用力が身につくものと認識すること。なお、予習は不要。				
教科書 参考書等	<p>【商業簿記・会計学】 ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅠ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅰ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅰ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅡ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅱ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅱ (学校法人 大原学園)</p> <p>【工業簿記・原価計算】 ALFA 1級工業簿記・原価計算 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 解答集 (学校法人 大原学園版)</p> <p>【共通】 日商簿記検定第167回対策 直前模擬試験 第1回～第6回 (学校法人 大原学園) 日商簿記検定第167回対策 全国統一公開模擬試験 (学校法人 大原学園) 過去問題集 日商簿記1級 (大原出版) 第167回をあてるTAC直前予想模擬 日商簿記1級</p>				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 公開企業会計演習Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科各学年合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年・3学年

科目名	商業簿記上級	授業形態	講義	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	90時間	
		単位数	3単位	
科目教員	千葉 菜愛	授業回数	15回	
		成績評価方法	筆記試験	: 50 %
			ミニテスト	: 30 %
			授業態度	: 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員		: %		
実務経験教員の実務経験に関する 授業内容				
実務経験教員の実務経験内容				
授業目的 到達目標	科目「公開企業会計Ⅱ」を前提に、会計専門職（税理士・公認会計士等）を目指すものとして高度な商業簿記・会計学を習得し、会計基準や財務諸表等規則などの企業会計に関する法規を踏まえて、財務諸表作成ができることを目的とする。また、最終的には全国経理教育協会主催簿記能力検定試験上級に合格できる能力を身につけることを目標とする。			
授業計画				
回数	授業内容	科目教員		
第1回	財務諸表分析、一般原則	千葉 菜愛		
第2回	損益計算書原則	千葉 菜愛		
第3回	貸借対照表原則	千葉 菜愛		
第4回	資産会計、負債会計	千葉 菜愛		
第5回	純資産会計	千葉 菜愛		
第6回	外貨建取引会計	千葉 菜愛		
第7回	税効果会計	千葉 菜愛		

第8回	企業結合会計	千葉 菜愛
第9回	連結会計	千葉 菜愛
第10回	キャッシュ・フロー会計	千葉 菜愛
第11回	会計上の変更と誤謬の訂正	千葉 菜愛
第12回	概念フレームワーク	千葉 菜愛
第13回	会社再編の会計①	千葉 菜愛
第14回	会社再編の会計②	千葉 菜愛
第15回	四半期連結財務諸表	千葉 菜愛
準備学習等	各回の復習を必ず行うこと。また、難解な項目もあるため、不明な点等は科目教員に質問や相談をすること。予習は不要。	
教科書 参考書等	<p>【商業簿記・会計学】</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅠ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅰ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅰ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅡ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅱ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅱ (学校法人 大原学園)</p> <p>全経簿記上級 商業簿記・財務会計テキスト (中央経済社)</p> <p>簿記検定全経上級 直前対策講義 商業簿記・会計学 (学校法人 大原学園)</p>	
備考	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>商業簿記上級は、上記学科の選択必修科目であるため各学科各学年合同授業となる。</p>	

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年・3学年

科目名	工業簿記上級	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	菊地 裕俊	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験
ミニテスト	: 30 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	科目「公開企業会計Ⅱ」を前提に、会計専門職（税理士・公認会計士等）を目指すものとして高度な工業簿記・原価計算を習得し、経営管理や経営分析ができることを目的とする。また、最終的には全国経理教育協会主催簿記能力検定試験上級に合格できる能力を身につけることを目標とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	費目別計算、個別原価計算、部門別原価計算、責任会計	菊地 裕俊	
第2回	部門別原価計算、個別原価計算	菊地 裕俊	
第3回	総合原価計算	菊地 裕俊	
第4回	標準原価計算	菊地 裕俊	
第5回	直接原価計算、全部原価計算、CVP分析、原価分解	菊地 裕俊	
第6回	事業部制	菊地 裕俊	

第7回	意思決定の原価概念、業務的意思決定	菊地 裕俊
第8回	構造的意決定	菊地 裕俊
第9回	戦略的原価計算	菊地 裕俊
第10回	工場独立会計	菊地 裕俊
第11回	直前対策講義 過去問題解説(第191回、第193回)	菊地 裕俊
第12回	直前対策講義 過去問題解説(第195回、第197回)	菊地 裕俊
第13回	直前対策講義 過去問題解説(第199回、第201回)	菊地 裕俊
第14回	直前対策講義 過去問題解説(第203回、第205回)	菊地 裕俊
第15回	直前対策講義 過去問題解説(第207回、第209回)	菊地 裕俊
準備学習等	各回の復習を必ず行うこと。また、難解な項目もあるため、不明な点等は科目教員に質問や相談をすること。予習は不要。	
教科書 参考書等	【工業簿記・原価計算】 ALFA 1級工業簿記・原価計算 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 解答集 (学校法人 大原学園) 全経簿記上級 原価計算・管理会計テキスト (中央経済社) 簿記検定全経上級 直前対策講義 工業簿記・原価計算 (学校法人 大原学園)	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 工業簿記上級は、上記学科の選択必修科目であるため各学科各学年合同授業となる。	

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	日商簿記1級I	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	菊地 裕俊、穴戸 雄翔	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験
ミニテスト	: 30 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	大企業及び上場企業を前提とし、日々の取引から財務諸表作成までの簿記一巡の会計処理ができる商業簿記及び会計学の基礎知識を習得する。また、製造業を前提とした企業の会計処理を行うための工業簿記及び原価計算の基礎知識を習得することを目的とする。その上で、本講義終了後の科目「日商簿記1級II」に積極的に取り組めるようにする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	有価証券、デリバティブ取引、ヘッジ会計	穴戸 雄翔	
第2回	工業簿記総論、費目別計算、個別原価計算	菊地 裕俊	
第3回	有形固定資産、割引現在価値	穴戸 雄翔	
第4回	部門別原価計算、部門個別原価計算	菊地 裕俊	
第5回	リース取引	穴戸 雄翔	
第6回	総合原価計算総論、単純総合原価計算	菊地 裕俊	

第7回	研究開発費、ソフトウェア、減損、繰延資産	穴戸 雄翔
第8回	社債、引当金	穴戸 雄翔
第9回	工程別総合原価計算、組別総合原価計算、等級別総合原価計算 副産物、連産品	菊地 裕俊
第10回	退職給付、資産除去債務	穴戸 雄翔
第11回	標準原価計算	菊地 裕俊
第12回	純資産、新株予約権、ストックオプション	穴戸 雄翔
第13回	CVP分析、原価分解	菊地 裕俊
第14回	税効果会計	穴戸 雄翔
第15回	本科統一模擬試験 第1回 実施・解説	菊地 裕俊 穴戸 雄翔
準備学習等	毎回の授業の始めに確認テストを実施し、前回の授業範囲が理解できているか確認を行う。 確認テストを解答できるよう、毎日の授業の復習を怠らないようにすること。	
教科書 参考書等	<p>【商業簿記・会計学】 ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅠ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅰ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅰ (学校法人 大原学園) ステップアップ問題集 日商簿記1級 商業簿記・会計学 (大原出版)</p> <p>【工業簿記・原価計算】 ALFA 1級工業簿記・原価計算 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 解答集 (学校法人 大原学園) ステップアップ問題集 日商簿記1級 工業簿記・原価計算 (大原出版)</p> <p>【共通】 本科統一模擬試験 第1回 (学校法人 大原学園)</p>	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 日商簿記1級Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。	

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	日商簿記1級II	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	菊地 裕俊、穴戸 雄翔	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験
ミニテスト	: 30 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	科目「日商簿記1級I」を前提に、商業簿記・会計学及び工業簿記・原価計算の知識を深め、基礎的な内容の問題を自力で解けるようにする。また、難解な問題に対し、どのように問題を解いていけばいいかなどの思考力を身につける。その上で、本講義終了後の科目「日商簿記1級III」に積極的に取り組めるようにする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	外貨建取引	穴戸 雄翔	
第2回	直接原価計算・全部原価計算	菊地 裕俊	
第3回	商品売買等	穴戸 雄翔	
第4回	CVP分析・原価分解	菊地 裕俊	
第5回	工事契約、本支店会計	穴戸 雄翔	
第6回	事業部制	菊地 裕俊	

第7回	連結財務諸表総論、資本連結、成果連結	穴戸 雄翔
第8回	持分法、連結税効果会計、包括利益	穴戸 雄翔
第9回	意思決定会計総論・業務的意思決定	菊地 裕俊
第10回	在外子会社、企業結合	穴戸 雄翔
第11回	意思決定会計総論・構造的意決定	菊地 裕俊
第12回	事業分離	穴戸 雄翔
第13回	戦略的原価計算	菊地 裕俊
第14回	キャッシュ・フロー計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、 会計上の変更及び誤謬の訂正	穴戸 雄翔
第15回	本科統一模擬試験 第2回 実施・解説	菊地 裕俊 穴戸 雄翔
準備学習等	<p>毎回の授業の始めに確認テストを実施し、前回の授業範囲が理解できているか確認を行う。</p> <p>確認テストを解答できるよう、毎日の授業の復習を怠らないようにすること。</p>	
教科書 参考書等	<p>【商業簿記・会計学】 ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅡ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅱ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅱ (学校法人 大原学園) ステップアップ問題集 日商簿記1級 商簿・会計 (大原出版)</p> <p>【工業簿記・原価計算】 ALFA 1級工業簿記・原価計算 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 解答集 (学校法人 大原学園) ステップアップ問題集 日商簿記1級 工簿・原計 (大原出版) 簿記能力検定試験過去試験問題集 1級 工業簿記・原価計算 (一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会)</p> <p>【共通】 本科統一模擬試験 第2回 (学校法人 大原学園)</p>	
備考	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>日商簿記1級Ⅱは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。</p>	

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年

科目名	日商簿記1級Ⅲ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	菊地 裕俊、穴戸 雄翔、千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験
ミニテスト	: 30 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	科目「日商簿記1級Ⅱ」、「商業簿記上級」、「工業簿記上級」を前提に、会計専門職（税理士・公認会計士等）を目指すものとして高度な商業簿記・会計学及び工業簿記・原価計算を習得し、会計基準や財務諸表等規則などの企業会計に関する法規を踏まえて、経営管理や経営分析ができることを目的とする。また、最終的には日本商工会議所主催簿記検定試験1級及び全国経理教育協会主催簿記能力検定試験上級、日本ビジネス技能検定協会主催簿記能力検定試験1級に合格できる能力を身につけることを目標とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	【商業簿記・会計学】基礎期模擬試験①②実施・解説	千葉 菜愛 穴戸 雄翔	
第2回	【工業簿記・原価計算】項目別（費目別）問題解説	菊地 裕俊	
第3回	【商業簿記・会計学】基礎期模擬試験③④ 実施・解説	千葉 菜愛 穴戸 雄翔	
第4回	【工業簿記・原価計算】項目別（部門別）問題解説	菊地 裕俊	
第5回	【商業簿記・会計学】基礎期模擬試験⑤⑥ 実施・解説	千葉 菜愛 穴戸 雄翔	

第6回	【工業簿記・原価計算】項目別（製品別）問題解説	菊地 裕俊
第7回	【商業簿記・会計学】基礎期模擬試験⑦⑧ 実施・解説	千葉 菜愛 穴戸 雄翔
第8回	【商業簿記・会計学】確認テスト①② 実施・解説	千葉 菜愛 穴戸 雄翔
第9回	【工業簿記・原価計算】基礎期 模擬試験①② 実施・解説	菊地 裕俊
第10回	【商業簿記・会計学】確認テスト③④実施・解説	千葉 菜愛 穴戸 雄翔
第11回	【工業簿記・原価計算】基礎期 模擬試験③④ 実施・解説	菊地 裕俊
第12回	【商業簿記・会計学】確認テスト⑤⑥実施・解説	千葉 菜愛 穴戸 雄翔
第13回	【工業簿記・原価計算】基礎期 模擬試験⑤⑥ 実施・解説	菊地 裕俊
第14回	【商業簿記・会計学】確認テスト⑦⑧実施・解説	千葉 菜愛 穴戸 雄翔
第15回	本科統一模擬試験 第3回 実施・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔
準備学習等	各回の復習を必ず行うこと。また、難解な項目もあるため、不明な点等は科目教員に質問や相談をすること。予習は不要。	

<p>教科書 参考書等</p>	<p>【商業簿記・会計学】 ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅠ（学校法人 大原学園） ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅡ（学校法人 大原学園） ステップアップ問題集 日商簿記1級 商簿・会計（学校法人 大原学園） 簿記能力検定試験過去問題集1級 商業簿記・会計学 （一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会） 1級商業簿記・会計学 基礎期 模擬試験①～⑧ 問題用紙（学校法人 大原学園） 1級商業簿記・会計学 基礎期 模擬試験①～⑧ 解答・解説（学校法人 大原学園） 1級商業簿記・会計学 基礎期 確認テスト①～⑧ 問題用紙（学校法人 大原学園） 1級商業簿記・会計学 基礎期 確認テスト①～⑧ 解答・解説（学校法人 大原学園）</p> <p>【工業簿記・原価計算】 ALFA 1級工業簿記・原価計算 テキスト（学校法人 大原学園） ALFA 1級工業簿記・原価計算 基礎答練 問題編（学校法人 大原学園） ALFA 1級工業簿記・原価計算 基礎答練 解答編（学校法人 大原学園） ステップアップ問題集 日商簿記1級 工簿・原計（学校法人 大原学園） 簿記能力検定試験過去試験問題集 1級 工業簿記・原価計算 （一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会） 1級工業簿記・原価計算 基礎期 模擬試験①～⑥ 問題用紙（学校法人 大原学園） 1級工業簿記・原価計算 基礎期 模擬試験①～⑥ 解答・解説（学校法人 大原学園）</p> <p>【共通】 本科統一模擬試験 第3回（学校法人 大原学園） 2024年度 日商簿記1級 網羅型完全予想問題集（TAC出版）</p>
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>日商簿記1級Ⅲは、上記学科の選択必修科目であるため各学科各学年合同授業となる。</p>

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	日商簿記1級演習 I		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	40時間	
			単位数	1単位	
科目教員	菊地 裕俊、千葉 菜愛、穴戸 雄翔		授業回数	10回	
			成績評価方法	筆記試験	: 70 %
				授業態度	: 30 %
					: %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	科目「日商簿記1級Ⅲ」を前提とし、ここまで習得した知識を活用し、商業簿記・会計学では日本ビジネス技能検定協会主催簿記能力検定試験1級（以下、「日ビ簿記1級」という。）の問題演習を行う。工業簿記・原価計算では、日ビ簿記1級と同程度の問題演習を行う。数多くの問題を解くことにより、知識の定着を図ることを目的とする。また、日ビ簿記1級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	項目別(費目別計算・個別原価計算、部門別計算)解説	菊地 裕俊	第6回	第3回 日ビ簿記1級 過去試験対策 (一部抜粋)	千葉 菜愛 穴戸 雄翔
第2回	第1回 日ビ簿記1級 過去試験対策 (一部抜粋)	千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第7回	項目別(業務的意思決定、構造的 的意思決定)解説	菊地 裕俊

第3回	項目別(総合原価計算、標準原価計算)解説	菊地 裕俊	第8回	第4回 日ビ簿記1級 過去試験対策 (一部抜粋)	千葉 菜愛 穴戸 雄翔
第4回	第2回 日ビ簿記1級 過去試験対策 (一部抜粋)	千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第9回	項目別(事業部制・戦略的原価計算)解説	菊地 裕俊
第5回	項目別(CVP分析・原価分解)解説	菊地 裕俊	第10回	第5回 日ビ簿記1級 過去試験対策 (一部抜粋)	千葉 菜愛 穴戸 雄翔
準備学習等	日々の授業が本試験だと考え、常に緊張感をもって取り組むこと。また、基礎論点の復習を中心的に行うことによって応用力が身につくものと認識すること。予習は不要。				
教科書 参考書等	<p>【商業簿記・会計学】 ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅠ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅰ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅰ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅡ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅱ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅱ (学校法人 大原学園) 簿記能力検定試験過去問題集1級 商業簿記・会計学 (一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会)</p> <p>【工業簿記・原価計算】 ALFA 1級工業簿記・原価計算 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 解答集 (学校法人 大原学園) 簿記能力検定試験過去問題集1級 工業簿記・原価計算 (一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会)</p>				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 日商簿記1級演習Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・OA事務学科（2年課程）・ OA事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年

科目名	日商簿記1級演習II		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	40時間	
			単位数	1単位	
科目教員	菊地 裕俊、千葉 菜愛、穴戸 雄翔		授業回数	10回	
			成績評価方法	筆記試験	:
授業態度	:	30		%	
	:			%	
	:			%	
科目教員のうち 実務経験教員				:	%
				:	%
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	科目「日商簿記1級演習I」を前提とし、ここまでに習得した知識を活用し、商業簿記・会計学では日本ビジネス技能検定協会主催簿記能力検定試験1級（以下、「日ビ簿記1級」という。）の問題演習を行う。工業簿記・原価計算では、日ビ簿記1級と同程度の問題演習を行う。数多くの問題を解くことにより、知識の定着を図ることを目的とする。また、日ビ簿記1級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	第118回日ビ簿記1級 過去試験問題 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第6回	第111回日ビ簿記1級 過去試験問題 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔
第2回	第117回日ビ簿記1級 過去試験問題 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第7回	第109回日ビ簿記1級 過去試験問題 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔

第3回	第115回日ビ簿記1級 過去試験問題 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第8回	第108回日ビ簿記1級 過去試験問題 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔
第4回	第114回日ビ簿記1級 過去試験問題 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第9回	第106回日ビ簿記1級 過去試験問題 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔
第5回	第112回日ビ簿記1級 過去試験問題 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第10回	第104回日ビ簿記1級 過去試験問題 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔
準備学習等	日々の授業が本試験だと考え、常に緊張感をもって取り組むこと。また、基礎論点の復習を中心的に行うことによって応用力が身につくものと認識すること。予習は不要。				
教科書 参考書等	<p>【商業簿記・会計学】 ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅠ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅰ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅰ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅡ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅱ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅱ (学校法人 大原学園) 簿記能力検定試験過去問題集1級 商業簿記・会計学 (一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会)</p> <p>【工業簿記・原価計算】 ALFA 1級工業簿記・原価計算 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 解答集 (学校法人 大原学園) 簿記能力検定試験過去問題集1級 工業簿記・原価計算 (一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会)</p>				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 日商簿記1級演習Ⅱは、上記学科の選択必修科目であるため各学科各学年合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年

科目名	日商簿記1級演習Ⅲ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	40時間	
			単位数	1単位	
科目教員	菊地 裕俊、千葉 菜愛、穴戸 雄翔		授業回数	10回	
			成績評価方法	筆記試験	:
授業態度	:	30		%	
	:			%	
	:			%	
科目教員のうち 実務経験教員				:	%
				:	%
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	科目「日商簿記1級演習Ⅱ」を前提とし、ここまでに習得した知識を活用し、日本商工会議所主催簿記検定試験1級（以下、「日商簿記1級」という。）の商業簿記・会計学及び工業簿記・原価計算の問題演習を行う。問題文が複雑であることから、問題の内容をしっかりと把握する読解力を養う。また、1つの問に対し、解法がいくつかあるため、自ら考え判断し、正答を導き出す力を養成する。最終的には、日商簿記1級に合格できる能力を身につけることを目標とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	第162回日商簿記1級 過去試験問題演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第6回	第156回日商簿記1級 過去試験問題演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔
第2回	第161回日商簿記1級 過去試験問題演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第7回	第153回日商簿記1級 過去試験問題演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔

第3回	第159回日商簿記1級 過去試験問題演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第8回	第152回日商簿記1級 過去試験問題演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔
第4回	第158回日商簿記1級 過去試験問題演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第9回	第150回日商簿記1級 過去試験問題演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔
第5回	第157回日商簿記1級 過去試験問題演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第10回	第149回日商簿記1級 過去試験問題演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔
準備学習等	日々の授業が本試験だと考え、常に緊張感をもって取り組むこと。また、基礎論点の復習を中心的に行うことによって応用力が身につくものと認識すること。予習は不要。				
教科書 参考書等	<p>【商業簿記・会計学】</p> ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅠ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅰ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅰ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅡ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅱ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅱ (学校法人 大原学園) 過去問題集 日商簿記1級 (大原出版) 2024年度 日商簿記1級 網羅型完全予想問題集 (TAC出版) <p>【工業簿記・原価計算】</p> ALFA 1級工業簿記・原価計算 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 解答集 (学校法人 大原学園) 簿記1級受験用 日商簿記過去問 問題編 (学校法人 大原学園) 簿記1級受験用 日商簿記過去問 解答編 (学校法人 大原学園)				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 日商簿記1級演習Ⅲは、上記学科の選択必修科目であるため各学科各学年合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年

科目名	日商簿記1級演習Ⅳ		授業形態		演習	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数		40時間	
			単位数		1単位	
科目教員	菊地 裕俊、千葉 菜愛、穴戸 雄翔		授業回数		10回	
			成績 評価 方法	筆記試験		: 70 %
授業態度		: 30 %				
		: %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員					: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容						
実務経験教員の 実務経験内容						
授業目的 到達目標	科目「日商簿記1級演習Ⅲ」を前提とし、更なる知識の定着を図るため、難易度の高い商業簿記・会計学及び工業簿記・原価計算の問題演習を行う。会計基準や財務諸表等規則などの企業会計に関する法規を踏まえて、経営管理や経営分析ができることを目的とする。また、日本商工会議所主催簿記検定試験1級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	日商簿記検定第168回対策 直前模擬試験 第1回 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第6回	日商簿記検定第168回対策 直前模擬試験 第5回 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	
第2回	日商簿記検定第168回対策 直前模擬試験 第2回 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第7回	日商簿記検定第168回対策 直前模擬試験 第6回 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	
第3回	日商簿記検定第168回対策 直前模擬試験 第3回 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第8回	弱点克服問題演習②	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	

第4回	弱点克服問題演習①	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第9回	日商簿記検定第168回対策 全国統一公開模擬試験 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔
第5回	日商簿記検定第168回対策 直前模擬試験 第4回 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第10回	最終確認問題演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔
準備学習等	日々の授業が本試験だと考え、常に緊張感をもって取り組むこと。 また、各回の復習を必ず行うこと。予習は不要。				
教科書 参考書等	<p>【商業簿記・会計学】</p> ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅠ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅰ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅰ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅡ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅱ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅱ (学校法人 大原学園) <p>【工業簿記・原価計算】</p> ALFA 1級工業簿記・原価計算 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 解答集 (学校法人 大原学園) <p>【共通】</p> 日商簿記検定第168回対策 直前模擬試験 第1回～第6回 (学校法人 大原学園) 日商簿記検定第168回対策 全国統一公開模擬試験 (学校法人 大原学園) 過去問題集 日商簿記1級 (大原出版) 第168回をあてるTAC直前予想模擬 日商簿記1級 (TAC出版) 2024年度 日商簿記1級 網羅型完全予想問題集 (TAC出版)				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 日商簿記1級演習Ⅳは、上記学科の選択必修科目であるため各学科各学年合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	日商簿記2級I		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	鈴木 秀俊、穴戸 雄翔		授業回数	18回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 50 %
ミニテスト	: 30 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	<p>中小企業を前提とした商業簿記及び工業簿記を学習する。商業簿記については、日々の会計処理から決算処理を行い、損益計算書及び貸借対照表の財務諸表を作成する知識技術を習得する。工業簿記については、各業態における原価計算の手続きを習得する。財務諸表を作成する知識技術を身につけ、短期利益計画及び損益分岐分析ができることを目的とする。最終的には、日本商工会議所主催簿記検定試験2級及び日本ビジネス技能検定協会主催簿記能力検定試験2級に合格できる能力を身につけることを目標とする。</p>				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	工業簿記総論 原価計算の手続き (個別原価計算・総合原価計算)	鈴木 秀俊	第10回	株式会社の純資産、 株式の発行、剰余金の配当	穴戸 雄翔

第2回	簿記一巡の手続き、財務諸表、現金預金、債権・債務	穴戸 雄翔	第11回	標準原価計算 CVP分析	鈴木 秀俊
第3回	材料費会計、労務費会計 経費会計、製造間接費会計	鈴木 秀俊	第12回	企業結合、消費税、 法人税等、税効果会計	穴戸 雄翔
第4回	棚卸資産、有価証券	穴戸 雄翔	第13回	直接原価計算 全部原価計算 固定費調整	鈴木 秀俊
第5回	部門別計算 単純個別原価計算	鈴木 秀俊	第14回	損益計算書、貸借対照表、 精算表、補助簿	穴戸 雄翔
第6回	有形固定資産、リース会計	穴戸 雄翔	第15回	本支店会計	穴戸 雄翔
第7回	無形固定資産、 ソフトウェア、引当金	穴戸 雄翔	第16回	工場会計 公企業の財務諸表	鈴木 秀俊
第8回	単純総合原価計算 工程別総合原価計算 組別・等級別総合原価計算	鈴木 秀俊	第17回	連結会計 連結会社相互間取引の相殺消 去等、未実現損益の消去	穴戸 雄翔
第9回	収益及び費用、研究開発費、 為替換算会計	穴戸 雄翔	第18回	製造業を営む会社の決算処理	穴戸 雄翔
準備学習等	簿記は日々の復習の積み重ねが重要。難易度の高い範囲も含まれていることから、分からないところは質問し、問題集等で繰り返し復習を行うこと。また、毎回の授業の始めに前回の授業範囲から確認テストを実施する。予習は不要。				

<p>教科書 参考書等</p>	<p>【商業簿記】 ALFA 2級商業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 2級商業簿記 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 2級商業簿記 解答集 (学校法人 大原学園) ステップアップ問題集 日商簿記2級商業簿記 (大原出版)</p> <p>【工業簿記】 ALFA 2級工業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 2級工業簿記 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 2級工業簿記 解答集 (学校法人 大原学園) ステップアップ問題集 日商簿記2級工業簿記 (大原出版)</p>
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>日商簿記2級Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。</p>

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	日商簿記2級II		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	鈴木 秀俊、穴戸 雄翔		授業回数	18回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 50 %
ミニテスト	: 30 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	科目「日商簿記2級I」で履修した内容を前提とし、数多くの問題を科目教員と共に解答し、解答のテクニックを習得する。そして、中小企業の実務における各取引の会計処理ができることを目的とする。また、日本商工会議所主催簿記検定試験2級及び日本ビジネス技能検定協会主催簿記能力検定試験2級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	答練期問題集項目別解説 (材料費会計、労務費会計、 経費会計、製造間接費会計)	鈴木 秀俊	第10回	商業簿記問題 解説 演習答練 第10回 (仕訳、リース会計、精算 表)	穴戸 雄翔

第2回	商業簿記問題 解説 演習答練 第1回、第2回 (仕訳、株主資本等変動計算書、有価証券、損益計算書)	穴戸 雄翔	第11回	答練期問題集項目別解説 (標準原価計算、CVP分析)	鈴木 秀俊
第3回	答練期問題集項目別解説 (部門別計算)	鈴木 秀俊	第12回	商業簿記問題 解説 演習答練 第11回、第12回 (仕訳、伝票会計、残高試算表、精算表)	穴戸 雄翔
第4回	商業簿記問題 解説 演習答練 第3回、第4回 (仕訳、商品売買、固定資産、損益計算書)	穴戸 雄翔	第13回	答練期問題集項目別解説 (直接・全部原価計算、固定費調整)	鈴木 秀俊
第5回	答練期問題集項目別解説 (個別原価計算、単純総合原価計算)	鈴木 秀俊	第14回	商業簿記問題 解説 演習答練 第13回 (仕訳、外貨建て、残高試算表)	穴戸 雄翔
第6回	商業簿記問題 解説 演習答練 第5回、第6回 (仕訳、銀行勘定調整表、株主資本等変動計算書、貸借対照表)	穴戸 雄翔	第15回	商業簿記問題 解説 演習答練 第14回 (仕訳、語句記入、サービス業の損益計算書)	穴戸 雄翔
第7回	商業簿記問題 解説 演習答練 第7回、第8回 (仕訳、有価証券、固定資産、貸借対照表)	穴戸 雄翔	第16回	答練期問題集項目別解説 (工場会計、公企業の財務諸表)	鈴木 秀俊
第8回	答練期問題集項目別解説 (工程別総合原価計算、組別・等級別総合原価計算)	鈴木 秀俊	第17回	商業簿記問題 解説 演習答練 第15回 (仕訳、株主資本等変動計算書、連結精算表)	穴戸 雄翔
第9回	商業簿記問題 解説 演習答練 第9回 (仕訳、商品売買、損益計算書・貸借対照表)	穴戸 雄翔	第18回	商業簿記問題 解説 演習答練 第16回 (仕訳、本支店会計、連結精算表)	穴戸 雄翔

準備学習等	<p>簿記は日々の復習の積み重ねが重要。難易度の高い範囲も含まれていることから、分からないところは質問し、問題集等で繰り返し復習を行うこと。また、毎回の授業の始めに前回の授業範囲から確認テストを実施する。予習は不要。</p>
教科書 参考書等	<p>【商業簿記】 ALFA 2級商業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 2級商業簿記 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 2級商業簿記 解答集 (学校法人 大原学園) ステップアップ問題集 日商簿記2級商業簿記 (大原出版) ESSENTIAL 簿記2級受験用 答練期問題集 演習問題編 (学校法人 大原学園) ESSENTIAL 簿記2級受験用 答練期解答集 演習問題編 (学校法人 大原学園) 日商簿記2級 過去問分析より徹底予想! 試験に出る問題集 (大原出版) 簿記能力検定試験 過去問題集 商業簿記 (一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会) 2級商業簿記 基礎期 模擬試験①～⑥ 問題 (学校法人 大原学園) 2級商業簿記 基礎期 模擬試験①～⑥ 解答解説 (学校法人 大原学園)</p> <p>【工業簿記】 ALFA 2級工業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 2級工業簿記 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 2級工業簿記 解答集 (学校法人 大原学園) ステップアップ問題集 日商簿記2級工業簿記 (大原出版) ESSENTIAL 簿記2級受験用 答練期問題集 項目別編 (学校法人 大原学園) ESSENTIAL 簿記2級受験用 答練期解答集 項目別編 (学校法人 大原学園) ESSENTIAL 日商簿記過去問 問題編 (学校法人 大原学園) ESSENTIAL 日商簿記過去問 解答編 (学校法人 大原学園) 簿記能力検定試験 過去問題集 工業簿記 (一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会) 2級工業簿記 基礎期 模擬試験①～⑥ 問題 (学校法人 大原学園) 2級工業簿記 基礎期 模擬試験①～⑥ 解答・解説 (学校法人 大原学園)</p>
備考	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>日商簿記2級IIは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。</p>

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	日商簿記2級Ⅲ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	鈴木 秀俊、穴戸 雄翔	授業回数	18回
		成績評価方法	筆記試験 : 50 %
			ミニテスト : 30 %
			授業態度 : 20 %
科目教員のうち 実務経験教員			: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	科目「日商簿記2級Ⅱ」で履修した内容を前提とし、数多くの問題を科目教員と共に解答し、解答のテクニックを習得する。そして、中小企業の実務における各取引の会計処理ができることを目的とする。また、全国経理教育協会主催簿記能力検定試験1級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	5伝票制、特殊仕訳帳制	穴戸 雄翔	第10回	答練期問題集項目別解説 (工程別総合原価計算、 組別・等級別総合原価計算)	鈴木 秀俊
第2回	答練期問題集項目別解説 (材料費会計、労務費会計)	鈴木 秀俊	第11回	資産除去債務	穴戸 雄翔

第3回	為替手形、荷為替手形、 商品券（自社）	穴戸 雄翔	第12回	答練期問題集項目別解説 (標準原価計算、CVP分析)	鈴木 秀俊
第4回	答練期問題集項目別解説 (経費会計、製造間接費会計)	鈴木 秀俊	第13回	固定資産の減損	穴戸 雄翔
第5回	有価証券 (貸付・借入・差入・預り・ 保管)	穴戸 雄翔	第14回	答練期問題集項目別解説 (直接・全部原価計算・固定費 調整)	鈴木 秀俊
第6回	答練期問題集項目別解説 (部門別計算)	鈴木 秀俊	第15回	負ののれん発生益、社債	穴戸 雄翔
第7回	特殊商品売買、 履行義務の充足	穴戸 雄翔	第16回	答練期問題集項目別解説 (工場会計、公企業の財務諸 表)	鈴木 秀俊
第8回	答練期問題集項目別解説 (個別原価計算・ 総合原価計算)	鈴木 秀俊	第17回	商業簿記・会計学 理論対策	穴戸 雄翔
第9回	圧縮記帳、投資不動産	穴戸 雄翔	第18回	財務諸表分析	穴戸 雄翔
準備学習等	簿記は日々の復習の積み重ねが重要。難易度の高い範囲も含まれていることから、分からないところは質問し、問題集等で繰り返し復習を行うこと。また、毎回の授業の始めに前回の授業範囲から確認テストを実施する。予習は不要。				

<p>教科書 参考書等</p>	<p>【商業簿記】（学校法人 大原学園）（大原出版） ALFA 2級商業簿記 問題集 （学校法人 大原学園） ALFA 2級商業簿記 解答集 （学校法人 大原学園） 全経 簿記能力検定試験公式テキスト1級（ネットスクール出版） 全経 簿記能力検定試験公式問題集1級（ネットスクール出版） ステップアップ問題集 日商簿記2級商業簿記（大原出版） 令和6年度版 簿記能力検定試験 過去問題集 1級 商業簿記・会計学 （公益社団法人 全国経理教育協会）</p> <p>【工業簿記】 ALFA 2級工業簿記 テキスト（学校法人 大原学園） ALFA 2級工業簿記 問題集（学校法人 大原学園） ALFA 2級工業簿記 解答集（学校法人 大原学園） ステップアップ問題集 日商簿記2級工業簿記（大原出版） ESSENTIAL 簿記2級受験用 答練期問題集 項目別編（学校法人 大原学園） ESSENTIAL 簿記2級受験用 答練期解答集 項目別編（学校法人 大原学園） 令和6年度版 簿記能力検定試験 過去問題集 1級 原価計算・工業簿記 （公益社団法人 全国経理教育協会）</p>
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>日商簿記2級Ⅲは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。</p>

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	日商簿記2級演習Ⅰ	授業形態			
		演習	演習		
		選必の別	選必		
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	30時間		
		単位数	1単位		
科目教員	鈴木 秀俊、穴戸 雄翔	授業回数	12回		
		成績評価方法	筆記試験 : 70 %		
			授業態度 : 30 %		
			: %		
: %					
科目教員のうち 実務経験教員			: %		
			: %		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	科目「日商簿記2級Ⅰ」及び「日商簿記2級Ⅱ」を前提とし、数多くの問題を解いていく。その過程で、問題の内容を把握する読解力を養うことや、解法が1つではないことから正答を導き出すため自ら考え、判断する力を養成する。なお、日本商工会議所主催簿記検定試験2級及び日本ビジネス技能検定協会主催簿記能力検定試験2級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 直前模擬試験 第1回 演習・解説	鈴木 秀俊 穴戸 雄翔	第7回	直前模擬試験 第5回 演習・解説	鈴木 秀俊 穴戸 雄翔

第2回	直前模擬試験 第2回 演習・解説	鈴木 秀俊 穴戸 雄翔	第8回	直前模擬試験 第6回 演習・解説	鈴木 秀俊 穴戸 雄翔
第3回	弱点克服問題演習①	鈴木 秀俊 穴戸 雄翔	第9回	弱点克服問題演習②	鈴木 秀俊 穴戸 雄翔
第4回	直前模擬試験 第3回 演習・解説	鈴木 秀俊 穴戸 雄翔	第10回	オリジナル模擬試験 第2回 演習・解説	鈴木 秀俊 穴戸 雄翔
第5回	直前模擬試験 第4回 演習・解説	鈴木 秀俊 穴戸 雄翔	第11回	弱点克服問題演習③	鈴木 秀俊 穴戸 雄翔
第6回	オリジナル模擬試験 第1回 演習・解説	鈴木 秀俊 穴戸 雄翔	第12回	最終確認問題 演習・解説 総論	鈴木 秀俊 穴戸 雄翔
準備学習等	毎回の問題演習を本試験と考え緊張感を持って挑むこと。間違った問題・論点の復習を徹底する。不明な点は科目教員に質問・相談すること。				

<p>教科書 参考書等</p>	<p>【商業簿記】 ALFA 2級商業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 2級商業簿記 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 2級商業簿記 解答集 (学校法人 大原学園) 日商簿記2級 過去問分析より徹底予想! 試験に出る問題集 (大原出版) 簿記能力検定試験 過去問題集 商業簿記 (一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会) 2級商業簿記 基礎期 模擬試験①～⑥ 問題(学校法人 大原学園) 2級商業簿記 基礎期 模擬試験①～⑥ 解答・解説(学校法人 大原学園)</p> <p>【工業簿記】 ALFA 2級工業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 2級工業簿記 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 2級工業簿記 解答集 (学校法人 大原学園) ESSENTIAL 日商簿記過去問題 (問題編) (学校法人 大原学園) ESSENTIAL 日商簿記過去問題 (解答編) (学校法人 大原学園) 簿記能力検定試験 過去問題集 工業簿記 (一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会) 2級工業簿記 基礎期 模擬試験①～⑥ 問題(学校法人 大原学園) 2級工業簿記 基礎期 模擬試験①～⑥ 解答・解説(学校法人 大原学園)</p> <p>【共通】 2024年度 日商簿記検定対策 直前模擬試験 第1回～第6回 (学校法人 大原学園) ネット試験と第168回をあてるTAC予想模擬+解き方テキスト日商簿記2級 (TAC出版)</p>
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>日商簿記2級演習Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。</p>

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	日商簿記2級演習II		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	30時間	
			単位数	1単位	
科目教員	鈴木 秀俊、穴戸 雄翔		授業回数	10回	
			成績評価方法	筆記試験	:
授業態度	:	30		%	
	:			%	
	:			%	
科目教員のうち 実務経験教員				:	%
				:	%
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	科目「日商簿記2級II」を前提とし、数多くの問題を解いていく。その過程で、問題の内容を把握する読解力を養うことや、解法が1つではないことから正答を導き出すため自ら考え、判断する力を養成する。なお、全国経理教育協会主催簿記能力検定試験1級（以下、「全経簿記1級」という。）に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 全経簿記1級演習 5伝票制、特殊仕訳帳制、為替 手形、荷為替手形、商品券 (自社)	穴戸 雄翔	第6回	理論対策③ (標準原価計算)	鈴木 秀俊

第2回	理論対策① (費目別計算、個別原価計算、 部門別原価計算)	鈴木 秀俊	第7回	全経簿記1級演習 固定資産の減損、負ののれん 発生益	穴戸 雄翔
第3回	全経簿記1級演習 有価証券 (貸付・借入・差入・預り・ 保管) 特殊商品売買、履行義 務の充足	穴戸 雄翔	第8回	理論対策④ (短期利益計画、工場独立会 計)	鈴木 秀俊
第4回	理論対策② (部門別原価計算、総合原価計 算)	鈴木 秀俊	第9回	全経簿記1級演習 社債、理論、財務諸表分析	穴戸 雄翔
第5回	全経簿記1級演習 圧縮記帳(積立金方式)、 投資不動産、資産除去債務	穴戸 雄翔	第10回	理論対策⑤ (直接原価計算、全部原価計 算) 総論	鈴木 秀俊

準備学習等	毎回の問題演習を本試験と考え緊張感を持って挑むこと。間違った問題・論点の復習を徹底する。不明な点は科目教員に質問・相談すること。
-------	--

教科書 参考書等	<p>【商業簿記】 ALFA 2級商業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 2級商業簿記 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 2級商業簿記 解答集 (学校法人 大原学園) 全経 簿記能力検定試験公式テキスト1級 (ネットスクール出版) 全経 簿記能力検定試験公式問題集1級 (ネットスクール出版) ステップアップ問題集 日商簿記2級商業簿記 (大原出版) 簿記能力検定試験 最新過去問題集1級 商業簿記・会計学 (公益社団法人 全国経理教育協会)</p> <p>【工業簿記】 ALFA 2級工業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 2級工業簿記 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 2級工業簿記 解答集 (学校法人 大原学園) ステップアップ問題集 日商簿記2級工業簿記 (大原出版) 簿記能力検定試験 最新過去問題集1級 工業簿記・原価計算 (公益社団法人 全国経理教育協会)</p>
-------------	---

備考	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>日商簿記2級演習Ⅱは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。</p>
----	---

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	日商簿記2級演習Ⅲ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	30時間	
			単位数	1単位	
科目教員	鈴木 秀俊、穴戸 雄翔		授業回数	10回	
			成績評価方法	筆記試験	:
授業態度	:	30		%	
	:			%	
	:			%	
科目教員のうち 実務経験教員				:	%
				:	%
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	科目「日商簿記2級演習Ⅱ」を前提とし、数多くの問題を解いていく。その過程で、問題の内容を把握する読解力を養うことや、解法が1つではないことから正答を導き出すため自ら考え、判断する力を養成する。なお、全国経理教育協会主催簿記能力検定試験1級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 項目別対策 5伝票制、特殊仕訳帳制、為替 手形、荷為替手形、商品券 (自社)	穴戸 雄翔	第6回	過去試験項目対策 (総合原価計算、標準原価計 算)	鈴木 秀俊

第2回	過去試験項目対策 (費目別計算、個別原価計算)	鈴木 秀俊	第7回	項目別対策 固定資産の減損・負ののれん 発生益	穴戸 雄翔
第3回	項目別対策 有価証券 (貸付・借入・差入・預り・ 保管) 特殊商品売買、履行義務の充 足	穴戸 雄翔	第8回	過去試験項目対策 (CVP分析、工場独立会計)	鈴木 秀俊
第4回	過去試験項目対策 (部門別原価計算、総合原価計 算)	鈴木 秀俊	第9回	項目別対策 社債、理論、財務諸表分析	穴戸 雄翔
第5回	項目別対策 圧縮記帳(積立金方式)、 投資不動産、資産除去債務	穴戸 雄翔	第10回	過去試験項目対策 (直接原価計算、全部原価計 算)総論	鈴木 秀俊
準備学習等	毎回の問題演習を本試験と考え緊張感を持って挑むこと。間違った問題・論点の復習を徹底する。不明な点は科目教員に質問・相談すること。				

<p>教科書 参考書等</p>	<p>【商業簿記】 ALFA 2級商業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 2級商業簿記 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 2級商業簿記 解答集 (学校法人 大原学園) 全経 簿記能力検定試験公式テキスト1級 (ネットスクール出版) 全経 簿記能力検定試験公式問題集1級 (ネットスクール出版) ステップアップ問題集 日商簿記2級商業簿記 (大原出版) 令和6年度版 簿記能力検定試験 過去問題集 1級 商業簿記・会計学 (公益社団法人 全国経理教育協会)</p> <p>【工業簿記】 ALFA 2級工業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 2級工業簿記 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 2級工業簿記 解答集 (学校法人 大原学園) ステップアップ問題集 日商簿記2級工業簿記 (大原出版) 令和6年度版 簿記能力検定試験 過去問題集 1級 原価計算・工業簿記 (公益社団法人 全国経理教育協会)</p>
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>日商簿記2級演習Ⅲは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。</p>

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1 学年

科目名	日商簿記2級演習Ⅳ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 秀俊、穴戸 雄翔	授業回数	10回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員			
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	科目「日商簿記2級演習Ⅲ」を前提とし、数多くの問題を解いていく。その過程で、問題の内容を把握する読解力を養うことや、解法が1つではないことから正答を導き出すため自ら考え、判断する力を養成する。なお、全国経理教育協会主催簿記能力検定試験1級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 第209回過去問題演習・解説	鈴木 秀俊 穴戸 雄翔	第6回	第204回過去問題演習・解説	鈴木 秀俊 穴戸 雄翔
第2回	第208回過去問題演習・解説	鈴木 秀俊 穴戸 雄翔	第7回	第203回過去問題演習・解説	鈴木 秀俊 穴戸 雄翔

第3回	第207回過去問題演習・解説	鈴木 秀俊 穴戸 雄翔	第8回	第202回過去問題演習・解説	鈴木 秀俊 穴戸 雄翔
第4回	第206回過去問題演習・解説	鈴木 秀俊 穴戸 雄翔	第9回	第201回過去問題演習・解説	鈴木 秀俊 穴戸 雄翔
第5回	第205回過去問題演習・解説	鈴木 秀俊 穴戸 雄翔	第10回	第200回過去問題演習・解説 総論	鈴木 秀俊 穴戸 雄翔
準備学習等	毎回の問題演習を本試験と考え緊張感を持って挑むこと。間違った問題・論点の復習を徹底する。不明な点は科目教員に質問・相談すること。				
教科書 参考書等	<p>【商業簿記】 ALFA 2級商業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 2級商業簿記 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 2級商業簿記 解答集 (学校法人 大原学園) 全経 簿記能力検定試験公式テキスト1級 (ネットスクール出版) 全経 簿記能力検定試験公式問題集1級 (ネットスクール出版) ステップアップ問題集 日商簿記2級商業簿記 (大原出版) 令和6年度版 簿記能力検定試験 過去問題集 1級 商業簿記・会計学 (公益社団法人 全国経理教育協会)</p> <p>【工業簿記】 ALFA 2級工業簿記 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 2級工業簿記 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 2級工業簿記 解答集 (学校法人 大原学園) ステップアップ問題集 日商簿記2級工業簿記 (大原出版) 令和6年度版 簿記能力検定試験 過去問題集 1級 工業簿記・原価計算 (公益社団法人 全国経理教育協会)</p>				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 日商簿記2級演習IVは、上記学科の選択必修科目であるため各学科合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計の原理		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
確認テスト	: 10 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本原理、仕訳、勘定記入といっ た帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。				
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、資産に関する取引が帳簿上、どのよう に記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標として、筆記 試験の80点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	デリバティブ取引・ヘッジ会 計等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	商品売買	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	有形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	棚卸資産の期末評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	現金及び預金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	無形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	割引現在価値 債権・債務等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	研究開発費とソフトウェア 投資その他の資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	貸倒れと貸倒引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	固定資産の減損 繰延資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	有価証券	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。				

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅠ、問題Ⅰ、答案用紙Ⅰ、解答解説Ⅰ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅰ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
確認テスト	: 10 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。				
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、負債・純資産に関する取引が帳簿上、 どのように記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標とし て、筆記試験の80点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	社債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	ストック・オプション	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	税金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	退職給付①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	税効果会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	退職給付②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	税効果会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	外貨建取引①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	純資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	外貨建取引②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	第1回から第6回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透	第15回	第8回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	新株予約権と新株予約権付社 債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。				

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅡ、問題Ⅱ、答案用紙Ⅱ、解答解説Ⅱ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅱ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
確認テスト	: 10 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。また、企業におけるキャッ シュの流れを理解し、資金繰りの必要性を学習する。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。				
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、利益計算と収支計算の違いを理解し、 キャッシュフロー計算書の作成と収益に関する取引の記帳を身に付け、到達目標とし て、筆記試験の70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	キャッシュ・フロー計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	収益認識①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結キャッシュ・フロー計算 書①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	収益認識②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結キャッシュ・フロー計算 書②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	帳簿組織	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	セグメント情報等の開示	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	本支店会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	在外支店	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	会計上の変更及び誤謬の訂正	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	製造業（商的工業簿記）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	1株当たり情報	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。				

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅤ、問題Ⅴ、答案用紙Ⅴ、解答解説Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	連結財務諸表Ⅰ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
確認テスト	: 10 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業集団を会計単位として作成される連結財務諸表作成手順を確認し、企業集団における会社間取引の相殺や未実現利益消去の必要性、連結特有の会計処理を学習する。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。				
授業目的 到達目標	本講義では、個別財務諸表と連結財務諸表の作成目的の違いを理解し、連結子会社及び持分法適用関連会社が各々2社以上ある場合の連結財務諸表作成手順を身に付け、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表総論、資本連結 ①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	在外子会社	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	資本連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結の範囲	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	成果連結①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	第7回から第10回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	成果連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合総論、取得	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	持分法	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	第1回から第5回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透	第14回	事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	連結税効果会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第12回から第14回の範囲の筆 記試験・論点の解説	阿部 透
第8回	包括利益	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。				

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅢ・Ⅳ、問題Ⅲ・Ⅳ、答案用紙Ⅲ・Ⅳ、解答解説Ⅲ・Ⅳ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績 評 価 方 法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論及び会計諸規則、諸基準から、現行 制度に至った背景や考え方を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的である意思決定に有用な情報を提供するうえでの会計理論 及び会計処理の手続きを理解し、到達目標として、各回実施のミニテストにて70点以上 とする。		
授業計画			
回数	授業内容		科目教員
第1回	財務会計の意義と機能 企業会計制度と会計基準		阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	財務会計の基礎概念		阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	収益と費用 資産と負債		阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	棚卸資産 固定資産、繰延資産と引当金		阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	負債、純資産 財務諸表		阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	金融商品、ストック・オプション等 リース		阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	退職給付、研究開発費とソフトウェア 固定資産の減損		阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	法人税等 連結財務諸表		阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	企業結合と事業分離		阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	外貨換算 四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。	
教科書 参考書等	財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。	

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	管理会計の原理		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
				確認テスト	: 10 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	本講義では、管理会計の目的を理解したうえで、財務会計との関わり、実際の活用方法を学ぶ。到達目標として、筆記試験の80点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	管理会計の意義と目的	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第9回	第1回から第8回の範囲の筆記 試験・論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第2回	管理会計の体系	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第10回	直接原価計算と全部原価計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第3回	原価計算基準の設定について	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第11回	固定費調整	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第4回	原価計算の目的と一般的基準	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第12回	資金管理	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第5回	財務会計との結びつき	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第13回	活動基準原価計算の意義・背 景	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第6回	短期利益計画のプロセス	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第14回	活動基準原価計算の有用性 リストラチャリング [*] への効果	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第7回	CVP分析・経営レバレッジと 経営行動	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第15回	第10回から第14回の範囲の筆 記試験・論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第8回	原価態様に基づく原価分類	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。				
教科書 参考書等	管理会計論テキストⅡ、問題Ⅱ、解答解説Ⅱ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。				

備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む管理会計系の科目(原価計算、意思決定会計、戦略管理会計、管理会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。
----	---

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	原価計算	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	授業回数	20回
		成績 評価 方法	筆記試験
確認テスト	: 10 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	本講義では、管理会計の目的を理解したうえで、原価計算基準を用いての原価の算定方法を身に付ける。到達目標として、筆記試験の80点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 原価計算基準	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第11回	総合原価計算(副産物・工程別 原価計算非累加法)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第2回	費目別計算(材料費・労務費)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第12回	総合原価計算(連産品原価計 算)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第3回	費目別計算(経費・製造間接 費)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第13回	第9回から第12回の範囲の筆記 試験・論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第4回	部門別計算(第1、2、3次集計)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第14回	標準原価計算の目的	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第5回	部門別計算(複合費の取り扱 い)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第15回	標準原価の種類(原価改訂頻度 の相違による分類)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第6回	個別原価計算(直接経費処理・ 間接経費処理)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第16回	標準原価の種類(標準の厳格度 の相違による分類)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第7回	個別原価計算(作業屑・異常仕 損の処理)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第17回	標準原価差異の種類・把握方 法	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第18回	標準原価差異の勘定記入方法	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第9回	総合原価計算と個別原価計算 の相違	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第19回	標準原価差異の追加配賦	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第10回	総合原価計算(非度外視法・率 安定的減損)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第20回	第14回から第19回の範囲の筆 記試験・論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	<p>管理会計論テキストⅠ、問題Ⅰ、解答解説Ⅰ</p> <p>なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
備考	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む管理会計系の科目(管理会計の原理、意思決定会計、戦略管理会計、管理会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。</p>

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	意思決定会計	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	授業回数	10回
		成績 評価 方法	筆記試験
確認テスト	: 10 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	本講義では、管理会計の目的を理解したうえで、企業の将来の意思決定の為の意思決定 会計を身に付ける。到達目標として、筆記試験の80点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	意思決定会計の基礎	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第2回	関連原価と無関連原価	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第3回	経済的発注量分析	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第4回	継続・廃止の意思決定	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第5回	受注可否の意思決定	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第6回	追加加工の可否の意思決定	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第7回	部品の自製・購入の意思決定	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第8回	最適プロダストミックス	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第9回	シャドープライス・リデューストコスト	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第10回	第1回から第9回の確認を目的とした筆記試験、重要論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	<p>管理会計論テキストⅡ、問題Ⅱ、解答解説Ⅱ</p> <p>なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
備考	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む管理会計系の科目（管理会計論の原理、原価計算、戦略管理会計、管理会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。</p>

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	戦略管理会計	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	授業回数	10回
		成績 評価 方法	筆記試験
確認テスト	: 10 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	本講義では、管理会計の目的を理解したうえで、企業の将来の意思決定の為の戦略管理 会計を身に付ける。到達目標として、筆記試験の80点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	特殊原価概念	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第2回	資本コストの算定と在り方	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第3回	投資案評価方法（NPV法・収益性指数法・内部利益率法）	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第4回	投資案評価方法（回収期間法・投資利益率法・原価比較法）	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第5回	不確実性を考慮した意思決定	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第6回	予算管理と責任会計	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第7回	予算編成・予算統制	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第8回	目標管理・予算スラックの形成	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第9回	資金管理の収益性と安全性	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第10回	第1回から第9回の確認を目的とした筆記試験重要論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	<p>管理会計論テキストⅡ、問題Ⅱ、解答解説Ⅱ</p> <p>なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
備考	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む管理会計系の科目（管理会計論の原理、原価計算、意思決定会計、管理会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。</p>

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	監査論 I		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		60時間	
			単位数		2単位	
科目教員	鈴木 翔太		授業回数		20回	
			成績 評価 方法	確認テスト		70 %
授業態度		30 %				
		%				
		%				
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太				%	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	財務諸表監査を中心とした監査の制度的な枠組み、必要性、関係する法令・基準・監査 実務指針等を理解する。					
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築 支援等の業務を行っている。					
授業目的 到達目標	本講義は、財務諸表監査について理解したうえで、効果的かつ効率的な監査を行うため の実施や報告に関する基礎知識を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて 70点以上とする。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	財務諸表監査総論	鈴木 翔太	第11回	関連当事者との関係及び 取引、会計上の見積りの監査	鈴木 翔太	
第2回	意見表明の対象である財務諸 表	鈴木 翔太	第12回	財務諸表監査における不正の 検討及び法令の検討	鈴木 翔太	
第3回	監査主体論、監査基準論	鈴木 翔太	第13回	グループ監査、内部監査の利 用、専門家の業務の利用	鈴木 翔太	
第4回	監査業務のプロセス、財務諸 表の適正性の立証プロセス	鈴木 翔太	第14回	監査の品質管理、監査人の交 代、コミュニケーション、監査調書	鈴木 翔太	
第5回	監査証拠、監査手続①	鈴木 翔太	第15回	監査意見に関する知識	鈴木 翔太	
第6回	監査手続②、監査業務の契約	鈴木 翔太	第16回	追記情報	鈴木 翔太	
第7回	監査計画、リスク・アプロー チ	鈴木 翔太	第17回	比較情報、特別目的の財務諸 表の監査等	鈴木 翔太	
第8回	リスク評価手続き及び評価し たリスクに対応する手続き	鈴木 翔太	第18回	継続企業の前提	鈴木 翔太	
第9回	監査証拠の入手方法	鈴木 翔太	第19回	中間監査、四半期レビュー	鈴木 翔太	

第10回	監査における重要性、特別な 検討を必要とするリスク	鈴木 翔太	第20回	内部統制報告制度、わが国の 監査の歴史	鈴木 翔太
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。				
教科書 参考書等	監査論テキスト(上巻)、監査論テキスト(下巻)、監査論問題集、監査論ポケットコンパス、監査論肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。				
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む監査論系の科目(監査演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。				

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法Ⅰ		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		60時間	
			単位数		2単位	
科目教員	鈴木 翔太		授業回数		15回	
			成績 評価 方法	確認テスト		70 %
授業態度		30 %				
		%				
		%				
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太				%	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち、株式会社の設立から運営および組織構造等に関する基礎知識を学習する。					
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。					
授業目的 到達目標	本講義は、会社法の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	設立総説、発起設立と募集設立	鈴木 翔太	第9回	株主総会②、取締役①	鈴木 翔太	
第2回	変態設立事項に関する規制、設立関与者の責任	鈴木 翔太	第10回	取締役②	鈴木 翔太	
第3回	設立の瑕疵、株主の権利・義務①	鈴木 翔太	第11回	取締役③	鈴木 翔太	
第4回	株主の権利・義務②、株主平等原則	鈴木 翔太	第12回	取締役④、代表取締役①	鈴木 翔太	
第5回	株式の譲渡、自己株式の取得・処分等の制限①	鈴木 翔太	第13回	代表取締役②、監査役①	鈴木 翔太	
第6回	自己株式の取得・処分等の制限②、株主名簿①	鈴木 翔太	第14回	監査役②、指名委員会等設置会社①	鈴木 翔太	
第7回	株主名簿②、株式等売渡請求	鈴木 翔太	第15回	指名委員会等設置会社②、監査等委員会設置会社	鈴木 翔太	
第8回	機関総説、株主総会①	鈴木 翔太				
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。					

教科書 参考書等	企業法テキスト(会社法)、企業法問題集、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅱ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

		学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）		
		学年	1学年・2学年・3学年・4学年		
科目名	企業法Ⅱ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無		有	授業時間数	30時間	
			単位数	1単位	
科目教員		鈴木 翔太	授業回数	10回	
			成 績 評 価 方 法	確認テスト	: 70 %
				授業態度	: 30 %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員		鈴木 翔太			: %
					: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち資金調達や組織再編行為等の仕組みや手順等の規制、商法のうち商人およ び商行為に関する規制、金融商品取引法のうち情報開示制度に関する規制について学習 する。				
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築 支援等の業務を行っている。				
授業目的 到達目標	本講義は、各種法令の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判 例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容				科目教員
第1回	募集株式の発行等の効力発生等①				鈴木 翔太
第2回	募集株式の発行等の効力発生等② 新株予約権				鈴木 翔太
第3回	社債 資本金・準備金・剰余金				鈴木 翔太
第4回	剰余金の配当 事業譲渡等				鈴木 翔太
第5回	組織再編				鈴木 翔太
第6回	解散・清算、持分会社 特例有限会社・外国会社				鈴木 翔太
第7回	商法総則①				鈴木 翔太
第8回	商法総則② 商法為法				鈴木 翔太
第9回	金融商品取引法総論 発行開示				鈴木 翔太
第10回	流通開示 開示の実効性・公正確保のための制度				鈴木 翔太

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	<p>企業法テキスト（会社法）、企業法テキスト（商法・金商法）、企業法問題集Ⅱ、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック</p> <p>なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
備考	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅰ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。</p>

学科	OA事務学科(1年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法税務会計	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	23回
		成績評価方法	筆記試験
ミニテスト	: 40 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせる。 また、過去の全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験の出題内容を実務に照らして解説することにより、実務に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	--

授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験1級に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。
--------------	---

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第13回	非課税資産の輸出等を行った 場合の仕入税額の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第14回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除①	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第15回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除②	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高 による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除 対象仕入税額(個別対応方式・ 一括比例配分方式)	小関 哲也	第17回	棚卸資産に係る仕入税額控除 の調整	小関 哲也
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第18回	課税標準	小関 哲也
第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第19回	簡易課税制度	小関 哲也

第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第20回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第22回	国等に対する特例	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第23回	総まとめ問題	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也			
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）、全国経理教育協会主催消費税法能力検定				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 消費税法税務会計は、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	簿記論 I		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数		120時間	
			単位数		4単位	
科目教員	竹村 幸生		授業回数		30回	
			成績評価方法	筆記試験		:
ミニテスト		:		40	%	
授業態度		:		20	%	
		:			%	
科目教員のうち 実務経験教員					:	%
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容						
実務経験教員の 実務経験内容						
授業目的 到達目標	日商簿記検定2級（商業簿記）程度の簿記知識をすでに習得していることを前提に、中小企業にて行われる各種取引の会計処理について細部まで解説することで、理解を深めてもらうことを目的としています。そして、日々の取引から決算整理に至るまで、主要簿及び補助簿等への記入や締め切り、帳簿を基礎として作成される各種試算表や精算表といった、主に企業内部で使用される帳票類を自ら作成できる能力と、税理士試験簿記論に合格できる基礎能力を身につけることを到達目標とします。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	ガイダンス 簿記の目的、簿記の仕組み	竹村 幸生	第16回	当座預金の期末修正、当座借越	竹村 幸生	
第2回	主要簿及び補助簿、決算振替	竹村 幸生	第17回	その他資本剰余金、利益準備金・繰越利益剰余金	竹村 幸生	
第3回	精算表、貸借対照表及び損益計算書	竹村 幸生	第18回	自己株式の概要、自社利用目的のソフトウェア	竹村 幸生	
第4回	現金の範囲、現金過不足、当座預金（小切手）	竹村 幸生	第19回	税効果会計の概要、将来減算一時差異	竹村 幸生	
第5回	債権債務、約束手形	竹村 幸生	第20回	売上原価計上法、分記法、総記法	竹村 幸生	
第6回	三分法、商品有高帳、商品評価損等	竹村 幸生	第21回	償却原価法（利息法）、社債の買入償還	竹村 幸生	
第7回	固定資産の概要、減価償却、固定資産の売却等	竹村 幸生	第22回	原価率・利益率、仕入・売上の計上基準	竹村 幸生	

第8回	資本的支出と収益的支出、無形固定資産	竹村 幸生	第23回	自己株式の処分・消却、満期保有目的の債券	竹村 幸生
第9回	源泉所得税・社会保険料、賞与引当金	竹村 幸生	第24回	その他有価証券、有価証券の減損処理	竹村 幸生
第10回	貸倒損失、貸倒引当金(実績率法、財務内容評価法)	竹村 幸生	第25回	新株予約権、株主資本等変動計算書	竹村 幸生
第11回	損益の見越・繰延、退職給付(簡便法・退職一時金制度)	竹村 幸生	第26回	固定資産の売却等(手数料、消費税、値引)	竹村 幸生
第12回	有価証券の概要、売買目的有価証券、関係会社株式	竹村 幸生	第27回	割引現在価値の算定	竹村 幸生
第13回	法人税等、租税公課、消費税等	竹村 幸生	第28回	減損会計の概要、減損の兆候・認識の判定及び測定	竹村 幸生
第14回	手形の譲渡、社債の概要、償却原価法(定額法)	竹村 幸生	第29回	退職給付(原則法・退職一時金制度と企業年金制度)	竹村 幸生
第15回	純資産の概要、資本金・資本準備金	竹村 幸生	第30回	転換社債型新株予約権付社債(区分法)	竹村 幸生
準備学習等	会計処理の知識や帳簿記入の技術を身につけるためには、日々の復習を欠かさず地道な努力を継続することが何より求められます。項目によっては大変難易度の高い内容も含まれていますので、講義の中で全てが完結するものと考えず、講義後の復習(問題演習)を実施することでより理解が深まることを認識して下さい。なお、予習は不要です。				
教科書 参考書等	簿記論計算テキスト1(大原学園)、計算問題集1-1、1-2(大原学園) 簿記論計算テキスト2(大原学園)、計算問題集2-1、2-2(大原学園) 簿記論個別計算問題集(大原出版)、簿記論総合計算問題集基礎編(大原出版)				
備考	各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 簿記論Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。				

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	財務諸表論Ⅰ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	120時間	
			単位数	4単位	
科目教員	千葉 菜愛		授業回数	30回	
			成績評価方法	筆記試験	: 40 %
ミニテスト	: 40 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	企業の経済活動を表す損益計算書や貸借対照表などの財務諸表の作成に関する原理や原則を計算と理論に分けて学習します。計算では日々の取引を集計した残高試算表から、財務諸表を作成する能力を身につけ、理論では企業会計原則を理解し記述することができる力を身につけることを目的とします。また、税理士試験財務諸表論に合格できる能力の基礎を身につけることを到達目標とします。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	計算：ガイダンス 財務諸表論の概要、貸借対照表（株主資本除く）流動固定の分類基準、損益計算書	千葉 菜愛	第16回	計算：割引現在価値、資産除去債務 理論：費用収益対応の原則、一般販売の収益認識	千葉 菜愛
第2回	計算：現金及び預金、債権及び債務	千葉 菜愛	第17回	計算：当座借越 理論：特殊販売の収益認識	千葉 菜愛

第3回	計算：個別注記表（重要な会計方針）、B/S注記、損益の見越・繰延 理論：ガイダンス	千葉 菜愛	第18回	計算：関係会社に対する債権債務 理論：工事契約（基本）、P/L表示原則、B/S表示原則	千葉 菜愛
第4回	計算：銀行勘定調整表 理論：財務諸表論の基礎概念	千葉 菜愛	第19回	計算：ソフトウェア、税金（外形基準、租税公課） 理論：財務諸表論の基礎概念（資本循環と財務諸表、会計観）	千葉 菜愛
第5回	計算：棚卸資産（売上原価の算定） 理論：一般原則（真実性の原則）	千葉 菜愛	第20回	計算：税効果会計 理論：貸借対照表の本質	千葉 菜愛
第6回	計算：有形固定資産、無形固定資産 理論：一般原則（正規の簿記の原則）	千葉 菜愛	第21回	計算：源泉所得税、社会保険料、棚卸資産（返品、値引、割戻） 理論：資産総論（分類、評価）	千葉 菜愛
第7回	計算：引当金（一般債権）、給料等 理論：一般原則（明瞭性の原則）	千葉 菜愛	第22回	計算：株主資本等変動計算書 理論：棚卸資産（数量計算、評価方法）	千葉 菜愛
第8回	計算：引当金（懸念、破産） 理論：一般原則（継続性の原則）	千葉 菜愛	第23回	計算：減損会計 理論：固定資産の定義と分類、取得原価（自家建設）	千葉 菜愛
第9回	計算：退職給付（簡便法） 理論：一般原則（資本利益区別の原則）	千葉 菜愛	第24回	計算：棚卸資産（他勘定振替） 理論：固定資産の取得原価（現物出資、交換）	千葉 菜愛

第10回	計算：法人税等・追徴還付、株主資本 理論：一般原則（単一性の原則）	千葉 菜愛	第25回	計算：償却原価法（利息法） 理論：固定資産（減価償却、評価減）	千葉 菜愛
第11回	計算：その他の引当金 理論：一般原則（保守主義の原則）	千葉 菜愛	第26回	計算：為替予約（独立処理） 理論：固定資産（資本的支出、特殊な有形固定資産の費用化）	千葉 菜愛
第12回	計算：関係会社（議決権による判定） 理論：重要性の原則	千葉 菜愛	第27回	計算：有価証券（その他有価証券） 理論：資本総論（実体資本維持）	千葉 菜愛
第13回	計算：有価証券（基本的評価等） 理論：P/Lの本質と構造、発生主義会計と現金主義会計	千葉 菜愛	第28回	計算：圧縮記帳（直接）、消費税 理論：繰延資産（概念）、繰延資産（会計処理）	千葉 菜愛
第14回	計算：社債 理論：期間損益計算の基本原則及び収支額基準	千葉 菜愛	第29回	計算：外貨建有価証券 理論：負債（引当金）、負債（偶発債務）、財務諸表論の基礎概念（会計観 資産・負債）	千葉 菜愛
第15回	計算：外貨建取引（基本的換算） 理論：実現主義の原則、発生主義の原則	千葉 菜愛	第30回	計算：P/L注記（取締役に対する金銭債権債務）、有価証券（配当を受けた株主の処理） 理論：資産の評価（時価）、資産の評価（現価主義）	千葉 菜愛
準備学習等	財務諸表論については、計算と理論をバランスよく学習していきます。そのため、日々の復習と理論暗記を継続することが必要不可欠です。講義内で指示する問題演習を欠かさず実施することで、より理解が深まるものと解してください。なお、予習は不要です。				

<p>教科書 参考書等</p>	<p>財務諸表論計算テキスト1（大原学園）、計算問題集1-1、1-2（大原学園）、理論テキスト1（大原学園） 財務諸表論計算テキスト2（大原学園）、計算問題集2-1、2-2（大原学園）、理論テキスト2（大原学園） 財務諸表論個別計算問題集（大原出版）、財務諸表論総合計算問題集基礎編（大原出版）</p>
<p>備考</p>	<p>各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 財務諸表論Ⅰは、上記学科及び各学年の選択科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。</p>

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	消費税法Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	4単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	30回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 %
			ミニテスト : 40 %
			授業態度 : 20 %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %
			: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	--

授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算及び消費税法の法解釈を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、消費税法の計算と理論を体系的に学習することにより、税理士試験消費税法に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。
--------------	---

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第17回	相続があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第18回	合併があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第19回	会社分割があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除対象仕入税額(個別対応方式・一括比例配分方式)	小関 哲也	第20回	新設法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	特定新規設立法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也

第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第22回	合併があった場合の中間申告に係る納付税額の計算の特例	小関 哲也
第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第23回	棚卸資産に係る仕入税額控除の調整	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第24回	課税標準	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第25回	簡易課税制度①	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第26回	簡易課税制度②	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也	第27回	軽減税率 旧税率に関する経過措置	小関 哲也
第13回	非課税資産の輸出等を行った場合の仕入税額の特例	小関 哲也	第28回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第14回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除①	小関 哲也	第29回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第15回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除②	小関 哲也	第30回	国等に対する特例	小関 哲也

準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合がある。 消費税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	〇 A 事務学科(1 年課程)・〇 A 事務学科(2 年課程)・ビジネス学科(2 年課程)・経理事務学科(2 年課程)・情報システム学科(2 年課程)・情報システム学科(3 年課程)・税理士会計士学科(2 年課程)・税理士会計士学科(2 年 4 ヶ月課程)・税理士会計士学科(3 年課程)・税理士会計士学科(4 年課程)・税理士会計士専攻学科(1 年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	法人税法 I		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間	
			単位数	4単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	30回	
			成績評価方法	筆記試験	: 40 %
ミニテスト	: 40 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	実務において、法人税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算の根拠となる法人税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。				
実務経験教員の実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	法人税の仕組みを理解し、法人税の計算及び法人税法の法解釈を基礎から学び、法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法の計算と理論を体系的に学習することにより、公益社団法人全国経理教育協会主催文部科学省後援法人税法能力検定試験2級又は1級の合格レベル、及び税理士試験法人税に出題される基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 法人税法の概要	小関 哲也	第16回	役員判定・役員給与①	小関 哲也
第2回	交際費等の損金不算入①・減価償却①	小関 哲也	第17回	役員判定・役員給与②・使用人給与	小関 哲也
第3回	減価償却②・受取配当等の益金不算入①	小関 哲也	第18回	交際費等の損金不算入③・特定資産の買換え	小関 哲也
第4回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第19回	租税公課及び納税充当金②	小関 哲也
第5回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第20回	地方法人税の計算・みなし配当①	小関 哲也
第6回	減価償却③・有価証券②	小関 哲也	第21回	資本等取引①・租税公課及び納税充当金③・外国税額控除	小関 哲也

第7回	別表4の作成	小関 哲也	第22回	外国子会社から受ける配当等の益金不算入・寄付金の損金不算入③	小関 哲也
第8回	使途秘匿金の課税の特例・貸倒損失	小関 哲也	第23回	保険差益・リース取引	小関 哲也
第9回	貸倒引当金①・欠損金①	小関 哲也	第24回	繰延資産・欠損金②	小関 哲也
第10回	貸倒引当金②・外貨建取引	小関 哲也	第25回	交換差益・受取配当等の益金不算入③	小関 哲也
第11回	収用等①・受取配当金の益金不算入②	小関 哲也	第26回	租税公課及び納税充当金④・確定決算型	小関 哲也
第12回	交際費等の損金不算入②・寄付金の損金不算入②	小関 哲也	第27回	グループ法人税制①	小関 哲也
第13回	租税公課等及び納税充当金②・有価証券③	小関 哲也	第28回	欠損金額・資産の評価損益	小関 哲也
第14回	所得額控除・国庫補助金等・別表5作成・有価証券④	小関 哲也	第29回	グループ法人税制②	小関 哲也
第15回	圧縮記帳の概要・収用等②・接待飲食費	小関 哲也	第30回	修正申告・税効果会計・設立事業年度	小関 哲也
準備学習等	法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	法人税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）・個別計算問題集（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合がある。また、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入した授業となる場合がある。 法人税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、原則、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	〇 A 事務学科(1 年課程)・〇 A 事務学科(2 年課程)・ビジネス学科(2 年課程)・経理事務学科(2 年課程)・情報システム学科(2 年課程)・情報システム学科(3 年課程)・税理士会計士学科(2 年課程)・税理士会計士学科(2 年 4 ヶ月課程)・税理士会計士学科(3 年課程)・税理士会計士学科(4 年課程)・税理士会計士専攻学科(1 年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	相続税法 I	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	120時間
		単位数	4単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	30回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 %
			ミニテスト : 40 %
			授業態度 : 20 %
: %			
科目教員のうち 実務経験教員			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			: %
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	相続税の仕組みを理解し、相続税の計算及び相続税法の法解釈を基礎から学び、相続税の計算ができることを目的とする。 また、相続税法の計算と理論を体系的に学習することにより、税理士試験相続税法に出題される基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス・相続税法の概要	小関 哲也	第16回	預貯金・上場株式の評価	小関 哲也
第2回	相続税と民法・相続人等の判及び相続分・承認と放棄	小関 哲也	第17回	小規模宅地等の減額①	小関 哲也
第3回	相続税の納税義務者・生命保険金等・相続税の非課税・相続税の計算方法	小関 哲也	第18回	構築物・貸付金債権等・受取手形等の評価	小関 哲也
第4回	生命保険等の非課税・退職手当金等の非課税・贈与税の概要・贈与税の計算方法	小関 哲也	第19回	角切り宅地の間口距離	小関 哲也
第5回	弔慰金等・債務控除・相続時精算課税制度の概要	小関 哲也	第20回	間口が狭小な宅地等・使用貸借の宅地等の評価	小関 哲也
第6回	相続税額の加算・相続税の総額・算出相続税額	小関 哲也	第21回	利用区分が異なる建物の宅地・借地権等の評価	小関 哲也
第7回	相続税額の計算・贈与税贈与税控除・配偶者の税額軽減	小関 哲也	第22回	取引相場のない株式の評価①	小関 哲也

第8回	未成年者控除・障害者控除	小関 哲也	第23回	邦貨換算・不整形地の評価・取引相場のない株式の評価②	小関 哲也
第9回	特定納税義務者及び特定納税義務者の債務控除・障害者控除	小関 哲也	第24回	がけ地等の評価	小関 哲也
第10回	評価の原則・自用地①・自家用家屋・家屋と構造上一体となっている宅地の評価	小関 哲也	第25回	評価会社が退職手当金等を支払った場合	小関 哲也
第11回	特別養子制度・生命保険契約に関する権利	小関 哲也	第26回	小規模宅地等の減額②	小関 哲也
第12回	被保険者でない保険契約者が死亡した場合・法定相続人・本来の財産	小関 哲也	第27回	同族会社に対して土地を相当の地代により貸付けている場合	小関 哲也
第13回	自用地②・地区区分の異なる宅地・側方路線等に宅地の一部が接している場合	小関 哲也	第28回	旗竿状の宅地等の評価	小関 哲也
第14回	普通借地権・貸宅地・貸家建付地・貸家の評価	小関 哲也	第29回	容積率の異なる宅地・都市計画道路予定区域内の宅地の評価	小関 哲也
第15回	一般動産・たな卸商品等・書画骨董品の評価	小関 哲也	第30回	建設中の家屋の評価・小規模宅地等の減額③	小関 哲也
準備学習等	<p>相続税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に相続税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。</p>				
教科書 参考書等	<p>相続税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、相続税計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、財産評価テキスト・相続税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）、個別計算問題集（大原出版）</p>				
備考	<p>授業計画の前提となる内容等については、法改正等に応じて一部変更する場合がある。</p> <p>相続税法Ⅰは、メディア授業であることからメディアセンターで受講する。</p>				

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	簿記論演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	竹村 幸生	授業回数	12回
		成績評価方法	筆記試験
演習問題	: 50 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	
-------------------	--

授業目的 到達目標	簿記論Ⅰで履修した簿記知識及び計算・記帳技術について、問題演習を通して反復練習・解説することで理解を深めてもらうことを目的としています。税理士試験簿記論受験のための基礎的な個別問題・総合問題を、設定された制限時間内に解答するための解法手順、図式化などができるようになることを到達目標とします。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 第1回演習問題(現金預金、債権債務)	竹村 幸生	第7回	第7回演習問題(割引現在価値、減損会計)	竹村 幸生
第2回	第2回演習問題(商品売買、固定資産)	竹村 幸生	第8回	第8回演習問題(転換社債型新株予約権付社債)	竹村 幸生
第3回	第3回演習問題(貸倒引当金、退職給付会計※簡便法)	竹村 幸生	第9回	第9回演習問題(勘定復元①)	竹村 幸生
第4回	第4回演習問題(有価証券、税金)	竹村 幸生	第10回	第10回演習問題(勘定復元②)	竹村 幸生
第5回	第5回演習問題(社債、純資産)	竹村 幸生	第11回	第11回演習問題(推定簿記①)	竹村 幸生
第6回	第6回演習問題(ソフトウェア、税効果会計)	竹村 幸生	第12回	第12回演習問題(推定簿記②)	竹村 幸生

準備学習等	簿記論Ⅰで履修した内容の問題演習となりますので、事前に各項目の内容を復習したうえで講義に臨んでください。また、個別形式の問題と総合問題は異なる問題です。いずれかの形式に偏った復習にならないよう、バランスよく学習することを心がけてください。
教科書 参考書等	各回とも演習問題を配付します。 復習用教材として、簿記論Ⅰで使用している計算テキストを持参してください。
備考	各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 簿記論演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	財務諸表論演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	千葉 菜愛	授業回数	12回
		成績評価方法	筆記試験 : 30 %
			演習問題 : 50 %
			授業態度 : 20 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員		: %	

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	
-------------------	--

授業目的 到達目標	財務諸表論Ⅰで履修した計算及び理論の知識について、問題演習を通して反復練習・解説することで理解を深めてもらうことを目的としています。税理士試験財務諸表論受験のための基礎的な総合計算問題・理論の記述問題を、設定された制限時間内に解答するための解法手順、会計基準の適正な記述などができるようになることを到達目標とします。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 第1回演習問題（理論：一般原則）	千葉 菜愛	第7回	第7回演習問題（理論：企業会計原則注解、注15繰延資産）	千葉 菜愛
第2回	第2回演習問題（理論：会計観 貸借対照表の役割・損益計算 書原則、一）	千葉 菜愛	第8回	第8回演習問題（理論：会計 観・概念フレームワークにつ いて）	千葉 菜愛
第3回	第3回演習問題（理論：損益計 算書原則、一A）	千葉 菜愛	第9回	第9回演習問題（理論：資産評 価、減損会計）	千葉 菜愛

第4回	第4回演習問題（理論：企業会計原則注解、注18引当金について）	千葉 菜愛	第10回	第10回演習問題（理論：リース取引に関する会計基準・資産除去債務に関する会計基準）	千葉 菜愛
第5回	第5回演習問題（理論：資産の評価について）	千葉 菜愛	第11回	第11回演習問題（理論：リース債務、資産除去債務の共通点、相違点）	千葉 菜愛
第6回	第6回演習問題（理論：貸借対照表原則、五）	千葉 菜愛	第12回	第12回演習問題（理論：退職給付に係る会計基準・純資産会計）	千葉 菜愛
準備学習等	財務諸表論Ⅰで履修した内容の問題演習となりますので、事前に各項目の内容を復習したうえで講義に臨んでください。特に、理論については事前暗記が必須です。計算、理論のいずれかに偏った復習にならないよう、バランスよく学習することを心がけてください。				
教科書 参考書等	各回とも演習問題を配付します。 復習用教材として、財務諸表論Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参してください。				
備考	各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 財務諸表論演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。				

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	消費税法演習Ⅰ		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回
			成績評価方法	筆記試験 : 30 %
				演習問題 : 50 %
				授業態度 : 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。また、計算の基となる消費税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。			
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身に付けることを目的とする。また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態における消費税額 計算の注意点	小関 哲也	第7回	商品販売業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第2回	不動産業等を営む法人を前提 とした消費税額の計算①	小関 哲也	第8回	製造業等を営む個人事業者を 前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第3回	商品販売業等を営む法人を前 提とした消費税額の計算	小関 哲也	第9回	建築業等を営む個人事業者を 前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第4回	製造業等を営む法人を前提と した消費税額の計算①	小関 哲也	第10回	不動産業等を営む法人を前提 とした消費税額の計算②	小関 哲也
第5回	建築業等を営む法人を前提と した消費税額の計算	小関 哲也	第11回	製造業等を営む法人を前提と した消費税額の計算②	小関 哲也
第6回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ①	小関 哲也	第12回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ②	小関 哲也

準備学習等	消費税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付する。 復習用教材として、消費税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	法人税法演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	12回
		成績評価方法	筆記試験 : 30 %
			演習問題 : 50 %
			授業態度 : 20 %
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也	: %	: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる法人税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	---

授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身につけることを目的とする。 また、各法人の法人税の計算ができ、税理士試験法人税法及び全国経理教育協会法人税法能力検定試験1級に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 基本項目のまとめ	小関 哲也	第7回	貸倒引当金の設定事例を基にした問題演習及び第104回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第2回	交際費等の取引事例を基にした問題演習及び第96回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第8回	租税公課の事例を基にした問題演習及び第105回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第3回	減価償却の事例を基にした問題演習及び第97回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第9回	受取配当金等の取引事例を基にした問題演習及び第107回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也

第4回	寄付金の取引事例を基にした問題演習及び第98回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第10回	有価証券の取引事例を基にした問題演習及び第108回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第5回	貸倒損失の取引事例を基にした問題演習及び第99回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第11回	国庫補助金等の圧縮記帳を基にした問題演習及び土地収用法の圧縮記帳を基にした問題演習	小関 哲也
第6回	欠損金の事例を基にした問題演習及び第100回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第12回	役員判定の事例を基にした問題演習及びリース取引等の取引事例を基にした問題演習	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付し、また、法人税法能力検定試験過去問題集（全国経理教育協会出版）を使用する。 復習用教材として、法人税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	相続税法演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回	
			成績評価方法	筆記試験	: 30 %
				演習問題	: 50 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	各相続事例を基にした演習問題を通して財産評価を行い、相続税を計算し申告書を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身につけることを目的とする。 また、税理士試験相続税法に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを到達目標とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 基本項目のまとめ	小関 哲也	第7回	問題演習⑥ 〔内容〕相続人の判定及び相続分・生命保険等・生前贈与加算・相続税額の加算・障害者控除を含む総合問題	小関 哲也
第2回	問題演習① 〔内容〕相続人の判定及び相続分・生命保険等・退職手当金等・未成年者控除・障害者控除を含む総合問題	小関 哲也	第8回	問題演習⑦ 〔内容〕相続人の判定及び相続分・生命保険等・債務控除・相続税額加算を含む総合問題	小関 哲也
第3回	問題演習② 〔内容〕相続人の判定及び相続分・生命保険等・債務控除・相続税額加算を含む総合問題	小関 哲也	第9回	問題演習⑧ 〔内容〕生命保険等・債務控除・相続税額の加算・配偶者に対する相続税額の軽減を含む総合問題	小関 哲也

第4回	問題演習③ 〔内容〕生命保険等・債務控除・相続税額の加算・配偶者に対する相続税額の軽減を含む総合問題	小関 哲也	第10回	問題演習⑨ 〔内容〕生命保険等・退職手当金等（弔慰金を含む）・債務控除（保証債務）を含む総合問題	小関 哲也
第5回	問題演習④ 〔内容〕生命保険等・退職手当金等（弔慰金を含む）・債務控除（保証債務）を含む総合問題	小関 哲也	第11回	問題演習⑩ 〔内容〕相続人の判定及び相続分・生命保険等・債務控除・相続税額加算を含む総合問題	小関 哲也
第6回	問題演習⑤ 〔内容〕生命保険等・退職手当金等・債務控除・障害者控除を含む総合問題	小関 哲也	第12回	事業承継の対策及び節税対策	小関 哲也
準備学習等	相続税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、相続税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付し、また、相続税法総合計算問題集基礎編（大原出版）を使用する。 復習用教材として、法人税法Ⅰで使用している計算テキスト、財産評価テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の内容の主要項目については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 相続税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年

科目名	会計学上級	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	穴戸 雄翔、千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験
ミニテスト	: 30 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	科目「日商簿記1級Ⅲ」を前提に、会計専門職（税理士・公認会計士等）を目指すものとして高度な商業簿記・会計学を習得し、会計基準や財務諸表等規則などの企業会計に関する法規を踏まえて、財務諸表作成ができることを目的とする。また、最終的には全国経理教育協会主催簿記能力検定試験上級に合格できる能力を身につけることを目標とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	財務諸表分析、一般原則	穴戸 雄翔 千葉 菜愛	
第2回	損益計算書原則	穴戸 雄翔 千葉 菜愛	
第3回	貸借対照表原則	穴戸 雄翔 千葉 菜愛	
第4回	資産会計、負債会計	穴戸 雄翔 千葉 菜愛	
第5回	純資産会計	穴戸 雄翔 千葉 菜愛	
第6回	外貨建取引会計	穴戸 雄翔 千葉 菜愛	

第7回	税効果会計	穴戸 雄翔 千葉 菜愛
第8回	企業結合会計	穴戸 雄翔 千葉 菜愛
第9回	連結会計	穴戸 雄翔 千葉 菜愛
第10回	キャッシュ・フロー会計	穴戸 雄翔 千葉 菜愛
第11回	会計上の変更と誤謬の訂正	穴戸 雄翔 千葉 菜愛
第12回	概念フレームワーク	穴戸 雄翔 千葉 菜愛
第13回	会社再編の会計①	穴戸 雄翔 千葉 菜愛
第14回	会社再編の会計②	穴戸 雄翔 千葉 菜愛
第15回	四半期連結財務諸表	穴戸 雄翔 千葉 菜愛
準備学習等	各回の復習を必ず行うこと。また、難解な項目もあるため、不明な点等は科目教員に質問や相談をすること。予習は不要。	
教科書 参考書等	【商業簿記・会計学】 ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅠ (大原出版) ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅰ (大原出版) ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅰ (大原出版) ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅡ (大原出版) ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅱ (大原出版) ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅱ (大原出版) 全経簿記上級 商業簿記・財務会計テキスト (中央経済社) 簿記検定全経上級 直前対策講義 商業簿記・会計学 (大原出版)	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 会計学上級は、上記学科の選択必修科目であるため各学科各学年合同授業となる。	

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年

科目名	原価計算上級	授業形態		
		選必の別	講義	
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	90時間	
		単位数	3単位	
科目教員	菊地 裕俊	授業回数	15回	
		成績評価方法	筆記試験	: 50 %
			ミニテスト	: 30 %
			授業態度	: 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員		: %		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容				
実務経験教員の 実務経験内容				
授業目的 到達目標	科目「日商簿記1級Ⅲ」を前提に、会計専門職（税理士・公認会計士等）を目指すものとして高度な工業簿記・原価計算を習得し、経営管理や経営分析ができることを目的とする。また、最終的には全国経理教育協会主催簿記能力検定試験上級に合格できる能力を身につけることを目標とする。			
授業計画				
回数	授業内容	科目教員		
第1回	費目別計算、個別原価計算、部門別原価計算、責任会計	菊地 裕俊		
第2回	部門別原価計算、個別原価計算	菊地 裕俊		
第3回	総合原価計算	菊地 裕俊		
第4回	標準原価計算	菊地 裕俊		
第5回	直接原価計算、全部原価計算、CVP分析、原価分解	菊地 裕俊		
第6回	事業部制	菊地 裕俊		
第7回	意思決定の原価概念、業務的意思決定	菊地 裕俊		

第8回	構造的意決定	菊地 裕俊
第9回	戦略的原価計算	菊地 裕俊
第10回	工場独立会計	菊地 裕俊
第11回	直前対策講義 過去問題解説(第191回、第193回)	菊地 裕俊
第12回	直前対策講義 過去問題解説(第195回、第197回)	菊地 裕俊
第13回	直前対策講義 過去問題解説(第199回、第201回)	菊地 裕俊
第14回	直前対策講義 過去問題解説(第203回、第205回)	菊地 裕俊
第15回	直前対策講義 過去問題解説(第207回、第209回)	菊地 裕俊
準備学習等	各回の復習を必ず行うこと。また、難解な項目もあるため、不明な点等は科目教員に質問や相談をすること。予習は不要。	
教科書 参考書等	【工業簿記・原価計算】 ALFA 1級工業簿記・原価計算 テキスト (大原出版) ALFA 1級工業簿記・原価計算 問題集 (大原出版) ALFA 1級工業簿記・原価計算 解答集 (大原出版) 全経簿記上級 原価計算・管理会計テキスト (中央経済社) 簿記検定 全経上級 直前対策講義 工業簿記・原価計算 (大原出版)	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 原価計算上級は、上記学科の選択必修科目であるため各学科各学年合同授業となる。	

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）・行政公務員学科（2年課程）・ 行政公務員学科（1年課程）・総合公務員学科（2年課程）・ 総合公務員学科（1年課程）・法律公務員学科（2年課程）・ 法律公務員学科（1年課程）
学年	1 学年

科目名	税務会計	授業形態			
		選必の別	講義		
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	120時間		
		単位数	4単位		
科目教員	鈴木 秀俊、菊地 裕俊	授業回数	30回		
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %		
科目教員のうち 実務経験教員					
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	消費税・法人税の基本的な税務処理及び源泉徴収や確定申告の書類作成ができることを目的とする。また、消費税・法人税の計算及び理論体系を学ぶことで全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験2級及び、全国経理教育協会主催法人税法能力検定試験3級に合格できる能力を身につけることを目標とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	【消費税】 消費税の概要 課税の対象、非課税	鈴木 秀俊 菊地 裕俊	第16回	【法人税】 法人税の概要 所得の金額の計算方法	鈴木 秀俊 菊地 裕俊
第2回	【消費税】 輸出免税等	鈴木 秀俊 菊地 裕俊	第17回	【法人税】 租税公課の概要 減価償却（概要、減価償却資産の範囲・償却方法）	鈴木 秀俊 菊地 裕俊

第3回	【消費税】 納税義務者、納税地 納税期間	鈴木 秀俊 菊地 裕俊	第18回	【法人税】 繰延資産、貸倒引当金 (概要、繰り入れ限度額の 計算式、個別評価金銭債権、 一括評価金銭債権)	鈴木 秀俊 菊地 裕俊
第4回	【消費税】 課税標準及び税率	鈴木 秀俊 菊地 裕俊	第19回	【法人税】 貸倒引当金 (申告調整額の計 算および処理、問題集解説) 同族会社	鈴木 秀俊 菊地 裕俊
第5回	【消費税】 仕入税額控除	鈴木 秀俊 菊地 裕俊	第20回	【法人税】 役員に対する給与等 税額の計算 (別表四および別 表一のまとめ)	鈴木 秀俊 菊地 裕俊
第6回	【消費税】 課税標準額に対する 消費税額の調整	鈴木 秀俊 菊地 裕俊	第21回	【法人税】 寄附金 交際費等	鈴木 秀俊 菊地 裕俊
第7回	【消費税】 申告、納付、還付	鈴木 秀俊 菊地 裕俊	第22回	【法人税】 資産の評価 申告手続	鈴木 秀俊 菊地 裕俊
第8回	【消費税】 模擬問題演習・解説	鈴木 秀俊 菊地 裕俊	第23回	【法人税】 模擬問題演習・解説	鈴木 秀俊 菊地 裕俊
第9回	【消費税】 過去試験問題第111回 実施・解説	鈴木 秀俊 菊地 裕俊	第24回	【法人税】 過去試験問題第111回 実施・解説	鈴木 秀俊 菊地 裕俊
第10回	【消費税】 過去試験問題第110回 実施・解説	鈴木 秀俊 菊地 裕俊	第25回	【法人税】 過去試験問題第110回 実施・解説	鈴木 秀俊 菊地 裕俊

第11回	【消費税】 過去試験問題第109回 実施・解説	鈴木 秀俊 菊地 裕俊	第26回	【法人税】 過去試験問題第109回 実施・解説	鈴木 秀俊 菊地 裕俊
第12回	【消費税】 過去試験問題第108回 実施・解説	鈴木 秀俊 菊地 裕俊	第27回	【法人税】 過去試験問題第108回 実施・解説	鈴木 秀俊 菊地 裕俊
第13回	【消費税】 過去試験問題第107回 実施・解説	鈴木 秀俊 菊地 裕俊	第28回	【法人税】 過去試験問題第107回 実施・解説	鈴木 秀俊 菊地 裕俊
第14回	【消費税】 過去試験問題第105回 実施・解説	鈴木 秀俊 菊地 裕俊	第29回	【法人税】 過去試験問題第105回 実施・解説	鈴木 秀俊 菊地 裕俊
第15回	【消費税】 過去試験問題第104回 実施・解説	鈴木 秀俊 菊地 裕俊	第30回	【法人税】 過去試験問題第104回 実施・解説	鈴木 秀俊 菊地 裕俊
準備学習等	税務書類は全ての計算ができて完成する。日々の授業の復習を怠らないようにすること。また、各回の内容の理解が不十分な場合には、科目教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	<p>【消費税】 全経能力検定試験準拠 消費税法 テキスト (株式会社 英光社) 全経能力検定試験準拠 消費税法 問題集 (株式会社 英光社) 令和6年度版 消費税法能力検定試験過去問題集 2級 (公益社団法人 全国経理教育協会)</p> <p>【法人税】 全経能力検定試験準拠 法人税法 テキスト (株式会社 英光社) 全経能力検定試験準拠 法人税法 問題集 (株式会社 英光社) 令和6年度版 法人税法能力検定試験 過去問題集 3級 (公益社団法人 全国経理教育協会)</p>				

備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。税務会計は、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合同授業とな る。
----	---

学科	行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・OA事務学科(1年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1学年・2学年

科目名	宅地建物取引士Ⅰ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	竹村 幸生		授業回数	10回	
			成績評価方法	筆記試験	: 40 %
				ミニテスト	: 40 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	宅地や建物の売買・賃貸等を取り扱う不動産業者が不正をしないよう規制する法律（宅地建物取引業法）を基礎から学び理解してもらうことを目的とする。不動産取引の種類に応じて必要となる法律が選別できること、宅地建物取引士資格試験に出題される宅地建物取引業法の問題が解答できる知識を身につけることを到達目標とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス、宅建業法(免許-1)	竹村 幸生	第9回	宅建業法(報酬、監督・罰則)	竹村 幸生
第2回	宅建業法(免許-2)	竹村 幸生	第10回	宅建業法(住宅瑕疵担保履行法)	竹村 幸生
第3回	宅建業法(営業保証金、宅地建物取引業保証協会)	竹村 幸生	/		
第4回	宅建業法(宅地建物取引士)	竹村 幸生			
第5回	宅建業法(業務を行う場所に関する規制、8種制限-1)	竹村 幸生			
第6回	宅建業法(8種制限-2)	竹村 幸生			
第7回	宅建業法(一般的業務規制、取引態様の明示、媒介契約)	竹村 幸生			

第8回	宅建業法(重要事項の説明等、 契約書面の交付)	竹村 幸生
準備学習等	<p>学習する内容が多岐にわたり、日々新たな法律の理解を積み重ねていくこととなる。予習の必要はないが、講義で学んだ内容について、特にテキストを再読し、トレーニング問題集を複数回解き込むことにより、難解な法律であってもその読解力が身につく。復習を欠かさずに実施すること。</p>	
教科書 参考書等	<p>基礎講義 宅建業法テキスト (学校法人 大原学園) 宅建業法トレーニング問題集 (学校法人 大原学園)</p>	
備考	<p>各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 宅地建物取引士Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。</p>	

学科	行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・OA事務学科(1年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1学年・2学年

科目名	宅地建物取引士Ⅱ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	竹村 幸生		授業回数	10回	
			成績評価方法	筆記試験	: 40 %
				ミニテスト	: 40 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち実務経験教員				: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容					
実務経験教員の実務経験内容					
授業目的到達目標	<p>売買契約や賃貸借契約等に関する法律、契約から発生する権利・義務に関する法律（民法、借地借家法等）を基礎から学び理解してもらうことを目的とする。特に不動産取引においては不利益を被る可能性の高い買主や借主の立場となり、その権利を守るための考え方ができるようになること、宅地建物取引士資格試験に出題される権利関係の問題が解答できる知識を身につけることを到達目標とする。</p>				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	権利関係(制限行為能力者、意思表示)	竹村 幸生	第9回	権利関係(借地借家法)	竹村 幸生
第2回	権利関係(代理、時効)	竹村 幸生	第10回	権利関係(区分所有法、不動産登記法)	竹村 幸生
第3回	権利関係(対抗要件、共有)	竹村 幸生			
第4回	権利関係(抵当権、債権の発生と消滅)	竹村 幸生			
第5回	権利関係(債務不履行、危険負担、連帯債務と保証債務)	竹村 幸生			
第6回	権利関係(売買、請負)	竹村 幸生			
第7回	権利関係(賃貸借、使用貸借、委任、不法行為)	竹村 幸生			

第8回	権利関係(相続)	竹村 幸生
準備学習等	<p>学習する内容が多岐にわたり、日々新たな法律の理解を積み重ねていくこととなる。予習の必要はないが、講義で学んだ内容について、特にテキストを再読し、トレーニング問題集を複数回解き込むことにより、難解な法律であってもその読解力が身につく。復習を欠かさずに実施すること。</p>	
教科書 参考書等	<p>基礎講義 権利関係テキスト (学校法人 大原学園) 権利関係トレーニング問題集 (学校法人 大原学園)</p>	
備考	<p>各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 宅地建物取引士Ⅱは、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。</p>	

学科	行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・OA事務学科(1年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1学年・2学年

科目名	宅地建物取引士Ⅲ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	竹村 幸生		授業回数	10回	
			成績評価方法	筆記試験	: 40 %
				ミニテスト	: 40 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	土地の利用方法や土地の区域により建築できる建物の種類に関する法律（都市計画法、建築基準法等）を基礎から学び理解してもらうことを目的とする。実際に不動産取引の買主または借主の立場となった際に不利益を被ることのないよう法律の内容を理解すること、宅地建物取引士資格試験に出題される法令上の制限の問題が解答できる知識を身につけることを到達目標とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	法令上の制限(都市計画法-1)	竹村 幸生	第9回	法令上の制限(不動産鑑定評価、地価公示法)	竹村 幸生
第2回	法令上の制限(都市計画法-2)	竹村 幸生	第10回	法令上の制限(景品表示法、住宅金融支援機構法)	竹村 幸生
第3回	法令上の制限(建築基準法-1)	竹村 幸生	/		
第4回	法令上の制限(建築基準法-2)	竹村 幸生			
第5回	法令上の制限(国土利用計画法、宅地造成等規制法)	竹村 幸生			
第6回	法令上の制限(農地法、土地区画整理法)	竹村 幸生			
第7回	法令上の制限(所得税、登録免許税、印紙税)	竹村 幸生			

第8回	法令上の制限(不動産取得税、 固定資産税)	竹村 幸生
準備学習等	<p>学習する内容が多岐にわたり、日々新たな法律の理解を積み重ねていくこととなる。予習の必要はないが、講義で学んだ内容について、特にテキストを再読し、トレーニング問題集を複数回解き込むことにより、難解な法律であってもその読解力が身につく。復習を欠かさずに実施すること。</p>	
教科書 参考書等	<p>基礎講義 法令上の制限テキスト (学校法人 大原学園) 法令上の制限トレーニング問題集 (学校法人 大原学園)</p>	
備考	<p>各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 宅地建物取引士Ⅲは、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。</p>	

学科	行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・OA事務学科(1年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1学年・2学年

科目名	宅地建物取引士Ⅳ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	30時間	
			単位数	1単位	
科目教員	竹村 幸生		授業回数	5回	
			成績評価方法	筆記試験	: 70 %
				授業態度	: 30 %
					: %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容					
実務経験教員の実務経験内容					
授業目的 到達目標	宅地建物取引士Ⅰ～Ⅲのまとめとして宅地建物取引業法、権利関係、法令上の制限の各種法律の相関関係を把握し、体系的な理解と知識の定着を図ることを目的とする。過去に宅地建物取引士資格試験に出題された問題を解答することができ、宅地建物取引士資格試験に合格できる知識を身につけることを到達目標とする。				
授業計画					
回数	授業内容			科目教員	
第1回	総まとめ問題①(宅地建物取引業法)			竹村 幸生	
第2回	総まとめ問題②(権利関係)			竹村 幸生	
第3回	総まとめ問題③(法令上の制限)			竹村 幸生	
第4回	全国統一公開模擬試験(演習と解説)			竹村 幸生	
第5回	直前模擬試験(演習と解説)			竹村 幸生	
準備学習等	宅建物取引士Ⅰ～Ⅲで履修した内容を網羅的に確認しますので、事前に各種法律の内容をテキストで復習したうえで講義に臨んでください。				
教科書 参考書等	基礎講義 宅建業法テキスト(学校法人 大原学園) 基礎講義 権利関係テキスト(学校法人 大原学園) 基礎講義 法令上の制限テキスト(学校法人 大原学園)				

備考	<p>各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>宅地建物取引士Ⅳは、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。</p>
----	---

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	F P 技能士 3 級		授業形態	講義	
			選必の別	選択	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績評価方法	筆記試験	: 40 %
ミニテスト	: 40 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	ファイナンシャルプランナー (FP) はお金の専門家です。これからの時代、社会人となって必要不可欠となるのが今後の「人生設計」とそれに伴う「お金」の知識です。FP資格は年金・保険・税金といった生活を豊かにする知識の他、株式や預貯金などの金融資産、不動産、相続といったお金に関する幅広い分野を学習することができます。学習を通して基本的なライフプランニングができる知識の習得を目的とし、国家試験であるFP技能士3級検定試験の学科試験と実技試験の両方に合格することのできる能力を身につけることを到達目標とします。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス ライフプランニングと資金計画 (FPとライフプランニング、教育・住宅取得資金計画、社会保険)	千葉 菜愛	第9回	タックスプランニング (税金の分類と計算体系、所得税の仕組み、各種所得の内容)	千葉 菜愛
第2回	ライフプランニングと資金計画 (公的年金制度の概要、老後の生活資金設計と公的年金、公的年金における障害給付・遺族給付)	千葉 菜愛	第10回	タックスプランニング (課税標準に計算、所得控除、税額控除)	千葉 菜愛

第3回	ライフプランニングと資金計画（企業年金・自営業者のための年金、ライフプランニングの考え方）	千葉 菜愛	第11回	タックスプランニング（確定申告、個人住民税と個人事業税）	千葉 菜愛
第4回	リスク管理（リスクマネジメント、保険制度全般、生命保険の概略、生命保険商品の種類と内容）	千葉 菜愛	第12回	不動産（不動産の見方、不動産の取引、不動産に関する法令上の制限）	千葉 菜愛
第5回	リスク管理（損害保険の概略、損害保険商品の種類と内容、個人・法人の契約に関する税金、第三分野の保険・共済）	千葉 菜愛	第13回	不動産（不動産に係る税金、不動産の有効活用）	千葉 菜愛
第6回	金融資産運用（マーケット環境の理解、預貯金等、債券、株式）	千葉 菜愛	第14回	相続・事業承継（相続と法律、贈与と法律、贈与と税金、相続と税金）	千葉 菜愛
第7回	金融資産運用（投資信託、外貨建て商品、金融派生商品）	千葉 菜愛	第15回	相続・事業承継（財産の評価（不動産・金融資産）、相続対策）	千葉 菜愛
第8回	金融資産運用（ポートフォリオ理論、金融商品と税金、セーフティネット、関連法規）	千葉 菜愛	/		
準備学習等	予習の必要はありません。経済（社会）や法律を学ぶことになるため、不明な点は教員に質問をして、次回の講義に備えてください。				
教科書 参考書等	ファイナンシャル・プランナー3級 テキスト（大原出版） ファイナンシャル・プランナー3級 問題集（大原出版）				
備考	各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 FP技能士3級は、上記学科及び各学年の選択科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。				

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	F P 技能士 3 級演習		授業形態	演習
			選必の別	選択
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	15時間
			単位数	1単位
科目教員	千葉 菜愛		授業回数	5回
			成績評価方法	筆記試験
授業態度	: 30 %			
	: %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員				: %
実務経験教員の実務経験に関する授業内容				
実務経験教員の実務経験内容				
授業目的 到達目標	ファイナンシャルプランナーとして必要な年金、保険、金融資産、税金、不動産、相続などの知識を、過去試験問題や模擬問題を通して答案練習・解説することで、理解を深めてもらうことを目的としています。FP技能士3級受験のため学科及び実技問題を、本試験通りの時間設定の中で解答し、常に合格点数以上を取ることを達成目標とします。			
授業計画				
回数	授業内容			科目教員
第1回	ガイダンス 過去試験対策①			千葉 菜愛
第2回	過去試験対策②			千葉 菜愛
第3回	過去試験対策③			千葉 菜愛
第4回	模擬試験①			千葉 菜愛
第5回	模擬試験②			千葉 菜愛
準備学習等	反復の答案練習が必要となります。間違った問題の解き直しに全力を注いでください。また、学科試験、実技試験をバランスよく学習することを心がけてください。			

<p>教科書 参考書等</p>	<p>ファイナンシャル・プランナー3級 学科・実技過去試験問題集 問題編 (学校法人 大原学園)</p> <p>ファイナンシャル・プランナー3級 学科・実技過去試験問題集 解答編 (学校法人 大原学園)</p> <p>ファイナンシャル・プランニング技能検定3級 学科模擬試験 (学校法人 大原学園)</p> <p>ファイナンシャル・プランニング技能検定3級 実技模擬試験 (学校法人 大原学園)</p> <p>復習用教材として、FP技能士3級で使用しているテキストを持参してください。</p>
<p>備考</p>	<p>各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>F P 技能士 3 級演習は、上記学科及び各学年の選択科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。</p>

学科	OA事務学科(1年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	コンピュータ会計	授業形態	演習
		選必の別	選択
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	30時間
		単位数	2単位
科目教員	竹村 幸生	授業回数	8回
		成績評価方法	筆記試験
授業態度	: 50 %		
	: %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	簿記に関連した科目を履修したものが、その知識を実務でも活用できるよう会計ソフト(弥生会計)を使用し実習することで、簿記の知識(いわゆる受験簿記の知識)と会計ソフトを利用した場合の簿記とのつながり、相違点を理解してもらうことを目的としています。自ら会計ソフトを利用して基礎的な会計処理(入力・集計等)ができるようになること、コンピュータ会計能力検定2級を取得するための知識と技能を身につけることを到達目標とします。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	ガイダンス及び会計ソフトの操作	竹村 幸生	
第2回	企業の基幹業務と会計処理	竹村 幸生	
第3回	税金に関連する業務と会計処理	竹村 幸生	
第4回	会計データ(証ひょうによる)の入力処理と集計	竹村 幸生	
第5回	決算に関連する業務と会計処理	竹村 幸生	
第6回	予算管理と経営分析指標	竹村 幸生	
第7回	収益構造分析と短期利益計画	竹村 幸生	

第8回	キャッシュ・フロー分析	竹村 幸生
準備学習等	<p>パソコンを利用した会計処理の実習が中心となります。序盤は慣れない作業に苦労することになりますが、繰り返し実習を積むことでその技術(入力の手速・精度)は上達します。空き時間等を利用し、積極的にパソコン教室での練習を心がけてください。なお、予習は不要です。</p>	
教科書 参考書等	<p>コンピュータ会計応用テキスト（実教出版） コンピュータ会計応用問題集（実教出版） コンピュータ会計能力検定試験 過去問題集（公益社団法人 全国経理教育協会）</p>	
備考	<p>各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>コンピュータ会計は、上記学科及び各学年の選択科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。</p>	

学科	税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	2学年・3学年

科目名	社会人基礎 I	授業形態	講義	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	60時間	
		単位数	3単位	
科目教員	竹村 幸生、千葉 菜愛、菊地 裕俊	授業回数	30回	
		成績評価方法	筆記試験	: 70 %
			授業態度	: 30 %
				: %
				: %
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員				
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容				
実務経験教員の 実務経験内容				
授業目的 到達目標	<p>ビジネスの場で即戦力となる一般教養及び計算処理能力を身につけることを目的とし、日本ビジネス技能検定協会主催漢字能力検定試験および日本電卓技能検定協会主催各種段位級取得を到達目標とする。</p> <p>また、様々な視点から自己分析を行い自分に向いている業種、職業等の分析・確認を行う。</p>			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	<p>【一般教養】 漢字（訓読み送り仮名編）①</p> <p>【計算処理能力】 電卓基礎知識（各部の名称や機能）</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊	第16回	<p>【一般教養】 漢字能力検定試験項目別問題（訓読み送り仮名編）</p> <p>【計算処理能力】 電卓技能検定試験対策問題①</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊
第2回	<p>【一般教養】 漢字（訓読み送り仮名編）②</p> <p>【計算処理能力】 電卓（加減算の基本及び操作方法）</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊	第17回	<p>【一般教養】 漢字能力検定試験項目別問題（熟語編）</p> <p>【計算処理能力】 電卓技能検定試験対策問題②</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊

第3回	<p>【一般教養】 漢字（訓読み送り仮名編）③</p> <p>【計算処理能力】 電卓（見取算の基本及び操作方法）</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊	第18回	<p>【一般教養】 漢字能力検定試験項目別問題 （熟語編）</p> <p>【計算処理能力】 電卓技能検定試験対策問題③</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊
第4回	<p>【一般教養】 漢字（熟語編）①</p> <p>【計算処理能力】 電卓（乗算の基本及び操作方法）</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊	第19回	<p>【一般教養】 漢字能力検定試験項目別問題 （同音異義・異字同訓・ 反対語・類義語編）</p> <p>【計算処理能力】 電卓技能検定試験対策問題④</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊
第5回	<p>【一般教養】 漢字（熟語編）②</p> <p>【計算処理能力】 電卓（除算の基本及び操作方法）</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊	第20回	<p>【一般教養】 漢字能力検定試験項目別問題 （誤字訂正・漢字の意味・ 漢字の使い方編）</p> <p>【計算処理能力】 電卓技能検定試験対策問題⑤</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊
第6回	<p>【一般教養】 漢字（熟語編）③</p> <p>【計算処理能力】 電卓（伝票算の基本及び操作方法）</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊	第21回	自己分析① （高校時代の自分を振り返る）	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊
第7回	<p>【一般教養】 漢字（熟語編）④</p> <p>【計算処理能力】 電卓（見取算構成比率の考え方及び求め方）</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊	第22回	自己分析② （周りから見た自分の印象を知る）	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊

第8回	<p>【一般教養】 漢字（同音異義・異字同訓・ 反対語・類義語編）①</p> <p>【計算処理能力】 電卓（乗算構成比率の考え方 及び求め方）</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊	第23回	自己分析③ （自分の長所・短所を考 える）	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊
第9回	<p>【一般教養】 漢字（同音異義・異字同訓・ 反対語・類義語編）②</p> <p>【計算処理能力】 電卓（除算構成比率の考え方 及び求め方）</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊	第24回	自己分析④ （学生時代打ち込んだこと ～学業面～）	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊
第10回	<p>【一般教養】 漢字（同音異義・異字同訓・ 反対語・類義語編）③</p> <p>【計算処理能力】 電卓（伝票算構成比率の考 え方及び求め方）</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊	第25回	自己分析⑤ （学生時代打ち込んだこと ～学業面以外～）	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊
第11回	<p>【一般教養】 漢字（同音異義・異字同訓・ 反対語・類義語編）④</p> <p>【計算処理能力】 電卓（電卓速度向上レク チャー）①</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊	第26回	【一般教養】 漢字能力検定試験 直前模擬試験第1回	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊
第12回	<p>【一般教養】 漢字（誤字訂正・漢字の意 味・漢字の使い方）①</p> <p>【計算処理能力】 電卓（電卓速度向上レク チャー）②</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊	第27回	【一般教養】 漢字能力検定試験 直前模擬試験第2回	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊

第13回	<p>【一般教養】 漢字（誤字訂正・漢字の意味・漢字の使い方）②</p> <p>【計算処理能力】 電卓（電卓速度向上レクチャー）③</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊	第28回	<p>【一般教養】 漢字能力検定試験 直前模擬試験第3回</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊
第14回	<p>【一般教養】 漢字（誤字訂正・漢字の意味・漢字の使い方）③</p> <p>【計算処理能力】 電卓（キータッチ正確性向上レクチャー）①</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊	第29回	<p>【一般教養】 漢字能力検定試験 直前模擬試験第4回</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊
第15回	<p>【一般教養】 漢字（誤字訂正・漢字の意味・漢字の使い方）④</p> <p>【計算処理能力】 電卓（キータッチ正確性向上レクチャー）②</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊	第30回	<p>【一般教養】 漢字能力検定試験 直前模擬試験第5回</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊
準備学習等	予習と復習については適宜講義中に指示する。				
教科書 参考書等	漢字能力検定試験対策問題集2級・3級（学校法人 大原学園） 漢字能力検定試験対策直前模擬試験 第1回～第5回（学校法人 大原学園） 電卓技能検定試験 段位、1・2、3・4級問題（大原出版） ※受験級に合わせて各自購入 電卓技能検定試験 段位、1・2、3・4級伝票算問題（大原出版） ※受験級に合わせて各自購入				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 社会人基礎Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）
学年	2学年

科目名	社会人基礎Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	60時間
		単位数	3単位
科目教員	竹村 幸生、千葉 菜愛、菊地 裕俊	授業回数	30回
		成績評価方法	筆記試験
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	一般社会常識及び仕事に必要な知識やビジネスマナーを学び、人間関係を良好に保つために必要なコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。また、社会人基礎Ⅰに引き続き、ビジネスの場で即戦力となる一般教養及び集計能力を高めるため、全国経理教育協会主催社会人常識マナー検定試験、日本ビジネス技能検定協会主催漢字能力検定試験及び日本電卓技能検定協会主催各種段位級取得を到達目標とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	【社会人常識マナー】 社会と組織 【一般教養】 漢字（訓読み送り仮名編）①	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊	第16回	【一般教養】 漢字能力検定試験項目別問題 ①（訓読み送り仮名編） 【集計処理能力】 電卓技能検定試験 対策問題演習⑧	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊
第2回	【一般教養】 漢字（訓読み送り仮名編）② 【集計処理能力】 電卓技能検定試験対策問題演習①	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊	第17回	【社会人常識マナー】 電話応対、交際業務 【一般教養】 漢字能力検定試験 項目別問題②（熟語編）	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊

第3回	<p>【社会人常識マナー】 仕事と成果</p> <p>【一般教養】 漢字（訓読み送り仮名編）③</p>	<p>竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊</p>	第18回	<p>【一般教養】 漢字能力検定試験 項目別問題③（熟語編）</p> <p>【集計処理能力】 電卓技能検定試験 対策問題演習⑨</p>	<p>竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊</p>
第4回	<p>【一般教養】 漢字（熟語編）①</p> <p>【集計処理能力】 電卓技能検定試験対策問題演習②</p>	<p>竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊</p>	第19回	<p>【社会人常識マナー】 文書類の受け取りと発送</p> <p>【一般教養】 漢字能力検定試験項目別問題④（同音異義・異字同訓・反対語・類義語編）</p>	<p>竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊</p>
第5回	<p>【社会人常識マナー】 一般知識</p> <p>【一般教養】 漢字（熟語編）①</p>	<p>竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊</p>	第20回	<p>【一般教養】 漢字能力検定試験項目別問題⑤（誤字訂正・漢字の意味・漢字の使い方編）</p> <p>【集計処理能力】 電卓技能検定試験 対策問題演習⑩</p>	<p>竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊</p>
第6回	<p>【一般教養】 漢字（熟語編）②</p> <p>【集計処理能力】 電卓技能検定試験 対策問題演習③</p>	<p>竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊</p>	第21回	<p>【社会人常識マナー】 過去問題 演習・解説①</p>	<p>竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊</p>
第7回	<p>【社会人常識マナー】 ビジネス計算</p> <p>【一般教養】 漢字（熟語編）③</p>	<p>竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊</p>	第22回	<p>【社会人常識マナー】 過去問題 演習・解説②</p>	<p>竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊</p>

第8回	<p>【一般教養】 漢字（同音異義・異字同訓・ 反対語・類義語編）①</p> <p>【集計処理能力】 電卓技能検定試験 対策問題演習④</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊	第23回	<p>【社会人常識マナー】 過去問題 演習・解説③</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊
第9回	<p>【社会人常識マナー】 ビジネスコミュニケーション</p> <p>【一般教養】 漢字（同音異義・異字同訓・ 反対語・類義語編）②</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊	第24回	<p>【社会人常識マナー】 過去問題 演習・解説④</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊
第10回	<p>【一般教養】 漢字（同音異義・異字同訓・ 反対語・類義語編）③</p> <p>【集計処理能力】 電卓技能検定試験 対策問題演習⑤</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊	第25回	<p>【社会人常識マナー】 過去問題 演習・解説⑤</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊
第11回	<p>【社会人常識マナー】 社会人にふさわしい言葉遣い</p> <p>【一般教養】 漢字（同音異義・異字同訓・ 反対語・類義語編）④</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊	第26回	<p>【一般教養】 漢字能力検定試験 直前模擬試験 第1回</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊
第12回	<p>【一般教養】 漢字（誤字訂正・漢字の意 味・漢字の使い方）①</p> <p>【集計処理能力】 電卓技能検定試験 対策問題演習⑥</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊	第27回	<p>【一般教養】 漢字能力検定試験 直前模擬試験 第2回</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊

第13回	<p>【社会人常識マナー】 ビジネス文書の書き方と留意点</p> <p>【一般教養】 漢字（誤字訂正・漢字の意味・漢字の使い方）②</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊	第28回	<p>【一般教養】 漢字能力検定試験 直前模擬試験 第3回</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊
第14回	<p>【一般教養】 漢字（誤字訂正・漢字の意味・漢字の使い方）③</p> <p>【集計処理能力】 電卓技能検定試験 対策問題演習⑦</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊	第29回	<p>【一般教養】 漢字能力検定試験 直前模擬試験 第4回</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊
第15回	<p>【社会人常識マナー】 職場のマナー、来客応対</p> <p>【一般教養】 漢字（誤字訂正・漢字の意味・漢字の使い方）④</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊	第30回	<p>【一般教養】 漢字能力検定試験 直前模擬試験 第5回</p>	竹村 幸生 千葉 菜愛 菊地 裕俊
準備学習等	予習と復習については適宜講義中に指示する。				
教科書 参考書等	<p>社会人常識マナー検定テキスト（株式会社エデュプレス）</p> <p>社会人常識マナー検定試験 過去問題集（公益社団法人 全国経理教育協会）</p> <p>漢字能力検定試験対策問題集2級（学校法人 大原学園）</p> <p>漢字能力検定試験対策直前模擬試験 第1回～第5回（学校法人 大原学園）</p> <p>電卓技能検定試験 段位、1・2、3・4級問題（大原出版）</p> <p>※受験級に応じて各自購入</p> <p>電卓技能検定試験 段位、1・2、3・4級伝票算問題（大原出版）</p> <p>※受験級に応じて各自購入</p>				
備考	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>社会人基礎Ⅱは、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。</p>				

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	簿記論 I		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数		120時間	
			単位数		4単位	
科目教員	竹村 幸生		授業回数		30回	
			成績評価方法	筆記試験		:
ミニテスト		:		40	%	
授業態度		:		20	%	
		:			%	
科目教員のうち 実務経験教員					:	%
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容						
実務経験教員の 実務経験内容						
授業目的 到達目標	日商簿記検定2級（商業簿記）程度の簿記知識をすでに習得していることを前提に、中小企業にて行われる各種取引の会計処理について細部まで解説することで、理解を深めてもらうことを目的としています。そして、日々の取引から決算整理に至るまで、主要簿及び補助簿等への記入や締め切り、帳簿を基礎として作成される各種試算表や精算表といった、主に企業内部で使用される帳票類を自ら作成できる能力と、税理士試験簿記論に合格できる基礎能力を身につけることを到達目標とします。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	ガイダンス 簿記の目的、簿記の仕組み	竹村 幸生	第16回	当座預金の期末修正、当座借越	竹村 幸生	
第2回	主要簿及び補助簿、決算振替	竹村 幸生	第17回	その他資本剰余金、利益準備金・繰越利益剰余金	竹村 幸生	
第3回	精算表、貸借対照表及び損益計算書	竹村 幸生	第18回	自己株式の概要、自社利用目的のソフトウェア	竹村 幸生	
第4回	現金の範囲、現金過不足、当座預金（小切手）	竹村 幸生	第19回	税効果会計の概要、将来減算一時差異	竹村 幸生	
第5回	債権債務、約束手形	竹村 幸生	第20回	売上原価計上法、分記法、総記法	竹村 幸生	
第6回	三分法、商品有高帳、商品評価損等	竹村 幸生	第21回	償却原価法（利息法）、社債の買入償還	竹村 幸生	
第7回	固定資産の概要、減価償却、固定資産の売却等	竹村 幸生	第22回	原価率・利益率、仕入・売上の計上基準	竹村 幸生	

第8回	資本的支出と収益的支出、無形固定資産	竹村 幸生	第23回	自己株式の処分・消却、満期保有目的の債券	竹村 幸生
第9回	源泉所得税・社会保険料、賞与引当金	竹村 幸生	第24回	その他有価証券、有価証券の減損処理	竹村 幸生
第10回	貸倒損失、貸倒引当金(実績率法、財務内容評価法)	竹村 幸生	第25回	新株予約権、株主資本等変動計算書	竹村 幸生
第11回	損益の見越・繰延、退職給付(簡便法・退職一時金制度)	竹村 幸生	第26回	固定資産の売却等(手数料、消費税、値引)	竹村 幸生
第12回	有価証券の概要、売買目的有価証券、関係会社株式	竹村 幸生	第27回	割引現在価値の算定	竹村 幸生
第13回	法人税等、租税公課、消費税等	竹村 幸生	第28回	減損会計の概要、減損の兆候・認識の判定及び測定	竹村 幸生
第14回	手形の譲渡、社債の概要、償却原価法(定額法)	竹村 幸生	第29回	退職給付(原則法・退職一時金制度と企業年金制度)	竹村 幸生
第15回	純資産の概要、資本金・資本準備金	竹村 幸生	第30回	転換社債型新株予約権付社債(区分法)	竹村 幸生
準備学習等	会計処理の知識や帳簿記入の技術を身につけるためには、日々の復習を欠かさず地道な努力を継続することが何より求められます。項目によっては大変難易度の高い内容も含まれていますので、講義の中で全てが完結するものと考えず、講義後の復習(問題演習)を実施することでより理解が深まることを認識して下さい。なお、予習は不要です。				
教科書 参考書等	簿記論計算テキスト1(大原学園)、計算問題集1-1、1-2(大原学園) 簿記論計算テキスト2(大原学園)、計算問題集2-1、2-2(大原学園) 簿記論個別計算問題集(大原出版)、簿記論総合計算問題集基礎編(大原出版)				
備考	各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 簿記論Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	簿記論Ⅱ		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数		180時間	
			単位数		6単位	
科目教員	竹村 幸生		授業回数		45回	
			成績 評価 方法	筆記試験		: 40 %
ミニテスト		: 40 %				
授業態度		: 20 %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員					: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容						
実務経験教員の 実務経験内容						
授業目的 到達目標	簿記論Ⅰで履修した中小企業を中心とした会計処理に加え、上場企業をも前提とした会計処理を詳細に解説し、理解してもらうことを目的としています。帳票類から情報を読み取り、企業を取り巻く利害関係者に報告するために作成される基本的な決算書類（損益計算書、貸借対照表、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書等）を自らある程度作成・表示できる能力を身につけること、また、税理士試験簿記論に合格できる知識と計算技術を身につけることを到達目標とします。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	ガイダンス リース取引（オペレーティング・リースとファイナンス・リース）	竹村 幸生	第24回	リース取引(リース料先払い)	竹村 幸生	
第2回	外貨建会計（外貨建項目の基本的な換算）、保険金の取り扱い	竹村 幸生	第25回	ソフトウェア(受注制作のソフトウェア)	竹村 幸生	
第3回	退職給付（原則法・各種差異）	竹村 幸生	第26回	有価証券(配当を受けた株主の処理、保有目的区分の変更)	竹村 幸生	
第4回	転換社債型新株予約権付社債（一括法）	竹村 幸生	第27回	資産除去債務(資産除去債務に係る税効果)	竹村 幸生	
第5回	外貨建会計（為替予約・独立処理）	竹村 幸生	第28回	本支店会計(在外支店)	竹村 幸生	
第6回	圧縮記帳(直接減額方式、積立金方式)	竹村 幸生	第29回	新株予約権付社債(外貨建転換社債型新株予約権付社債)	竹村 幸生	

第7回	試用販売(対照勘定法・手許商品区分法)	竹村 幸生	第30回	金利スワップ、会計上の変更(会計方針の変更に係る税効果)	竹村 幸生
第8回	本支店会計(期中手続、決算手続、合併財務諸表の作成)	竹村 幸生	第31回	リース取引(貸手側の処理)	竹村 幸生
第9回	製造業会計(製造業会計一巡)	竹村 幸生	第32回	伝票会計(三伝票制、五伝票制)、社債(抽選償還)	竹村 幸生
第10回	資産除去債務(概要、基本的な会計処理)	竹村 幸生	第33回	組織再編会計(株式交換、株式移転)、分配可能額	竹村 幸生
第11回	キャッシュ・フロー計算書(直接法)	竹村 幸生	第34回	リース取引(残価保証、中途解約、維持管理費用相当額)	竹村 幸生
第12回	外貨建会計(為替予約・振当処理)、ソフトウェア(市場販売目的)	竹村 幸生	第35回	連結会計(段階取得、連結税効果会計)	竹村 幸生
第13回	組織再編会計(企業結合)、貸倒引当金(キャッシュ・フロー見積法)	竹村 幸生	第36回	ストック・オプション(公正な評価単価の変更)	竹村 幸生
第14回	会計上の変更等(会計上の見積変更、過去の誤謬の訂正)	竹村 幸生	第37回	収益認識基準(概要、返金負債、契約資産・契約負債等)	竹村 幸生
第15回	連結会計(取得日連結、連結第1年度の処理)	竹村 幸生	第38回	令和3年税理士試験 本試験問題演習及び解説	竹村 幸生
第16回	本支店会計(支店間取引)、減損会計(共用資産)	竹村 幸生	第39回	令和4年税理士試験 本試験問題演習及び解説	竹村 幸生
第17回	委託販売・受託販売	竹村 幸生	第40回	令和5年税理士試験 本試験問題演習及び解説	竹村 幸生
第18回	キャッシュ・フロー計算書(間接法)	竹村 幸生	第41回	全国統一公開模擬試験 〔内容〕全範囲を対象とした本試験受験対策問題の演習及び解説	竹村 幸生
第19回	連結会計(持分法、持分法第1年度の処理)	竹村 幸生	第42回	第1回直前予想公開模擬試験 〔内容〕全範囲を対象とした本試験受験対策問題の演習及び解説	竹村 幸生
第20回	組織再編会計(事業分離)、ストック・オプション(概要)	竹村 幸生	第43回	第2回直前予想公開模擬試験 〔内容〕全範囲を対象とした本試験受験対策問題の演習及び解説	竹村 幸生
第21回	会計上の変更等(会計方針の変更)	竹村 幸生	第44回	総まとめ確認問題①	竹村 幸生
第22回	連結会計(連結第2年度以降の処理)	竹村 幸生	第45回	総まとめ確認問題②	竹村 幸生

第23回	リース取引(セール・アンド・リースバック)	竹村 幸生	
準備学習等	<p>会計処理の知識や帳簿記入の技術を身につけるためには、日々の復習を欠かさず地道な努力を継続することが何より求められます。項目によっては大変難易度の高い内容も含まれていますので、講義の中で全てが完結するものと考えず、講義後の復習（問題演習）を実施することでより理解が深まることを認識して下さい。なお、予習は不要です。</p>		
教科書 参考書等	<p>簿記論計算テキスト2(大原学園)、計算問題集2-2(大原学園) 簿記論計算テキスト3(大原学園)、計算問題集3(大原学園) 簿記論直前対策テキスト(大原学園)、直前対策問題集(大原学園) 簿記論個別計算問題集（大原出版）、簿記論総合計算問題集応用編（大原出版）</p>		
備考	<p>各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 簿記論Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。</p>		

学科	〇 A 事務学科(1 年課程)・〇 A 事務学科(2 年課程)・ビジネス学科(2 年課程)・経理事務学科(2 年課程)・情報システム学科(2 年課程)・情報システム学科(3 年課程)・税理士会計士学科(2 年課程)・税理士会計士学科(2 年 4 ヶ月課程)・税理士会計士学科(3 年課程)・税理士会計士学科(4 年課程)・税理士会計士専攻学科(1 年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	財務諸表論 I		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数		120時間	
			単位数		4単位	
科目教員	千葉 菜愛		授業回数		30回	
			成績評価方法	筆記試験		: 40 %
ミニテスト		: 40 %				
授業態度		: 20 %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員					:	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容						
実務経験教員の 実務経験内容						
授業目的 到達目標	企業の経済活動を表す損益計算書や貸借対照表などの財務諸表の作成に関する原理や原則を計算と理論に分けて学習します。計算では日々の取引を集計した残高試算表から、財務諸表を作成する能力を身につけ、理論では企業会計原則を理解し記述することができる力を身につけることを目的とします。また、税理士試験財務諸表論に合格できる能力の基礎を身につけることを到達目標とします。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	計算：ガイダンス 財務諸表論の概要、貸借対照表（株主資本除く）流動固定の分類基準、損益計算書	千葉 菜愛	第16回	計算：割引現在価値、資産除去債務 理論：費用収益対応の原則、一般販売の収益認識	千葉 菜愛	
第2回	計算：現金及び預金、債権及び債務	千葉 菜愛	第17回	計算：当座借越 理論：特殊販売の収益認識	千葉 菜愛	

第3回	計算：個別注記表（重要な会計方針）、B/S注記、損益の見越・繰延 理論：ガイダンス	千葉 菜愛	第18回	計算：関係会社に対する債権債務 理論：工事契約（基本）、P/L表示原則、B/S表示原則	千葉 菜愛
第4回	計算：銀行勘定調整表 理論：財務諸表論の基礎概念	千葉 菜愛	第19回	計算：ソフトウェア、税金（外形基準、租税公課） 理論：財務諸表論の基礎概念（資本循環と財務諸表、会計観）	千葉 菜愛
第5回	計算：棚卸資産（売上原価の算定） 理論：一般原則（真実性の原則）	千葉 菜愛	第20回	計算：税効果会計 理論：貸借対照表の本質	千葉 菜愛
第6回	計算：有形固定資産、無形固定資産 理論：一般原則（正規の簿記の原則）	千葉 菜愛	第21回	計算：源泉所得税、社会保険料、棚卸資産（返品、値引、割戻） 理論：資産総論（分類、評価）	千葉 菜愛
第7回	計算：引当金（一般債権）、給料等 理論：一般原則（明瞭性の原則）	千葉 菜愛	第22回	計算：株主資本等変動計算書 理論：棚卸資産（数量計算、評価方法）	千葉 菜愛
第8回	計算：引当金（懸念、破産） 理論：一般原則（継続性の原則）	千葉 菜愛	第23回	計算：減損会計 理論：固定資産の定義と分類、取得原価（自家建設）	千葉 菜愛
第9回	計算：退職給付（簡便法） 理論：一般原則（資本利益区別の原則）	千葉 菜愛	第24回	計算：棚卸資産（他勘定振替） 理論：固定資産の取得原価（現物出資、交換）	千葉 菜愛

第10回	計算：法人税等・追徴還付、株主資本 理論：一般原則（単一性の原則）	千葉 菜愛	第25回	計算：償却原価法（利息法） 理論：固定資産（減価償却、評価減）	千葉 菜愛
第11回	計算：その他の引当金 理論：一般原則（保守主義の原則）	千葉 菜愛	第26回	計算：為替予約（独立処理） 理論：固定資産（資本的支出、特殊な有形固定資産の費用化）	千葉 菜愛
第12回	計算：関係会社（議決権による判定） 理論：重要性の原則	千葉 菜愛	第27回	計算：有価証券（その他有価証券） 理論：資本総論（実体資本維持）	千葉 菜愛
第13回	計算：有価証券（基本的評価等） 理論：P/Lの本質と構造、発生主義会計と現金主義会計	千葉 菜愛	第28回	計算：圧縮記帳（直接）、消費税 理論：繰延資産（概念）、繰延資産（会計処理）	千葉 菜愛
第14回	計算：社債 理論：期間損益計算の基本原則及び収支額基準	千葉 菜愛	第29回	計算：外貨建有価証券 理論：負債（引当金）、負債（偶発債務）、財務諸表論の基礎概念（会計観 資産・負債）	千葉 菜愛
第15回	計算：外貨建取引（基本的換算） 理論：実現主義の原則、発生主義の原則	千葉 菜愛	第30回	計算：P/L注記（取締役に対する金銭債権債務）、有価証券（配当を受けた株主の処理） 理論：資産の評価（時価）、資産の評価（現価主義）	千葉 菜愛
準備学習等	財務諸表論については、計算と理論をバランスよく学習していきます。そのため、日々の復習と理論暗記を継続することが必要不可欠です。講義内で指示する問題演習を欠かさず実施することで、より理解が深まるものと解してください。なお、予習は不要です。				

<p>教科書 参考書等</p>	<p>財務諸表論計算テキスト1（大原学園）、計算問題集1-1、1-2（大原学園）、理論テキスト1（大原学園） 財務諸表論計算テキスト2（大原学園）、計算問題集2-1、2-2（大原学園）、理論テキスト2（大原学園） 財務諸表論個別計算問題集（大原出版）、財務諸表論総合計算問題集基礎編（大原出版）</p>
<p>備考</p>	<p>各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 財務諸表論Ⅰは、上記学科及び各学年の選択科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。</p>

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	財務諸表論Ⅱ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	180時間	
			単位数	6単位	
科目教員	千葉 菜愛		授業回数	45回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 40 %
				ミニテスト	: 40 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	財務諸表論Ⅰと同様に財務諸表の作成に関する原理や原則を計算と理論に分けて学習します。計算では、財務諸表論Ⅰで履修した損益計算書や貸借対照表以外にも、キャッシュ・フロー計算書等の利害関係者への報告資料の作成方法を習得し、理論では、概念フレームワークや金融商品会計基準といった財務諸表論Ⅰで履修した以外の会計基準について理解することを目的とします。また、税理士試験財務諸表論に合格できる計算能力と会計基準を記述する力を身につけることを到達目標とします。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	計算：ガイダンス 理論：ガイダンス	千葉 菜愛	第24回	計算：株主資本（新株式申込証拠金、新株自己株同時交付） 理論：キャッシュ・フロー計算書	千葉 菜愛
第2回	計算：P/L注記（関係会社との取引高）、後発事象の注記 理論：概念フレームワーク	千葉 菜愛	第25回	計算：株主資本（一株当たり情報） 理論：株主資本等変動計算書	千葉 菜愛

第3回	計算：リース会計 理論：損益計算論（投資のリスクからの解放）	千葉 菜愛	第26回	計算：分配可能額（のれん等調整額） 理論：企業結合会計	千葉 菜愛
第4回	計算：退職給付（原則法） 理論：資産の分類（事業投資・金融投資）	千葉 菜愛	第27回	計算：連結会計（取得日連結） 理論：事業分離会計	千葉 菜愛
第5回	計算：金融商品（証券投資信託、ゴルフ会員権） 理論：工事契約（応用）	千葉 菜愛	第28回	計算：連結会計（連結第1年度） 理論：連結財務諸表（基礎概念）	千葉 菜愛
第6回	計算：退職給付（原則法）各種差異 理論：金融商品の範囲、発生消滅認識、基本的評価	千葉 菜愛	第29回	計算：会計上の変更等（会計方針） 理論：連結財務諸表（純利益・包括利益）	千葉 菜愛
第7回	計算：製造業会計（基本） 理論：金融商品（金銭債権）	千葉 菜愛	第30回	計算：新株予約権、新株予約権付社債 理論：四半期財務諸表	千葉 菜愛
第8回	計算：研究開発費 理論：金融商品（有価証券）	千葉 菜愛	第31回	計算：ストック・オプション 理論：税効果会計	千葉 菜愛
第9回	計算：繰延資産 理論：金融商品（事業用資産・金融資産）	千葉 菜愛	第32回	計算：財務諸表等規則 理論：外貨換算会計	千葉 菜愛

第10回	計算：製造業会計（仕掛品評価） 理論：金融商品会計（金融負債の評価）	千葉 菜愛	第33回	計算：税効果会計（資産除去債務に係る税効果） 理論：ストック・オプション	千葉 菜愛
第11回	計算：為替予約（振当処理） 理論：金融商品会計（デリバティブ取引）	千葉 菜愛	第34回	計算：組織再編会計（株式交換） 理論：連結財務諸表（退職給付）	千葉 菜愛
第12回	計算：売価還元法 理論：金融商品会計（ヘッジ取引）	千葉 菜愛	第35回	理論：収益認識に関する会計基準	千葉 菜愛
第13回	計算：組織再編会計（合併、事業譲受） 理論：収益性の低下（固定資産）	千葉 菜愛	第36回	計算：組織再編会計（共通支配下の取引） 理論：実践問題対策（配分と評価、会計観）	千葉 菜愛
第14回	計算：組織再編会計（事業分離） 理論：収益性の低下（棚卸資産）	千葉 菜愛	第37回	計算：収益認識（売上割引） 理論：実践問題対策（資産及び負債の貸借対照表能力）	千葉 菜愛
第15回	計算：為替予約（ヘッジ会計） 理論：収益性の低下（工事損失引当金）	千葉 菜愛	第38回	計算：収益認識（カスタマー・ロイヤルティ・プログラム） 理論：実践問題対策（割引現在価値、純資産と包括利益）	千葉 菜愛
第16回	計算：金利スワップ 理論：リース会計	千葉 菜愛	第39回	理論総まとめ① （一般原則、P/L総論、B/S総論）	千葉 菜愛

第17回	計算：引当金（CF見積法） 理論：研究開発費・ソフトウェア	千葉 菜愛	第40回	理論総まとめ② （棚卸資産、固定資産、繰延資産、負債）	千葉 菜愛
第18回	計算：退職給付（簡便法）企業年金併用 理論：退職給付会計	千葉 菜愛	第41回	理論総まとめ③ （概念フレームワーク、金融商品、負債）	千葉 菜愛
第19回	計算：圧縮記帳（積立金） 理論：資産除去債務	千葉 菜愛	第42回	理論総まとめ④ （純資産会計、企業結合会計、事業分離会計）	千葉 菜愛
第20回	計算：分配可能額 理論：分配可能額	千葉 菜愛	第43回	令和3年度 本試験問題演習及び解説	千葉 菜愛
第21回	計算：C/F（営業活動） 理論：純資産会計（資本の概念）	千葉 菜愛	第44回	令和4年度 本試験問題演習及び解説	千葉 菜愛
第22回	計算：C/F（投資・財務活動） 理論：純資産会計（自己株式）	千葉 菜愛	第45回	令和5年度 本試験問題演習及び解説	千葉 菜愛
第23回	計算：会計上の変更等（見積り、減価償却方法の変更） 理論：会計上の変更及び誤謬の訂正	千葉 菜愛	/		

準備学習等	財務諸表論については、計算と理論をバランスよく学習していきます。そのため、日々の復習と理論暗記を継続することが必要不可欠です。講義内で指示する問題演習を欠かさず実施することで、より理解が深まるものと解してください。なお、予習は不要です。
教科書 参考書等	財務諸表論計算テキスト2（大原学園）、計算問題集2-1、2-2（大原学園）、理論テキスト1（大原学園） 財務諸表論計算テキスト3（大原学園）、計算問題集3（大原学園）、理論テキスト2（大原学園） 直前対策テキスト1（大原出版）、直前対策テキスト2（大原出版）、過去試験問題集（大原出版） 財務諸表論個別計算問題集（大原出版）、 財務諸表論総合計算問題集応用編（大原出版）
備考	各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 財務諸表論Ⅱは、上記学科及び各学年の選択科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	消費税法Ⅰ		授業形態		講義		
			選必の別		選必		
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		120時間		
			単位数		4単位		
科目教員	小関 哲也		授業回数		30回		
			成績評価方法	筆記試験		: 40 %	
				ミニテスト		: 40 %	
				授業態度		: 20 %	
		: %					
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也				: %		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。						
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。						
授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算及び消費税法の法解釈を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、消費税法の計算と理論を体系的に学習することにより、税理士試験消費税法に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。						
授業計画							
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員		
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高による納税義務の免除の特例	小関 哲也		
第2回	課税の対象	小関 哲也	第17回	相続があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也		
第3回	非課税項目	小関 哲也	第18回	合併があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也		
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第19回	会社分割があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也		
第5回	課税売上割合の計算及び控除対象仕入税額(個別対応方式・一括比例配分方式)	小関 哲也	第20回	新設法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也		
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	特定新規設立法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也		

第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第22回	合併があった場合の中間申告に係る納付税額の計算の特例	小関 哲也
第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第23回	棚卸資産に係る仕入税額控除の調整	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第24回	課税標準	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第25回	簡易課税制度①	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第26回	簡易課税制度②	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也	第27回	軽減税率 旧税率に関する経過措置	小関 哲也
第13回	非課税資産の輸出等を行った場合の仕入税額の特例	小関 哲也	第28回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第14回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除①	小関 哲也	第29回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第15回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除②	小関 哲也	第30回	国等に対する特例	小関 哲也

準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合がある。 消費税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	180時間
		単位数	6単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	45回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 %
ミニテスト : 40 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	<p>実務における各事例に対応した消費税を計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。</p> <p>また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験消費税法に対応できる知識を習得する授業を行う。</p>
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	<p>一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。</p>
-------------------	---

授業目的 到達目標	<p>実務における各事例に対応した消費税の計算及び消費税法の法解釈ができ、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。</p> <p>また、消費税法Ⅰ・Ⅱの総括として、税理士試験消費税法において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験消費税法の合格レベルを目指す。</p>
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	改正税制講義②	小関 哲也
第2回	課税の対象を論点とする取引 関係の事例	小関 哲也	第25回	改正税制講義③	小関 哲也
第3回	国内取引の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第26回	平成19年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第4回	非課税の判定を論点とする取 引関係の事例	小関 哲也	第27回	平成20年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第5回	輸出免税の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第28回	平成23年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第6回	電気通信利用役務提供を論点 とする事例	小関 哲也	第29回	平成25年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第7回	税額控除等を論点とする取引 関係の事例①	小関 哲也	第30回	平成28年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也

第8回	税額控除等を論点とする取引関係の事例②	小関 哲也	第31回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第9回	税額控除等を論点とする取引関係の事例③	小関 哲也	第32回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第10回	税額控除等を論点とする取引関係の事例④	小関 哲也	第33回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第11回	納税義務の判定事例（相続）	小関 哲也	第34回	公開模擬試験①	小関 哲也
第12回	納税義務の判定事例（合併）	小関 哲也	第35回	公開模擬試験②	小関 哲也
第13回	納税義務の判定事例（分割等）	小関 哲也	第36回	公開模擬試験③	小関 哲也
第14回	納税義務の判定事例（吸収分割）	小関 哲也	第37回	公開模擬試験④	小関 哲也
第15回	納税義務の判定事例（新設法人）	小関 哲也	第38回	公開模擬試験⑤	小関 哲也
第16回	納税義務の判定事例（特定新規設立法人）	小関 哲也	第39回	公開模擬試験⑥	小関 哲也
第17回	納税義務の判定事例（高額特定資産を取得した場合）	小関 哲也	第40回	公開模擬試験⑦	小関 哲也
第18回	課税期間の判定事例	小関 哲也	第41回	公開模擬試験⑧	小関 哲也
第19回	納税地の判定事例	小関 哲也	第42回	公開模擬試験⑨	小関 哲也
第20回	届出関係の事例①	小関 哲也	第43回	総まとめテスト①	小関 哲也
第21回	届出関係の事例②	小関 哲也	第44回	総まとめテスト②	小関 哲也
第22回	届出関係の事例③	小関 哲也	第45回	総まとめテスト③	小関 哲也
第23回	改正税制講義①	小関 哲也			
準備学習等	<p>消費税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。</p> <p>なお、各回において復習のための総合問題を解答します。</p>				
教科書 参考書等	<p>消費税法計算テキストⅡ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集応用編（大原出版）、税理士試験過去問題集(大原学園)、公開模擬試験(大原学園)</p>				

備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。 消費税法Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同 授業となる。
----	--

学科	税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・ 税理士会計士学科(4年課程)
学年	2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅲ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	180時間
		単位数	6単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	45回
		成績 評価 方法	筆記試験
ミニテスト	: 40 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	<p>実務における各事例に対応した消費税を計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。</p> <p>また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験消費税法に対応できる知識を習得する授業を行う。</p>
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	<p>一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。</p>
-------------------	---

授業目的 到達目標	<p>実務における各事例に対応した消費税の計算及び消費税法の法解釈ができ、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。</p> <p>また、消費税法の総括として、税理士試験消費税法において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験消費税法の合格レベルを目指す。</p>
--------------	---

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	改正税制講義②	小関 哲也
第2回	課税の対象を論点とする取引 関係の事例	小関 哲也	第25回	改正税制講義③	小関 哲也
第3回	国内取引の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第26回	平成19年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第4回	非課税の判定を論点とする取 引関係の事例	小関 哲也	第27回	平成20年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第5回	輸出免税の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第28回	平成23年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第6回	電気通信利用役務提供を論点 とする事例	小関 哲也	第29回	平成25年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第7回	税額控除等を論点とする取引 関係の事例①	小関 哲也	第30回	平成28年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也

第8回	税額控除等を論点とする取引関係の事例②	小関 哲也	第31回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第9回	税額控除等を論点とする取引関係の事例③	小関 哲也	第32回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第10回	税額控除等を論点とする取引関係の事例④	小関 哲也	第33回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第11回	納税義務の判定事例（相続）	小関 哲也	第34回	公開模擬試験①	小関 哲也
第12回	納税義務の判定事例（合併）	小関 哲也	第35回	公開模擬試験②	小関 哲也
第13回	納税義務の判定事例（分割等）	小関 哲也	第36回	公開模擬試験③	小関 哲也
第14回	納税義務の判定事例（吸収分割）	小関 哲也	第37回	公開模擬試験④	小関 哲也
第15回	納税義務の判定事例（新設法人）	小関 哲也	第38回	公開模擬試験⑤	小関 哲也
第16回	納税義務の判定事例（特定新規設立法人）	小関 哲也	第39回	公開模擬試験⑥	小関 哲也
第17回	納税義務の判定事例（高額特定資産を取得した場合）	小関 哲也	第40回	公開模擬試験⑦	小関 哲也
第18回	課税期間の判定事例	小関 哲也	第41回	公開模擬試験⑧	小関 哲也
第19回	納税地の判定事例	小関 哲也	第42回	公開模擬試験⑨	小関 哲也
第20回	届出関係の事例①	小関 哲也	第43回	総まとめテスト①	小関 哲也
第21回	届出関係の事例②	小関 哲也	第44回	総まとめテスト②	小関 哲也
第22回	届出関係の事例③	小関 哲也	第45回	総まとめテスト③	小関 哲也
第23回	改正税制講義①	小関 哲也			
準備学習等	<p>消費税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。</p> <p>なお、各回において復習のための総合問題を解答します。</p>				
教科書 参考書等	<p>消費税法計算テキストⅡ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集応用編（大原出版）、税理士試験過去問題集（大原学園）、公開模擬試験（大原学園）、年内完結問題集（大原学園）、完全合格問題集（大原学園）</p>				

備考	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。</p> <p>消費税法Ⅲは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年の消 費税法Ⅱと合同授業となる。</p> <p>ただし、宿題とする問題については、消費税法Ⅱより発展的な難解な問題となる。</p>
----	---

学科	〇 A 事務学科(1 年課程)・〇 A 事務学科(2 年課程)・ビジネス学科(2 年課程)・経理事務学科(2 年課程)・情報システム学科(2 年課程)・情報システム学科(3 年課程)・税理士会計士学科(2 年課程)・税理士会計士学科(2 年 4 ヶ月課程)・税理士会計士学科(3 年課程)・税理士会計士学科(4 年課程)・税理士会計士専攻学科(1 年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	法人税法 I		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間	
			単位数	4単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	30回	
			成績評価方法	筆記試験	: 40 %
ミニテスト	: 40 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	実務において、法人税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算の根拠となる法人税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。				
実務経験教員の実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	法人税の仕組みを理解し、法人税の計算及び法人税法の法解釈を基礎から学び、法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法の計算と理論を体系的に学習することにより、公益社団法人全国経理教育協会主催文部科学省後援法人税法能力検定試験2級又は1級の合格レベル、及び税理士試験法人税に出題される基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 法人税法の概要	小関 哲也	第16回	役員判定・役員給与①	小関 哲也
第2回	交際費等の損金不算入①・減価償却①	小関 哲也	第17回	役員判定・役員給与②・使用人給与	小関 哲也
第3回	減価償却②・受取配当等の益金不算入①	小関 哲也	第18回	交際費等の損金不算入③・特定資産の買換え	小関 哲也
第4回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第19回	租税公課及び納税充当金②	小関 哲也
第5回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第20回	地方法人税の計算・みなし配当①	小関 哲也
第6回	減価償却③・有価証券②	小関 哲也	第21回	資本等取引①・租税公課及び納税充当金③・外国税額控除	小関 哲也

第7回	別表4の作成	小関 哲也	第22回	外国子会社から受ける配当等の益金不算入・寄付金の損金不算入③	小関 哲也
第8回	使途秘匿金の課税の特例・貸倒損失	小関 哲也	第23回	保険差益・リース取引	小関 哲也
第9回	貸倒引当金①・欠損金①	小関 哲也	第24回	繰延資産・欠損金②	小関 哲也
第10回	貸倒引当金②・外貨建取引	小関 哲也	第25回	交換差益・受取配当等の益金不算入③	小関 哲也
第11回	収用等①・受取配当金の益金不算入②	小関 哲也	第26回	租税公課及び納税充当金④・確定決算型	小関 哲也
第12回	交際費等の損金不算入②・寄付金の損金不算入②	小関 哲也	第27回	グループ法人税制①	小関 哲也
第13回	租税公課等及び納税充当金②・有価証券③	小関 哲也	第28回	欠損金額・資産の評価損益	小関 哲也
第14回	所得額控除・国庫補助金等・別表5作成・有価証券④	小関 哲也	第29回	グループ法人税制②	小関 哲也
第15回	圧縮記帳の概要・収用等②・接待飲食費	小関 哲也	第30回	修正申告・税効果会計・設立事業年度	小関 哲也
準備学習等	法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	法人税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）・個別計算問題集（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合がある。また、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入した授業となる場合がある。 法人税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、原則、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	180時間
		単位数	6単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	45回
		成績 評価 方法	筆記試験
ミニテスト	: 40 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務における各事例に対応した法人税の計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、法人税の申告書である各別表の記入方法を学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる知識を習得する授業を行う。
-----------------------------	---

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	---

授業目的 到達目標	実務における各事例に対応した法人税の計算及び法人税法の法解釈ができ、各法人の法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法Ⅰ・Ⅱの総括として、税理士試験において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験法人税法の合格レベルを目指す。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	総まとめ① (資産又は費用・欠損金・企業再生税制・組織再編税制)	小関 哲也
第2回	組織再編税制 (概要・合併)	小関 哲也	第25回	総まとめ② (総則・定義・所得金額の計算・配当金・グループ法人税制)	小関 哲也
第3回	組織再編税制 (合併)	小関 哲也	第26回	総まとめ③ (資産の評価損益・申告納付・組織再編税制)	小関 哲也
第4回	組織再編税制 (分割型分割・分社型分割)	小関 哲也	第27回	総まとめ④ (帰属年度の特例・賃貸借契約に基づく使用料等の帰属の特例)	小関 哲也

第5回	帰属事業年度の特例・みなし配当金	小関 哲也	第28回	総まとめ得⑤ (部分完成基準・値増金の益金不算入)	小関 哲也
第6回	試験研究費の特別控除①	小関 哲也	第29回	総まとめ⑥ (保証金等のうち返還しないものの帰属の特例)	小関 哲也
第7回	借地権等・保険料・資本取引等	小関 哲也	第30回	総まとめ⑦ (圧縮記帳・外国税制)	小関 哲也
第8回	試験研究費の特別控除②	小関 哲也	第31回	総まとめ⑧ (税額計算・解散税制)	小関 哲也
第9回	特定の長期所有土地等の所得の特別控除等	小関 哲也	第32回	総まとめ⑨ (引当金)	小関 哲也
第10回	グループ通算税制①	小関 哲也	第33回	総まとめ⑩ (試験研究費の特別控除)	小関 哲也
第11回	グループ通算税制②	小関 哲也	第34回	総まとめ⑪ (グループ通算税制)	小関 哲也
第12回	グループ通算税制②	小関 哲也	第35回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第13回	解散税制①	小関 哲也	第36回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第14回	解散税制②	小関 哲也	第37回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第15回	解散税制③	小関 哲也	第38回	総まとめテスト	小関 哲也
第16回	解散税制④	小関 哲也	第39回	平成30年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第17回	改正税法①	小関 哲也	第40回	平成29年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第18回	改正税法②	小関 哲也	第41回	平成28年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第19回	短期前払費用	小関 哲也	第42回	平成27年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第20回	消耗品の処理	小関 哲也	第43回	平成26年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第21回	前期損益修正	小関 哲也	第44回	平成25年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第22回	当初申告要件の廃止及び適用額の制限の見直し	小関 哲也	第45回	総まとめ確認テスト	小関 哲也
第23回	DES (デット・エクイテイ・スワップ)	小関 哲也			

<p>準備学習等</p>	<p>法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。</p> <p>なお、一部の講義回において復習のための総合問題を解答します。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	<p>法人税法計算テキストⅢ・Ⅳ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅲ・Ⅳ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）、個別計算問題集（大原出版）、応用理論問題集（大原出版）、税理士試験過去問題集(大原学園)、公開模擬試験(大原学園)、直前対策テキスト（大原学園）</p>
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合がある。</p> <p>法人税法Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。</p> <p>なお、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入したメディア授業となる場合がある。メディア授業は、メディアセンターで受講する。</p>

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	相続税法 I		授業形態		講義		
			選必の別		選必		
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数		120時間		
			単位数		4単位		
科目教員	小関 哲也		授業回数		30回		
			成績評価方法	筆記試験		: 40 %	
				ミニテスト		: 40 %	
				授業態度		: 20 %	
		: %					
科目教員のうち 実務経験教員					:		
実務経験教員の実務経験に関する授業内容							
実務経験教員の実務経験内容							
授業目的 到達目標	相続税の仕組みを理解し、相続税の計算及び相続税法の法解釈を基礎から学び、相続税の計算ができることを目的とする。 また、相続税法の計算と理論を体系的に学習することにより、税理士試験相続税法に出題される基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。						
授業計画							
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員		
第1回	ガイダンス・相続税法の概要	小関 哲也	第16回	預貯金・上場株式の評価	小関 哲也		
第2回	相続税と民法・相続人等の判及び相続分・承認と放棄	小関 哲也	第17回	小規模宅地等の減額①	小関 哲也		
第3回	相続税の納税義務者・生命保険金等・相続税の非課税・相続税の計算方法	小関 哲也	第18回	構築物・貸付金債権等・受取手形等の評価	小関 哲也		
第4回	生命保険等の非課税・退職手当金等の非課税・贈与税の概要・贈与税の計算方法	小関 哲也	第19回	角切り宅地の間口距離	小関 哲也		
第5回	弔慰金等・債務控除・相続時精算課税制度の概要	小関 哲也	第20回	間口が狭小な宅地等・使用貸借の宅地等の評価	小関 哲也		
第6回	相続税額の加算・相続税の総額・算出相続税額	小関 哲也	第21回	利用区分が異なる建物の宅地・借地権等の評価	小関 哲也		
第7回	相続税額の計算・贈与税贈与税控除・配偶者の税額軽減	小関 哲也	第22回	取引相場のない株式の評価①	小関 哲也		

第8回	未成年者控除・障害者控除	小関 哲也	第23回	邦貨換算・不整形地の評価・取引相場のない株式の評価②	小関 哲也
第9回	特定納税義務者及び特定納税義務者の債務控除・障害者控除	小関 哲也	第24回	がけ地等の評価	小関 哲也
第10回	評価の原則・自用地①・自家用家屋・家屋と構造上一体となっている宅地の評価	小関 哲也	第25回	評価会社が退職手当金等を支払った場合	小関 哲也
第11回	特別養子制度・生命保険契約に関する権利	小関 哲也	第26回	小規模宅地等の減額②	小関 哲也
第12回	被保険者でない保険契約者が死亡した場合・法定相続人・本来の財産	小関 哲也	第27回	同族会社に対して土地を相当の地代により貸付けている場合	小関 哲也
第13回	自用地②・地区区分の異なる宅地・側方路線等に宅地の一部が接している場合	小関 哲也	第28回	旗竿状の宅地等の評価	小関 哲也
第14回	普通借地権・貸宅地・貸家建付地・貸家の評価	小関 哲也	第29回	容積率の異なる宅地・都市計画道路予定区域内の宅地の評価	小関 哲也
第15回	一般動産・たな卸商品等・書画骨董品の評価	小関 哲也	第30回	建設中の家屋の評価・小規模宅地等の減額③	小関 哲也
準備学習等	<p>相続税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に相続税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。</p>				
教科書 参考書等	<p>相続税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、相続税計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、財産評価テキスト・相続税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）、個別計算問題集（大原出版）</p>				
備考	<p>授業計画の前提となる内容等については、法改正等に応じて一部変更する場合がある。</p> <p>相続税法Ⅰは、メディア授業であることからメディアセンターで受講する。</p>				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	相続税法Ⅱ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	180時間	
			単位数	6単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	45回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 40 %
ミニテスト	: 40 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	<p>相続税の仕組みを理解し、相続税の計算及び相続税法の法解釈を基礎から学び、相続税の計算ができることを目的とする。</p> <p>また、相続税法の計算と理論を体系的に学習することにより、税理士試験相続税法及び全国経理教育協会主催相続税法能力検定試験1級に出題される問題を解答できるレベルを目指す。</p>				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス・相続税法の概要	小関 哲也	第24回	がけ地等の評価	小関 哲也
第2回	相続税と民法・相続人等の判 及び相続分・承認と放棄	小関 哲也	第25回	評価会社が退職手当金等を支 払った場合	小関 哲也
第3回	相続税の納税義務者・生命保 険金等・相続税の非課税・相 続税の計算方法	小関 哲也	第26回	小規模宅地等の減額②	小関 哲也
第4回	生命保険等の非課税・退職手 当金等の非課税・贈与税の概 要・贈与税の計算方法	小関 哲也	第27回	同族会社に対して土地を相当 の地代により貸付けている場 合	小関 哲也
第5回	弔慰金等・債務控除・相続時 精算課税制度の概要	小関 哲也	第28回	旗竿状の宅地等の評価	小関 哲也
第6回	相続税額の加算・相続税の総 額・算出相続税額	小関 哲也	第29回	容積率の異なる宅地・都市計 画道路予定区域内の宅地の 評価	小関 哲也
第7回	相続税額の計算・贈与税贈与 税控除・配偶者の税額軽減	小関 哲也	第30回	建設中の家屋の評価・小規模 宅地等の減額③	小関 哲也

第8回	未成年者控除・障害者控除	小関 哲也	第31回	総まとめ① (相続税の納税義務者・生命保険金等・相続税の非課税・相続税の計算方法)	小関 哲也
第9回	特定納税義務者及び特定納税義務者の債務控除・障害者控除	小関 哲也	第32回	総まとめ② (生命保険等の非課税・退職手当金等の非課税・贈与税の概要・贈与税の計算方法)	小関 哲也
第10回	評価の原則・自用地①・自家用家屋・家屋と構造上一体となっている宅地の評価	小関 哲也	第33回	総まとめ③ (弔慰金等・債務控除・相続時精算課税制度の概要)	小関 哲也
第11回	特別養子制度・生命保険契約に関する権利	小関 哲也	第34回	総まとめ④ (相続税額の加算・相続税の総額・算出相続税額)	小関 哲也
第12回	被保険者でない保険契約者が死亡した場合・法定相続人・本来の財産	小関 哲也	第35回	総まとめ⑤ (相続税額の計算・贈与税贈与税控除・配偶者の税額軽減)	小関 哲也
第13回	自用地②・地区区分の異なる宅地・側方路線等に宅地の一部が接している場合	小関 哲也	第36回	総まとめ⑥ (未成年者控除・障害者控除)	小関 哲也
第14回	普通借地権・貸宅地・貸家建付地・貸家の評価	小関 哲也	第37回	総まとめ⑦ (特定納税義務者及び特定納税義務者の債務控除・障害者控除)	小関 哲也
第15回	一般動産・たな卸商品等・書画骨董品の評価	小関 哲也	第38回	総まとめテスト	小関 哲也
第16回	預貯金・上場株式の評価	小関 哲也	第39回	第1回確認テスト	小関 哲也
第17回	小規模宅地等の減額①	小関 哲也	第40回	第2回確認テスト	小関 哲也
第18回	構築物・貸付金債権等・受取手形等の評価	小関 哲也	第41回	第3回確認テスト	小関 哲也
第19回	角切り宅地の間口距離	小関 哲也	第42回	第4回確認テスト	小関 哲也
第20回	間口が狭小な宅地等・使用貸借の宅地等の評価	小関 哲也	第43回	第5回確認テスト	小関 哲也
第21回	利用区分が異なる建物の宅地・借地権等の評価	小関 哲也	第44回	第6回確認テスト	小関 哲也
第22回	取引相場のない株式の評価①	小関 哲也	第45回	第7回確認テスト	小関 哲也
第23回	邦貨換算・不整形地の評価・取引相場のない株式の評価②	小関 哲也			

準備学習等	<p>相続税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に相続税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。</p>
教科書 参考書等	<p>相続税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、相続税計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、財産評価テキスト、相続税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）、個別計算問題集（大原出版）</p>
備考	<p>授業計画の前提となる内容等については、法改正等に応じて一部変更する場合がある。</p> <p>相続税法Ⅱは、メディア授業であることからメディアセンターで受講する。</p>

学科	税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	国税徴収法 I (メディア授業)	授業形態	講義		
		選必の別	選必		
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	60時間		
		単位数	2単位		
科目教員	並岡 雅人	授業回数	15回		
		成績評価方法	筆記試験 : 70 %		
			授業態度 : 30 %		
			: %		
			: %		
科目教員のうち実務経験教員		: %			
		: %			
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	<p>国税徴収法の法解釈を基礎から学び、税金を滞納した場合の財産の差押えなどの国の強制的な手続きを学習することにより、納税者の権利を保護する救済方法の知識を身につけることを目的とする。</p> <p>また、国税徴収法及び国税通則法等を法律体系的に学習することにより、税理士試験国税徴収法に出題される基本問題を解答できるレベルを目指す。</p>				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 国税徴収法・民法の概要	並岡 雅人	第9回	国税徴収法第24条と第26条 財産の換価 換価代金等の配当	並岡 雅人
第2回	滞納処分の概要 原則、共用費用、租税間 財産の調査	並岡 雅人	第10回	国税徴収法第23条 納期限未到来の納税の猶予 納税の猶予の申請手続き等	並岡 雅人
第3回	優先される担保権 法定納期限等以前にある担保 権	並岡 雅人	第11回	担保を徴した国税 差押の効力 国税の担保	並岡 雅人
第4回	譲受前にある担保権 差押の制限、差押禁止財産、 差押の解除	並岡 雅人	第12回	繰上請求による差押 保全担保 繰上保全差押	並岡 雅人
第5回	差押換え 第三者が占有する動産等の差 押え	並岡 雅人	第13回	第2回確認テスト	並岡 雅人

第6回	国税徴収法第26条 各種財産の差押え	並岡 雅人	第14回	第二次納税義務	並岡 雅人
第7回	第1回確認テスト	並岡 雅人	第15回	総まとめ問題	並岡 雅人
第8回	国税徴収法第24条 譲渡担保財産から徴収する国 税等の調整	並岡 雅人			
準備学習等	<p>国税徴収法の学習は積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解していくことが重要である。</p> <p>また、税理士試験受験を希望する学生は、理論テキスト及び計算テキストを使用し法解釈の復習も行うこと。</p>				
教科書 参考書等	<p>国税徴収法計算テキスト（大原学園）、国税徴収法計算問題集（大原学園）、国税徴収法理論テキスト（大原学園）</p>				
備考	<p>授業計画の前提となる内容等については、法改正等に応じて一部変更する場合がある。</p> <p>国税徴収法Ⅰは、メディア授業であることからメディアセンターで受講する。</p>				

学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	簿記論演習Ⅰ		授業形態		
			選必の別	演習	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	竹村 幸生		授業回数	12回	
			成績評価方法	筆記試験	: 30 %
				演習問題	: 50 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	簿記論Ⅰで履修した簿記知識及び計算・記帳技術について、問題演習を通して反復練習・解説することで理解を深めてもらうことを目的としています。税理士試験簿記論受験のための基礎的な個別問題・総合問題を、設定された制限時間内に解答するための解法手順、図式化などができるようになることを到達目標とします。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 第1回演習問題(現金預金、債権債務)	竹村 幸生	第7回	第7回演習問題(割引現在価値、減損会計)	竹村 幸生
第2回	第2回演習問題(商品売買、固定資産)	竹村 幸生	第8回	第8回演習問題(転換社債型新株予約権付社債)	竹村 幸生
第3回	第3回演習問題(貸倒引当金、退職給付会計※簡便法)	竹村 幸生	第9回	第9回演習問題(勘定復元①)	竹村 幸生
第4回	第4回演習問題(有価証券、税金)	竹村 幸生	第10回	第10回演習問題(勘定復元②)	竹村 幸生
第5回	第5回演習問題(社債、純資産)	竹村 幸生	第11回	第11回演習問題(推定簿記①)	竹村 幸生
第6回	第6回演習問題(ソフトウェア、税効果会計)	竹村 幸生	第12回	第12回演習問題(推定簿記②)	竹村 幸生

準備学習等	簿記論Ⅰで履修した内容の問題演習となりますので、事前に各項目の内容を復習したうえで講義に臨んでください。また、個別形式の問題と総合問題は異なる問題です。いずれかの形式に偏った復習にならないよう、バランスよく学習することを心がけてください。
教科書 参考書等	各回とも演習問題を配付します。 復習用教材として、簿記論Ⅰで使用している計算テキストを持参してください。
備考	各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 簿記論演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	簿記論演習Ⅱ		授業形態		
			演習		
実務経験のある教員による科目の有無			選必の別		選必
			授業時間数		90時間
科目教員			単位数		3単位
			授業回数		18回
科目教員のうち 実務経験教員			成績 評価 方法	筆記試験	: 30 %
				演習問題	: 50 %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			竹村 幸生	授業態度	: 20 %
					: %
実務経験教員の 実務経験内容					: %
					: %
授業目的 到達目標	簿記論Ⅰに加えて、簿記論Ⅱで履修した簿記知識及び計算・記帳技術について、問題演習を通して反復練習・解説することで理解を深めてもらうことを目的としています。税理士試験簿記論受験のための応用的な個別問題・総合問題を、設定された制限時間内に解答するための解法手順、図式化などができるようになることを到達目標とします。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 項目別まとめ問題① 〔内容〕 製造業会計	竹村 幸生	第10回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕 簿記論Ⅱ(Ⅰを含む) の範囲を主とする個別・総合 問題	竹村 幸生
第2回	項目別まとめ問題② 〔内容〕 キャッシュ・フロー 計算書	竹村 幸生	第11回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕 簿記論Ⅱ(Ⅰを含む) の範囲を主とする個別・総合 問題	竹村 幸生
第3回	項目別まとめ問題③ 〔内容〕 本支店会計	竹村 幸生	第12回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕 簿記論Ⅱ(Ⅰを含む) の範囲を主とする個別・総合 問題	竹村 幸生
第4回	項目別まとめ問題④ 〔内容〕 特殊商品売買	竹村 幸生	第13回	第1回プレ模擬試験 〔内容〕 簿記論試験未出題項 目を含む個別・総合問題	竹村 幸生

第5回	項目別まとめ問題⑤ 〔内容〕連結会計	竹村 幸生	第14回	第2回プレ模擬試験 〔内容〕簿記論試験未出題項目を含む個別・総合問題	竹村 幸生
第6回	項目別まとめ問題⑥ 〔内容〕帳簿組織	竹村 幸生	第15回	第3回プレ模擬試験 〔内容〕簿記論試験未出題項目を含む個別・総合問題	竹村 幸生
第7回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕簿記論Ⅰの範囲を主とする個別・総合問題	竹村 幸生	第16回	第1回直前対策模擬試験 〔内容〕簿記論応用論点を主とする個別・総合問題	竹村 幸生
第8回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕簿記論Ⅰの範囲を主とする個別・総合問題	竹村 幸生	第17回	第2回直前対策模擬試験 〔内容〕簿記論応用論点を主とする個別・総合問題	竹村 幸生
第9回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕簿記論Ⅰの範囲を主とする個別・総合問題	竹村 幸生	第18回	第3回直前対策模擬試験 〔内容〕簿記論応用論点を主とする個別・総合問題	竹村 幸生
準備学習等	簿記論Ⅰ・Ⅱで履修した内容の問題演習となりますので、事前に苦手とする分野の各項目の内容を復習したうえで講義に臨んでください。また、個別形式の問題と総合問題は異なる問題です。いずれかの形式に偏った復習にならないよう、バランスよく学習することを心がけてください。				
教科書 参考書等	各回とも項目別まとめ問題及び、実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付します。 復習用教材として、簿記論Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキストを持参してください。				
備考	各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 簿記論演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。				

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	財務諸表論演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	千葉 菜愛	授業回数	12回
		成績評価方法	筆記試験 : 30 %
			演習問題 : 50 %
			授業態度 : 20 %
科目教員のうち実務経験教員			: %
			: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	
-------------------	--

授業目的 到達目標	財務諸表論Ⅰで履修した計算及び理論の知識について、問題演習を通して反復練習・解説することで理解を深めてもらうことを目的としています。税理士試験財務諸表論受験のための基礎的な総合計算問題・理論の記述問題を、設定された制限時間内に解答するための解法手順、会計基準の適正な記述などができるようになることを到達目標とします。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 第1回演習問題（理論：一般原則）	千葉 菜愛	第7回	第7回演習問題（理論：企業会計原則注解、注15繰延資産）	千葉 菜愛
第2回	第2回演習問題（理論：会計観 貸借対照表の役割・損益計算 書原則、一）	千葉 菜愛	第8回	第8回演習問題（理論：会計 観・概念フレームワークにつ いて）	千葉 菜愛
第3回	第3回演習問題（理論：損益計 算書原則、一A）	千葉 菜愛	第9回	第9回演習問題（理論：資産評 価、減損会計）	千葉 菜愛

第4回	第4回演習問題（理論：企業会計原則注解、注18引当金について）	千葉 菜愛	第10回	第10回演習問題（理論：リース取引に関する会計基準・資産除去債務に関する会計基準）	千葉 菜愛
第5回	第5回演習問題（理論：資産の評価について）	千葉 菜愛	第11回	第11回演習問題（理論：リース債務、資産除去債務の共通点、相違点）	千葉 菜愛
第6回	第6回演習問題（理論：貸借対照表原則、五）	千葉 菜愛	第12回	第12回演習問題（理論：退職給付に係る会計基準・純資産会計）	千葉 菜愛
準備学習等	財務諸表論Ⅰで履修した内容の問題演習となりますので、事前に各項目の内容を復習したうえで講義に臨んでください。特に、理論については事前暗記が必須です。計算、理論のいずれかに偏った復習にならないよう、バランスよく学習することを心がけてください。				
教科書 参考書等	各回とも演習問題を配付します。 復習用教材として、財務諸表論Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参してください。				
備考	各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 財務諸表論演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	財務諸表論演習Ⅱ		授業形態		
			選必の別	演習	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	千葉 菜愛		授業回数	18回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 30 %
				演習問題	: 50 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	財務諸表論Ⅰ・Ⅱで履修した計算及び理論の知識について、問題演習を通して反復練習・解説することで理解を深めてもらうことを目的としています。税理士試験財務諸表論受験のための応用的な総合計算問題・理論の記述問題を、設定された制限時間内に解答するための解法手順、会計基準の適正な記述などができるようになることを到達目標とします。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	千葉 菜愛	第10回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの 範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛
第2回	項目別問題①（理論：一般原則、貸借対照表の役割・損益計算書原則）	千葉 菜愛	第11回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの 範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛
第3回	項目別問題②（理論：企業会計原則注解）	千葉 菜愛	第12回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの 範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛

第4回	項目別問題③（理論：会計観、概念フレームワーク）	千葉 菜愛	第13回	第1回プレ模擬試験 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛
第5回	項目別問題④（理論：リース取引に関する会計基準、資産除去債務に関する会計基準）	千葉 菜愛	第14回	第2回プレ模擬試験 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛
第6回	項目別問題⑤（理論：退職給付に係る会計基準）	千葉 菜愛	第15回	第3回プレ模擬試験 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛
第7回	項目別問題⑥（理論：純資産会計）	千葉 菜愛	第16回	第1回直前対策模擬試験 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛
第8回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛	第17回	第2回直前対策模擬試験 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛
第9回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛	第18回	第3回直前対策模擬試験 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛
準備学習等	財務諸表論Ⅰ・Ⅱで履修した内容の問題演習となりますので、事前に各項目の内容を復習したうえで講義に臨んでください。特に、理論については事前暗記が必須です。計算、理論のいずれかに偏った復習にならないよう、バランスよく学習することを心がけてください。				
教科書 参考書等	各回とも項目別まとめ問題及び、実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)、プレ模擬試験(学校法人大原学園作成)、直前対策模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付します。 復習用教材として、財務諸表論Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参してください。				
備考	各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 財務諸表論演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。				

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	消費税法演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回	
			成績評価方法	筆記試験	: 30 %
				演習問題	: 50 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。また、計算の基となる消費税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身に付けることを目的とする。また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。				

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態における消費税額 計算の注意点	小関 哲也	第7回	商品販売業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第2回	不動産業等を営む法人を前提 とした消費税額の計算①	小関 哲也	第8回	製造業等を営む個人事業者を 前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第3回	商品販売業等を営む法人を前 提とした消費税額の計算	小関 哲也	第9回	建築業等を営む個人事業者を 前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第4回	製造業等を営む法人を前提と した消費税額の計算①	小関 哲也	第10回	不動産業等を営む法人を前提 とした消費税額の計算②	小関 哲也
第5回	建築業等を営む法人を前提と した消費税額の計算	小関 哲也	第11回	製造業等を営む法人を前提と した消費税額の計算②	小関 哲也
第6回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ①	小関 哲也	第12回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ②	小関 哲也

準備学習等	消費税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付する。 復習用教材として、消費税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅱ		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間
			単位数	3単位
科目教員	小関 哲也		授業回数	18回
			成績 評価 方法	筆記試験
ミニテスト	: 50 %			
授業態度	: 20 %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務における消費税の確定申告書等を記載するための消費税の計算ができるように指導する。また、消費税の計算の基となる消費税法の本法に加え施行令、基本通達等、更に租税特別措置法の各条文理解をさせる授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。			
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身に付けることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する問題を解答できるレベルを目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態の注意点及び納税義務のまとめ	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の中間申告を含む原則計算	小関 哲也
第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕不動産業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也

第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕不動産業等を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例を含む簡易課税制度	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
準備学習等	消費税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身に付け授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付します。 復習用教材として、消費税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・ 税理士会計士学科(4年課程)
学年	2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅲ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	18回
		成績評価方法	筆記試験 : 30 % 演習問題 : 50 % 授業態度 : 20 % : :
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務における消費税の確定申告書等を記載するための消費税の計算ができるように指導する。また、消費税の計算の基となる消費税法の本法に加え施行令、基本通達等、更に租税特別措置法の各条文理解をさせる授業を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。		
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身につけることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する問題を解答できるレベルを目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態の注意点及び納税義務のまとめ	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の中間申告を含む原則計算	小関 哲也
第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕不動産業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也

第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕不動産業等を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例を含む簡易課税制度	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
準備学習等	消費税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付します。 復習用教材として、消費税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。 宿題として、年内完結確認テスト(大原学園)、完全合格確認テスト(大原学園)を使用する。				
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅲは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年の消費税法Ⅱと合同授業となる。 ただし、宿題とする問題については、消費税法Ⅱより発展的な難解な問題となる。				

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	法人税法演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回	
			成績評価方法	筆記試験 : 30 %	
				演習問題 : 50 %	
				授業態度 : 20 %	
: %					
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %	: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる法人税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身につけることを目的とする。 また、各法人の法人税の計算ができ、税理士試験法人税法及び全国経理教育協会法人税法能力検定試験1級に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 基本項目のまとめ	小関 哲也	第7回	貸倒引当金の設定事例を基にした問題演習及び第104回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第2回	交際費等の取引事例を基にした問題演習及び第96回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第8回	租税公課の事例を基にした問題演習及び第105回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第3回	減価償却の事例を基にした問題演習及び第97回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第9回	受取配当金等の取引事例を基にした問題演習及び第107回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也

第4回	寄付金の取引事例を基にした問題演習及び第98回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第10回	有価証券の取引事例を基にした問題演習及び第108回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第5回	貸倒損失の取引事例を基にした問題演習及び第99回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第11回	国庫補助金等の圧縮記帳を基にした問題演習及び土地収用法の圧縮記帳を基にした問題演習	小関 哲也
第6回	欠損金の事例を基にした問題演習及び第100回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第12回	役員判定の事例を基にした問題演習及びリース取引等の取引事例を基にした問題演習	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付し、また、法人税法能力検定試験過去問題集（全国経理教育協会出版）を使用する。 復習用教材として、法人税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法演習Ⅱ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	18回	
			成績 評価 方法	筆記試験	:
演習問題	:	50		%	
授業態度	:	20		%	
	:			%	
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			:	%
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務における法人税の確定申告書(別表1及別表4・別表5等)を記載するための法人税の計算ができるように指導する。また、法人税の計算の基となる法人税法の主たる条文理解をさせる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身につけることを目的とする。 また、各業種等を前提とした法人税の計算ができ、税理士試験に対応する計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各項目の注意点及び別表記入の注意点	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、同族会社の判定、受取配当等、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕確定決算型、寄付金、資産の評価損益、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、減価償却、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也

第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、自己株式、受取配当等、所得税額控除、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕受取配当等、外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也
第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、外国子会社配当、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕確定決算型、寄付金、資産の評価損益、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、適格合併、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、自己株式、受取配当等、所得税額控除、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕保険料、特定資産の買換、交際費等、貸倒損失、使用人給与、資本等取引等を含む総合問題	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、外国子会社配当、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕還付税金、試験研究費、グループ法人税制、国庫補助金等、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、適格合併、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕減価償却費、貸倒引当金、貸倒損失、繰延資産、所得税額控除、受取配当等、みなし配当等を含む総合問題	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕保険料、特定資産の買換、交際費等、貸倒損失、使用人給与、資本等取引等を含む総合問題	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕確定決算型、寄付金、交際費等、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕還付税金、試験研究費、グループ法人税制、国庫補助金等、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身に付け授業に臨むこと。				

教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付する。 復習用教材として、法人税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	相続税法演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	12回
		成績評価方法	筆記試験 : 30 %
			演習問題 : 50 %
			授業態度 : 20 %
科目教員のうち 実務経験教員			: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	各相続事例を基にした演習問題を通して財産評価を行い、相続税を計算し申告書を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身につけることを目的とする。 また、税理士試験相続税法に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを到達目標とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 基本項目のまとめ	小関 哲也	第7回	問題演習⑥ 〔内容〕相続人の判定及び相続分・生命保険等・生前贈与加算・相続税額の加算・障害者控除を含む総合問題	小関 哲也
第2回	問題演習① 〔内容〕相続人の判定及び相続分・生命保険等・退職手当金等・未成年者控除・障害者控除を含む総合問題	小関 哲也	第8回	問題演習⑦ 〔内容〕相続人の判定及び相続分・生命保険等・債務控除・相続税額加算を含む総合問題	小関 哲也
第3回	問題演習② 〔内容〕相続人の判定及び相続分・生命保険等・債務控除・相続税額加算を含む総合問題	小関 哲也	第9回	問題演習⑧ 〔内容〕生命保険等・債務控除・相続税額の加算・配偶者に対する相続税額の軽減を含む総合問題	小関 哲也

第4回	問題演習③ 〔内容〕生命保険等・債務控除・相続税額の加算・配偶者に対する相続税額の軽減を含む総合問題	小関 哲也	第10回	問題演習⑨ 〔内容〕生命保険等・退職手当金等（弔慰金を含む）・債務控除（保証債務）を含む総合問題	小関 哲也
第5回	問題演習④ 〔内容〕生命保険等・退職手当金等（弔慰金を含む）・債務控除（保証債務）を含む総合問題	小関 哲也	第11回	問題演習⑩ 〔内容〕相続人の判定及び相続分・生命保険等・債務控除・相続税額加算を含む総合問題	小関 哲也
第6回	問題演習⑤ 〔内容〕生命保険等・退職手当金等・債務控除・障害者控除を含む総合問題	小関 哲也	第12回	事業承継の対策及び節税対策	小関 哲也
準備学習等	相続税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、相続税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付し、また、相続税法総合計算問題集基礎編（大原出版）を使用する。 復習用教材として、法人税法Ⅰで使用している計算テキスト、財産評価テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の内容の主要項目については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 相続税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	相続税法演習Ⅱ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	18回
		成績評価方法	筆記試験 : 30 % 演習問題 : 50 % 授業態度 : 20 % : :
科目教員のうち 実務経験教員			
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	相続事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、財産評価及び相続税を計算し申告書を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身につけることを目的とする。 また、税理士試験相続税法に対応する計算問題を解答できるレベルを到達目標とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 財産評価の注意点	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕がけ地、公社債、上場株式、ゴルフ会員権、貸付金債権等、取引相場のない株式を含む総合問題	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕邦貨換算、共有持分、不整形地、受益証券等、農地、容積率の異なる宅地、取引相場のない株式評価を含む総合問題	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕上場株式、取引相場のない株式、宅地の評価単位、不整形地、私道、山林、立木、預貯金等を含む総合問題	小関 哲也
第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕がけ地、公社債、上場株式、ゴルフ会員権、貸付金債権等、取引相場のない株式を含む総合問題	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑫ 〔内容〕不整形地、家屋、土地の無償返還に関する届出書、定期借地権等、取引相場のない株式等を含む総合問題	小関 哲也

第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕上場株式、取引相場のない株式、宅地の評価単位、不整形地、私道、山林、立木、預貯金等を含む総合問題	小関 哲也	第13回	応用模擬試験①〔内容〕邦貨換算、共有持分、不整形地、受益証券等、農地、容積率の異なる宅地、取引相場のない株式評価を含む総合問題	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕不整形地、家屋、土地の無償返還に関する届出書、定期借地権等、取引相場のない株式等を含む総合問題	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕がけ地、公社債、上場株式、ゴルフ会員権、貸付金債権等、取引相場のない株式を含む総合問題	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕邦貨換算、共有持分、不整形地、受益証券等、農地、容積率の異なる宅地、取引相場のない株式評価を含む総合問題	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕上場株式、取引相場のない株式、宅地の評価単位、不整形地、私道、山林、立木、預貯金等を含む総合問題	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕がけ地、公社債、上場株式、ゴルフ会員権、貸付金債権等、取引相場のない株式を含む総合問題	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕不整形地、家屋、土地の無償返還に関する届出書、定期借地権等、取引相場のない株式等を含む総合問題	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕上場株式、取引相場のない株式、宅地の評価単位、不整形地、私道、山林、立木、預貯金等を含む総合問題	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕邦貨換算、共有持分、不整形地、受益証券等、農地、容積率の異なる宅地、取引相場のない株式評価を含む総合問題	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕不整形地、家屋、土地の無償返還に関する届出書、定期借地権等、取引相場のない株式等を含む総合問題	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕がけ地、公社債、上場株式、ゴルフ会員権、貸付金債権等、取引相場のない株式を含む総合問題	小関 哲也
準備学習等	相続税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、相続税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付する。 復習用教材として、相続税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト、財産評価テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の内容の主要項目については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 相続税法演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	国税徴収法演習Ⅰ	授業形態	演習	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	60時間	
		単位数	2単位	
科目教員	竹村幸生	授業回数	15回	
		成績評価方法	演習問題	: 80 %
			授業態度	: 20 %
				: %
				: %
科目教員のうち実務経験教員			: %	
			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容				
実務経験教員の 実務経験内容				
授業目的 到達目標	各理論項目の演習問題を通して、国税徴収法Ⅰで学習した知識の理解を深めることを目的とする。 また、税理士試験国税徴収法に対応する基礎理論問題を解答できるレベルを目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	演習問題1 範囲：国税相互間における優先関係、差押えの通則、延滞処分のための財産の調査	竹村幸生	第9回	演習問題9 範囲：担保のための仮登記と国税の関係、納期限到来の納税の猶予及び申請手続き等、職権による換価の猶予、申請による換価の猶予	竹村幸生
第2回	演習問題2 範囲：国税と被担保債権の優先関係	竹村幸生	第10回	演習問題10 範囲：確定手続きが遅延した場合の納税の猶予、換価の猶予、国税の担保、雑則等	竹村幸生
第3回	演習問題3 範囲：担保債権付財産が譲渡された場合の国税の徴収、差押えの通則、差押えの共通手続	竹村幸生	第11回	演習問題11 範囲：保全担保、保全差押え、繰上保全差押え、繰上請求	竹村幸生
第4回	演習問題4 範囲：差押えの通則、差押換え、動産又は有価証券の差押え、第三者が占有する動産等の差押手続き	竹村幸生	第12回	演習問題12 範囲：第二次納税義務	竹村幸生

第5回	演習問題5 範囲：国税お詫び地方税等と私債権との競合の調整、債券の差押え、不動産等の差押え	竹村幸生	第13回	演習問題13 範囲：国税相互間における優先関係、差押えの通則、延滞処分のための財産の調査	竹村幸生
第6回	演習問題6 範囲：第三者債務者等がない無体財産権等の差押え、第三者債務者等がある無体財産権等の差押え	竹村幸生	第14回	演習問題14 範囲：国税と被担保債権の優先関係	竹村幸生
第7回	演習問題7 範囲：国税相互間における優先関係、譲渡担保権者の物的納税責任、債権の差押え、交付要求、参加差押え	竹村幸生	第15回	演習問題15 範囲：担保債権付財産が譲渡された場合の国税の徴収、差押えの通則、差押えの共通手続	竹村幸生
第8回	演習問題8 範囲：財産の換価の通則、公売及び随意契約による売却、売却決定及び代金納付、換価の効果	竹村幸生			
準備学習等	国税徴収法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、国税徴収法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要である。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付する。 復習用教材として、国税徴収法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の演習問題の範囲については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する可能性がある。 国税徴収法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計の原理	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本原理、仕訳、勘定記入といっ た帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、資産に関する取引が帳簿上、どのよう に記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標として、筆記 試験の80点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	デリバティブ取引・ヘッジ会 計等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	商品売買	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	有形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	棚卸資産の期末評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	現金及び預金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	無形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	割引現在価値 債権・債務等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	研究開発費とソフトウェア 投資その他の資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	貸倒れと貸倒引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	固定資産の減損 繰延資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	有価証券	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。				

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅠ、問題Ⅰ、答案用紙Ⅰ、解答解説Ⅰ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅰ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
確認テスト	: 10 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。				
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、負債・純資産に関する取引が帳簿上、 どのように記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標とし て、筆記試験の80点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	社債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	ストック・オプション	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	税金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	退職給付①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	税効果会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	退職給付②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	税効果会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	外貨建取引①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	純資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	外貨建取引②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	第1回から第6回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透	第15回	第8回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	新株予約権と新株予約権付社 債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。				

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅡ、問題Ⅱ、答案用紙Ⅱ、解答解説Ⅱ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅱ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
確認テスト	: 10 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。また、企業におけるキャッ シュの流れを理解し、資金繰りの必要性を学習する。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。				
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、利益計算と収支計算の違いを理解し、 キャッシュフロー計算書の作成と収益に関する取引の記帳を身に付け、到達目標とし て、筆記試験の70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	キャッシュ・フロー計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	収益認識①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結キャッシュ・フロー計算 書①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	収益認識②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結キャッシュ・フロー計算 書②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	帳簿組織	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	セグメント情報等の開示	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	本支店会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	在外支店	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	会計上の変更及び誤謬の訂正	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	製造業（商的工業簿記）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	1株当たり情報	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。				

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅤ、問題Ⅴ、答案用紙Ⅴ、解答解説Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅲ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
確認テスト	: 10 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的項目からの発展項目として、リース会計、金融商品会計の仕訳、勘定記入といった記帳方法、株主資本等変動計算書及びキャッシュ・フロー計算書の作成を学習する。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。				
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容であるリース、金融商品の会計処理から財務諸表に認識・測定される数値を理解し、株主資本等変動計算書及びキャッシュ・フロー計算書作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	社債、資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	金銭債権、金銭債務 有価証券	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	株主資本、評価・換算差額 等、新株予約権	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	複合金融商品、デリバティブ	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	株主資本等変動計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	ヘッジ会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	キャッシュフロー・計算書①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	ストックオプション等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	キャッシュフロー・計算書②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	リース会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	会計上の変更及び誤謬の訂正 ①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	リース会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	会計上の変更及び誤謬の訂正 ②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。				

教科書 参考書等	財務会計論（計算）テキストⅠ、Ⅱ、Ⅴ、問題Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ、答案用紙Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ、解答解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅳ		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		60時間	
			単位数		2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数		15回	
			成績 評価 方法	筆記試験		: 70 %
確認テスト		: 10 %				
授業態度		: 20 %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的項目からの発展項目として、退職給付会計、税効果会計などの仕訳、勘定記入といった記帳方法、連結財務諸表及び四半期財務諸表の作成を学習する。					
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。					
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である退職給付会計、税効果会計および企業結合、事業分離の会計処理から連結財務諸表に認識・測定される数値を理解し、連結財務諸表及び四半期財務諸表の作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	退職給付①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	連結財務諸表①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第2回	退職給付②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結財務諸表②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第3回	収益認識	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第4回	研究開発とソフトウェア	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	外貨建取引	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第5回	固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	在外支店及び在外子会社等の 財務諸表の換算	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第6回	法人税等①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第7回	法人税等②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透	
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透				
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。					

教科書 参考書等	財務会計論（計算）テキストⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、問題Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、答案用紙Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、解答解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	連結財務諸表Ⅰ		授業形態		
			選必の別	講義	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
確認テスト	: 10 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業集団を会計単位として作成される連結財務諸表作成手順を確認し、企業集団における会社間取引の相殺や未実現利益消去の必要性、連結特有の会計処理を学習する。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。				
授業目的 到達目標	本講義では、個別財務諸表と連結財務諸表の作成目的の違いを理解し、連結子会社及び持分法適用関連会社が各々2社以上ある場合の連結財務諸表作成手順を身に付け、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表総論、資本連結 ①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	在外子会社	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	資本連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結の範囲	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	成果連結①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	第7回から第10回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	成果連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合総論、取得	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	持分法	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	第1回から第5回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透	第14回	事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	連結税効果会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第12回から第14回の範囲の筆 記試験・論点の解説	阿部 透
第8回	包括利益	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。				

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅢ・Ⅳ、問題Ⅲ・Ⅳ、答案用紙Ⅲ・Ⅳ、解答解説Ⅲ・Ⅳ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	連結財務諸表Ⅱ		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		60時間	
			単位数		2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数		15回	
			成績 評価 方法	筆記試験		:
確認テスト		:		10	%	
授業態度		:		20	%	
		:			%	
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透				:	%
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに連結財務諸表作成手順を確認し、持分変動、連結除外といった連結範囲の変動を中心に連結修正仕訳を学習する。また、企業結合及び事業分離による個別財務諸表と連結財務諸表の会計処理を確認する。					
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。					
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である連結財務諸表作成の持分変動を理解し、企業結合及び事業分離による連結財務諸表の作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	連結財務諸表総論 資本連結（段階取得）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	第1回から第8回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透	
第2回	資本連結（子会社株式の追加 取得、一部売却）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	取得、段階取得、逆取得	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第3回	資本連結（連結除外）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第4回	資本連結（株主割当有償増 資、第三者割当有償増資）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第5回	資本連結（子会社の新株予約 権、自己株式）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	結合当事企業の株主に係る会 計処理	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第6回	評価差額の実現	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	共同支配企業の形成	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第7回	連結の範囲、持分法の適用範 囲	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第10回から第14回の範囲の筆 記試験・論点の解説	阿部 透	
第8回	間接所有	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛				
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。					

教科書 参考書等	財務会計論（計算）テキストⅢ、Ⅳ、問題Ⅲ、Ⅳ、答案用紙Ⅲ、Ⅳ、解答解説Ⅲ、Ⅳ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績 評 価 方 法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論及び会計諸規則、諸基準から、現行 制度に至った背景や考え方を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的である意思決定に有用な情報を提供するうえでの会計理論 及び会計処理の手続きを理解し、到達目標として、各回実施のミニテストにて70点以上 とする。		
授業計画			
回数	授業内容		科目教員
第1回	財務会計の意義と機能 企業会計制度と会計基準		阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	財務会計の基礎概念		阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	収益と費用 資産と負債		阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	棚卸資産 固定資産、繰延資産と引当金		阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	負債、純資産 財務諸表		阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	金融商品、ストック・オプション等 リース		阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	退職給付、研究開発費とソフトウェア 固定資産の減損		阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	法人税等 連結財務諸表		阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	企業結合と事業分離		阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	外貨換算 四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。	
教科書 参考書等	財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅱ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績 評 価 方 法	確認テスト	: 70 %
授業態度	: 30 %				
	: %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論として、会社計算規則、財務諸表等規則の他、企業会計基準委員会公表の会計基準を学習し、複数の考え方から現行制度に至った背景を理解する。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。				
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である財務会計の基礎概念である財務会計の概念フレームワークの考え方を身につけ、到達目標として、各回実施の確認テストの70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	財務会計の意義、財務会計の機能	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	棚卸資産の範囲、取得原価の決定、払出数量・単価の計算	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	企業会計制度、会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	棚卸資産の評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	企業会計原則の一般原則	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	固定資産総論、有形・無形固定資産、投資その他の資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	会計公準、会計主体論	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	繰延資産、引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	利益概念	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	偶発債務、資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	概念フレームワーク	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	資本の概念、株主資本、評価・換算差額等、新株予約権	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	収益と費用の分類、損益計算の原則	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	資産と負債の分類、資産の評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を実施し、復習を中心に学習すること。				

教科書 参考書等	財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）問題集 なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	管理会計の原理		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数		60時間	
			単位数		2単位	
科目教員	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		授業回数		15回	
			成績 評価 方法	筆記試験		: 70 %
確認テスト		: 10 %				
授業態度		: 20 %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員					:	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容						
実務経験教員の 実務経験内容						
授業目的 到達目標	本講義では、管理会計の目的を理解したうえで、財務会計との関わり、実際の活用方法を学ぶ。到達目標として、筆記試験の80点以上とする。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	管理会計の意義と目的	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第9回	第1回から第8回の範囲の筆記 試験・論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第2回	管理会計の体系	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第10回	直接原価計算と全部原価計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第3回	原価計算基準の設定について	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第11回	固定費調整	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第4回	原価計算の目的と一般的基準	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第12回	資金管理	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第5回	財務会計との結びつき	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第13回	活動基準原価計算の意義・背 景	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第6回	短期利益計画のプロセス	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第14回	活動基準原価計算の有用性 リストラチャリング [®] への効果	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第7回	CVP分析・経営レバレッジと 経営行動	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第15回	第10回から第14回の範囲の筆 記試験・論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第8回	原価態様に基づく原価分類	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美				
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。					
教科書 参考書等	管理会計論テキストⅡ、問題Ⅱ、解答解説Ⅱ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。					

備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む管理会計系の科目(原価計算、意思決定会計、戦略管理会計、管理会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。
----	---

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	原価計算	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	授業回数	20回
		成績 評価 方法	筆記試験
確認テスト	: 10 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	本講義では、管理会計の目的を理解したうえで、原価計算基準を用いての原価の算定方法を身に付ける。到達目標として、筆記試験の80点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 原価計算基準	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第11回	総合原価計算(副産物・工程別 原価計算非累加法)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第2回	費目別計算(材料費・労務費)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第12回	総合原価計算(連産品原価計 算)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第3回	費目別計算(経費・製造間接 費)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第13回	第9回から第12回の範囲の筆記 試験・論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第4回	部門別計算(第1、2、3次集計)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第14回	標準原価計算の目的	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第5回	部門別計算(複合費の取り扱 い)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第15回	標準原価の種類(原価改訂頻度 の相違による分類)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第6回	個別原価計算(直接経費処理・ 間接経費処理)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第16回	標準原価の種類(標準の厳格度 の相違による分類)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第7回	個別原価計算(作業屑・異常仕 損の処理)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第17回	標準原価差異の種類・把握方 法	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第18回	標準原価差異の勘定記入方法	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第9回	総合原価計算と個別原価計算 の相違	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第19回	標準原価差異の追加配賦	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第10回	総合原価計算(非度外視法・率 安定的減損)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第20回	第14回から第19回の範囲の筆 記試験・論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	管理会計論テキストⅠ、問題Ⅰ、解答解説Ⅰ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む管理会計系の科目(管理会計の原理、意思決定会計、戦略管理会計、管理会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	意思決定会計	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	授業回数	10回
		成績 評価 方法	筆記試験
確認テスト	: 10 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	本講義では、管理会計の目的を理解したうえで、企業の将来の意思決定の為の意思決定 会計を身に付ける。到達目標として、筆記試験の80点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	意思決定会計の基礎	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第2回	関連原価と無関連原価	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第3回	経済的発注量分析	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第4回	継続・廃止の意思決定	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第5回	受注可否の意思決定	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第6回	追加加工の可否の意思決定	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第7回	部品の自製・購入の意思決定	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第8回	最適プロダストミックス	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第9回	シャドープライス・リデューストコスト	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第10回	第1回から第9回の確認を目的とした筆記試験、重要論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	<p>管理会計論テキストⅡ、問題Ⅱ、解答解説Ⅱ</p> <p>なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
備考	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む管理会計系の科目（管理会計論の原理、原価計算、戦略管理会計、管理会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。</p>

		税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）		
		1学年・2学年・3学年・4学年		
科目名	戦略管理会計	授業形態	講義	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	30時間	
		単位数	1単位	
科目教員	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	授業回数	10回	
		成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
			確認テスト	: 10 %
			授業態度	: 20 %
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容				
実務経験教員の 実務経験内容				
授業目的 到達目標	本講義では、管理会計の目的を理解したうえで、企業の将来の意思決定の為の戦略管理 会計を身に付ける。到達目標として、筆記試験の80点以上とする。			
授業計画				
回数	授業内容	科目教員		
第1回	特殊原価概念	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		
第2回	資本コストの算定と在り方	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		
第3回	投資案評価方法（NPV法・収益性指数法・内部利益率法）	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		
第4回	投資案評価方法（回収期間法・投資利益率法・原価比較法）	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		
第5回	不確実性を考慮した意思決定	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		
第6回	予算管理と責任会計	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		
第7回	予算編成・予算統制	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		
第8回	目標管理・予算スラックの形成	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		
第9回	資金管理の収益性と安全性	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		
第10回	第1回から第9回の確認を目的とした筆記試験重要論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	<p>管理会計論テキストⅡ、問題Ⅱ、解答解説Ⅱ</p> <p>なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
備考	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む管理会計系の科目（管理会計論の原理、原価計算、意思決定会計、管理会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。</p>

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	監査論Ⅰ		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		60時間	
			単位数		2単位	
科目教員	鈴木 翔太		授業回数		20回	
			成績 評価 方法	確認テスト		70 %
授業態度		30 %				
		%				
		%				
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太				% %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	財務諸表監査を中心とした監査の制度的な枠組み、必要性、関係する法令・基準・監査 実務指針等を理解する。					
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築 支援等の業務を行っている。					
授業目的 到達目標	本講義は、財務諸表監査について理解したうえで、効果的かつ効率的な監査を行うため の実施や報告に関する基礎知識を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて 70点以上とする。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	財務諸表監査総論	鈴木 翔太	第11回	関連当事者との関係及び 取引、会計上の見積りの監査	鈴木 翔太	
第2回	意見表明の対象である財務諸 表	鈴木 翔太	第12回	財務諸表監査における不正の 検討及び法令の検討	鈴木 翔太	
第3回	監査主体論、監査基準論	鈴木 翔太	第13回	グループ監査、内部監査の利 用、専門家の業務の利用	鈴木 翔太	
第4回	監査業務のプロセス、財務諸 表の適正性の立証プロセス	鈴木 翔太	第14回	監査の品質管理、監査人の交 代、コミュニケーション、監査調書	鈴木 翔太	
第5回	監査証拠、監査手続①	鈴木 翔太	第15回	監査意見に関する知識	鈴木 翔太	
第6回	監査手続②、監査業務の契約	鈴木 翔太	第16回	追記情報	鈴木 翔太	
第7回	監査計画、リスク・アプロー チ	鈴木 翔太	第17回	比較情報、特別目的の財務諸 表の監査等	鈴木 翔太	
第8回	リスク評価手続き及び評価し たリスクに対応する手続き	鈴木 翔太	第18回	継続企業の前提	鈴木 翔太	
第9回	監査証拠の入手方法	鈴木 翔太	第19回	中間監査、四半期レビュー	鈴木 翔太	

第10回	監査における重要性、特別な 検討を必要とするリスク	鈴木 翔太	第20回	内部統制報告制度、わが国の 監査の歴史	鈴木 翔太
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。				
教科書 参考書等	監査論テキスト(上巻)、監査論テキスト(下巻)、監査論問題集、監査論ポケットコンパス、監査論肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。				
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む監査論系の科目(監査演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。				

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法Ⅰ		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		60時間	
			単位数		2単位	
科目教員	鈴木 翔太		授業回数		15回	
			成績 評価 方法	確認テスト		70 %
授業態度		30 %				
		%				
		%				
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太				%	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち、株式会社の設立から運営および組織構造等に関する基礎知識を学習する。					
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。					
授業目的 到達目標	本講義は、会社法の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	設立総説、発起設立と募集設立	鈴木 翔太	第9回	株主総会②、取締役①	鈴木 翔太	
第2回	変態設立事項に関する規制、 設立関与者の責任	鈴木 翔太	第10回	取締役②	鈴木 翔太	
第3回	設立の瑕疵、株主の権利・義務①	鈴木 翔太	第11回	取締役③	鈴木 翔太	
第4回	株主の権利・義務②、株主平等原則	鈴木 翔太	第12回	取締役④、代表取締役①	鈴木 翔太	
第5回	株式の譲渡、自己株式の取得・処分等の制限①	鈴木 翔太	第13回	代表取締役②、監査役①	鈴木 翔太	
第6回	自己株式の取得・処分等の制限②、株主名簿①	鈴木 翔太	第14回	監査役②、指名委員会等設置会社①	鈴木 翔太	
第7回	株主名簿②、株式等売渡請求	鈴木 翔太	第15回	指名委員会等設置会社②、監査等委員会設置会社	鈴木 翔太	
第8回	機関総説、株主総会①	鈴木 翔太				
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。					

教科書 参考書等	企業法テキスト(会社法)、企業法問題集、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅱ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績 評 価 方 法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		: %
	: %		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち資金調達や組織再編行為等の仕組みや手順等の規制、商法のうち商人および商行為に関する規制、金融商品取引法のうち情報開示制度に関する規制について学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、各種法令の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	募集株式の発行等の効力発生等①	鈴木 翔太	
第2回	募集株式の発行等の効力発生等② 新株予約権	鈴木 翔太	
第3回	社債 資本金・準備金・剰余金	鈴木 翔太	
第4回	剰余金の配当 事業譲渡等	鈴木 翔太	
第5回	組織再編	鈴木 翔太	
第6回	解散・清算、持分会社 特例有限会社・外国会社	鈴木 翔太	
第7回	商法総則①	鈴木 翔太	
第8回	商法総則② 商法為法	鈴木 翔太	
第9回	金融商品取引法総論 発行開示	鈴木 翔太	
第10回	流通開示 開示の実効性・公正確保のための制度	鈴木 翔太	

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	<p>企業法テキスト（会社法）、企業法テキスト（商法・金商法）、企業法問題集Ⅱ、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック</p> <p>なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
備考	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅰ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。</p>

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	20回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。企業等と連携した講義内容により、実務に必要な能力の向上を図り、各論点の会計処理方法を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の習得および財務諸表の数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	商品売買、棚卸資産の期末評価など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	連結会計③	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	債権債務、貸倒れと貸倒引当金など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	有価証券、デリバティブ取引、ヘッジ会計等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	企業結合会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	事業分離等①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	ソフトウェア、固定資産の減損など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	事業分離等②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	社債、退職給付、税効果会計など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第16回	キャッシュフロー会計など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	新株予約権、ストックオプションなど	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第17回	会計上の変更及び誤謬の訂正、1株当たり情報など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	資産除去債務、外貨建取引など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第18回	帳簿組織、本支店会計、収益認識など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	連結会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第19回	近年実務において必要な論点①	阿部 透

第10回	連結会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第20回	近年実務において必要な論点 ②	阿部 透
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。				
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅱ		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	30時間
			単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	10回
			成績評価方法	筆記試験
授業態度	: 30 %			
	: %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。			
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の理論的背景および財務諸表に記載される数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。			
授業計画				
回数	授業内容			科目教員
第1回	財務会計の意義と機能、企業会計制度と会計基準			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	財務会計の基礎概念、収益と費用			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	資産と負債、棚卸資産			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	固定資産、繰延資産と引当金			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	純資産、財務諸表、金融商品			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	ストックオプション、リース			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	退職給付、研究開発とソフトウェア			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	固定資産の減損、法人税等、連結貸借対照表及び連結損益・包括利益計算書			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	連結財務諸表（持分法）、企業結合と事業分離			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	外貨換算、四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。	
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅲ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な企業結合会計及び連結会計に関する事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表、リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	連結精算表、包括利益	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結財務諸表、有価証券の信用取引、先物取引	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	セグメント情報等、子会社への投資に関する一時差異	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結会計、親子間の吸収合併、退職給付信託など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	連結財務諸表、子会社による親会社株式の売却	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	企業集団内の吸収合併及び事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合、事業分離等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	企業結合（暫定的な会計処理など）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	個別財務諸表と連結財務諸表の作成、固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	個別財務諸表と連結財務諸表の作成	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	個別財務諸表、リース、予定取引のヘッジ	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	リース（中途解約）、在外子会社（間接法・簡便法）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	退職給付制度の終了、税効果会計、ソフトウェア	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	連結キャッシュ・フロー計算書（国内及び在外子会社）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。
-------	---------------------------

教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅳ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の理論的背景および財務諸表(個別・連結)に記載される数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表(計算)①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結財務諸表(計算)②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結財務諸表(計算)③	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	個別財務諸表(計算)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	連結キャッシュ・フロー計算書(計算)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	企業結合(会計理論)①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	企業結合(会計理論)②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	有価証券の評価(会計理論)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	キャッシュフロー計算書(会計理論)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	リース会計（会計理論）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。	
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	管理会計演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
				授業態度	: 30 %
					: %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の習得および原価計算の計算の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	費目別計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第9回	標準原価計算③	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第2回	部門別計算・個別原価計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第10回	CVP分析・直接原価計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第3回	費目別計算・部門別計算・個別原価計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第11回	予算管理・業務的意思決定	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第4回	総合原価計算①	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第12回	戦略的意思決定・事業部制会計	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第5回	総合原価計算②	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第13回	原価管理・ABC	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第6回	総合原価計算③	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第14回	企業価値・財務情報分析・資金管理	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第7回	標準原価計算①	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第15回	総まとめ	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第8回	標準原価計算②	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美			
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。				

教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は管理会計系の科目（管理会計の原理、原価計算、意思決定会計、戦略管理会計）を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	管理会計演習Ⅱ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
				授業態度	: 30 %
					: %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の習得および原価計算の数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	費目別計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第9回	予算管理	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第2回	部門別計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第10回	業務的意思決定	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第3回	個別原価計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第11回	戦略的意思決定・事業部制会計	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第4回	総合原価計算①	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第12回	原価管理・ABC	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第5回	総合原価計算②	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第13回	資金管理	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第6回	標準原価計算①	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第14回	企業価値	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第7回	標準原価計算②	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第15回	財務情報分析	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第8回	CVP分析・直接原価計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美			
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。				

教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は管理会計系の科目（管理会計の原理、原価計算、意思決定会計、戦略管理会計）を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	管理会計演習Ⅲ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	授業回数	10回
		成績評価方法	筆記試験
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			: %
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の習得および原価計算の数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	費目別計算・部門別計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第2回	個別原価計算・総合原価計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第3回	標準原価計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第4回	CVP分析・直接原価計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第5回	予算管理	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第6回	業務的意思決定	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第7回	戦略的意思決定	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第8回	原価管理・ABC	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第9回	資金管理	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	

第10回	企業価値	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。	
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は管理会計系の科目（管理会計の原理、原価計算、意思決定会計、戦略管理会計）を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	監査演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績 評価 方法	筆記試験
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。わが国における監査の制度的な枠組みを学習し、監査基準や監査実務指針等の規制を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査（金融商品取引法、会社法等）、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義では、監査制度に関する網羅的な知識を習得したうえで、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	財務諸表監査総論、意見表明の対象である財務諸表、監査主体論、監査基準論	鈴木 翔太	
第2回	監査業務のプロセス、財務諸表の適正性の立証プロセス、監査証拠、監査手続、職業倫理	鈴木 翔太	
第3回	監査業務の契約、監査計画、リスク・アプローチ	鈴木 翔太	
第4回	リスク評価手続及び評価したリスクに対応する手続、監査証拠の入手方法、監査における重要性	鈴木 翔太	
第5回	特別な検討を必要とするリスク、会計上の見積りの監査、関連当事者との関係など	鈴木 翔太	
第6回	財務諸表監査における法令の検討、グループ監査、内部監査の利用、専門家の業務の利用など	鈴木 翔太	
第7回	監査報告論	鈴木 翔太	
第8回	継続企業の前提、中間監査、四半期レビュー、内部統制報告制度	鈴木 翔太	
第9回	会社法会計監査人監査、金融商品取引法、公認会計士法	鈴木 翔太	
第10回	保証債務、情報技術と監査、監査の歴史	鈴木 翔太	

準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む監査論系の科目（監査論Ⅰ）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績 評価 方法	筆記試験
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。法の趣旨に基づいた規制を学習し、公認会計士に必要な会社に関する制限を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査（金融商品取引法、会社法等）、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、会社に関係する各種法令や判例等を網羅的に理解し、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容		科目教員
第1回	設立、株式①		鈴木 翔太
第2回	株式②、機関①		鈴木 翔太
第3回	機関②		鈴木 翔太
第4回	資金調達		鈴木 翔太
第5回	社債、計算		鈴木 翔太
第6回	組織再編①		鈴木 翔太
第7回	組織再編②		鈴木 翔太
第8回	持分会社等		鈴木 翔太
第9回	商法総則・商行為		鈴木 翔太
第10回	金融商品取引法		鈴木 翔太

準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目（企業法Ⅰ、Ⅱ）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年・3学年

科目名	公開企業会計Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	菊地 裕俊、千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験
ミニテスト	: 30 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	大企業及び上場企業を前提とし、日々の取引から財務諸表作成までの簿記一巡の会計処理ができる商業簿記及び会計学の基礎知識を習得する。また、製造業を前提とした企業の会計処理を行うための工業簿記及び原価計算の基礎知識を習得することを目的とする。その上で、本講義終了後の科目「公開企業会計Ⅱ」に積極的に取り組めるようにする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	有価証券、デリバティブ取引、ヘッジ会計、有形固定資産	千葉 菜愛	
第2回	工業簿記総論、費目別計算	菊地 裕俊	
第3回	割引現在価値、リース取引	千葉 菜愛	
第4回	部門別原価計算、個別原価計算	菊地 裕俊	
第5回	研究開発費、ソフトウェア、減損、繰延資産	千葉 菜愛	
第6回	総合原価計算総論、単純総合原価計算、工程別総合原価計算	菊地 裕俊	

第7回	社債、引当金	千葉 菜愛
第8回	退職給付、資産除去債務	千葉 菜愛
第9回	組別総合原価計算、等級別総合原価計算連産品、副産物	菊地 裕俊
第10回	純資産、新株予約権、ストックオプション	千葉 菜愛
第11回	標準原価計算、直接原価計算、全部原価計算	菊地 裕俊
第12回	税効果会計	千葉 菜愛
第13回	CVP分析、原価分解、事業部制	菊地 裕俊
第14回	外貨建取引	千葉 菜愛
第15回	簿記1級本科統一模擬試験 第1回 実施・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛

準備学習等	<p>毎回の授業の始めに確認テストを実施し、前回の授業範囲が理解できているか確認を行う。</p> <p>確認テストを解答できるよう、毎日の授業の復習を怠らないようにすること。</p>
-------	---

教科書 参考書等	<p>【商業簿記・会計学】</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅠ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅰ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅰ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅡ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅱ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅱ (学校法人 大原学園)</p> <p>ステップアップ問題集 日商簿記1級 商簿・会計 (大原出版)</p> <p>【工業簿記・原価計算】</p> <p>ALFA 1級工業簿記・原価計算 テキスト (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級工業簿記・原価計算 問題集 (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級工業簿記・原価計算 解答集 (学校法人 大原学園)</p> <p>ステップアップ問題集 日商簿記1級 工簿・原計 (大原出版)</p> <p>【共通】</p> <p>簿記1級本科統一模擬試験 第1回 (学校法人 大原学園)</p>
-------------	--

備考	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>公開企業会計Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科各学年合同授業となる。</p>
----	--

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年・3学年

科目名	公開企業会計Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	菊地 裕俊、千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験
ミニテスト	: 30 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	科目「公開企業会計Ⅰ」を前提に、会計専門職(税理士・公認会計士等)を目指す者として 高度な商業簿記・会計学及び工業簿記・原価計算を習得し、会計基準や財務諸表等規則 などの企業会計に関する法規を踏まえて、経営管理や経営分析ができることを目的とす る。また、日本商工会議所主催簿記検定試験1級に合格できる能力を身につけることを到 達目標とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	商品売買等	千葉 菜愛	
第2回	予算管理、予算編成、予算統制	菊地 裕俊	
第3回	工事契約、本支店会計	千葉 菜愛	
第4回	意思決定会計総論、業務的意思決定会計	菊地 裕俊	
第5回	連結財務諸表総論、資本連結、成果連結	千葉 菜愛	
第6回	構造的意決定会計	菊地 裕俊	

第7回	持分法、連結税効果会計、包括利益	千葉 菜愛
第8回	簿記1級本科統一模擬試験 第2回 実施・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛
第9回	在外子会社、企業結合	千葉 菜愛
第10回	戦略的原価計算	菊地 裕俊
第11回	事業分離	千葉 菜愛
第12回	過去試験問題演習解説①（日商簿記過去試験問題第161回、第162回）	菊地 裕俊
第13回	キャッシュ・フロー計算書	千葉 菜愛
第14回	連結キャッシュ・フロー計算書、会計上の変更及び誤謬の訂正	千葉 菜愛
第15回	簿記1級本科統一模擬試験 第3回 実施・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛
準備学習等	各回の復習を必ず行うこと。また、難解な項目もあるため、不明な点等は科目教員に質問や相談をすること。予習は不要。	

<p>教科書 参考書等</p>	<p>【商業簿記・会計学】 ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅠ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅰ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅰ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅡ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅱ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅱ (学校法人 大原学園版) ステップアップ問題集 日商簿記1級 商簿・会計 (大原出版)</p> <p>【工業簿記・原価計算】 ALFA 1級工業簿記・原価計算 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 解答集 (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 基礎答練 問題編 (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 基礎答練 解答編 (学校法人 大原学園) 簿記1級受験用 日商簿記過去問 問題編 (学校法人 大原学園) 簿記1級受験用 日商簿記過去問 解答編 (学校法人 大原学園) ステップアップ問題集 日商簿記1級 工簿・原計 (大原出版) 1級工業簿記・原価計算 基礎期 模擬試験①～⑥ 問題 (学校法人 大原学園) 1級工業簿記・原価計算 基礎期 模擬試験①～⑥ 解答・解説 (学校法人 大原学園)</p> <p>【共通】 簿記1級本科統一模擬試験 第2回 (学校法人 大原学園) 簿記1級本科統一模擬試験 第3回 (学校法人 大原学園)</p>
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>公開企業会計Ⅱは、上記学科の選択必修科目であるため各学科各学年合同授業となる。</p>

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年・3学年

科目名	公開企業会計演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	30時間	
			単位数	2単位	
科目教員	菊地 裕俊、千葉 菜愛		授業回数	10回	
			成績評価方法	筆記試験	: 70 %
授業態度	: 30 %				
	: %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	科目「公開企業会計Ⅰ」及び「公開企業会計Ⅱ」を前提とし、ここまで習得した知識を活用し、商業簿記・会計学及び工業簿記・原価計算の問題演習を行う。難易度の高い問題を解くことで、知識の定着を図る。さらに、会計基準や会社法、財務諸表等規則などの企業会計に関する法規を踏まえて、経営管理や経営分析ができることを目的とする。また、日本商工会議所主催簿記検定試験1級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	日商簿記検定第167回対策 直前模擬試験 第1回 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛	第6回	日商簿記検定第167回対策 直前模擬試験 第5回 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛
第2回	日商簿記検定第167回対策 直前模擬試験 第2回 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛	第7回	日商簿記検定第167回対策 直前模擬試験 第6回 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛

第3回	日商簿記検定第167回対策 直前模擬試験 第3回 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛	第8回	弱点克服問題演習②	菊地 裕俊 千葉 菜愛
第4回	弱点克服問題演習①	菊地 裕俊 千葉 菜愛	第9回	日商簿記検定第167回対策 全国統一公開模擬試験	菊地 裕俊 千葉 菜愛
第5回	日商簿記検定第167回対策 直前模擬試験 第4回 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛	第10回	最終確認問題演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛
準備学習等	日々の授業が本試験だと考え、常に緊張感をもって取り組むこと。また、基礎論点の復習を中心的に行うことによって応用力が身につくものと認識すること。なお、予習は不要。				
教科書 参考書等	<p>【商業簿記・会計学】 ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅠ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅰ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅰ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅡ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅱ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅱ (学校法人 大原学園)</p> <p>【工業簿記・原価計算】 ALFA 1級工業簿記・原価計算 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 解答集 (学校法人 大原学園版)</p> <p>【共通】 日商簿記検定第167回対策 直前模擬試験 第1回～第6回 (学校法人 大原学園) 日商簿記検定第167回対策 全国統一公開模擬試験 (学校法人 大原学園) 過去問題集 日商簿記1級 (大原出版) 第167回をあてるTAC直前予想模擬 日商簿記1級</p>				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 公開企業会計演習Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科各学年合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年・3学年

科目名	商業簿記上級	授業形態	講義	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	90時間	
		単位数	3単位	
科目教員	千葉 菜愛	授業回数	15回	
		成績評価方法	筆記試験	: 50 %
			ミニテスト	: 30 %
			授業態度	: 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員		: %		
実務経験教員の実務経験に関する 授業内容				
実務経験教員の実務経験内容				
授業目的 到達目標	科目「公開企業会計Ⅱ」を前提に、会計専門職（税理士・公認会計士等）を目指すものとして高度な商業簿記・会計学を習得し、会計基準や財務諸表等規則などの企業会計に関する法規を踏まえて、財務諸表作成ができることを目的とする。また、最終的には全国経理教育協会主催簿記能力検定試験上級に合格できる能力を身につけることを目標とする。			
授業計画				
回数	授業内容	科目教員		
第1回	財務諸表分析、一般原則	千葉 菜愛		
第2回	損益計算書原則	千葉 菜愛		
第3回	貸借対照表原則	千葉 菜愛		
第4回	資産会計、負債会計	千葉 菜愛		
第5回	純資産会計	千葉 菜愛		
第6回	外貨建取引会計	千葉 菜愛		
第7回	税効果会計	千葉 菜愛		

第8回	企業結合会計	千葉 菜愛
第9回	連結会計	千葉 菜愛
第10回	キャッシュ・フロー会計	千葉 菜愛
第11回	会計上の変更と誤謬の訂正	千葉 菜愛
第12回	概念フレームワーク	千葉 菜愛
第13回	会社再編の会計①	千葉 菜愛
第14回	会社再編の会計②	千葉 菜愛
第15回	四半期連結財務諸表	千葉 菜愛
準備学習等	各回の復習を必ず行うこと。また、難解な項目もあるため、不明な点等は科目教員に質問や相談をすること。予習は不要。	
教科書 参考書等	<p>【商業簿記・会計学】</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅠ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅰ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅰ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅡ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅱ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅱ (学校法人 大原学園)</p> <p>全経簿記上級 商業簿記・財務会計テキスト (中央経済社)</p> <p>簿記検定全経上級 直前対策講義 商業簿記・会計学 (学校法人 大原学園)</p>	
備考	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>商業簿記上級は、上記学科の選択必修科目であるため各学科各学年合同授業となる。</p>	

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年・3学年

科目名	工業簿記上級	授業形態	講義	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	90時間	
		単位数	3単位	
科目教員	菊地 裕俊	授業回数	15回	
		成績評価方法	筆記試験	: 50 %
			ミニテスト	: 30 %
			授業態度	: 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員		: %		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容				
実務経験教員の 実務経験内容				
授業目的 到達目標	科目「公開企業会計Ⅱ」を前提に、会計専門職（税理士・公認会計士等）を目指すものとして高度な工業簿記・原価計算を習得し、経営管理や経営分析ができることを目的とする。また、最終的には全国経理教育協会主催簿記能力検定試験上級に合格できる能力を身につけることを目標とする。			
授業計画				
回数	授業内容	科目教員		
第1回	費目別計算、個別原価計算、部門別原価計算、責任会計	菊地 裕俊		
第2回	部門別原価計算、個別原価計算	菊地 裕俊		
第3回	総合原価計算	菊地 裕俊		
第4回	標準原価計算	菊地 裕俊		
第5回	直接原価計算、全部原価計算、CVP分析、原価分解	菊地 裕俊		
第6回	事業部制	菊地 裕俊		

第7回	意思決定の原価概念、業務的意思決定	菊地 裕俊
第8回	構造的意決定	菊地 裕俊
第9回	戦略的原価計算	菊地 裕俊
第10回	工場独立会計	菊地 裕俊
第11回	直前対策講義 過去問題解説(第191回、第193回)	菊地 裕俊
第12回	直前対策講義 過去問題解説(第195回、第197回)	菊地 裕俊
第13回	直前対策講義 過去問題解説(第199回、第201回)	菊地 裕俊
第14回	直前対策講義 過去問題解説(第203回、第205回)	菊地 裕俊
第15回	直前対策講義 過去問題解説(第207回、第209回)	菊地 裕俊
準備学習等	各回の復習を必ず行うこと。また、難解な項目もあるため、不明な点等は科目教員に質問や相談をすること。予習は不要。	
教科書 参考書等	【工業簿記・原価計算】 ALFA 1級工業簿記・原価計算 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 解答集 (学校法人 大原学園) 全経簿記上級 原価計算・管理会計テキスト (中央経済社) 簿記検定全経上級 直前対策講義 工業簿記・原価計算 (学校法人 大原学園)	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 工業簿記上級は、上記学科の選択必修科目であるため各学科各学年合同授業となる。	

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年

科目名	日商簿記1級Ⅲ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	菊地 裕俊、穴戸 雄翔、千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験
ミニテスト	: 30 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	科目「日商簿記1級Ⅱ」、「商業簿記上級」、「工業簿記上級」を前提に、会計専門職（税理士・公認会計士等）を目指すものとして高度な商業簿記・会計学及び工業簿記・原価計算を習得し、会計基準や財務諸表等規則などの企業会計に関する法規を踏まえて、経営管理や経営分析ができることを目的とする。また、最終的には日本商工会議所主催簿記検定試験1級及び全国経理教育協会主催簿記能力検定試験上級、日本ビジネス技能検定協会主催簿記能力検定試験1級に合格できる能力を身につけることを目標とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	【商業簿記・会計学】基礎期模擬試験①②実施・解説	千葉 菜愛 穴戸 雄翔	
第2回	【工業簿記・原価計算】項目別（費目別）問題解説	菊地 裕俊	
第3回	【商業簿記・会計学】基礎期模擬試験③④ 実施・解説	千葉 菜愛 穴戸 雄翔	
第4回	【工業簿記・原価計算】項目別（部門別）問題解説	菊地 裕俊	
第5回	【商業簿記・会計学】基礎期模擬試験⑤⑥ 実施・解説	千葉 菜愛 穴戸 雄翔	

第6回	【工業簿記・原価計算】項目別（製品別）問題解説	菊地 裕俊
第7回	【商業簿記・会計学】基礎期模擬試験⑦⑧ 実施・解説	千葉 菜愛 穴戸 雄翔
第8回	【商業簿記・会計学】確認テスト①② 実施・解説	千葉 菜愛 穴戸 雄翔
第9回	【工業簿記・原価計算】基礎期 模擬試験①② 実施・解説	菊地 裕俊
第10回	【商業簿記・会計学】確認テスト③④実施・解説	千葉 菜愛 穴戸 雄翔
第11回	【工業簿記・原価計算】基礎期 模擬試験③④ 実施・解説	菊地 裕俊
第12回	【商業簿記・会計学】確認テスト⑤⑥実施・解説	千葉 菜愛 穴戸 雄翔
第13回	【工業簿記・原価計算】基礎期 模擬試験⑤⑥ 実施・解説	菊地 裕俊
第14回	【商業簿記・会計学】確認テスト⑦⑧実施・解説	千葉 菜愛 穴戸 雄翔
第15回	本科統一模擬試験 第3回 実施・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔
準備学習等	各回の復習を必ず行うこと。また、難解な項目もあるため、不明な点等は科目教員に質問や相談をすること。予習は不要。	

<p>教科書 参考書等</p>	<p>【商業簿記・会計学】 ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅠ（学校法人 大原学園） ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅡ（学校法人 大原学園） ステップアップ問題集 日商簿記1級 商簿・会計（学校法人 大原学園） 簿記能力検定試験過去問題集1級 商業簿記・会計学 （一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会） 1級商業簿記・会計学 基礎期 模擬試験①～⑧ 問題用紙（学校法人 大原学園） 1級商業簿記・会計学 基礎期 模擬試験①～⑧ 解答・解説（学校法人 大原学園） 1級商業簿記・会計学 基礎期 確認テスト①～⑧ 問題用紙（学校法人 大原学園） 1級商業簿記・会計学 基礎期 確認テスト①～⑧ 解答・解説（学校法人 大原学園）</p> <p>【工業簿記・原価計算】 ALFA 1級工業簿記・原価計算 テキスト（学校法人 大原学園） ALFA 1級工業簿記・原価計算 基礎答練 問題編（学校法人 大原学園） ALFA 1級工業簿記・原価計算 基礎答練 解答編（学校法人 大原学園） ステップアップ問題集 日商簿記1級 工簿・原計（学校法人 大原学園） 簿記能力検定試験過去試験問題集 1級 工業簿記・原価計算 （一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会） 1級工業簿記・原価計算 基礎期 模擬試験①～⑥ 問題用紙（学校法人 大原学園） 1級工業簿記・原価計算 基礎期 模擬試験①～⑥ 解答・解説（学校法人 大原学園）</p> <p>【共通】 本科統一模擬試験 第3回（学校法人 大原学園） 2024年度 日商簿記1級 網羅型完全予想問題集（TAC出版）</p>
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>日商簿記1級Ⅲは、上記学科の選択必修科目であるため各学科各学年合同授業となる。</p>

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年

科目名	日商簿記1級演習II		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	40時間	
			単位数	1単位	
科目教員	菊地 裕俊、千葉 菜愛、穴戸 雄翔		授業回数	10回	
			成績評価方法	筆記試験	:
授業態度	:	30		%	
	:			%	
	:			%	
科目教員のうち 実務経験教員				:	%
				:	%
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	科目「日商簿記1級演習I」を前提とし、ここまでに習得した知識を活用し、商業簿記・会計学では日本ビジネス技能検定協会主催簿記能力検定試験1級（以下、「日ビ簿記1級」という。）の問題演習を行う。工業簿記・原価計算では、日ビ簿記1級と同程度の問題演習を行う。数多くの問題を解くことにより、知識の定着を図ることを目的とする。また、日ビ簿記1級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	第118回日ビ簿記1級 過去試験問題 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第6回	第111回日ビ簿記1級 過去試験問題 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔
第2回	第117回日ビ簿記1級 過去試験問題 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第7回	第109回日ビ簿記1級 過去試験問題 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔

第3回	第115回日ビ簿記1級 過去試験問題 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第8回	第108回日ビ簿記1級 過去試験問題 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔
第4回	第114回日ビ簿記1級 過去試験問題 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第9回	第106回日ビ簿記1級 過去試験問題 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔
第5回	第112回日ビ簿記1級 過去試験問題 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第10回	第104回日ビ簿記1級 過去試験問題 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔
準備学習等	日々の授業が本試験だと考え、常に緊張感をもって取り組むこと。また、基礎論点の復習を中心的に行うことによって応用力が身につくものと認識すること。予習は不要。				
教科書 参考書等	<p>【商業簿記・会計学】</p> ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅠ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅰ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅰ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅡ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅱ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅱ (学校法人 大原学園) 簿記能力検定試験過去問題集1級 商業簿記・会計学 (一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会) <p>【工業簿記・原価計算】</p> ALFA 1級工業簿記・原価計算 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 解答集 (学校法人 大原学園) 簿記能力検定試験過去問題集1級 工業簿記・原価計算 (一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会)				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 日商簿記1級演習Ⅱは、上記学科の選択必修科目であるため各学科各学年合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年

科目名	日商簿記1級演習Ⅲ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	40時間	
			単位数	1単位	
科目教員	菊地 裕俊、千葉 菜愛、穴戸 雄翔		授業回数	10回	
			成績評価方法	筆記試験	: 70 %
授業態度	: 30 %				
	: %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	科目「日商簿記1級演習Ⅱ」を前提とし、ここまでに習得した知識を活用し、日本商工会議所主催簿記検定試験1級（以下、「日商簿記1級」という。）の商業簿記・会計学及び工業簿記・原価計算の問題演習を行う。問題文が複雑であることから、問題の内容をしっかりと把握する読解力を養う。また、1つの問に対し、解法がいくつかあるため、自ら考え判断し、正答を導き出す力を養成する。最終的には、日商簿記1級に合格できる能力を身につけることを目標とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	第162回日商簿記1級 過去試験問題演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第6回	第156回日商簿記1級 過去試験問題演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔
第2回	第161回日商簿記1級 過去試験問題演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第7回	第153回日商簿記1級 過去試験問題演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔

第3回	第159回日商簿記1級 過去試験問題演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第8回	第152回日商簿記1級 過去試験問題演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔
第4回	第158回日商簿記1級 過去試験問題演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第9回	第150回日商簿記1級 過去試験問題演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔
第5回	第157回日商簿記1級 過去試験問題演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第10回	第149回日商簿記1級 過去試験問題演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔
準備学習等	日々の授業が本試験だと考え、常に緊張感をもって取り組むこと。また、基礎論点の復習を中心的に行うことによって応用力が身につくものと認識すること。予習は不要。				
教科書 参考書等	<p>【商業簿記・会計学】</p> ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅠ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅰ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅰ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅡ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅱ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅱ (学校法人 大原学園) 過去問題集 日商簿記1級 (大原出版) 2024年度 日商簿記1級 網羅型完全予想問題集 (TAC出版) <p>【工業簿記・原価計算】</p> ALFA 1級工業簿記・原価計算 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 解答集 (学校法人 大原学園) 簿記1級受験用 日商簿記過去問 問題編 (学校法人 大原学園) 簿記1級受験用 日商簿記過去問 解答編 (学校法人 大原学園)				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 日商簿記1級演習Ⅲは、上記学科の選択必修科目であるため各学科各学年合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年

科目名	日商簿記1級演習Ⅳ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	40時間	
			単位数	1単位	
科目教員	菊地 裕俊、千葉 菜愛、穴戸 雄翔		授業回数	10回	
			成績 評価 方法	筆記試験	:
授業態度	:	30		%	
	:			%	
	:			%	
科目教員のうち 実務経験教員				:	%
				:	%
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	科目「日商簿記1級演習Ⅲ」を前提とし、更なる知識の定着を図るため、難易度の高い商業簿記・会計学及び工業簿記・原価計算の問題演習を行う。会計基準や財務諸表等規則などの企業会計に関する法規を踏まえて、経営管理や経営分析ができることを目的とする。また、日本商工会議所主催簿記検定試験1級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	日商簿記検定第168回対策 直前模擬試験 第1回 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第6回	日商簿記検定第168回対策 直前模擬試験 第5回 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔
第2回	日商簿記検定第168回対策 直前模擬試験 第2回 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第7回	日商簿記検定第168回対策 直前模擬試験 第6回 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔
第3回	日商簿記検定第168回対策 直前模擬試験 第3回 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第8回	弱点克服問題演習②	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔

第4回	弱点克服問題演習①	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第9回	日商簿記検定第168回対策 全国統一公開模擬試験 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔
第5回	日商簿記検定第168回対策 直前模擬試験 第4回 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔	第10回	最終確認問題演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛 穴戸 雄翔
準備学習等	日々の授業が本試験だと考え、常に緊張感をもって取り組むこと。 また、各回の復習を必ず行うこと。予習は不要。				
教科書 参考書等	<p>【商業簿記・会計学】</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅠ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅰ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅰ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅡ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅱ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅱ (学校法人 大原学園)</p> <p>【工業簿記・原価計算】</p> <p>ALFA 1級工業簿記・原価計算 テキスト (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級工業簿記・原価計算 問題集 (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級工業簿記・原価計算 解答集 (学校法人 大原学園)</p> <p>【共通】</p> <p>日商簿記検定第168回対策 直前模擬試験 第1回～第6回 (学校法人 大原学園)</p> <p>日商簿記検定第168回対策 全国統一公開模擬試験 (学校法人 大原学園)</p> <p>過去問題集 日商簿記1級 (大原出版)</p> <p>第168回をあてるTAC直前予想模擬 日商簿記1級 (TAC出版)</p> <p>2024年度 日商簿記1級 網羅型完全予想問題集 (TAC出版)</p>				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 日商簿記1級演習Ⅳは、上記学科の選択必修科目であるため各学科各学年合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年

科目名	会計学上級	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	穴戸 雄翔、千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験
ミニテスト	: 30 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	科目「日商簿記1級Ⅲ」を前提に、会計専門職（税理士・公認会計士等）を目指すものとして高度な商業簿記・会計学を習得し、会計基準や財務諸表等規則などの企業会計に関する法規を踏まえて、財務諸表作成ができることを目的とする。また、最終的には全国経理教育協会主催簿記能力検定試験上級に合格できる能力を身につけることを目標とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	財務諸表分析、一般原則	穴戸 雄翔 千葉 菜愛	
第2回	損益計算書原則	穴戸 雄翔 千葉 菜愛	
第3回	貸借対照表原則	穴戸 雄翔 千葉 菜愛	
第4回	資産会計、負債会計	穴戸 雄翔 千葉 菜愛	
第5回	純資産会計	穴戸 雄翔 千葉 菜愛	
第6回	外貨建取引会計	穴戸 雄翔 千葉 菜愛	

第7回	税効果会計	穴戸 雄翔 千葉 菜愛
第8回	企業結合会計	穴戸 雄翔 千葉 菜愛
第9回	連結会計	穴戸 雄翔 千葉 菜愛
第10回	キャッシュ・フロー会計	穴戸 雄翔 千葉 菜愛
第11回	会計上の変更と誤謬の訂正	穴戸 雄翔 千葉 菜愛
第12回	概念フレームワーク	穴戸 雄翔 千葉 菜愛
第13回	会社再編の会計①	穴戸 雄翔 千葉 菜愛
第14回	会社再編の会計②	穴戸 雄翔 千葉 菜愛
第15回	四半期連結財務諸表	穴戸 雄翔 千葉 菜愛
準備学習等	各回の復習を必ず行うこと。また、難解な項目もあるため、不明な点等は科目教員に質問や相談をすること。予習は不要。	
教科書 参考書等	【商業簿記・会計学】 ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅠ (大原出版) ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅰ (大原出版) ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅰ (大原出版) ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅡ (大原出版) ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅱ (大原出版) ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅱ (大原出版) 全経簿記上級 商業簿記・財務会計テキスト (中央経済社) 簿記検定全経上級 直前対策講義 商業簿記・会計学 (大原出版)	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 会計学上級は、上記学科の選択必修科目であるため各学科各学年合同授業となる。	

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年

科目名	原価計算上級	授業形態		
		選必の別	講義	
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	90時間	
		単位数	3単位	
科目教員	菊地 裕俊	授業回数	15回	
		成績評価方法	筆記試験	: 50 %
			ミニテスト	: 30 %
			授業態度	: 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員		: %		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容				
実務経験教員の 実務経験内容				
授業目的 到達目標	科目「日商簿記1級Ⅲ」を前提に、会計専門職（税理士・公認会計士等）を目指すものとして高度な工業簿記・原価計算を習得し、経営管理や経営分析ができることを目的とする。また、最終的には全国経理教育協会主催簿記能力検定試験上級に合格できる能力を身につけることを目標とする。			
授業計画				
回数	授業内容	科目教員		
第1回	費目別計算、個別原価計算、部門別原価計算、責任会計	菊地 裕俊		
第2回	部門別原価計算、個別原価計算	菊地 裕俊		
第3回	総合原価計算	菊地 裕俊		
第4回	標準原価計算	菊地 裕俊		
第5回	直接原価計算、全部原価計算、CVP分析、原価分解	菊地 裕俊		
第6回	事業部制	菊地 裕俊		
第7回	意思決定の原価概念、業務的意思決定	菊地 裕俊		

第8回	構造的意決定	菊地 裕俊
第9回	戦略的原価計算	菊地 裕俊
第10回	工場独立会計	菊地 裕俊
第11回	直前対策講義 過去問題解説(第191回、第193回)	菊地 裕俊
第12回	直前対策講義 過去問題解説(第195回、第197回)	菊地 裕俊
第13回	直前対策講義 過去問題解説(第199回、第201回)	菊地 裕俊
第14回	直前対策講義 過去問題解説(第203回、第205回)	菊地 裕俊
第15回	直前対策講義 過去問題解説(第207回、第209回)	菊地 裕俊
準備学習等	各回の復習を必ず行うこと。また、難解な項目もあるため、不明な点等は科目教員に質問や相談をすること。予習は不要。	
教科書 参考書等	【工業簿記・原価計算】 ALFA 1級工業簿記・原価計算 テキスト (大原出版) ALFA 1級工業簿記・原価計算 問題集 (大原出版) ALFA 1級工業簿記・原価計算 解答集 (大原出版) 全経簿記上級 原価計算・管理会計テキスト (中央経済社) 簿記検定 全経上級 直前対策講義 工業簿記・原価計算 (大原出版)	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 原価計算上級は、上記学科の選択必修科目であるため各学科各学年合同授業となる。	

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	消費税法税務会計	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	23回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 %
			ミニテスト : 40 %
			授業態度 : 20 %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせる。 また、過去の全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験の出題内容を実務に照らして解説することにより、実務に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。		
授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験1級に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第13回	非課税資産の輸出等を行った 場合の仕入税額の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第14回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除①	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第15回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除②	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高 による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除 対象仕入税額(個別対応方式・ 一括比例配分方式)	小関 哲也	第17回	棚卸資産に係る仕入税額控除 の調整	小関 哲也
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第18回	課税標準	小関 哲也
第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第19回	簡易課税制度	小関 哲也

第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第20回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第22回	国等に対する特例	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第23回	総まとめ問題	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也			
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）、全国経理教育協会主催消費税法能力検定				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 消費税法税務会計は、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・OA事務学科(1年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1学年・2学年

科目名	宅地建物取引士Ⅰ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	竹村 幸生		授業回数	10回	
			成績評価方法	筆記試験	: 40 %
				ミニテスト	: 40 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち実務経験教員			: %		
実務経験教員の実務経験に関する授業内容					
実務経験教員の実務経験内容					
授業目的到達目標	宅地や建物の売買・賃貸等を取り扱う不動産業者が不正をしないよう規制する法律(宅地建物取引業法)を基礎から学び理解してもらうことを目的とする。不動産取引の種類に応じて必要となる法律が選別できること、宅地建物取引士資格試験に出題される宅地建物取引業法の問題が解答できる知識を身につけることを到達目標とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス、宅建業法(免許-1)	竹村 幸生	第9回	宅建業法(報酬、監督・罰則)	竹村 幸生
第2回	宅建業法(免許-2)	竹村 幸生	第10回	宅建業法(住宅瑕疵担保履行法)	竹村 幸生
第3回	宅建業法(営業保証金、宅地建物取引業保証協会)	竹村 幸生			
第4回	宅建業法(宅地建物取引士)	竹村 幸生			
第5回	宅建業法(業務を行う場所に関する規制、8種制限-1)	竹村 幸生			
第6回	宅建業法(8種制限-2)	竹村 幸生			
第7回	宅建業法(一般的業務規制、取引態様の明示、媒介契約)	竹村 幸生			

第8回	宅建業法(重要事項の説明等、 契約書面の交付)	竹村 幸生
準備学習等	<p>学習する内容が多岐にわたり、日々新たな法律の理解を積み重ねていくこととなる。予習の必要はないが、講義で学んだ内容について、特にテキストを再読し、トレーニング問題集を複数回解き込むことにより、難解な法律であってもその読解力が身につく。復習を欠かさずに実施すること。</p>	
教科書 参考書等	<p>基礎講義 宅建業法テキスト (学校法人 大原学園) 宅建業法トレーニング問題集 (学校法人 大原学園)</p>	
備考	<p>各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 宅地建物取引士Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。</p>	

学科	行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・OA事務学科(1年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1学年・2学年

科目名	宅地建物取引士Ⅱ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	竹村 幸生		授業回数	10回	
			成績評価方法	筆記試験	: 40 %
				ミニテスト	: 40 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち実務経験教員			: %		
実務経験教員の実務経験に関する授業内容					
実務経験教員の実務経験内容					
授業目的到達目標	売買契約や賃貸借契約等に関する法律、契約から発生する権利・義務に関する法律（民法、借地借家法等）を基礎から学び理解してもらうことを目的とする。特に不動産取引においては不利益を被る可能性の高い買主や借主の立場となり、その権利を守るための考え方ができるようになること、宅地建物取引士資格試験に出題される権利関係の問題が解答できる知識を身につけることを到達目標とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	権利関係(制限行為能力者、意思表示)	竹村 幸生	第9回	権利関係(借地借家法)	竹村 幸生
第2回	権利関係(代理、時効)	竹村 幸生	第10回	権利関係(区分所有法、不動産登記法)	竹村 幸生
第3回	権利関係(対抗要件、共有)	竹村 幸生			
第4回	権利関係(抵当権、債権の発生と消滅)	竹村 幸生			
第5回	権利関係(債務不履行、危険負担、連帯債務と保証債務)	竹村 幸生			
第6回	権利関係(売買、請負)	竹村 幸生			
第7回	権利関係(賃貸借、使用貸借、委任、不法行為)	竹村 幸生			

第8回	権利関係(相続)	竹村 幸生
準備学習等	<p>学習する内容が多岐にわたり、日々新たな法律の理解を積み重ねていくこととなる。予習の必要はないが、講義で学んだ内容について、特にテキストを再読し、トレーニング問題集を複数回解き込むことにより、難解な法律であってもその読解力が身につく。復習を欠かさずに実施すること。</p>	
教科書 参考書等	<p>基礎講義 権利関係テキスト (学校法人 大原学園) 権利関係トレーニング問題集 (学校法人 大原学園)</p>	
備考	<p>各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 宅地建物取引士Ⅱは、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。</p>	

学科	行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・OA事務学科(1年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1学年・2学年

科目名	宅地建物取引士Ⅲ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	竹村 幸生		授業回数	10回	
			成績評価方法	筆記試験	: 40 %
				ミニテスト	: 40 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	土地の利用方法や土地の区域により建築できる建物の種類に関する法律（都市計画法、建築基準法等）を基礎から学び理解してもらうことを目的とする。実際に不動産取引の買主または借主の立場となった際に不利益を被ることのないよう法律の内容を理解すること、宅地建物取引士資格試験に出題される法令上の制限の問題が解答できる知識を身につけることを到達目標とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	法令上の制限(都市計画法-1)	竹村 幸生	第9回	法令上の制限(不動産鑑定評価、地価公示法)	竹村 幸生
第2回	法令上の制限(都市計画法-2)	竹村 幸生	第10回	法令上の制限(景品表示法、住宅金融支援機構法)	竹村 幸生
第3回	法令上の制限(建築基準法-1)	竹村 幸生	/		
第4回	法令上の制限(建築基準法-2)	竹村 幸生			
第5回	法令上の制限(国土利用計画法、宅地造成等規制法)	竹村 幸生			
第6回	法令上の制限(農地法、土地区画整理法)	竹村 幸生			
第7回	法令上の制限(所得税、登録免許税、印紙税)	竹村 幸生			

第8回	法令上の制限(不動産取得税、 固定資産税)	竹村 幸生
準備学習等	<p>学習する内容が多岐にわたり、日々新たな法律の理解を積み重ねていくこととなる。予習の必要はないが、講義で学んだ内容について、特にテキストを再読し、トレーニング問題集を複数回解き込むことにより、難解な法律であってもその読解力が身につく。復習を欠かさずに実施すること。</p>	
教科書 参考書等	<p>基礎講義 法令上の制限テキスト (学校法人 大原学園) 法令上の制限トレーニング問題集 (学校法人 大原学園)</p>	
備考	<p>各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場 合がある。 宅地建物取引士Ⅲは、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。</p>	

学科	行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・OA事務学科(1年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1学年・2学年

科目名	宅地建物取引士Ⅳ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	30時間	
			単位数	1単位	
科目教員	竹村 幸生		授業回数	5回	
			成績評価方法	筆記試験	: 70 %
				授業態度	: 30 %
					: %
					: %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員					
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	宅地建物取引士Ⅰ～Ⅲのまとめとして宅地建物取引業法、権利関係、法令上の制限の各種法律の相関関係を把握し、体系的な理解と知識の定着を図ることを目的とする。過去に宅地建物取引士資格試験に出題された問題を解答することができ、宅地建物取引士資格試験に合格できる知識を身につけることを到達目標とする。				
授業計画					
回数	授業内容			科目教員	
第1回	総まとめ問題① (宅地建物取引業法)			竹村 幸生	
第2回	総まとめ問題② (権利関係)			竹村 幸生	
第3回	総まとめ問題③ (法令上の制限)			竹村 幸生	
第4回	全国統一公開模擬試験 (演習と解説)			竹村 幸生	
第5回	直前模擬試験 (演習と解説)			竹村 幸生	
準備学習等	宅建物取引士Ⅰ～Ⅲで履修した内容を網羅的に確認しますので、事前に各種法律の内容をテキストで復習したうえで講義に臨んでください。				
教科書 参考書等	基礎講義 宅建業法テキスト (学校法人 大原学園) 基礎講義 権利関係テキスト (学校法人 大原学園) 基礎講義 法令上の制限テキスト (学校法人 大原学園)				

備考	<p>各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>宅地建物取引士Ⅳは、上記学科の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。</p>
----	---

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	2学年・3学年・4学年

科目名	社会保険労務士Ⅰ	授業形態	講義	
		選必の別	選択	
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	120時間	
		単位数	4単位	
科目教員	小関 哲也	授業回数	30回	
		成績評価方法	筆記試験	: 40 %
			ミニテスト	: 40 %
			授業態度	: 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容				
実務経験教員の 実務経験内容				
授業目的 到達目標	労働に関する法律及び社会保険に関する法律を理解し、労働及び社会保険に関する問題に対応できる知識を身につけるとともに、労働社会保険に係る手続業務等を行うことができることを目的とする。特に「社会保険労務士Ⅰ」では、労働法を中心に学習する。また、国家試験である社会保険労務士試験に出題される基礎問題を解答できるレベルを目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 労働基準法1 総則、労働契約締結時の規制 及び労使協定	小関 哲也	第16回	雇用保険法4 失業等給付等の通則及び費用 の負担	小関 哲也
第2回	労働基準法2 賃金、労働時間、休憩及び休日	小関 哲也	第17回	雇用保険法5 届出及び不服申し立て、時効	小関 哲也
第3回	労働基準法3 年次有給休暇	小関 哲也	第18回	確認テスト 労働者災害補償保険法、雇用 保険法	小関 哲也
第4回	労働基準法4 年少者、妊産婦等、災害補償	小関 哲也	第19回	労働保険徴収法1 総則、保険関係、労働保険料	小関 哲也

第5回	労働基準法5 就業規則、労働契約終了時の 規制等	小関 哲也	第20回	労働保険徴収法2 労働保険料の申告及び納付、 労働保険事務組合	小関 哲也
第6回	労働安全衛生法1 総論、労働者の危険及び健康 障害防止措置、安全衛生管理 体制	小関 哲也	第21回	労働保険徴収法3 届出及び不服申し立て、時効	小関 哲也
第7回	労働安全衛生法2 機械等と危険物及び有害物に 関する規制、健康の保持増進 のための措置	小関 哲也	第22回	社会保険に関する一般常識1 労使関係	小関 哲也
第8回	確認テスト 労働基準法、労働安全衛生法	小関 哲也	第23回	社会保険に関する一般常識2 職業安定関係	小関 哲也
第9回	労働者災害補償保険法1 総則、労災保険の適用、保険 事故	小関 哲也	第24回	社会保険に関する一般常識3 雇用均等関係	小関 哲也
第10回	労働者災害補償保険法2 保険給付、保険給付の通則	小関 哲也	第25回	確認テスト 労働保険徴収法、社会保険に 関する一般常識	小関 哲也
第11回	労働者災害補償保険法3 社会復帰促進事業、特別加入	小関 哲也	第26回	健康保険法1 総則、被保険者及び被扶養者	小関 哲也
第12回	労働者災害補償保険法4 届出及び不服申し立て、時効	小関 哲也	第27回	健康保険法2 標準報酬月額及び標準賞与 額、費用負担	小関 哲也
第13回	雇用保険法1 総則、被保険者及び賃金、求 職者給付	小関 哲也	第28回	健康保険法3 保険給付、任意継続被保険者	小関 哲也
第14回	雇用保険法2 就職促進給付、教育訓練給 付、雇用継続給付	小関 哲也	第29回	健康保険法4 日雇特例被保険者、全国健康 保険協会ビ健康組合	小関 哲也
第15回	雇用保険法3 育児休業給付金、雇用安定事 業等	小関 哲也	第30回	健康保険法5 届出及び不服申し立て、時効	小関 哲也
準備学習等	<p>社会保険労務士の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、社会保険労務士試験受験を希望する生徒は、トレーニング問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。</p>				
教科書 参考書等	<p>各労働に関する法律のテキスト（大原学園）、各労働に関する法律のトレーニング問題集択一式（大原学園）、各労働に関する法律のトレーニング問題集選択式（大原学園）</p>				

備考

授業計画の前提となる内容等については、法改正等に応じて一部変更する場合がある。
また、映像を活用したメディア授業に変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	2学年・3学年・4学年

科目名	社会保険労務士演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選択	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	小関哲也		授業回数	15回	
			成績評価方法	演習問題	:
授業態度	:	20		%	
	:			%	
科目教員のうち 実務経験教員		:			%
		:			%
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	各労働に関する法律の演習問題を通して、社会保険労務士Ⅰで学習した知識の理解を深めることを目的とする。 また、社会保険労務士試験に対応する基礎問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	演習問題1 範囲：労働基準法	小関 哲也	第9回	演習問題9 範囲：労働保険徴収法	小関 哲也
第2回	演習問題2 範囲：労働基準法	小関 哲也	第10回	演習問題10 範囲：労働保険徴収法	小関 哲也
第3回	演習問題3 範囲：労働安全衛生法	小関 哲也	第11回	演習問題11 範囲：社会保険に関する一般常識	小関 哲也
第4回	演習問題4 範囲：労働安全衛生法	小関 哲也	第12回	演習問題12 範囲：社会保険に関する一般常識	小関 哲也
第5回	演習問題5 範囲：労働者災害補償保険法	小関 哲也	第13回	演習問題13 範囲：健康保険法	小関 哲也
第6回	演習問題6 範囲：労働者災害補償保険法	小関 哲也	第14回	演習問題14 範囲：健康保険法	小関 哲也
第7回	演習問題7 範囲：雇用保険法	小関 哲也	第15回	演習問題15 範囲：健康保険法	小関 哲也
第8回	演習問題8 範囲：雇用保険法	小関 哲也			

準備学習等	社会保険労務士Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、社会保険労務士Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要である。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付する。 復習用教材として、社会保険労務士Ⅰで使用している各労働に関する法律のテキスト及びトレーニング問題集を持参すること。
備考	授業計画の演習問題の範囲については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する可能性がある。 社会保険労務士演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	OA事務学科(1年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	FP技能士3級		授業形態	講義	
			選必の別	選択	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績評価方法	筆記試験	: 40 %
ミニテスト	: 40 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	<p>ファイナンシャルプランナー（FP）はお金の専門家です。これからの時代、社会人となって必要不可欠となるのが今後の「人生設計」とそれに伴う「お金」の知識です。FP資格は年金・保険・税金といった生活を豊かにする知識の他、株式や預貯金などの金融資産、不動産、相続といったお金に関する幅広い分野を学習することができます。学習を通して基本的なライフプランニングができる知識の習得を目的とし、国家試験であるFP技能士3級検定試験の学科試験と実技試験の両方に合格することのできる能力を身につけることを到達目標とします。</p>				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス ライフプランニングと資金計画（FPとライフプランニング、教育・住宅取得資金計画、社会保険）	千葉 菜愛	第9回	タックスプランニング（税金の分類と計算体系、所得税の仕組み、各種所得の内容）	千葉 菜愛
第2回	ライフプランニングと資金計画（公的年金制度の概要、老後の生活資金設計と公的年金、公的年金における障害給付・遺族給付）	千葉 菜愛	第10回	タックスプランニング（課税標準に計算、所得控除、税額控除）	千葉 菜愛

第3回	ライフプランニングと資金計画（企業年金・自営業者のための年金、ライフプランニングの考え方）	千葉 菜愛	第11回	タックスプランニング（確定申告、個人住民税と個人事業税）	千葉 菜愛
第4回	リスク管理（リスクマネジメント、保険制度全般、生命保険の概略、生命保険商品の種類と内容）	千葉 菜愛	第12回	不動産（不動産の見方、不動産の取引、不動産に関する法令上の制限）	千葉 菜愛
第5回	リスク管理（損害保険の概略、損害保険商品の種類と内容、個人・法人の契約に関する税金、第三分野の保険・共済）	千葉 菜愛	第13回	不動産（不動産に係る税金、不動産の有効活用）	千葉 菜愛
第6回	金融資産運用（マーケット環境の理解、預貯金等、債券、株式）	千葉 菜愛	第14回	相続・事業承継（相続と法律、贈与と法律、贈与と税金、相続と税金）	千葉 菜愛
第7回	金融資産運用（投資信託、外貨建て商品、金融派生商品）	千葉 菜愛	第15回	相続・事業承継（財産の評価（不動産・金融資産）、相続対策）	千葉 菜愛
第8回	金融資産運用（ポートフォリオ理論、金融商品と税金、セーフティネット、関連法規）	千葉 菜愛	/		
準備学習等	予習の必要はありません。経済（社会）や法律を学ぶことになるため、不明な点は教員に質問をして、次回の講義に備えてください。				
教科書 参考書等	ファイナンシャル・プランナー3級 テキスト（大原出版） ファイナンシャル・プランナー3級 問題集（大原出版）				
備考	各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 FP技能士3級は、上記学科及び各学年の選択科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。				

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	F P 技能士 3 級演習		授業形態	演習
			選必の別	選択
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	15時間
			単位数	1単位
科目教員	千葉 菜愛		授業回数	5回
			成績評価方法	筆記試験
授業態度	: 30 %			
	: %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員				: %
実務経験教員の実務経験に関する授業内容				
実務経験教員の実務経験内容				
授業目的 到達目標	ファイナンシャルプランナーとして必要な年金、保険、金融資産、税金、不動産、相続などの知識を、過去試験問題や模擬問題を通して答案練習・解説することで、理解を深めてもらうことを目的としています。FP技能士3級受験のため学科及び実技問題を、本試験通りの時間設定の中で解答し、常に合格点数以上を取ることを達成目標とします。			
授業計画				
回数	授業内容			科目教員
第1回	ガイダンス 過去試験対策①			千葉 菜愛
第2回	過去試験対策②			千葉 菜愛
第3回	過去試験対策③			千葉 菜愛
第4回	模擬試験①			千葉 菜愛
第5回	模擬試験②			千葉 菜愛
準備学習等	反復の答案練習が必要となります。間違った問題の解き直しに全力を注いでください。また、学科試験、実技試験をバランスよく学習することを心がけてください。			

<p>教科書 参考書等</p>	<p>ファイナンシャル・プランナー3級 学科・実技過去試験問題集 問題編 (学校法人 大原学園)</p> <p>ファイナンシャル・プランナー3級 学科・実技過去試験問題集 解答編 (学校法人 大原学園)</p> <p>ファイナンシャル・プランニング技能検定3級 学科模擬試験 (学校法人 大原学園)</p> <p>ファイナンシャル・プランニング技能検定3級 実技模擬試験 (学校法人 大原学園)</p> <p>復習用教材として、FP技能士3級で使用しているテキストを持参してください。</p>
<p>備考</p>	<p>各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>F P 技能士 3 級演習は、上記学科及び各学年の選択科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。</p>

学科	OA事務学科(1年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	コンピュータ会計	授業形態	演習
		選必の別	選択
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	30時間
		単位数	2単位
科目教員	竹村 幸生	授業回数	8回
		成績評価方法	筆記試験
授業態度	: 50 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	簿記に関連した科目を履修したものが、その知識を実務でも活用できるよう会計ソフト(弥生会計)を使用し実習することで、簿記の知識(いわゆる受験簿記の知識)と会計ソフトを利用した場合の簿記とのつながり、相違点を理解してもらうことを目的としています。自ら会計ソフトを利用して基礎的な会計処理(入力・集計等)ができるようになること、コンピュータ会計能力検定2級を取得するための知識と技能を身につけることを到達目標とします。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	ガイダンス及び会計ソフトの操作	竹村 幸生	
第2回	企業の基幹業務と会計処理	竹村 幸生	
第3回	税金に関連する業務と会計処理	竹村 幸生	
第4回	会計データ(証ひょうによる)の入力処理と集計	竹村 幸生	
第5回	決算に関連する業務と会計処理	竹村 幸生	
第6回	予算管理と経営分析指標	竹村 幸生	
第7回	収益構造分析と短期利益計画	竹村 幸生	

第8回	キャッシュ・フロー分析	竹村 幸生
準備学習等	<p>パソコンを利用した会計処理の実習が中心となります。序盤は慣れない作業に苦労することになりますが、繰り返し実習を積むことでその技術(入力の手速・精度)は上達します。空き時間等を利用し、積極的にパソコン教室での練習を心がけてください。なお、予習は不要です。</p>	
教科書 参考書等	<p>コンピュータ会計応用テキスト（実教出版） コンピュータ会計応用問題集（実教出版） コンピュータ会計能力検定試験 過去問題集（公益社団法人 全国経理教育協会）</p>	
備考	<p>各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>コンピュータ会計は、上記学科及び各学年の選択科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。</p>	

学科	〇 A 事務学科(1 年課程)・〇 A 事務学科(2 年課程)・ビジネス学科(2 年課程)・経理事務学科(2 年課程)・情報システム学科(2 年課程)・情報システム学科(3 年課程)・税理士会計士学科(2 年課程)・税理士会計士学科(2 年 4 ヶ月課程)・税理士会計士学科(3 年課程)・税理士会計士学科(4 年課程)・税理士会計士専攻学科(1 年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	簿記論 I		授業形態		講義		
			選必の別		選必		
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数		120時間		
			単位数		4単位		
科目教員	竹村 幸生		授業回数		30回		
			成績評価方法	筆記試験		: 40 %	
				ミニテスト		: 40 %	
				授業態度		: 20 %	
						: %	
科目教員のうち実務経験教員				: %			
実務経験教員の授業内容							
実務経験教員の授業内容							
授業目的到達目標		日商簿記検定2級（商業簿記）程度の簿記知識をすでに習得していることを前提に、中小企業にて行われる各種取引の会計処理について細部まで解説することで、理解を深めてもらうことを目的としています。そして、日々の取引から決算整理に至るまで、主要簿及び補助簿等への記入や締め切り、帳簿を基礎として作成される各種試算表や精算表といった、主に企業内部で使用される帳票類を自ら作成できる能力と、税理士試験簿記論に合格できる基礎能力を身につけることを到達目標とします。					
授業計画							
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員		
第1回	ガイダンス 簿記の目的、簿記の仕組み	竹村 幸生	第16回	当座預金の期末修正、当座借越	竹村 幸生		
第2回	主要簿及び補助簿、決算振替	竹村 幸生	第17回	その他資本剰余金、利益準備金・繰越利益剰余金	竹村 幸生		
第3回	精算表、貸借対照表及び損益計算書	竹村 幸生	第18回	自己株式の概要、自社利用目的のソフトウェア	竹村 幸生		
第4回	現金の範囲、現金過不足、当座預金（小切手）	竹村 幸生	第19回	税効果会計の概要、将来減算一時差異	竹村 幸生		
第5回	債権債務、約束手形	竹村 幸生	第20回	売上原価計上法、分記法、総記法	竹村 幸生		
第6回	三分法、商品有高帳、商品評価損等	竹村 幸生	第21回	償却原価法（利息法）、社債の買入償還	竹村 幸生		
第7回	固定資産の概要、減価償却、固定資産の売却等	竹村 幸生	第22回	原価率・利益率、仕入・売上の計上基準	竹村 幸生		

第8回	資本的支出と収益的支出、無形固定資産	竹村 幸生	第23回	自己株式の処分・消却、満期保有目的の債券	竹村 幸生
第9回	源泉所得税・社会保険料、賞与引当金	竹村 幸生	第24回	その他有価証券、有価証券の減損処理	竹村 幸生
第10回	貸倒損失、貸倒引当金(実績率法、財務内容評価法)	竹村 幸生	第25回	新株予約権、株主資本等変動計算書	竹村 幸生
第11回	損益の見越・繰延、退職給付(簡便法・退職一時金制度)	竹村 幸生	第26回	固定資産の売却等(手数料、消費税、値引)	竹村 幸生
第12回	有価証券の概要、売買目的有価証券、関係会社株式	竹村 幸生	第27回	割引現在価値の算定	竹村 幸生
第13回	法人税等、租税公課、消費税等	竹村 幸生	第28回	減損会計の概要、減損の兆候・認識の判定及び測定	竹村 幸生
第14回	手形の譲渡、社債の概要、償却原価法(定額法)	竹村 幸生	第29回	退職給付(原則法・退職一時金制度と企業年金制度)	竹村 幸生
第15回	純資産の概要、資本金・資本準備金	竹村 幸生	第30回	転換社債型新株予約権付社債(区分法)	竹村 幸生
準備学習等	会計処理の知識や帳簿記入の技術を身につけるためには、日々の復習を欠かさず地道な努力を継続することが何より求められます。項目によっては大変難易度の高い内容も含まれていますので、講義の中で全てが完結するものと考えず、講義後の復習(問題演習)を実施することでより理解が深まることを認識して下さい。なお、予習は不要です。				
教科書 参考書等	簿記論計算テキスト1(大原学園)、計算問題集1-1、1-2(大原学園) 簿記論計算テキスト2(大原学園)、計算問題集2-1、2-2(大原学園) 簿記論個別計算問題集(大原出版)、簿記論総合計算問題集基礎編(大原出版)				
備考	各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 簿記論Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	簿記論Ⅱ		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数		180時間	
			単位数		6単位	
科目教員	竹村 幸生		授業回数		45回	
			成績 評価 方法	筆記試験		: 40 %
ミニテスト		: 40 %				
授業態度		: 20 %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員					: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容						
実務経験教員の 実務経験内容						
授業目的 到達目標	簿記論Ⅰで履修した中小企業を中心とした会計処理に加え、上場企業をも前提とした会計処理を詳細に解説し、理解してもらうことを目的としています。帳票類から情報を読み取り、企業を取り巻く利害関係者に報告するために作成される基本的な決算書類（損益計算書、貸借対照表、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書等）を自らある程度作成・表示できる能力を身につけること、また、税理士試験簿記論に合格できる知識と計算技術を身につけることを到達目標とします。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	ガイダンス リース取引（オペレーティング・リースとファイナンス・リース）	竹村 幸生	第24回	リース取引(リース料先払い)	竹村 幸生	
第2回	外貨建会計（外貨建項目の基本的な換算）、保険金の取り扱い	竹村 幸生	第25回	ソフトウェア(受注制作のソフトウェア)	竹村 幸生	
第3回	退職給付（原則法・各種差異）	竹村 幸生	第26回	有価証券(配当を受けた株主の処理、保有目的区分の変更)	竹村 幸生	
第4回	転換社債型新株予約権付社債（一括法）	竹村 幸生	第27回	資産除去債務(資産除去債務に係る税効果)	竹村 幸生	
第5回	外貨建会計（為替予約・独立処理）	竹村 幸生	第28回	本支店会計(在外支店)	竹村 幸生	
第6回	圧縮記帳(直接減額方式、積立金方式)	竹村 幸生	第29回	新株予約権付社債(外貨建転換社債型新株予約権付社債)	竹村 幸生	

第7回	試用販売(対照勘定法・手許商品区分法)	竹村 幸生	第30回	金利スワップ、会計上の変更(会計方針の変更に係る税効果)	竹村 幸生
第8回	本支店会計(期中手続、決算手続、合併財務諸表の作成)	竹村 幸生	第31回	リース取引(貸手側の処理)	竹村 幸生
第9回	製造業会計(製造業会計一巡)	竹村 幸生	第32回	伝票会計(三伝票制、五伝票制)、社債(抽選償還)	竹村 幸生
第10回	資産除去債務(概要、基本的な会計処理)	竹村 幸生	第33回	組織再編会計(株式交換、株式移転)、分配可能額	竹村 幸生
第11回	キャッシュ・フロー計算書(直接法)	竹村 幸生	第34回	リース取引(残価保証、中途解約、維持管理費用相当額)	竹村 幸生
第12回	外貨建会計(為替予約・振当処理)、ソフトウェア(市場販売目的)	竹村 幸生	第35回	連結会計(段階取得、連結税効果会計)	竹村 幸生
第13回	組織再編会計(企業結合)、貸倒引当金(キャッシュ・フロー見積法)	竹村 幸生	第36回	ストック・オプション(公正な評価単価の変更)	竹村 幸生
第14回	会計上の変更等(会計上の見積変更、過去の誤謬の訂正)	竹村 幸生	第37回	収益認識基準(概要、返金負債、契約資産・契約負債等)	竹村 幸生
第15回	連結会計(取得日連結、連結第1年度の処理)	竹村 幸生	第38回	令和3年税理士試験 本試験問題演習及び解説	竹村 幸生
第16回	本支店会計(支店間取引)、減損会計(共用資産)	竹村 幸生	第39回	令和4年税理士試験 本試験問題演習及び解説	竹村 幸生
第17回	委託販売・受託販売	竹村 幸生	第40回	令和5年税理士試験 本試験問題演習及び解説	竹村 幸生
第18回	キャッシュ・フロー計算書(間接法)	竹村 幸生	第41回	全国統一公開模擬試験 〔内容〕全範囲を対象とした本試験受験対策問題の演習及び解説	竹村 幸生
第19回	連結会計(持分法、持分法第1年度の処理)	竹村 幸生	第42回	第1回直前予想公開模擬試験 〔内容〕全範囲を対象とした本試験受験対策問題の演習及び解説	竹村 幸生
第20回	組織再編会計(事業分離)、ストック・オプション(概要)	竹村 幸生	第43回	第2回直前予想公開模擬試験 〔内容〕全範囲を対象とした本試験受験対策問題の演習及び解説	竹村 幸生
第21回	会計上の変更等(会計方針の変更)	竹村 幸生	第44回	総まとめ確認問題①	竹村 幸生
第22回	連結会計(連結第2年度以降の処理)	竹村 幸生	第45回	総まとめ確認問題②	竹村 幸生

第23回	リース取引(セール・アンド・リースバック)	竹村 幸生	
準備学習等	<p>会計処理の知識や帳簿記入の技術を身につけるためには、日々の復習を欠かさず地道な努力を継続することが何より求められます。項目によっては大変難易度の高い内容も含まれていますので、講義の中で全てが完結するものと考えず、講義後の復習（問題演習）を実施することでより理解が深まることを認識して下さい。なお、予習は不要です。</p>		
教科書 参考書等	<p>簿記論計算テキスト2(大原学園)、計算問題集2-2(大原学園) 簿記論計算テキスト3(大原学園)、計算問題集3(大原学園) 簿記論直前対策テキスト(大原学園)、直前対策問題集(大原学園) 簿記論個別計算問題集（大原出版）、簿記論総合計算問題集応用編（大原出版）</p>		
備考	<p>各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 簿記論Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。</p>		

学科	〇A事務学科(1年課程)・〇A事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務諸表論Ⅰ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	120時間	
			単位数	4単位	
科目教員	千葉 菜愛		授業回数	30回	
			成績評価方法	筆記試験	: 40 %
				ミニテスト	: 40 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	企業の経済活動を表す損益計算書や貸借対照表などの財務諸表の作成に関する原理や原則を計算と理論に分けて学習します。計算では日々の取引を集計した残高試算表から、財務諸表を作成する能力を身につけ、理論では企業会計原則を理解し記述することができる力を身につけることを目的とします。また、税理士試験財務諸表論に合格できる能力の基礎を身につけることを到達目標とします。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	計算：ガイダンス 財務諸表論の概要、貸借対照表（株主資本除く）流動固定の分類基準、損益計算書	千葉 菜愛	第16回	計算：割引現在価値、資産除去債務 理論：費用収益対応の原則、一般販売の収益認識	千葉 菜愛
第2回	計算：現金及び預金、債権及び債務	千葉 菜愛	第17回	計算：当座借越 理論：特殊販売の収益認識	千葉 菜愛

第3回	計算：個別注記表（重要な会計方針）、B/S注記、損益の見越・繰延 理論：ガイダンス	千葉 菜愛	第18回	計算：関係会社に対する債権債務 理論：工事契約（基本）、P/L表示原則、B/S表示原則	千葉 菜愛
第4回	計算：銀行勘定調整表 理論：財務諸表論の基礎概念	千葉 菜愛	第19回	計算：ソフトウェア、税金（外形基準、租税公課） 理論：財務諸表論の基礎概念（資本循環と財務諸表、会計観）	千葉 菜愛
第5回	計算：棚卸資産（売上原価の算定） 理論：一般原則（真実性の原則）	千葉 菜愛	第20回	計算：税効果会計 理論：貸借対照表の本質	千葉 菜愛
第6回	計算：有形固定資産、無形固定資産 理論：一般原則（正規の簿記の原則）	千葉 菜愛	第21回	計算：源泉所得税、社会保険料、棚卸資産（返品、値引、割戻） 理論：資産総論（分類、評価）	千葉 菜愛
第7回	計算：引当金（一般債権）、給料等 理論：一般原則（明瞭性の原則）	千葉 菜愛	第22回	計算：株主資本等変動計算書 理論：棚卸資産（数量計算、評価方法）	千葉 菜愛
第8回	計算：引当金（懸念、破産） 理論：一般原則（継続性の原則）	千葉 菜愛	第23回	計算：減損会計 理論：固定資産の定義と分類、取得原価（自家建設）	千葉 菜愛
第9回	計算：退職給付（簡便法） 理論：一般原則（資本利益区別の原則）	千葉 菜愛	第24回	計算：棚卸資産（他勘定振替） 理論：固定資産の取得原価（現物出資、交換）	千葉 菜愛

第10回	計算：法人税等・追徴還付、株主資本 理論：一般原則（単一性の原則）	千葉 菜愛	第25回	計算：償却原価法（利息法） 理論：固定資産（減価償却、評価減）	千葉 菜愛
第11回	計算：その他の引当金 理論：一般原則（保守主義の原則）	千葉 菜愛	第26回	計算：為替予約（独立処理） 理論：固定資産（資本的支出、特殊な有形固定資産の費用化）	千葉 菜愛
第12回	計算：関係会社（議決権による判定） 理論：重要性の原則	千葉 菜愛	第27回	計算：有価証券（その他有価証券） 理論：資本総論（実体資本維持）	千葉 菜愛
第13回	計算：有価証券（基本的評価等） 理論：P/Lの本質と構造、発生主義会計と現金主義会計	千葉 菜愛	第28回	計算：圧縮記帳（直接）、消費税 理論：繰延資産（概念）、繰延資産（会計処理）	千葉 菜愛
第14回	計算：社債 理論：期間損益計算の基本原則及び収支額基準	千葉 菜愛	第29回	計算：外貨建有価証券 理論：負債（引当金）、負債（偶発債務）、財務諸表論の基礎概念（会計観 資産・負債）	千葉 菜愛
第15回	計算：外貨建取引（基本的換算） 理論：実現主義の原則、発生主義の原則	千葉 菜愛	第30回	計算：P/L注記（取締役に対する金銭債権債務）、有価証券（配当を受けた株主の処理） 理論：資産の評価（時価）、資産の評価（現価主義）	千葉 菜愛
準備学習等	財務諸表論については、計算と理論をバランスよく学習していきます。そのため、日々の復習と理論暗記を継続することが必要不可欠です。講義内で指示する問題演習を欠かさず実施することで、より理解が深まるものと解してください。なお、予習は不要です。				

<p>教科書 参考書等</p>	<p>財務諸表論計算テキスト1（大原学園）、計算問題集1-1、1-2（大原学園）、理論テキスト1（大原学園） 財務諸表論計算テキスト2（大原学園）、計算問題集2-1、2-2（大原学園）、理論テキスト2（大原学園） 財務諸表論個別計算問題集（大原出版）、財務諸表論総合計算問題集基礎編（大原出版）</p>
<p>備考</p>	<p>各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 財務諸表論Ⅰは、上記学科及び各学年の選択科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。</p>

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	財務諸表論Ⅱ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	180時間	
			単位数	6単位	
科目教員	千葉 菜愛		授業回数	45回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 40 %
ミニテスト	: 40 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	財務諸表論Ⅰと同様に財務諸表の作成に関する原理や原則を計算と理論に分けて学習します。計算では、財務諸表論Ⅰで履修した損益計算書や貸借対照表以外にも、キャッシュ・フロー計算書等の利害関係者への報告資料の作成方法を習得し、理論では、概念フレームワークや金融商品会計基準といった財務諸表論Ⅰで履修した以外の会計基準について理解することを目的とします。また、税理士試験財務諸表論に合格できる計算能力と会計基準を記述する力を身につけることを到達目標とします。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	計算：ガイダンス 理論：ガイダンス	千葉 菜愛	第24回	計算：株主資本（新株式申込証拠金、新株自己株同時交付） 理論：キャッシュ・フロー計算書	千葉 菜愛
第2回	計算：P/L注記（関係会社との取引高）、後発事象の注記 理論：概念フレームワーク	千葉 菜愛	第25回	計算：株主資本（一株当たり情報） 理論：株主資本等変動計算書	千葉 菜愛

第3回	計算：リース会計 理論：損益計算論（投資のリスクからの解放）	千葉 菜愛	第26回	計算：分配可能額（のれん等調整額） 理論：企業結合会計	千葉 菜愛
第4回	計算：退職給付（原則法） 理論：資産の分類（事業投資・金融投資）	千葉 菜愛	第27回	計算：連結会計（取得日連結） 理論：事業分離会計	千葉 菜愛
第5回	計算：金融商品（証券投資信託、ゴルフ会員権） 理論：工事契約（応用）	千葉 菜愛	第28回	計算：連結会計（連結第1年度） 理論：連結財務諸表（基礎概念）	千葉 菜愛
第6回	計算：退職給付（原則法）各種差異 理論：金融商品の範囲、発生消滅認識、基本的評価	千葉 菜愛	第29回	計算：会計上の変更等（会計方針） 理論：連結財務諸表（純利益・包括利益）	千葉 菜愛
第7回	計算：製造業会計（基本） 理論：金融商品（金銭債権）	千葉 菜愛	第30回	計算：新株予約権、新株予約権付社債 理論：四半期財務諸表	千葉 菜愛
第8回	計算：研究開発費 理論：金融商品（有価証券）	千葉 菜愛	第31回	計算：ストック・オプション 理論：税効果会計	千葉 菜愛
第9回	計算：繰延資産 理論：金融商品（事業用資産・金融資産）	千葉 菜愛	第32回	計算：財務諸表等規則 理論：外貨換算会計	千葉 菜愛

第10回	計算：製造業会計（仕掛品評価） 理論：金融商品会計（金融負債の評価）	千葉 菜愛	第33回	計算：税効果会計（資産除去債務に係る税効果） 理論：ストック・オプション	千葉 菜愛
第11回	計算：為替予約（振当処理） 理論：金融商品会計（デリバティブ取引）	千葉 菜愛	第34回	計算：組織再編会計（株式交換） 理論：連結財務諸表（退職給付）	千葉 菜愛
第12回	計算：売価還元法 理論：金融商品会計（ヘッジ取引）	千葉 菜愛	第35回	理論：収益認識に関する会計基準	千葉 菜愛
第13回	計算：組織再編会計（合併、事業譲受） 理論：収益性の低下（固定資産）	千葉 菜愛	第36回	計算：組織再編会計（共通支配下の取引） 理論：実践問題対策（配分と評価、会計観）	千葉 菜愛
第14回	計算：組織再編会計（事業分離） 理論：収益性の低下（棚卸資産）	千葉 菜愛	第37回	計算：収益認識（売上割引） 理論：実践問題対策（資産及び負債の貸借対照表能力）	千葉 菜愛
第15回	計算：為替予約（ヘッジ会計） 理論：収益性の低下（工事損失引当金）	千葉 菜愛	第38回	計算：収益認識（カスタマー・ロイヤルティ・プログラム） 理論：実践問題対策（割引現在価値、純資産と包括利益）	千葉 菜愛
第16回	計算：金利スワップ 理論：リース会計	千葉 菜愛	第39回	理論総まとめ① （一般原則、P/L総論、B/S総論）	千葉 菜愛

第17回	計算：引当金（CF見積法） 理論：研究開発費・ソフトウェア	千葉 菜愛	第40回	理論総まとめ② （棚卸資産、固定資産、繰延資産、負債）	千葉 菜愛
第18回	計算：退職給付（簡便法）企業年金併用 理論：退職給付会計	千葉 菜愛	第41回	理論総まとめ③ （概念フレームワーク、金融商品、負債）	千葉 菜愛
第19回	計算：圧縮記帳（積立金） 理論：資産除去債務	千葉 菜愛	第42回	理論総まとめ④ （純資産会計、企業結合会計、事業分離会計）	千葉 菜愛
第20回	計算：分配可能額 理論：分配可能額	千葉 菜愛	第43回	令和3年度 本試験問題演習及び解説	千葉 菜愛
第21回	計算：C/F（営業活動） 理論：純資産会計（資本の概念）	千葉 菜愛	第44回	令和4年度 本試験問題演習及び解説	千葉 菜愛
第22回	計算：C/F（投資・財務活動） 理論：純資産会計（自己株式）	千葉 菜愛	第45回	令和5年度 本試験問題演習及び解説	千葉 菜愛
第23回	計算：会計上の変更等（見積り、減価償却方法の変更） 理論：会計上の変更及び誤謬の訂正	千葉 菜愛	/		

準備学習等	財務諸表論については、計算と理論をバランスよく学習していきます。そのため、日々の復習と理論暗記を継続することが必要不可欠です。講義内で指示する問題演習を欠かさず実施することで、より理解が深まるものと解してください。なお、予習は不要です。
教科書 参考書等	財務諸表論計算テキスト2（大原学園）、計算問題集2-1、2-2（大原学園）、理論テキスト1（大原学園） 財務諸表論計算テキスト3（大原学園）、計算問題集3（大原学園）、理論テキスト2（大原学園） 直前対策テキスト1（大原出版）、直前対策テキスト2（大原出版）、過去試験問題集（大原出版） 財務諸表論個別計算問題集（大原出版）、 財務諸表論総合計算問題集応用編（大原出版）
備考	各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 財務諸表論Ⅱは、上記学科及び各学年の選択科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	消費税法Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	120時間
		単位数	4単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	30回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 %
ミニテスト : 40 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也	: %	: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	--

授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算及び消費税法の法解釈を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、消費税法の計算と理論を体系的に学習することにより、税理士試験消費税法に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。
--------------	---

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第17回	相続があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第18回	合併があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第19回	会社分割があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除対象仕入税額(個別対応方式・一括比例配分方式)	小関 哲也	第20回	新設法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	特定新規設立法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也

第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第22回	合併があった場合の中間申告に係る納付税額の計算の特例	小関 哲也
第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第23回	棚卸資産に係る仕入税額控除の調整	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第24回	課税標準	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第25回	簡易課税制度①	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第26回	簡易課税制度②	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也	第27回	軽減税率 旧税率に関する経過措置	小関 哲也
第13回	非課税資産の輸出等を行った場合の仕入税額の特例	小関 哲也	第28回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第14回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除①	小関 哲也	第29回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第15回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除②	小関 哲也	第30回	国等に対する特例	小関 哲也

準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合がある。 消費税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅱ		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		180時間	
			単位数		6単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数		45回	
			成績 評価 方法	筆記試験		: 40 %
ミニテスト		: 40 %				
授業態度		: 20 %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務における各事例に対応した消費税を計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験消費税法に対応できる知識を習得する授業を行う。					
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。					
授業目的 到達目標	実務における各事例に対応した消費税の計算及び消費税法の法解釈ができ、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、消費税法Ⅰ・Ⅱの総括として、税理士試験消費税法において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験消費税法の合格レベルを目指す。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	改正税制講義②	小関 哲也	
第2回	課税の対象を論点とする取引 関係の事例	小関 哲也	第25回	改正税制講義③	小関 哲也	
第3回	国内取引の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第26回	平成19年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也	
第4回	非課税の判定を論点とする取 引関係の事例	小関 哲也	第27回	平成20年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也	
第5回	輸出免税の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第28回	平成23年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也	
第6回	電気通信利用役務提供を論点 とする事例	小関 哲也	第29回	平成25年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也	
第7回	税額控除等を論点とする取引 関係の事例①	小関 哲也	第30回	平成28年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也	

第8回	税額控除等を論点とする取引関係の事例②	小関 哲也	第31回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第9回	税額控除等を論点とする取引関係の事例③	小関 哲也	第32回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第10回	税額控除等を論点とする取引関係の事例④	小関 哲也	第33回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第11回	納税義務の判定事例（相続）	小関 哲也	第34回	公開模擬試験①	小関 哲也
第12回	納税義務の判定事例（合併）	小関 哲也	第35回	公開模擬試験②	小関 哲也
第13回	納税義務の判定事例（分割等）	小関 哲也	第36回	公開模擬試験③	小関 哲也
第14回	納税義務の判定事例（吸収分割）	小関 哲也	第37回	公開模擬試験④	小関 哲也
第15回	納税義務の判定事例（新設法人）	小関 哲也	第38回	公開模擬試験⑤	小関 哲也
第16回	納税義務の判定事例（特定新規設立法人）	小関 哲也	第39回	公開模擬試験⑥	小関 哲也
第17回	納税義務の判定事例（高額特定資産を取得した場合）	小関 哲也	第40回	公開模擬試験⑦	小関 哲也
第18回	課税期間の判定事例	小関 哲也	第41回	公開模擬試験⑧	小関 哲也
第19回	納税地の判定事例	小関 哲也	第42回	公開模擬試験⑨	小関 哲也
第20回	届出関係の事例①	小関 哲也	第43回	総まとめテスト①	小関 哲也
第21回	届出関係の事例②	小関 哲也	第44回	総まとめテスト②	小関 哲也
第22回	届出関係の事例③	小関 哲也	第45回	総まとめテスト③	小関 哲也
第23回	改正税制講義①	小関 哲也			
準備学習等	<p>消費税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。</p> <p>なお、各回において復習のための総合問題を解答します。</p>				
教科書 参考書等	<p>消費税法計算テキストⅡ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集応用編（大原出版）、税理士試験過去問題集(大原学園)、公開模擬試験(大原学園)</p>				

備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。 消費税法Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同 授業となる。
----	--

学科	税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・ 税理士会計士学科(4年課程)
学年	2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅲ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	180時間
		単位数	6単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	45回
		成績 評価 方法	筆記試験
ミニテスト	: 40 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	<p>実務における各事例に対応した消費税を計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。</p> <p>また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験消費税法に対応できる知識を習得する授業を行う。</p>
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	<p>一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。</p>
-------------------	---

授業目的 到達目標	<p>実務における各事例に対応した消費税の計算及び消費税法の法解釈ができ、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。</p> <p>また、消費税法の総括として、税理士試験消費税法において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験消費税法の合格レベルを目指す。</p>
--------------	---

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	改正税制講義②	小関 哲也
第2回	課税の対象を論点とする取引 関係の事例	小関 哲也	第25回	改正税制講義③	小関 哲也
第3回	国内取引の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第26回	平成19年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第4回	非課税の判定を論点とする取 引関係の事例	小関 哲也	第27回	平成20年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第5回	輸出免税の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第28回	平成23年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第6回	電気通信利用役務提供を論点 とする事例	小関 哲也	第29回	平成25年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第7回	税額控除等を論点とする取引 関係の事例①	小関 哲也	第30回	平成28年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也

第8回	税額控除等を論点とする取引関係の事例②	小関 哲也	第31回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第9回	税額控除等を論点とする取引関係の事例③	小関 哲也	第32回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第10回	税額控除等を論点とする取引関係の事例④	小関 哲也	第33回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第11回	納税義務の判定事例（相続）	小関 哲也	第34回	公開模擬試験①	小関 哲也
第12回	納税義務の判定事例（合併）	小関 哲也	第35回	公開模擬試験②	小関 哲也
第13回	納税義務の判定事例（分割等）	小関 哲也	第36回	公開模擬試験③	小関 哲也
第14回	納税義務の判定事例（吸収分割）	小関 哲也	第37回	公開模擬試験④	小関 哲也
第15回	納税義務の判定事例（新設法人）	小関 哲也	第38回	公開模擬試験⑤	小関 哲也
第16回	納税義務の判定事例（特定新規設立法人）	小関 哲也	第39回	公開模擬試験⑥	小関 哲也
第17回	納税義務の判定事例（高額特定資産を取得した場合）	小関 哲也	第40回	公開模擬試験⑦	小関 哲也
第18回	課税期間の判定事例	小関 哲也	第41回	公開模擬試験⑧	小関 哲也
第19回	納税地の判定事例	小関 哲也	第42回	公開模擬試験⑨	小関 哲也
第20回	届出関係の事例①	小関 哲也	第43回	総まとめテスト①	小関 哲也
第21回	届出関係の事例②	小関 哲也	第44回	総まとめテスト②	小関 哲也
第22回	届出関係の事例③	小関 哲也	第45回	総まとめテスト③	小関 哲也
第23回	改正税制講義①	小関 哲也			
準備学習等	<p>消費税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。</p> <p>なお、各回において復習のための総合問題を解答します。</p>				
教科書 参考書等	<p>消費税法計算テキストⅡ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集応用編（大原出版）、税理士試験過去問題集（大原学園）、公開模擬試験（大原学園）、年内完結問題集（大原学園）、完全合格問題集（大原学園）</p>				

備考	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。</p> <p>消費税法Ⅲは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年の消 費税法Ⅱと合同授業となる。</p> <p>ただし、宿題とする問題については、消費税法Ⅱより発展的な難解な問題となる。</p>
----	---

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	法人税法Ⅰ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間	
			単位数	4単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	30回	
			成績評価方法	筆記試験	: 40 %
				ミニテスト	: 40 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	実務において、法人税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算の根拠となる法人税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。				
実務経験教員の実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	法人税の仕組みを理解し、法人税の計算及び法人税法の法解釈を基礎から学び、法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法の計算と理論を体系的に学習することにより、公益社団法人全国経理教育協会主催文部科学省後援法人税法能力検定試験2級又は1級の合格レベル、及び税理士試験法人税に出題される基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 法人税法の概要	小関 哲也	第16回	役員判定・役員給与①	小関 哲也
第2回	交際費等の損金不算入①・減価償却①	小関 哲也	第17回	役員判定・役員給与②・使用人給与	小関 哲也
第3回	減価償却②・受取配当等の益金不算入①	小関 哲也	第18回	交際費等の損金不算入③・特定資産の買換え	小関 哲也
第4回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第19回	租税公課及び納税充当金②	小関 哲也
第5回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第20回	地方法人税の計算・みなし配当①	小関 哲也
第6回	減価償却③・有価証券②	小関 哲也	第21回	資本等取引①・租税公課及び納税充当金③・外国税額控除	小関 哲也

第7回	別表4の作成	小関 哲也	第22回	外国子会社から受ける配当等の益金不算入・寄付金の損金不算入③	小関 哲也
第8回	使途秘匿金の課税の特例・貸倒損失	小関 哲也	第23回	保険差益・リース取引	小関 哲也
第9回	貸倒引当金①・欠損金①	小関 哲也	第24回	繰延資産・欠損金②	小関 哲也
第10回	貸倒引当金②・外貨建取引	小関 哲也	第25回	交換差益・受取配当等の益金不算入③	小関 哲也
第11回	収用等①・受取配当金の益金不算入②	小関 哲也	第26回	租税公課及び納税充当金④・確定決算型	小関 哲也
第12回	交際費等の損金不算入②・寄付金の損金不算入②	小関 哲也	第27回	グループ法人税制①	小関 哲也
第13回	租税公課等及び納税充当金②・有価証券③	小関 哲也	第28回	欠損金額・資産の評価損益	小関 哲也
第14回	所得額控除・国庫補助金等・別表5作成・有価証券④	小関 哲也	第29回	グループ法人税制②	小関 哲也
第15回	圧縮記帳の概要・収用等②・接待飲食費	小関 哲也	第30回	修正申告・税効果会計・設立事業年度	小関 哲也
準備学習等	法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	法人税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）・個別計算問題集（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合がある。また、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入した授業となる場合がある。 法人税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、原則、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	180時間
		単位数	6単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	45回
		成績 評価 方法	筆記試験
ミニテスト	: 40 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務における各事例に対応した法人税の計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、法人税の申告書である各別表の記入方法を学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる知識を習得する授業を行う。
-----------------------------	---

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	---

授業目的 到達目標	実務における各事例に対応した法人税の計算及び法人税法の法解釈ができ、各法人の法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法Ⅰ・Ⅱの総括として、税理士試験において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験法人税法の合格レベルを目指す。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	総まとめ① (資産又は費用・欠損金・企業再生税制・組織再編税制)	小関 哲也
第2回	組織再編税制(概要・合併)	小関 哲也	第25回	総まとめ② (総則・定義・所得金額の計算・配当金・グループ法人税制)	小関 哲也
第3回	組織再編税制(合併)	小関 哲也	第26回	総まとめ③ (資産の評価損益・申告納付・組織再編税制)	小関 哲也
第4回	組織再編税制(分割型分割・分社型分割)	小関 哲也	第27回	総まとめ④ (帰属年度の特例・賃貸借契約に基づく使用料等の帰属の特例)	小関 哲也

第5回	帰属事業年度の特例・みなし配当金	小関 哲也	第28回	総まとめ得⑤ (部分完成基準・値増金の益金不算入)	小関 哲也
第6回	試験研究費の特別控除①	小関 哲也	第29回	総まとめ⑥ (保証金等のうち返還しないものの帰属の特例)	小関 哲也
第7回	借地権等・保険料・資本取引等	小関 哲也	第30回	総まとめ⑦ (圧縮記帳・外国税制)	小関 哲也
第8回	試験研究費の特別控除②	小関 哲也	第31回	総まとめ⑧ (税額計算・解散税制)	小関 哲也
第9回	特定の長期所有土地等の所得の特別控除等	小関 哲也	第32回	総まとめ⑨ (引当金)	小関 哲也
第10回	グループ通算税制①	小関 哲也	第33回	総まとめ⑩ (試験研究費の特別控除)	小関 哲也
第11回	グループ通算税制②	小関 哲也	第34回	総まとめ⑪ (グループ通算税制)	小関 哲也
第12回	グループ通算税制②	小関 哲也	第35回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第13回	解散税制①	小関 哲也	第36回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第14回	解散税制②	小関 哲也	第37回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第15回	解散税制③	小関 哲也	第38回	総まとめテスト	小関 哲也
第16回	解散税制④	小関 哲也	第39回	平成30年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第17回	改正税法①	小関 哲也	第40回	平成29年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第18回	改正税法②	小関 哲也	第41回	平成28年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第19回	短期前払費用	小関 哲也	第42回	平成27年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第20回	消耗品の処理	小関 哲也	第43回	平成26年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第21回	前期損益修正	小関 哲也	第44回	平成25年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第22回	当初申告要件の廃止及び適用額の制限の見直し	小関 哲也	第45回	総まとめ確認テスト	小関 哲也
第23回	DES (デット・エクイテイ・スワップ)	小関 哲也			

<p>準備学習等</p>	<p>法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。</p> <p>なお、一部の講義回において復習のための総合問題を解答します。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	<p>法人税法計算テキストⅢ・Ⅳ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅲ・Ⅳ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）、個別計算問題集（大原出版）、応用理論問題集（大原出版）、税理士試験過去問題集(大原学園)、公開模擬試験(大原学園)、直前対策テキスト（大原学園）</p>
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合がある。</p> <p>法人税法Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。</p> <p>なお、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入したメディア授業となる場合がある。メディア授業は、メディアセンターで受講する。</p>

学科	OA事務学科(1年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	相続税法 I		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	120時間	
			単位数	4単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	30回	
			成績評価方法	筆記試験	: 40 %
				ミニテスト	: 40 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	相続税の仕組みを理解し、相続税の計算及び相続税法の法解釈を基礎から学び、相続税の計算ができることを目的とする。 また、相続税法の計算と理論を体系的に学習することにより、税理士試験相続税法に出題される基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス・相続税法の概要	小関 哲也	第16回	預貯金・上場株式の評価	小関 哲也
第2回	相続税と民法・相続人等の判及び相続分・承認と放棄	小関 哲也	第17回	小規模宅地等の減額①	小関 哲也
第3回	相続税の納税義務者・生命保険金等・相続税の非課税・相続税の計算方法	小関 哲也	第18回	構築物・貸付金債権等・受取手形等の評価	小関 哲也
第4回	生命保険等の非課税・退職手当金等の非課税・贈与税の概要・贈与税の計算方法	小関 哲也	第19回	角切り宅地の間口距離	小関 哲也
第5回	弔慰金等・債務控除・相続時精算課税制度の概要	小関 哲也	第20回	間口が狭小な宅地等・使用貸借の宅地等の評価	小関 哲也
第6回	相続税額の加算・相続税の総額・算出相続税額	小関 哲也	第21回	利用区分が異なる建物の宅地・借地権等の評価	小関 哲也
第7回	相続税額の計算・贈与税贈与税控除・配偶者の税額軽減	小関 哲也	第22回	取引相場のない株式の評価①	小関 哲也

第8回	未成年者控除・障害者控除	小関 哲也	第23回	邦貨換算・不整形地の評価・取引相場のない株式の評価②	小関 哲也
第9回	特定納税義務者及び特定納税義務者の債務控除・障害者控除	小関 哲也	第24回	がけ地等の評価	小関 哲也
第10回	評価の原則・自用地①・自家用家屋・家屋と構造上一体となっている宅地の評価	小関 哲也	第25回	評価会社が退職手当金等を支払った場合	小関 哲也
第11回	特別養子制度・生命保険契約に関する権利	小関 哲也	第26回	小規模宅地等の減額②	小関 哲也
第12回	被保険者でない保険契約者が死亡した場合・法定相続人・本来の財産	小関 哲也	第27回	同族会社に対して土地を相当の地代により貸付けている場合	小関 哲也
第13回	自用地②・地区区分の異なる宅地・側方路線等に宅地の一部が接している場合	小関 哲也	第28回	旗竿状の宅地等の評価	小関 哲也
第14回	普通借地権・貸宅地・貸家建付地・貸家の評価	小関 哲也	第29回	容積率の異なる宅地・都市計画道路予定区域内の宅地の評価	小関 哲也
第15回	一般動産・たな卸商品等・書画骨董品の評価	小関 哲也	第30回	建設中の家屋の評価・小規模宅地等の減額③	小関 哲也
準備学習等	<p>相続税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に相続税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。</p>				
教科書 参考書等	<p>相続税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、相続税計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、財産評価テキスト・相続税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）、個別計算問題集（大原出版）</p>				
備考	<p>授業計画の前提となる内容等については、法改正等に応じて一部変更する場合がある。</p> <p>相続税法Ⅰは、メディア授業であることからメディアセンターで受講する。</p>				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	相続税法Ⅱ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	180時間	
			単位数	6単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	45回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 40 %
ミニテスト	: 40 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	<p>相続税の仕組みを理解し、相続税の計算及び相続税法の法解釈を基礎から学び、相続税の計算ができることを目的とする。</p> <p>また、相続税法の計算と理論を体系的に学習することにより、税理士試験相続税法及び全国経理教育協会主催相続税法能力検定試験1級に出題される問題を解答できるレベルを目指す。</p>				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス・相続税法の概要	小関 哲也	第24回	がけ地等の評価	小関 哲也
第2回	相続税と民法・相続人等の判 及び相続分・承認と放棄	小関 哲也	第25回	評価会社が退職手当金等を支 払った場合	小関 哲也
第3回	相続税の納税義務者・生命保 険金等・相続税の非課税・相 続税の計算方法	小関 哲也	第26回	小規模宅地等の減額②	小関 哲也
第4回	生命保険等の非課税・退職手 当金等の非課税・贈与税の概 要・贈与税の計算方法	小関 哲也	第27回	同族会社に対して土地を相当 の地代により貸付けている場 合	小関 哲也
第5回	弔慰金等・債務控除・相続時 精算課税制度の概要	小関 哲也	第28回	旗竿状の宅地等の評価	小関 哲也
第6回	相続税額の加算・相続税の総 額・算出相続税額	小関 哲也	第29回	容積率の異なる宅地・都市計 画道路予定区域内の宅地の 評価	小関 哲也
第7回	相続税額の計算・贈与税贈与 税控除・配偶者の税額軽減	小関 哲也	第30回	建設中の家屋の評価・小規模 宅地等の減額③	小関 哲也

第8回	未成年者控除・障害者控除	小関 哲也	第31回	総まとめ① (相続税の納税義務者・生命保険金等・相続税の非課税・相続税の計算方法)	小関 哲也
第9回	特定納税義務者及び特定納税義務者の債務控除・障害者控除	小関 哲也	第32回	総まとめ② (生命保険等の非課税・退職手当金等の非課税・贈与税の概要・贈与税の計算方法)	小関 哲也
第10回	評価の原則・自用地①・自家用家屋・家屋と構造上一体となっている宅地の評価	小関 哲也	第33回	総まとめ③ (弔慰金等・債務控除・相続時精算課税制度の概要)	小関 哲也
第11回	特別養子制度・生命保険契約に関する権利	小関 哲也	第34回	総まとめ④ (相続税額の加算・相続税の総額・算出相続税額)	小関 哲也
第12回	被保険者でない保険契約者が死亡した場合・法定相続人・本来の財産	小関 哲也	第35回	総まとめ⑤ (相続税額の計算・贈与税贈与税控除・配偶者の税額軽減)	小関 哲也
第13回	自用地②・地区区分の異なる宅地・側方路線等に宅地の一部が接している場合	小関 哲也	第36回	総まとめ⑥ (未成年者控除・障害者控除)	小関 哲也
第14回	普通借地権・貸宅地・貸家建付地・貸家の評価	小関 哲也	第37回	総まとめ⑦ (特定納税義務者及び特定納税義務者の債務控除・障害者控除)	小関 哲也
第15回	一般動産・たな卸商品等・書画骨董品の評価	小関 哲也	第38回	総まとめテスト	小関 哲也
第16回	預貯金・上場株式の評価	小関 哲也	第39回	第1回確認テスト	小関 哲也
第17回	小規模宅地等の減額①	小関 哲也	第40回	第2回確認テスト	小関 哲也
第18回	構築物・貸付金債権等・受取手形等の評価	小関 哲也	第41回	第3回確認テスト	小関 哲也
第19回	角切り宅地の間口距離	小関 哲也	第42回	第4回確認テスト	小関 哲也
第20回	間口が狭小な宅地等・使用貸借の宅地等の評価	小関 哲也	第43回	第5回確認テスト	小関 哲也
第21回	利用区分が異なる建物の宅地・借地権等の評価	小関 哲也	第44回	第6回確認テスト	小関 哲也
第22回	取引相場のない株式の評価①	小関 哲也	第45回	第7回確認テスト	小関 哲也
第23回	邦貨換算・不整形地の評価・取引相場のない株式の評価②	小関 哲也			

準備学習等	<p>相続税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に相続税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。</p>
教科書 参考書等	<p>相続税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、相続税計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、財産評価テキスト、相続税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）、個別計算問題集（大原出版）</p>
備考	<p>授業計画の前提となる内容等については、法改正等に応じて一部変更する場合がある。</p> <p>相続税法Ⅱは、メディア授業であることからメディアセンターで受講する。</p>

学科	税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）
学年	3学年・4学年

科目名	事業税 I		授業形態		講義		
			選必の別		選必		
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数		60時間		
			単位数		2単位		
科目教員	竹村 幸生		授業回数		15回		
			成績評価方法	筆記試験		: 40 %	
				ミニテスト		: 40 %	
				授業態度		: 20 %	
						: %	
科目教員のうち実務経験教員				: %			
実務経験教員の実務経験に関する授業内容							
実務経験教員の実務経験内容							
授業目的到達目標		事業税の仕組みを理解し、法人事業税及び個人事業税の計算並びに地方税法に規定する事業税の法解釈を基礎から学び、事業税の計算ができることを目的とする。 また、税理士試験事業税に出題される計算問題を解答できるレベルを到達目標とする。					
授業計画							
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員		
第1回	ガイダンス	竹村 幸生	第9回	特別法人の税額算定①・異なる分割基準を併せてお可能場合の原則①	竹村 幸生		
第2回	事業税の概要①・基本条文・課税要件①・納税義務者①	竹村 幸生	第10回	法人事業税の所得の算定方法①・特別の定め	竹村 幸生		
第3回	事業税の課税団体①・課税標準①・課税客体①	竹村 幸生	第11回	特定内国法人の税額算定	竹村 幸生		
第4回	法人事業税の概要①・所得の計算方法①	竹村 幸生	第12回	外国標準課税の概要①	竹村 幸生		
第5回	軽減税率の適用の有無の判定①・分割基準①・税率①	竹村 幸生	第13回	付加価値割額の算定①	竹村 幸生		
第6回	分割基準の概要①・従業者の数①	竹村 幸生	第14回	資本割額の算定①	竹村 幸生		
第7回	従業者の数の詳細①・固定資産の価額①	竹村 幸生	第15回	外形対象法人の欠損金の繰越控除①	竹村 幸生		
第8回	軌道の延長キロメートル数①・事務所又は事業所の数①	竹村 幸生					

準備学習等	<p>事業税の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に事業税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。</p>
教科書 参考書等	<p>事業税基礎応用完成テキスト1・2（大原学園）・事業税基礎応用完成計算問題集1・2（大原学園）・事業税理論テキスト（大原学園）</p>
備考	<p>授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合があります。</p> <p>事業税Ⅰ（メディア授業）は、メディア授業であることからメディアセンターで受講する。</p>

学科	税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・ 税理士会計士学科(4年課程)
学年	3学年・4学年

科目名	事業税Ⅱ		授業形態		講義		
			選必の別		選必		
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数		90時間		
			単位数		3単位		
科目教員	竹村 幸生		授業回数		23回		
			成績 評価 方法	筆記試験		: 40 %	
				ミニテスト		: 40 %	
				授業態度		: 20 %	
		: %					
科目教員のうち 実務経験教員					: %		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容							
実務経験教員の 実務経験内容							
授業目的 到達目標	<p>事業税の応用の知識を身につけ、実務における法人事業者及び個人事業者の各事例に対応した事業税の計算及び地方税法の法解釈ができ、法人事業税及び個人事業税を計算することができることを目的とする。</p> <p>また、税理士試験事業税において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験事業税の合格レベルを到達目標とする。</p>						
授業計画							
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員		
第1回	ガイダンス	竹村 幸生	第13回	電気供給業	竹村 幸生		
第2回	鉱物の掘採事業と精錬事業	竹村 幸生	第14回	所得課税事業者と収入金額課 税事業者とを合わせて行う場 合	竹村 幸生		
第3回	2以上の課税標準の特別な計 算を要する場合	竹村 幸生	第15回	特定内国法人の収入割の課税 標準の算定	竹村 幸生		
第4回	外形標準課税の概要②	竹村 幸生	第16回	法人事業税の手続き規定・中 間申告納付額の算定②	竹村 幸生		
第5回	付加価値割額の算定②	竹村 幸生	第17回	外形対象法人の中間申告納付 額の算定②	竹村 幸生		
第6回	資本割額の算定②	竹村 幸生	第18回	事業税の課税要件③・分割基 準③	竹村 幸生		
第7回	特定内国法人の付加価値割、 資本割の課税標準額の計算	竹村 幸生	第19回	個人事業税の税額算定(基礎 編)・特別の定め・各種控除	竹村 幸生		
第8回	外形対象法人の欠損金の繰越 控除②	竹村 幸生	第20回	個人事業税の税額算定(応用 編)・申告形式による場合	竹村 幸生		

第9回	法人事業税（収入割）の税額算定①	竹村 幸生	第21回	個人事業税の各納期の納付額の算定、税額計算(事業廃止した場合)	竹村 幸生
第10回	生命保険事業②・損害保険事業②	竹村 幸生	第22回	清算中の法人の税額算定	竹村 幸生
第11回	少額短期保険業者②・ガス供給業②	竹村 幸生	第23回	適格合併があった場合の中間申告納付・分割基準の留意事項	竹村 幸生
第12回	法人事業税（収入割）の税額算定②	竹村 幸生			
準備学習等	<p>事業税の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に事業税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。</p> <p>なお、一部の講義回において復習のための総合問題を解答します。</p>				
教科書 参考書等	<p>事業税計算テキスト 2（大原学園）・事業税計算問題集 2（大原学園）・事業税理論テキスト（大原学園）・事業税応用理論テキスト（大原学園）・税理士試験事業税過去問題集(大原学園)・公開模擬試験(大原学園)・直前対策テキスト（大原学園）</p>				
備考	<p>授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。</p> <p>事業税Ⅱは、メディア授業であることからメディアセンターで受講する。</p>				

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	簿記論演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	竹村 幸生		授業回数	12回	
			成績評価方法	筆記試験	:
演習問題	:	50		%	
授業態度	:	20		%	
	:			%	
科目教員のうち 実務経験教員				:	%
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	簿記論Ⅰで履修した簿記知識及び計算・記帳技術について、問題演習を通して反復練習・解説することで理解を深めてもらうことを目的としています。税理士試験簿記論受験のための基礎的な個別問題・総合問題を、設定された制限時間内に解答するための解法手順、図式化などができるようになることを到達目標とします。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 第1回演習問題(現金預金、債権債務)	竹村 幸生	第7回	第7回演習問題(割引現在価値、減損会計)	竹村 幸生
第2回	第2回演習問題(商品売買、固定資産)	竹村 幸生	第8回	第8回演習問題(転換社債型新株予約権付社債)	竹村 幸生
第3回	第3回演習問題(貸倒引当金、退職給付会計※簡便法)	竹村 幸生	第9回	第9回演習問題(勘定復元①)	竹村 幸生
第4回	第4回演習問題(有価証券、税金)	竹村 幸生	第10回	第10回演習問題(勘定復元②)	竹村 幸生
第5回	第5回演習問題(社債、純資産)	竹村 幸生	第11回	第11回演習問題(推定簿記①)	竹村 幸生
第6回	第6回演習問題(ソフトウェア、税効果会計)	竹村 幸生	第12回	第12回演習問題(推定簿記②)	竹村 幸生

準備学習等	簿記論Ⅰで履修した内容の問題演習となりますので、事前に各項目の内容を復習したうえで講義に臨んでください。また、個別形式の問題と総合問題は異なる問題です。いずれかの形式に偏った復習にならないよう、バランスよく学習することを心がけてください。
教科書 参考書等	各回とも演習問題を配付します。 復習用教材として、簿記論Ⅰで使用している計算テキストを持参してください。
備考	各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 簿記論演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	簿記論演習Ⅱ		授業形態		
			演習		
実務経験のある教員による科目の有無			選必の別		選必
			授業時間数		90時間
科目教員			単位数		3単位
			授業回数		18回
科目教員のうち 実務経験教員			成績 評価 方法	筆記試験	: 30 %
				演習問題	: 50 %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			竹村 幸生	授業態度	: 20 %
					: %
実務経験教員の 実務経験内容					: %
授業目的 到達目標	簿記論Ⅰに加えて、簿記論Ⅱで履修した簿記知識及び計算・記帳技術について、問題演習を通して反復練習・解説することで理解を深めてもらうことを目的としています。税理士試験簿記論受験のための応用的な個別問題・総合問題を、設定された制限時間内に解答するための解法手順、図式化などができるようになることを到達目標とします。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 項目別まとめ問題① 〔内容〕 製造業会計	竹村 幸生	第10回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕 簿記論Ⅱ(Ⅰを含む) の範囲を主とする個別・総合 問題	竹村 幸生
第2回	項目別まとめ問題② 〔内容〕 キャッシュ・フロー 計算書	竹村 幸生	第11回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕 簿記論Ⅱ(Ⅰを含む) の範囲を主とする個別・総合 問題	竹村 幸生
第3回	項目別まとめ問題③ 〔内容〕 本支店会計	竹村 幸生	第12回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕 簿記論Ⅱ(Ⅰを含む) の範囲を主とする個別・総合 問題	竹村 幸生
第4回	項目別まとめ問題④ 〔内容〕 特殊商品売買	竹村 幸生	第13回	第1回プレ模擬試験 〔内容〕 簿記論試験未出題項 目を含む個別・総合問題	竹村 幸生

第5回	項目別まとめ問題⑤ 〔内容〕連結会計	竹村 幸生	第14回	第2回プレ模擬試験 〔内容〕簿記論試験未出題項目を含む個別・総合問題	竹村 幸生
第6回	項目別まとめ問題⑥ 〔内容〕帳簿組織	竹村 幸生	第15回	第3回プレ模擬試験 〔内容〕簿記論試験未出題項目を含む個別・総合問題	竹村 幸生
第7回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕簿記論Ⅰの範囲を主とする個別・総合問題	竹村 幸生	第16回	第1回直前対策模擬試験 〔内容〕簿記論応用論点を主とする個別・総合問題	竹村 幸生
第8回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕簿記論Ⅰの範囲を主とする個別・総合問題	竹村 幸生	第17回	第2回直前対策模擬試験 〔内容〕簿記論応用論点を主とする個別・総合問題	竹村 幸生
第9回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕簿記論Ⅰの範囲を主とする個別・総合問題	竹村 幸生	第18回	第3回直前対策模擬試験 〔内容〕簿記論応用論点を主とする個別・総合問題	竹村 幸生
準備学習等	簿記論Ⅰ・Ⅱで履修した内容の問題演習となりますので、事前に苦手とする分野の各項目の内容を復習したうえで講義に臨んでください。また、個別形式の問題と総合問題は異なる問題です。いずれかの形式に偏った復習にならないよう、バランスよく学習することを心がけてください。				
教科書 参考書等	各回とも項目別まとめ問題及び、実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付します。 復習用教材として、簿記論Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキストを持参してください。				
備考	各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 簿記論演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。				

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	財務諸表論演習Ⅰ		授業形態	演習		
			選必の別	選必		
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	60時間		
			単位数	2単位		
科目教員	千葉 菜愛		授業回数	12回		
			成績評価方法	筆記試験	:	30 %
				演習問題	:	50 %
				授業態度	:	20 %
					:	%
科目教員のうち 実務経験教員				:	%	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容						
実務経験教員の 実務経験内容						
授業目的 到達目標	財務諸表論Ⅰで履修した計算及び理論の知識について、問題演習を通して反復練習・解説することで理解を深めてもらうことを目的としています。税理士試験財務諸表論受験のための基礎的な総合計算問題・理論の記述問題を、設定された制限時間内に解答するための解法手順、会計基準の適正な記述などができるようになることを到達目標とします。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	ガイダンス 第1回演習問題（理論：一般原則）	千葉 菜愛	第7回	第7回演習問題（理論：企業会計原則注解、注15繰延資産）	千葉 菜愛	
第2回	第2回演習問題（理論：会計観 貸借対照表の役割・損益計算 書原則、一）	千葉 菜愛	第8回	第8回演習問題（理論：会計 観・概念フレームワークにつ いて）	千葉 菜愛	
第3回	第3回演習問題（理論：損益計 算書原則、一A）	千葉 菜愛	第9回	第9回演習問題（理論：資産評 価、減損会計）	千葉 菜愛	

第4回	第4回演習問題（理論：企業会計原則注解、注18引当金について）	千葉 菜愛	第10回	第10回演習問題（理論：リース取引に関する会計基準・資産除去債務に関する会計基準）	千葉 菜愛
第5回	第5回演習問題（理論：資産の評価について）	千葉 菜愛	第11回	第11回演習問題（理論：リース債務、資産除去債務の共通点、相違点）	千葉 菜愛
第6回	第6回演習問題（理論：貸借対照表原則、五）	千葉 菜愛	第12回	第12回演習問題（理論：退職給付に係る会計基準・純資産会計）	千葉 菜愛
準備学習等	財務諸表論Ⅰで履修した内容の問題演習となりますので、事前に各項目の内容を復習したうえで講義に臨んでください。特に、理論については事前暗記が必須です。計算、理論のいずれかに偏った復習にならないよう、バランスよく学習することを心がけてください。				
教科書 参考書等	各回とも演習問題を配付します。 復習用教材として、財務諸表論Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参してください。				
備考	各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 財務諸表論演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	財務諸表論演習Ⅱ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	千葉 菜愛		授業回数	18回	
			成績評価方法	筆記試験	: 30 %
				演習問題	: 50 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	財務諸表論Ⅰ・Ⅱで履修した計算及び理論の知識について、問題演習を通して反復練習・解説することで理解を深めてもらうことを目的としています。税理士試験財務諸表論受験のための応用的な総合計算問題・理論の記述問題を、設定された制限時間内に解答するための解法手順、会計基準の適正な記述などができるようになることを到達目標とします。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	千葉 菜愛	第10回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの 範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛
第2回	項目別問題①（理論：一般原則、貸借対照表の役割・損益計算書原則）	千葉 菜愛	第11回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの 範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛
第3回	項目別問題②（理論：企業会計原則注解）	千葉 菜愛	第12回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの 範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛

第4回	項目別問題③（理論：会計観、概念フレームワーク）	千葉 菜愛	第13回	第1回プレ模擬試験 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛
第5回	項目別問題④（理論：リース取引に関する会計基準、資産除去債務に関する会計基準）	千葉 菜愛	第14回	第2回プレ模擬試験 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛
第6回	項目別問題⑤（理論：退職給付に係る会計基準）	千葉 菜愛	第15回	第3回プレ模擬試験 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛
第7回	項目別問題⑥（理論：純資産会計）	千葉 菜愛	第16回	第1回直前対策模擬試験 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛
第8回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛	第17回	第2回直前対策模擬試験 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛
第9回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛	第18回	第3回直前対策模擬試験 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛
準備学習等	財務諸表論Ⅰ・Ⅱで履修した内容の問題演習となりますので、事前に各項目の内容を復習したうえで講義に臨んでください。特に、理論については事前暗記が必須です。計算、理論のいずれかに偏った復習にならないよう、バランスよく学習することを心がけてください。				
教科書 参考書等	各回とも項目別まとめ問題及び、実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)、プレ模擬試験(学校法人大原学園作成)、直前対策模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付します。 復習用教材として、財務諸表論Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参してください。				
備考	各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 財務諸表論演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。				

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	消費税法演習Ⅰ		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間
			単位数	2単位
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回
			成績評価方法	筆記試験 : 30 %
				演習問題 : 50 %
				授業態度 : 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる消費税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。			
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身に付けることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態における消費税額 計算の注意点	小関 哲也	第7回	商品販売業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第2回	不動産業等を営む法人を前提とした消費税額の計算①	小関 哲也	第8回	製造業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第3回	商品販売業等を営む法人を前提とした消費税額の計算	小関 哲也	第9回	建築業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第4回	製造業等を営む法人を前提とした消費税額の計算①	小関 哲也	第10回	不動産業等を営む法人を前提とした消費税額の計算②	小関 哲也
第5回	建築業等を営む法人を前提とした消費税額の計算	小関 哲也	第11回	製造業等を営む法人を前提とした消費税額の計算②	小関 哲也
第6回	不動産業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算①	小関 哲也	第12回	不動産業等を営む個人事業者を前提とした消費税額の計算②	小関 哲也

準備学習等	消費税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付する。 復習用教材として、消費税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅱ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	18回	
			成績 評価 方法	筆記試験	:
ミニテスト	:	50		%	
授業態度	:	20		%	
	:			%	
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			:	%
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務における消費税の確定申告書等を記載するための消費税の計算ができるように指導する。また、消費税の計算の基となる消費税法の本法に加え施行令、基本通達等、更に租税特別措置法の各条文理解をさせる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身に付けることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態の注意点及び納税義務のまとめ	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の中間申告を含む原則計算	小関 哲也
第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕不動産業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也

第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕不動産業等を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例を含む簡易課税制度	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
準備学習等	消費税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身に付け授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付します。 復習用教材として、消費税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・ 税理士会計士学科(4年課程)
学年	2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅲ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	18回
		成績 評価 方法	筆記試験
演習問題	: 50 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務における消費税の確定申告書等を記載するための消費税の計算ができるように指導する。また、消費税の計算の基となる消費税法の本法に加え施行令、基本通達等、更に租税特別措置法の各条文理解をさせる授業を行う。
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身につけることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する問題を解答できるレベルを目指す。

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態の注意点及び納税義務のまとめ	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の中間申告を含む原則計算	小関 哲也
第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕不動産業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也

第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕不動産業等を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例を含む簡易課税制度	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
準備学習等	消費税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付します。 復習用教材として、消費税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。 宿題として、年内完結確認テスト(大原学園)、完全合格確認テスト(大原学園)を使用する。				
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅲは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年の消費税法Ⅱと合同授業となる。 ただし、宿題とする問題については、消費税法Ⅱより発展的な難解な問題となる。				

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	法人税法演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回	
			成績評価方法	筆記試験	: 30 %
				演習問題	: 50 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる法人税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身につけることを目的とする。 また、各法人の法人税の計算ができ、税理士試験法人税法及び全国経理教育協会法人税法能力検定試験1級に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 基本項目のまとめ	小関 哲也	第7回	貸倒引当金の設定事例を基にした問題演習及び第104回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第2回	交際費等の取引事例を基にした問題演習及び第96回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第8回	租税公課の事例を基にした問題演習及び第105回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第3回	減価償却の事例を基にした問題演習及び第97回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第9回	受取配当金等の取引事例を基にした問題演習及び第107回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也

第4回	寄付金の取引事例を基にした問題演習及び第98回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第10回	有価証券の取引事例を基にした問題演習及び第108回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第5回	貸倒損失の取引事例を基にした問題演習及び第99回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第11回	国庫補助金等の圧縮記帳を基にした問題演習及び土地収用法の圧縮記帳を基にした問題演習	小関 哲也
第6回	欠損金の事例を基にした問題演習及び第100回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第12回	役員判定の事例を基にした問題演習及びリース取引等の取引事例を基にした問題演習	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付し、また、法人税法能力検定試験過去問題集（全国経理教育協会出版）を使用する。 復習用教材として、法人税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法演習Ⅱ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	18回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 30 %
演習問題	: 50 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務における法人税の確定申告書(別表1及別表4・別表5等)を記載するための法人税の計算ができるように指導する。また、法人税の計算の基となる法人税法の主たる条文理解をさせる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身につけることを目的とする。 また、各業種等を前提とした法人税の計算ができ、税理士試験に対応する計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各項目の注意点及び別表記入の注意点	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、同族会社の判定、受取配当等、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕確定決算型、寄付金、資産の評価損益、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、減価償却、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也

第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、自己株式、受取配当等、所得税額控除、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕受取配当等、外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也
第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、外国子会社配当、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕確定決算型、寄付金、資産の評価損益、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、適格合併、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、自己株式、受取配当等、所得税額控除、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕保険料、特定資産の買換、交際費等、貸倒損失、使用人給与、資本等取引等を含む総合問題	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、外国子会社配当、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕還付税金、試験研究費、グループ法人税制、国庫補助金等、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、適格合併、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕減価償却費、貸倒引当金、貸倒損失、繰延資産、所得税額控除、受取配当等、みなし配当等を含む総合問題	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕保険料、特定資産の買換、交際費等、貸倒損失、使用人給与、資本等取引等を含む総合問題	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕確定決算型、寄付金、交際費等、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕還付税金、試験研究費、グループ法人税制、国庫補助金等、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身に付け授業に臨むこと。				

教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付する。 復習用教材として、法人税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	相続税法演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	12回
		成績評価方法	筆記試験 : 30 % 演習問題 : 50 % 授業態度 : 20 % : :
科目教員のうち実務経験教員			: % :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	各相続事例を基にした演習問題を通して財産評価を行い、相続税を計算し申告書を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身につけることを目的とする。 また、税理士試験相続税法に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを到達目標とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 基本項目のまとめ	小関 哲也	第7回	問題演習⑥ 〔内容〕相続人の判定及び相続分・生命保険等・生前贈与加算・相続税額の加算・障害者控除を含む総合問題	小関 哲也
第2回	問題演習① 〔内容〕相続人の判定及び相続分・生命保険等・退職手当金等・未成年者控除・障害者控除を含む総合問題	小関 哲也	第8回	問題演習⑦ 〔内容〕相続人の判定及び相続分・生命保険等・債務控除・相続税額加算を含む総合問題	小関 哲也
第3回	問題演習② 〔内容〕相続人の判定及び相続分・生命保険等・債務控除・相続税額加算を含む総合問題	小関 哲也	第9回	問題演習⑧ 〔内容〕生命保険等・債務控除・相続税額の加算・配偶者に対する相続税額の軽減を含む総合問題	小関 哲也

第4回	問題演習③ 〔内容〕生命保険等・債務控除・相続税額の加算・配偶者に対する相続税額の軽減を含む総合問題	小関 哲也	第10回	問題演習⑨ 〔内容〕生命保険等・退職手当金等（弔慰金を含む）・債務控除（保証債務）を含む総合問題	小関 哲也
第5回	問題演習④ 〔内容〕生命保険等・退職手当金等（弔慰金を含む）・債務控除（保証債務）を含む総合問題	小関 哲也	第11回	問題演習⑩ 〔内容〕相続人の判定及び相続分・生命保険等・債務控除・相続税額加算を含む総合問題	小関 哲也
第6回	問題演習⑤ 〔内容〕生命保険等・退職手当金等・債務控除・障害者控除を含む総合問題	小関 哲也	第12回	事業承継の対策及び節税対策	小関 哲也
準備学習等	相続税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、相続税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付し、また、相続税法総合計算問題集基礎編（大原出版）を使用する。 復習用教材として、法人税法Ⅰで使用している計算テキスト、財産評価テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の内容の主要項目については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 相続税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

		学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)		
		学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年		
科目名	相続税法演習Ⅱ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数		90時間	
		単位数		3単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数		18回
			成績 評価 方法	筆記試験	:
演習問題	:	50		%	
授業態度	:	20		%	
	:			%	
科目教員のうち 実務経験教員				:	%
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	相続事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、財産評価及び相続税を計算し申告書を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身につけることを目的とする。 また、税理士試験相続税法に対応する計算問題を解答できるレベルを到達目標とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 財産評価の注意点	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕がけ地、公社債、上場株式、ゴルフ会員権、貸付金債権等、取引相場のない株式を含む総合問題	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕邦貨換算、共有持分、不整形地、受益証券等、農地、容積率の異なる宅地、取引相場のない株式評価を含む総合問題	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕上場株式、取引相場のない株式、宅地の評価単位、不整形地、私道、山林、立木、預貯金等を含む総合問題	小関 哲也
第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕がけ地、公社債、上場株式、ゴルフ会員権、貸付金債権等、取引相場のない株式を含む総合問題	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑫ 〔内容〕不整形地、家屋、土地の無償返還に関する届出書、定期借地権等、取引相場のない株式等を含む総合問題	小関 哲也

第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕上場株式、取引相場のない株式、宅地の評価単位、不整形地、私道、山林、立木、預貯金等を含む総合問題	小関 哲也	第13回	応用模擬試験①〔内容〕邦貨換算、共有持分、不整形地、受益証券等、農地、容積率の異なる宅地、取引相場のない株式評価を含む総合問題	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕不整形地、家屋、土地の無償返還に関する届出書、定期借地権等、取引相場のない株式等を含む総合問題	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕がけ地、公社債、上場株式、ゴルフ会員権、貸付金債権等、取引相場のない株式を含む総合問題	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕邦貨換算、共有持分、不整形地、受益証券等、農地、容積率の異なる宅地、取引相場のない株式評価を含む総合問題	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕上場株式、取引相場のない株式、宅地の評価単位、不整形地、私道、山林、立木、預貯金等を含む総合問題	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕がけ地、公社債、上場株式、ゴルフ会員権、貸付金債権等、取引相場のない株式を含む総合問題	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕不整形地、家屋、土地の無償返還に関する届出書、定期借地権等、取引相場のない株式等を含む総合問題	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕上場株式、取引相場のない株式、宅地の評価単位、不整形地、私道、山林、立木、預貯金等を含む総合問題	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕邦貨換算、共有持分、不整形地、受益証券等、農地、容積率の異なる宅地、取引相場のない株式評価を含む総合問題	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕不整形地、家屋、土地の無償返還に関する届出書、定期借地権等、取引相場のない株式等を含む総合問題	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕がけ地、公社債、上場株式、ゴルフ会員権、貸付金債権等、取引相場のない株式を含む総合問題	小関 哲也
準備学習等	相続税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、相続税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付する。 復習用教材として、相続税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト、財産評価テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の内容の主要項目については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 相続税法演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	3学年・4学年

科目名	事業税演習Ⅰ		授業形態		演習	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数		60時間	
			単位数		2単位	
科目教員	竹村 幸生		授業回数		12回	
			成績 評価 方法	筆記試験		: 30 %
演習問題		: 50 %				
授業態度		: 20 %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員					: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容						
実務経験教員の 実務経験内容						
授業目的 到達目標	<p>法人事業者及び個人事業者の各事例を基にした演習問題を通して、事業税を計算し申告書を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身につけることを目的とする。</p> <p>また、税理士試験事業税に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを到達目標とする。</p>					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	ガイダンス 基本項目のまとめ問題	竹村幸生	第7回	問題演習⑥ 〔内容〕法人税の明細書に 関する問題①・個人事業税基 本問題（新規開業①）	竹村幸生	
第2回	問題演習① 〔内容〕所得課税法人の基本 問題①・従業者の数の算定に 関する問題①	竹村幸生	第8回	問題演習⑦ 〔内容〕法人税の明細書に 関する問題②・所得税法の計 算の例によらない事項に 関する問題①	竹村幸生	
第3回	問題演習① 〔内容〕従業者の数の算定に 関する問題②・事務所棟の数 と従業者の数の算定に 関する問題②	竹村幸生	第9回	問題演習⑧ 〔内容〕法人税の明細書に 関する問題③・事業専従者に 関する問題①	竹村幸生	

第4回	問題演習③ 〔内容〕異なる分割基準を合わせて行う法人の問題①・特別法人の基本問題（医療法人①）	竹村幸生	第10回	問題演習⑨ 〔内容〕所得課税法人の基本問題②・従業者の数の算定に関する問題②	竹村幸生
第5回	問題演習④ 〔内容〕所得課税法人の所得の算定に関する問題①・個人事業税基本問題（分割法人①）	竹村幸生	第11回	問題演習⑩ 〔内容〕従業者の数の算定に関する問題③・事務所棟の数と従業者の数の算定に関する問題③	竹村幸生
第6回	問題演習⑤ 〔内容〕所得課税法人の所得の算定に関する問題②・個人事業税基本問題（異なる税率が適用される事業を合わせて行う場合①）	竹村幸生	第12回	問題演習⑪ 〔内容〕異なる分割基準を合わせて行う法人の問題②・特別法人の基本問題（医療法人②）	竹村幸生
準備学習等	事業税Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、事業税Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	事業税計算問題集基礎編（大原出版） 復習用教材として、事業税Ⅰで使用している基礎完成テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の内容の主要項目については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 事業税演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	3学年・4学年

科目名	事業税演習Ⅱ		授業形態		演習		
			選必の別		選必		
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数		90時間		
			単位数		3単位		
科目教員	竹村 幸生		授業回数		18回		
			成績評価方法	筆記試験	:	30	%
				演習問題	:	50	%
				授業態度	:	20	%
					:		%
科目教員のうち実務経験教員				:	%		
実務経験教員の授業内容							
実務経験教員の実務経験内容							
授業目的到達目標	<p>法人事業税及び個人事業税の課税事例等を基にした実力判定公開模擬試験を通して、事業税を計算し申告書を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身につけることを目的とする。</p> <p>また、税理士試験事業税に対応する計算問題及び理論問題を解答できるレベルを到達目標とする。</p>						
授業計画							
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員		
第1回	ガイダンス 法人事業税及び個人事業税の注意点	竹村幸生	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕外形標準課税、収入金額課税、個人事業税の課税客体、事業税の非課税を含む総合問題	竹村幸生		
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕外形標準課税、収入金額課税、個人事業税の課税客体、事業税の非課税を含む総合問題	竹村幸生	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕外形標準課税、個人事業税、事業税のと事務所又は事業所、所得割の課税標準である所得の算定方を含む総合問題	竹村幸生		
第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕外形標準課税、個人事業税、事業税のと事務所又は事業所、所得割の課税標準である所得の算定方を含む総合問題	竹村幸生	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕外形標準課税、収入金額課税、電気供給業及びガス供給業の課税標準の算定方法を含む総合問題	竹村幸生		

第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕外形標準課税、収入金額課税、電気供給業及びガス供給業の課税標準の算定方法を含む総合問題	竹村幸生	第13回	改正税法	竹村幸生
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕外形標準課税、個人事業税、資本割の課税標準である資本金等の額の算定方法を含む総合問題	竹村幸生	第14回	令和3年税理士試験問題の事例解説	竹村幸生
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕外形標準課税、収入金額課税、個人事業税の課税標準の算定方法及び事業専従者の取扱いを含む総合問題	竹村幸生	第15回	令和4年税理士試験問題の事例解説	竹村幸生
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕外形標準課税、個人事業税における各種控除を含む総合問題	竹村幸生	第16回	令和5年税理士試験問題の事例解説	竹村幸生
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕外形標準課税、収入金額課税、個人事業税の分割基準、法人事業税の分割基準を含む総合問題	竹村幸生	第17回	公開模擬試験①	竹村幸生
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕外形標準課税、個人事業税、中間申告納付制度、確定申告納付制度を含む総合問題	竹村幸生	第18回	公開模擬試験②	竹村幸生
準備学習等	事業税Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、事業税Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付する。 復習用教材として、事業税Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の前提となる内容等については、法改正等に応じて、一部変更する場合があります。 事業税演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計の原理	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : :
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本原理、仕訳、勘定記入といっ た帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、資産に関する取引が帳簿上、どのよう に記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標として、筆記 試験の80点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	デリバティブ取引・ヘッジ会 計等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	商品売買	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	有形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	棚卸資産の期末評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	現金及び預金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	無形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	割引現在価値 債権・債務等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	研究開発費とソフトウェア 投資その他の資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	貸倒れと貸倒引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	固定資産の減損 繰延資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	有価証券	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。				

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅠ、問題Ⅰ、答案用紙Ⅰ、解答解説Ⅰ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅰ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
確認テスト	: 10 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。				
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、負債・純資産に関する取引が帳簿上、 どのように記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標とし て、筆記試験の80点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	社債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	ストック・オプション	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	税金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	退職給付①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	税効果会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	退職給付②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	税効果会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	外貨建取引①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	純資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	外貨建取引②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	第1回から第6回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透	第15回	第8回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	新株予約権と新株予約権付社 債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。				

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅡ、問題Ⅱ、答案用紙Ⅱ、解答解説Ⅱ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅱ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
確認テスト	: 10 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。また、企業におけるキャッ シュの流れを理解し、資金繰りの必要性を学習する。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。				
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、利益計算と収支計算の違いを理解し、 キャッシュフロー計算書の作成と収益に関する取引の記帳を身に付け、到達目標とし て、筆記試験の70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	キャッシュ・フロー計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	収益認識①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結キャッシュ・フロー計算 書①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	収益認識②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結キャッシュ・フロー計算 書②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	帳簿組織	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	セグメント情報等の開示	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	本支店会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	在外支店	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	会計上の変更及び誤謬の訂正	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	製造業（商的工業簿記）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	1株当たり情報	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。				

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅤ、問題Ⅴ、答案用紙Ⅴ、解答解説Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	連結財務諸表Ⅰ	授業形態		講義	
		選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数		60時間	
		単位数		2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数		15回	
		成績 評価 方法	筆記試験		:
確認テスト			:	10 %	
授業態度			:	20 %	
			:	%	
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			:	%
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業集団を会計単位として作成される連結財務諸表作成手順を確認し、企業集団における会社間取引の相殺や未実現利益消去の必要性、連結特有の会計処理を学習する。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。				
授業目的 到達目標	本講義では、個別財務諸表と連結財務諸表の作成目的の違いを理解し、連結子会社及び持分法適用関連会社が各々2社以上ある場合の連結財務諸表作成手順を身に付け、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表総論、資本連結①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	在外子会社	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	資本連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結の範囲	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	成果連結①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	第7回から第10回の範囲の筆記試験・論点の解説	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	成果連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合総論、取得	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	持分法	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	第1回から第5回の範囲の筆記試験・論点の解説	阿部 透	第14回	事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	連結税効果会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第12回から第14回の範囲の筆記試験・論点の解説	阿部 透
第8回	包括利益	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。				

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅢ・Ⅳ、問題Ⅲ・Ⅳ、答案用紙Ⅲ・Ⅳ、解答解説Ⅲ・Ⅳ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績 評 価 方 法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論及び会計諸規則、諸基準から、現行 制度に至った背景や考え方を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的である意思決定に有用な情報を提供するうえでの会計理論 及び会計処理の手続きを理解し、到達目標として、各回実施のミニテストにて70点以上 とする。		
授業計画			
回数	授業内容		科目教員
第1回	財務会計の意義と機能 企業会計制度と会計基準		阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	財務会計の基礎概念		阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	収益と費用 資産と負債		阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	棚卸資産 固定資産、繰延資産と引当金		阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	負債、純資産 財務諸表		阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	金融商品、ストック・オプション等 リース		阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	退職給付、研究開発費とソフトウェア 固定資産の減損		阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	法人税等 連結財務諸表		阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	企業結合と事業分離		阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	外貨換算 四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。	
教科書 参考書等	財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。	

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	管理会計の原理		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数		60時間	
			単位数		2単位	
科目教員	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		授業回数		15回	
			成績 評価 方法	筆記試験		: 70 %
確認テスト		: 10 %				
授業態度		: 20 %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員					: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容						
実務経験教員の 実務経験内容						
授業目的 到達目標	本講義では、管理会計の目的を理解したうえで、財務会計との関わり、実際の活用方法を学ぶ。到達目標として、筆記試験の80点以上とする。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	管理会計の意義と目的	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第9回	第1回から第8回の範囲の筆記 試験・論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第2回	管理会計の体系	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第10回	直接原価計算と全部原価計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第3回	原価計算基準の設定について	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第11回	固定費調整	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第4回	原価計算の目的と一般的基準	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第12回	資金管理	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第5回	財務会計との結びつき	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第13回	活動基準原価計算の意義・背 景	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第6回	短期利益計画のプロセス	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第14回	活動基準原価計算の有用性 リストラチャリング [®] への効果	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第7回	CVP分析・経営レバレッジと 経営行動	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第15回	第10回から第14回の範囲の筆 記試験・論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第8回	原価態様に基づく原価分類	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美				
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。					
教科書 参考書等	管理会計論テキストⅡ、問題Ⅱ、解答解説Ⅱ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。					

備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む管理会計系の科目(原価計算、意思決定会計、戦略管理会計、管理会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。
----	---

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	原価計算	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	授業回数	20回
		成績 評価 方法	筆記試験
確認テスト	: 10 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	本講義では、管理会計の目的を理解したうえで、原価計算基準を用いての原価の算定方法を身に付ける。到達目標として、筆記試験の80点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 原価計算基準	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第11回	総合原価計算(副産物・工程別 原価計算非累加法)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第2回	費目別計算(材料費・労務費)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第12回	総合原価計算(連産品原価計 算)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第3回	費目別計算(経費・製造間接 費)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第13回	第9回から第12回の範囲の筆記 試験・論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第4回	部門別計算(第1、2、3次集計)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第14回	標準原価計算の目的	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第5回	部門別計算(複合費の取り扱 い)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第15回	標準原価の種類(原価改訂頻度 の相違による分類)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第6回	個別原価計算(直接経費処理・ 間接経費処理)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第16回	標準原価の種類(標準の厳格度 の相違による分類)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第7回	個別原価計算(作業屑・異常仕 損の処理)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第17回	標準原価差異の種類・把握方 法	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第18回	標準原価差異の勘定記入方法	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第9回	総合原価計算と個別原価計算 の相違	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第19回	標準原価差異の追加配賦	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第10回	総合原価計算(非度外視法・率 安定的減損)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第20回	第14回から第19回の範囲の筆 記試験・論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	管理会計論テキストⅠ、問題Ⅰ、解答解説Ⅰ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む管理会計系の科目(管理会計の原理、意思決定会計、戦略管理会計、管理会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

		税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）			
		1学年・2学年・3学年・4学年			
科目名	意思決定会計		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	30時間		
		単位数	1単位		
科目教員	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		授業回数	10回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
				確認テスト	: 10 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	本講義では、管理会計の目的を理解したうえで、企業の将来の意思決定の為の意思決定 会計を身に付ける。到達目標として、筆記試験の80点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容			科目教員	
第1回	意思決定会計の基礎			及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第2回	関連原価と無関連原価			及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第3回	経済的発注量分析			及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第4回	継続・廃止の意思決定			及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第5回	受注可否の意思決定			及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第6回	追加加工の可否の意思決定			及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第7回	部品の自製・購入の意思決定			及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第8回	最適プロダストミックス			及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第9回	シャドープライス・リデューストコスト			及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第10回	第1回から第9回の確認を目的とした筆記試験、重要論点の解説			及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	<p>管理会計論テキストⅡ、問題Ⅱ、解答解説Ⅱ</p> <p>なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
備考	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む管理会計系の科目（管理会計論の原理、原価計算、戦略管理会計、管理会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。</p>

		税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）			
		1学年・2学年・3学年・4学年			
科目名	戦略管理会計		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	30時間		
		単位数	1単位		
科目教員	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		授業回数	10回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
				確認テスト	: 10 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	本講義では、管理会計の目的を理解したうえで、企業の将来の意思決定の為の戦略管理 会計を身に付ける。到達目標として、筆記試験の80点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容			科目教員	
第1回	特殊原価概念			及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第2回	資本コストの算定と在り方			及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第3回	投資案評価方法（NPV法・収益性指数法・内部利益率法）			及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第4回	投資案評価方法（回収期間法・投資利益率法・原価比較法）			及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第5回	不確実性を考慮した意思決定			及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第6回	予算管理と責任会計			及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第7回	予算編成・予算統制			及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第8回	目標管理・予算スラックの形成			及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第9回	資金管理の収益性と安全性			及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第10回	第1回から第9回の確認を目的とした筆記試験重要論点の解説			及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	<p>管理会計論テキストⅡ、問題Ⅱ、解答解説Ⅱ</p> <p>なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
備考	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む管理会計系の科目（管理会計論の原理、原価計算、意思決定会計、管理会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。</p>

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	監査論 I	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	20回
		成績 評 価 方 法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		: %
		: %	

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	財務諸表監査を中心とした監査の制度的な枠組み、必要性、関係する法令・基準・監査 実務指針等を理解する。
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築 支援等の業務を行っている。
-------------------	--

授業目的 到達目標	本講義は、財務諸表監査について理解したうえで、効果的かつ効率的な監査を行うため の実施や報告に関する基礎知識を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて 70点以上とする。
--------------	---

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	財務諸表監査総論	鈴木 翔太	第11回	関連当事者との関係及び 取引、会計上の見積りの監査	鈴木 翔太
第2回	意見表明の対象である財務諸 表	鈴木 翔太	第12回	財務諸表監査における不正の 検討及び法令の検討	鈴木 翔太
第3回	監査主体論、監査基準論	鈴木 翔太	第13回	グループ監査、内部監査の利 用、専門家の業務の利用	鈴木 翔太
第4回	監査業務のプロセス、財務諸 表の適正性の立証プロセス	鈴木 翔太	第14回	監査の品質管理、監査人の交 代、コミュニケーション、監査調書	鈴木 翔太
第5回	監査証拠、監査手続①	鈴木 翔太	第15回	監査意見に関する知識	鈴木 翔太
第6回	監査手続②、監査業務の契約	鈴木 翔太	第16回	追記情報	鈴木 翔太
第7回	監査計画、リスク・アプロー チ	鈴木 翔太	第17回	比較情報、特別目的の財務諸 表の監査等	鈴木 翔太
第8回	リスク評価手続き及び評価し たリスクに対応する手続き	鈴木 翔太	第18回	継続企業の前提	鈴木 翔太
第9回	監査証拠の入手方法	鈴木 翔太	第19回	中間監査、四半期レビュー	鈴木 翔太

第10回	監査における重要性、特別な 検討を必要とするリスク	鈴木 翔太	第20回	内部統制報告制度、わが国の 監査の歴史	鈴木 翔太
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。				
教科書 参考書等	監査論テキスト(上巻)、監査論テキスト(下巻)、監査論問題集、監査論ポケットコンパス、監査論肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。				
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む監査論系の科目(監査演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。				

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	15回
		成績評価方法	確認テスト : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち、株式会社の設立から運営および組織構造等に関する基礎知識を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、会社法の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	設立総説、発起設立と募集設立	鈴木 翔太	第9回	株主総会②、取締役①	鈴木 翔太
第2回	変態設立事項に関する規制、 設立関与者の責任	鈴木 翔太	第10回	取締役②	鈴木 翔太
第3回	設立の瑕疵、株主の権利・義務①	鈴木 翔太	第11回	取締役③	鈴木 翔太
第4回	株主の権利・義務②、株主平等原則	鈴木 翔太	第12回	取締役④、代表取締役①	鈴木 翔太
第5回	株式の譲渡、自己株式の取得・処分等の制限①	鈴木 翔太	第13回	代表取締役②、監査役①	鈴木 翔太
第6回	自己株式の取得・処分等の制限②、株主名簿①	鈴木 翔太	第14回	監査役②、指名委員会等設置会社①	鈴木 翔太
第7回	株主名簿②、株式等売渡請求	鈴木 翔太	第15回	指名委員会等設置会社②、監査等委員会設置会社	鈴木 翔太
第8回	機関総説、株主総会①	鈴木 翔太			

準備学習等

講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。

教科書 参考書等	企業法テキスト(会社法)、企業法問題集、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅱ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績 評価 方法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		: %
	: %		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち資金調達や組織再編行為等の仕組みや手順等の規制、商法のうち商人および商行為に関する規制、金融商品取引法のうち情報開示制度に関する規制について学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、各種法令の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容		科目教員
第1回	募集株式の発行等の効力発生等①		鈴木 翔太
第2回	募集株式の発行等の効力発生等② 新株予約権		鈴木 翔太
第3回	社債 資本金・準備金・剰余金		鈴木 翔太
第4回	剰余金の配当 事業譲渡等		鈴木 翔太
第5回	組織再編		鈴木 翔太
第6回	解散・清算、持分会社 特例有限会社・外国会社		鈴木 翔太
第7回	商法総則①		鈴木 翔太
第8回	商法総則② 商法為法		鈴木 翔太
第9回	金融商品取引法総論 発行開示		鈴木 翔太
第10回	流通開示 開示の実効性・公正確保のための制度		鈴木 翔太

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	<p>企業法テキスト（会社法）、企業法テキスト（商法・金商法）、企業法問題集Ⅱ、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック</p> <p>なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
備考	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅰ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。</p>

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	20回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。企業等と連携した講義内容により、実務に必要な能力の向上を図り、各論点の会計処理方法を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の習得および財務諸表の数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	商品売買、棚卸資産の期末評価など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	連結会計③	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	債権債務、貸倒れと貸倒引当金など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	有価証券、デリバティブ取引、ヘッジ会計等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	企業結合会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	事業分離等①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	ソフトウェア、固定資産の減損など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	事業分離等②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	社債、退職給付、税効果会計など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第16回	キャッシュフロー会計など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	新株予約権、ストックオプションなど	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第17回	会計上の変更及び誤謬の訂正、1株当たり情報など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	資産除去債務、外貨建取引など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第18回	帳簿組織、本支店会計、収益認識など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	連結会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第19回	近年実務において必要な論点①	阿部 透

第10回	連結会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第20回	近年実務において必要な論点 ②	阿部 透
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。				
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅱ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績評価方法	筆記試験
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の理論的背景および財務諸表に記載される数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	財務会計の意義と機能、企業会計制度と会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第2回	財務会計の基礎概念、収益と費用	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第3回	資産と負債、棚卸資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第4回	固定資産、繰延資産と引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第5回	純資産、財務諸表、金融商品	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第6回	ストックオプション、リース	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第7回	退職給付、研究開発とソフトウェア	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第8回	固定資産の減損、法人税等、連結貸借対照表及び連結損益・包括利益計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第9回	連結財務諸表（持分法）、企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	

第10回	外貨換算、四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。	
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅲ		授業形態		
			選必の別	演習	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績 評 価 方 法	筆記試験	: 70 %
				授業態度	: 30 %
					: %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計 処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。				
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な企業結合会計及び連結会計に 関する事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の 70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表、リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	連結精算表、包括利益	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結財務諸表、有価証券の信 用取引、先物取引	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	セグメント情報等、子会社へ の投資に関する一時差異	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結会計、親子間の吸収合 併、退職給付信託など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	連結財務諸表、子会社による 親会社株式の売却	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	企業集団内の吸収合併及び事 業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合、事業分離等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	企業結合（暫定的な会計処理 など）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	個別財務諸表と連結財務諸表 の作成、固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	個別財務諸表と連結財務諸表 の作成	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	個別財務諸表、リース、予定 取引のヘッジ	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	リース（中途解約）、在外子 会社（間接法・簡便法）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	退職給付制度の終了、税効果 会計、ソフトウェア	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	連結キャッシュ・フロー計算 書（国内及び在外子会社）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。				

教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅳ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の理論的背景および財務諸表(個別・連結)に記載される数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表(計算)①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結財務諸表(計算)②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結財務諸表(計算)③	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	個別財務諸表(計算)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	連結キャッシュ・フロー計算書(計算)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	企業結合(会計理論)①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	企業結合(会計理論)②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	有価証券の評価(会計理論)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	キャッシュフロー計算書(会計理論)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	リース会計（会計理論）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。	
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	管理会計演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		授業回数	15回	
			成績評価方法	筆記試験	: 70 %
				授業態度	: 30 %
					: %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の習得および原価計算の計算の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	費目別計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第9回	標準原価計算③	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第2回	部門別計算・個別原価計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第10回	CVP分析・直接原価計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第3回	費目別計算・部門別計算・個別原価計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第11回	予算管理・業務的意思決定	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第4回	総合原価計算①	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第12回	戦略的意思決定・事業部制会計	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第5回	総合原価計算②	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第13回	原価管理・ABC	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第6回	総合原価計算③	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第14回	企業価値・財務情報分析・資金管理	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第7回	標準原価計算①	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第15回	総まとめ	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第8回	標準原価計算②	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美			
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。				

教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は管理会計系の科目（管理会計の原理、原価計算、意思決定会計、戦略管理会計）を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	管理会計演習Ⅱ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
				授業態度	: 30 %
					: %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の習得および原価計算の数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	費目別計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第9回	予算管理	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第2回	部門別計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第10回	業務的意思決定	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第3回	個別原価計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第11回	戦略的意思決定・事業部制会計	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第4回	総合原価計算①	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第12回	原価管理・ABC	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第5回	総合原価計算②	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第13回	資金管理	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第6回	標準原価計算①	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第14回	企業価値	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第7回	標準原価計算②	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第15回	財務情報分析	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第8回	CVP分析・直接原価計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美			
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。				

教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は管理会計系の科目（管理会計の原理、原価計算、意思決定会計、戦略管理会計）を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	管理会計演習Ⅲ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	授業回数	10回
		成績評価方法	筆記試験
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の習得および原価計算の数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	費目別計算・部門別計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第2回	個別原価計算・総合原価計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第3回	標準原価計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第4回	CVP分析・直接原価計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第5回	予算管理	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第6回	業務的意思決定	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第7回	戦略的意思決定	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第8回	原価管理・ABC	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第9回	資金管理	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	

第10回	企業価値	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。	
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は管理会計系の科目（管理会計の原理、原価計算、意思決定会計、戦略管理会計）を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	監査演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績 評価 方法	筆記試験
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。わが国における監査の制度的な枠組みを学習し、監査基準や監査実務指針等の規制を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査（金融商品取引法、会社法等）、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義では、監査制度に関する網羅的な知識を習得したうえで、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	財務諸表監査総論、意見表明の対象である財務諸表、監査主体論、監査基準論	鈴木 翔太	
第2回	監査業務のプロセス、財務諸表の適正性の立証プロセス、監査証拠、監査手続、職業倫理	鈴木 翔太	
第3回	監査業務の契約、監査計画、リスク・アプローチ	鈴木 翔太	
第4回	リスク評価手続及び評価したリスクに対応する手続、監査証拠の入手方法、監査における重要性	鈴木 翔太	
第5回	特別な検討を必要とするリスク、会計上の見積りの監査、関連当事者との関係など	鈴木 翔太	
第6回	財務諸表監査における法令の検討、グループ監査、内部監査の利用、専門家の業務の利用など	鈴木 翔太	
第7回	監査報告論	鈴木 翔太	
第8回	継続企業の前提、中間監査、四半期レビュー、内部統制報告制度	鈴木 翔太	
第9回	会社法会計監査人監査、金融商品取引法、公認会計士法	鈴木 翔太	
第10回	保証債務、情報技術と監査、監査の歴史	鈴木 翔太	

準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合があります。なお、本講義を含む監査論系の科目（監査論Ⅰ）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績 評価 方法	筆記試験
授業態度	: 30 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。法の趣旨に基づいた規制を学習し、公認会計士に必要な会社に関する制限を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査（金融商品取引法、会社法等）、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、会社に関係する各種法令や判例等を網羅的に理解し、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	設立、株式①	鈴木 翔太	
第2回	株式②、機関①	鈴木 翔太	
第3回	機関②	鈴木 翔太	
第4回	資金調達	鈴木 翔太	
第5回	社債、計算	鈴木 翔太	
第6回	組織再編①	鈴木 翔太	
第7回	組織再編②	鈴木 翔太	
第8回	持分会社等	鈴木 翔太	
第9回	商法総則・商行為	鈴木 翔太	
第10回	金融商品取引法	鈴木 翔太	

準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目（企業法Ⅰ、Ⅱ）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅲ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
				確認テスト	: 10 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的項目からの発展項目として、リース会計、金融商品会計の仕訳、勘定記入といった記帳方法、株主資本等変動計算書及びキャッシュ・フロー計算書の作成を学習する。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。				
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容であるリース、金融商品の会計処理から財務諸表に認識・測定される数値を理解し、株主資本等変動計算書及びキャッシュ・フロー計算書作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	社債、資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	金銭債権、金銭債務 有価証券	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	株主資本、評価・換算差額 等、新株予約権	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	複合金融商品、デリバティブ	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	株主資本等変動計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	ヘッジ会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	キャッシュフロー・計算書①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	ストックオプション等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	キャッシュフロー・計算書②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	リース会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	会計上の変更及び誤謬の訂正 ①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	リース会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	会計上の変更及び誤謬の訂正 ②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。				

教科書 参考書等	財務会計論（計算）テキストⅠ、Ⅱ、Ⅴ、問題Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ、答案用紙Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ、解答解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅳ		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		60時間	
			単位数		2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数		15回	
			成績 評価 方法	筆記試験		: 70 %
確認テスト		: 10 %				
授業態度		: 20 %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的項目からの発展項目として、退職給付会計、税効果会計などの仕訳、勘定記入といった記帳方法、連結財務諸表及び四半期財務諸表の作成を学習する。					
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。					
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である退職給付会計、税効果会計および企業結合、事業分離の会計処理から連結財務諸表に認識・測定される数値を理解し、連結財務諸表及び四半期財務諸表の作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	退職給付①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	連結財務諸表①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第2回	退職給付②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結財務諸表②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第3回	収益認識	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第4回	研究開発とソフトウェア	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	外貨建取引	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第5回	固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	在外支店及び在外子会社等の 財務諸表の換算	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第6回	法人税等①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第7回	法人税等②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透	
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透				
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。					

教科書 参考書等	財務会計論（計算）テキストⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、問題Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、答案用紙Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、解答解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	連結財務諸表Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 確認テスト : 10 % 授業態度 : 20 % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに連結財務諸表作成手順を確認し、持分変動、連結除外といった連結範囲の変動を中心に連結修正仕訳を学習する。また、企業結合及び事業分離による個別財務諸表と連結財務諸表の会計処理を確認する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である連結財務諸表作成の持分変動を理解し、企業結合及び事業分離による連結財務諸表の作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表総論 資本連結(段階取得)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	第1回から第8回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第2回	資本連結(子会社株式の追加 取得、一部売却)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	取得、段階取得、逆取得	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	資本連結(連結除外)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	資本連結(株主割当有償増 資、第三者割当有償増資)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	資本連結(子会社の新株予約 権、自己株式)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	結合当事企業の株主に係る会 計処理	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	評価差額の実現	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	共同支配企業の形成	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	連結の範囲、持分法の適用範 囲	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第10回から第14回の範囲の筆 記試験・論点の解説	阿部 透
第8回	間接所有	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。				

教科書 参考書等	財務会計論（計算）テキストⅢ、Ⅳ、問題Ⅲ、Ⅳ、答案用紙Ⅲ、Ⅳ、解答解説Ⅲ、Ⅳ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績 評価 方法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論として、会社計算規則、財務諸表等規則の他、企業会計基準委員会公表の会計基準を学習し、複数の考え方から現行制度に至った背景を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である財務会計の基礎概念である財務会計の概念フレームワークの考え方を身につけ、到達目標として、各回実施の確認テストの70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	財務会計の意義、財務会計の機能	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	棚卸資産の範囲、取得原価の決定、払出数量・単価の計算	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	企業会計制度、会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	棚卸資産の評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	企業会計原則の一般原則	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	固定資産総論、有形・無形固定資産、投資その他の資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	会計公準、会計主体論	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	繰延資産、引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	利益概念	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	偶発債務、資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	概念フレームワーク	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	資本の概念、株主資本、評価・換算差額等、新株予約権	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	収益と費用の分類、損益計算の原則	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	資産と負債の分類、資産の評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等

講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を実施し、復習を中心に学習すること。

教科書 参考書等	財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）問題集 なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）
学年	3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅲ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論として、会社計算規則、財務諸表等規則の他、企業会計基準委員会公表の会計基準を学習し、複数の考え方から現行制度に至った背景を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容であるの企業会計基準委員会公表の会計基準、適用指針の考え方を身につけ、到達目標として、各回実施の確認テストの70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	金融資産及び金融負債の範囲、発生・消滅の認識、評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	貸倒見積高の算定、複合金融商品、ヘッジ会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結の範囲、個別財務諸表の修正、連結貸借対照表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	ストック・オプション会計の概要、会計処理	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	連結損益・包括利益計算書、持分法、注記	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	リース取引の意義と分類、リース取引の会計処理	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	取得、共同支配企業の形成、共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	確定給付制度の会計処理、確定拠出制度、複数事業主制度	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	事業分離等の会計、外貨換算会計の概要	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	研究開発費、ソフトウェア製作費	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	外貨建取引の換算、在外業務活動体の財務諸表項目の換算	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	減損損失の認識と測定、財務諸表における開示	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	四半期財務諸表の概要、四半期財務諸表の作成基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	税効果会計の仕組み、一時差異等、認識と測定	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を実施し、復習を中心に学習すること。				

教科書 参考書等	財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）問題集 なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(3年課程及び4年課程)3学年・4学年の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）
学年	3学年・4学年

科目名	経営分析		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数		60時間	
			単位数		2単位	
科目教員	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		授業回数		15回	
			成績評価方法	筆記試験		: 70 %
確認テスト		: 10 %				
授業態度		: 20 %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員					: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					: %	
実務経験教員の 実務経験内容						
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容であるバリュー・エンジニアリングの論点、企業価値算定及びその他の経営分析の論点を学び、管理会計の応用論点に対応する知識を身につける。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	財務情報分析の意義と種類	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第9回	社内金利制度・社内資本金制度	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第2回	バリュー・エンジニアリング	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第10回	アメーバ経営・ラインカンパニー制	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第3回	事業部制組織と職能別組織	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第11回	シェアードサービス	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第4回	本社費共通費の取扱い・責任会計	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第12回	フリーキャッシュフローモデルによる企業価値の算定	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第5回	事業部の業績評価（投資利益率・残余利益）	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第13回	経済付加価値モデルによる企業価値の算定	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第6回	事業部間の内部振替価格	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第14回	ディシジョン・ツリーによる段階的な意思決定	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第7回	第1回から第6回の範囲の筆記試験・論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第15回	第8回から第14回の範囲の筆記試験・論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第8回	マネジメント・コントロールとバランス・スコアカード	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美				
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。					
教科書 参考書等	管理会計論テキストⅡ、問題Ⅱ、解答解説Ⅱ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。					

備考	本講義は、税理士会計士学科(3年課程及び4年課程)3学年・4学年の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。
----	---

学科	税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）
学年	3学年・4学年

科目名	原価管理		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		授業回数	15回	
			成績評価方法	筆記試験	: 70 %
				確認テスト	: 10 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容				: %	
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である原価管理の論点、活動基準原価計算及びその他の原価管理の論点を学び、管理会計の応用論点に対応する知識を身につける。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	原価管理・原価企画の意義	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第9回	品質管理会計	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第2回	原価低減の意義・目的	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第10回	JIT生産方式の意義	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第3回	顧客志向の製品開発	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第11回	スループット会計	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第4回	活動基準原価計算の意義・背景	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第12回	サプライチェーンマネジメント	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第5回	活動基準原価計算の有用性 リストラクチャリングへの効果	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第13回	セル生産方式	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第6回	活動基準原価管理	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第14回	マテリアルフローコスト会計	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第7回	第1回から第6回の範囲の筆記 試験・論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第15回	第8回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第8回	ライフサイクルコストニング	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。				
教科書 参考書等	管理会計論テキストⅡ、問題Ⅱ、解答解説Ⅱ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。				

備考	本講義は、税理士会計士学科(3年課程及び4年課程)3学年・4学年の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。
----	---

学科	税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）
学年	3学年・4学年

科目名	監査論Ⅱ	授業形態	講義	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間	
		単位数	2単位	
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	20回	
		成績評価方法	確認テスト	: 70 %
			授業態度	: 30 %
				: %
				: %
科目教員のうち実務経験教員	鈴木 翔太		: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	わが国の監査の制度的な枠組み、必要性、関係する法令・基準・監査実務指針等を理解する。			
実務経験教員の実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。			
授業目的到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である監査制度に関する網羅的かつ実務につながる知識を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	財務諸表監査総論	鈴木 翔太	第11回	監査報告論 継続企業の前提	鈴木 翔太
第2回	意見表明の対象である財務諸表	鈴木 翔太	第12回	中間監査 四半期レビュー	鈴木 翔太
第3回	監査主体論①	鈴木 翔太	第13回	特別目的の財務諸表の監査等	鈴木 翔太
第4回	監査主体論②	鈴木 翔太	第14回	内部統制報告制度	鈴木 翔太
第5回	監査基準論①	鈴木 翔太	第15回	会社法会計監査人監査	鈴木 翔太
第6回	監査基準論②	鈴木 翔太	第16回	金融商品取引法	鈴木 翔太
第7回	監査実施論①	鈴木 翔太	第17回	公認会計士法	鈴木 翔太
第8回	監査実施論②	鈴木 翔太	第18回	倫理規則	鈴木 翔太
第9回	監査実施論③	鈴木 翔太	第19回	保証業務	鈴木 翔太
第10回	監査実施論④	鈴木 翔太	第20回	わが国の監査の歴史	鈴木 翔太

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を解答し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	監査論テキスト(上巻)、監査論テキスト(下巻)、監査論問題集、監査論ポケットコンパス なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(3年課程及び4年課程)3学年・4学年の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）
学年	3学年・4学年

科目名	会社法		授業形態		講義		
			選必の別		選必		
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		60時間		
			単位数		2単位		
科目教員	鈴木 翔太		授業回数		15回		
			成績評価方法	確認テスト		: 70 %	
				授業態度		: 30 %	
						: %	
		: %					
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太				: %		
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	会社法のうち、株式会社を中心とした会社の設立・運営等に関する法規制、株式会社以外の会社に関し株式会社との相違点を学習する。						
実務経験教員の実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。						
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である会社法の趣旨に基づいた会社全般に関する法規制を理解し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。						
授業計画							
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員		
第1回	イントロダクション	鈴木 翔太	第9回	社債	鈴木 翔太		
第2回	設立	鈴木 翔太	第10回	計算	鈴木 翔太		
第3回	株式①	鈴木 翔太	第11回	定款変更	鈴木 翔太		
第4回	株式②	鈴木 翔太	第12回	事業譲渡等と組織再編行為	鈴木 翔太		
第5回	機関①	鈴木 翔太	第13回	解散・清算	鈴木 翔太		
第6回	機関②	鈴木 翔太	第14回	持分会社	鈴木 翔太		
第7回	機関③	鈴木 翔太	第15回	特例有限会社・外国会社	鈴木 翔太		
第8回	資金調達	鈴木 翔太					
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を実施し、復習を中心に学習すること。						
教科書 参考書等	企業法テキスト(会社法)、企業法問題集、企業法ポケットコンパス なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。						

備考	本講義は、税理士会計士学科(3年課程及び4年課程)3学年・4学年の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。
----	---

学科	税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）
学年	3学年・4学年

科目名	商法	授業形態	講義	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間	
		単位数	1単位	
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回	
		成績評価方法	確認テスト	: 70 %
			授業態度	: 30 %
				: %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	商法のうち、商人および商行為に関する法規制を理解したうえで、会社法規制とのつながりを学習する。			
実務経験教員の実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。			
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である商法の趣旨に基づいた商人全般に関する法規制を理解し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。			
授業計画				
回数	授業内容	科目教員		
第1回	商法の基本概念（商人・商行為）	鈴木 翔太		
第2回	商業使用人	鈴木 翔太		
第3回	商業登記	鈴木 翔太		
第4回	商業帳簿	鈴木 翔太		
第5回	商号	鈴木 翔太		
第6回	営業の譲渡	鈴木 翔太		
第7回	商行為法総論	鈴木 翔太		
第8回	仲介業	鈴木 翔太		
第9回	運送営業	鈴木 翔太		
第10回	倉庫・場屋営業	鈴木 翔太		

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	企業法テキスト（会社法）、企業法テキスト（商法・金商法）、企業法問題集、企業法ポケットコンパス なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(3年課程及び4年課程)3学年・4学年の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）
学年	3学年・4学年

科目名	金融商品取引法	授業形態	講義	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間	
		単位数	1単位	
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回	
		成績評価方法	確認テスト	: 70 %
			授業態度	: 30 %
				: %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	金融商品取引法のうち、発行市場および流通市場における情報開示規制を中心に学習する。			
実務経験教員の実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。			
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である金融商品取引法の趣旨に基づいた適用会社全般に関する法規制を理解し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。			
授業計画				
回数	授業内容	科目教員		
第1回	金融商品取引法総論	鈴木 翔太		
第2回	発行開示①	鈴木 翔太		
第3回	発行開示②	鈴木 翔太		
第4回	流通開示①	鈴木 翔太		
第5回	流通開示②	鈴木 翔太		
第6回	公開買付け①	鈴木 翔太		
第7回	公開買付け②	鈴木 翔太		
第8回	大量保有開示	鈴木 翔太		
第9回	電子開示	鈴木 翔太		
第10回	開示の実効性・公正確保のための制度	鈴木 翔太		

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	企業法テキスト（会社法）、企業法テキスト（商法・金商法）、企業法問題集、企業法ポケットコンパス なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(3年課程及び4年課程)3学年・4学年の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年・3学年

科目名	公開企業会計Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	菊地 裕俊、千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験
ミニテスト	: 30 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	大企業及び上場企業を前提とし、日々の取引から財務諸表作成までの簿記一巡の会計処理ができる商業簿記及び会計学の基礎知識を習得する。また、製造業を前提とした企業の会計処理を行うための工業簿記及び原価計算の基礎知識を習得することを目的とする。その上で、本講義終了後の科目「公開企業会計Ⅱ」に積極的に取り組めるようにする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	有価証券、デリバティブ取引、ヘッジ会計、有形固定資産	千葉 菜愛	
第2回	工業簿記総論、費目別計算	菊地 裕俊	
第3回	割引現在価値、リース取引	千葉 菜愛	
第4回	部門別原価計算、個別原価計算	菊地 裕俊	
第5回	研究開発費、ソフトウェア、減損、繰延資産	千葉 菜愛	
第6回	総合原価計算総論、単純総合原価計算、工程別総合原価計算	菊地 裕俊	

第7回	社債、引当金	千葉 菜愛
第8回	退職給付、資産除去債務	千葉 菜愛
第9回	組別総合原価計算、等級別総合原価計算連産品、副産物	菊地 裕俊
第10回	純資産、新株予約権、ストックオプション	千葉 菜愛
第11回	標準原価計算、直接原価計算、全部原価計算	菊地 裕俊
第12回	税効果会計	千葉 菜愛
第13回	CVP分析、原価分解、事業部制	菊地 裕俊
第14回	外貨建取引	千葉 菜愛
第15回	簿記1級本科統一模擬試験 第1回 実施・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛

準備学習等	<p>毎回の授業の始めに確認テストを実施し、前回の授業範囲が理解できているか確認を行う。</p> <p>確認テストを解答できるよう、毎日の授業の復習を怠らないようにすること。</p>
-------	---

教科書 参考書等	<p>【商業簿記・会計学】</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅠ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅰ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅰ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅡ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅱ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅱ (学校法人 大原学園)</p> <p>ステップアップ問題集 日商簿記1級 商簿・会計 (大原出版)</p> <p>【工業簿記・原価計算】</p> <p>ALFA 1級工業簿記・原価計算 テキスト (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級工業簿記・原価計算 問題集 (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級工業簿記・原価計算 解答集 (学校法人 大原学園)</p> <p>ステップアップ問題集 日商簿記1級 工簿・原計 (大原出版)</p> <p>【共通】</p> <p>簿記1級本科統一模擬試験 第1回 (学校法人 大原学園)</p>
-------------	--

備考	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>公開企業会計Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科各学年合同授業となる。</p>
----	--

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）			
	学年	1学年・2学年・3学年		
科目名	公開企業会計Ⅱ		授業形態	講義
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	90時間
			単位数	3単位
科目教員	菊地 裕俊、千葉 菜愛		授業回数	15回
			成績 評価 方法	筆記試験
ミニテスト	: 30 %			
授業態度	: 20 %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容				
実務経験教員の 実務経験内容				
授業目的 到達目標	科目「公開企業会計Ⅰ」を前提に、会計専門職(税理士・公認会計士等)を目指す者として 高度な商業簿記・会計学及び工業簿記・原価計算を習得し、会計基準や財務諸表等規則 などの企業会計に関する法規を踏まえて、経営管理や経営分析ができることを目的とす る。また、日本商工会議所主催簿記検定試験1級に合格できる能力を身につけることを到 達目標とする。			
授業計画				
回数	授業内容			科目教員
第1回	商品売買等			千葉 菜愛
第2回	予算管理、予算編成、予算統制			菊地 裕俊
第3回	工事契約、本支店会計			千葉 菜愛
第4回	意思決定会計総論、業務的意思決定会計			菊地 裕俊
第5回	連結財務諸表総論、資本連結、成果連結			千葉 菜愛
第6回	構造的意決定会計			菊地 裕俊

第7回	持分法、連結税効果会計、包括利益	千葉 菜愛
第8回	簿記1級本科統一模擬試験 第2回 実施・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛
第9回	在外子会社、企業結合	千葉 菜愛
第10回	戦略的原価計算	菊地 裕俊
第11回	事業分離	千葉 菜愛
第12回	過去試験問題演習解説①（日商簿記過去試験問題第161回、第162回）	菊地 裕俊
第13回	キャッシュ・フロー計算書	千葉 菜愛
第14回	連結キャッシュ・フロー計算書、会計上の変更及び誤謬の訂正	千葉 菜愛
第15回	簿記1級本科統一模擬試験 第3回 実施・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛
準備学習等	各回の復習を必ず行うこと。また、難解な項目もあるため、不明な点等は科目教員に質問や相談をすること。予習は不要。	

<p>教科書 参考書等</p>	<p>【商業簿記・会計学】 ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅠ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅰ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅰ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅡ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅱ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅱ (学校法人 大原学園版) ステップアップ問題集 日商簿記1級 商簿・会計 (大原出版)</p> <p>【工業簿記・原価計算】 ALFA 1級工業簿記・原価計算 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 解答集 (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 基礎答練 問題編 (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 基礎答練 解答編 (学校法人 大原学園) 簿記1級受験用 日商簿記過去問 問題編 (学校法人 大原学園) 簿記1級受験用 日商簿記過去問 解答編 (学校法人 大原学園) ステップアップ問題集 日商簿記1級 工簿・原計 (大原出版) 1級工業簿記・原価計算 基礎期 模擬試験①～⑥ 問題 (学校法人 大原学園) 1級工業簿記・原価計算 基礎期 模擬試験①～⑥ 解答・解説 (学校法人 大原学園)</p> <p>【共通】 簿記1級本科統一模擬試験 第2回 (学校法人 大原学園) 簿記1級本科統一模擬試験 第3回 (学校法人 大原学園)</p>
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>公開企業会計Ⅱは、上記学科の選択必修科目であるため各学科各学年合同授業となる。</p>

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年・3学年

科目名	公開企業会計演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	30時間	
			単位数	2単位	
科目教員	菊地 裕俊、千葉 菜愛		授業回数	10回	
			成績評価方法	筆記試験	: 70 %
授業態度	: 30 %				
	: %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	科目「公開企業会計Ⅰ」及び「公開企業会計Ⅱ」を前提とし、ここまで習得した知識を活用し、商業簿記・会計学及び工業簿記・原価計算の問題演習を行う。難易度の高い問題を解くことで、知識の定着を図る。さらに、会計基準や会社法、財務諸表等規則などの企業会計に関する法規を踏まえて、経営管理や経営分析ができることを目的とする。また、日本商工会議所主催簿記検定試験1級に合格できる能力を身につけることを到達目標とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	日商簿記検定第167回対策 直前模擬試験 第1回 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛	第6回	日商簿記検定第167回対策 直前模擬試験 第5回 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛
第2回	日商簿記検定第167回対策 直前模擬試験 第2回 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛	第7回	日商簿記検定第167回対策 直前模擬試験 第6回 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛

第3回	日商簿記検定第167回対策 直前模擬試験 第3回 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛	第8回	弱点克服問題演習②	菊地 裕俊 千葉 菜愛
第4回	弱点克服問題演習①	菊地 裕俊 千葉 菜愛	第9回	日商簿記検定第167回対策 全国統一公開模擬試験	菊地 裕俊 千葉 菜愛
第5回	日商簿記検定第167回対策 直前模擬試験 第4回 演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛	第10回	最終確認問題演習・解説	菊地 裕俊 千葉 菜愛
準備学習等	日々の授業が本試験だと考え、常に緊張感をもって取り組むこと。また、基礎論点の復習を中心的に行うことによって応用力が身につくものと認識すること。なお、予習は不要。				
教科書 参考書等	<p>【商業簿記・会計学】 ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅠ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅰ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅰ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅡ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅱ (学校法人 大原学園) ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅱ (学校法人 大原学園)</p> <p>【工業簿記・原価計算】 ALFA 1級工業簿記・原価計算 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 解答集 (学校法人 大原学園版)</p> <p>【共通】 日商簿記検定第167回対策 直前模擬試験 第1回～第6回 (学校法人 大原学園) 日商簿記検定第167回対策 全国統一公開模擬試験 (学校法人 大原学園) 過去問題集 日商簿記1級 (大原出版) 第167回をあてるTAC直前予想模擬 日商簿記1級</p>				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 公開企業会計演習Ⅰは、上記学科の選択必修科目であるため各学科各学年合同授業となる。				

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年・3学年

科目名	商業簿記上級	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	90時間
		単位数	5単位
科目教員	千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験 : 50 %
			ミニテスト : 30 %
			授業態度 : 20 %
			: %
科目教員のうち 実務経験教員		: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	科目「公開企業会計Ⅱ」を前提に、会計専門職（税理士・公認会計士等）を目指すものとして高度な商業簿記・会計学を習得し、会計基準や財務諸表等規則などの企業会計に関する法規を踏まえて、財務諸表作成ができることを目的とする。また、最終的には全国経理教育協会主催簿記能力検定試験上級に合格できる能力を身につけることを目標とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	財務諸表分析、一般原則	千葉 菜愛	
第2回	損益計算書原則	千葉 菜愛	
第3回	貸借対照表原則	千葉 菜愛	
第4回	資産会計、負債会計	千葉 菜愛	
第5回	純資産会計	千葉 菜愛	
第6回	外貨建取引会計	千葉 菜愛	
第7回	税効果会計	千葉 菜愛	

第8回	企業結合会計	千葉 菜愛
第9回	連結会計	千葉 菜愛
第10回	キャッシュ・フロー会計	千葉 菜愛
第11回	会計上の変更と誤謬の訂正	千葉 菜愛
第12回	概念フレームワーク	千葉 菜愛
第13回	会社再編の会計①	千葉 菜愛
第14回	会社再編の会計②	千葉 菜愛
第15回	四半期連結財務諸表	千葉 菜愛
準備学習等	各回の復習を必ず行うこと。また、難解な項目もあるため、不明な点等は科目教員に質問や相談をすること。予習は不要。	
教科書 参考書等	<p>【商業簿記・会計学】</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅠ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅰ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅰ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 テキストⅡ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 問題集Ⅱ (学校法人 大原学園)</p> <p>ALFA 1級商業簿記・会計学 解答集Ⅱ (学校法人 大原学園)</p> <p>全経簿記上級 商業簿記・財務会計テキスト (中央経済社)</p> <p>簿記検定全経上級 直前対策講義 商業簿記・会計学 (学校法人 大原学園)</p>	
備考	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>商業簿記上級は、上記学科の選択必修科目であるため各学科各学年合同授業となる。</p>	

学科	経理事務学科（2年課程）・O A事務学科（2年課程）・ O A事務学科（1年課程）・情報システム学科（3年課程）・ 情報システム学科（2年課程）・ビジネス学科（2年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（2年課程）
学年	1学年・2学年・3学年

科目名	工業簿記上級	授業形態	講義	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	90時間	
		単位数	5単位	
科目教員	菊地 裕俊	授業回数	15回	
		成績評価方法	筆記試験	: 50 %
			ミニテスト	: 30 %
			授業態度	: 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員		: %		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容				
実務経験教員の 実務経験内容				
授業目的 到達目標	科目「公開企業会計Ⅱ」を前提に、会計専門職（税理士・公認会計士等）を目指すものとして高度な工業簿記・原価計算を習得し、経営管理や経営分析ができることを目的とする。また、最終的には全国経理教育協会主催簿記能力検定試験上級に合格できる能力を身につけることを目標とする。			
授業計画				
回数	授業内容	科目教員		
第1回	費目別計算、個別原価計算、部門別原価計算、責任会計	菊地 裕俊		
第2回	部門別原価計算、個別原価計算	菊地 裕俊		
第3回	総合原価計算	菊地 裕俊		
第4回	標準原価計算	菊地 裕俊		
第5回	直接原価計算、全部原価計算、CVP分析、原価分解	菊地 裕俊		
第6回	事業部制	菊地 裕俊		

第7回	意思決定の原価概念、業務的意思決定	菊地 裕俊
第8回	構造的意決定	菊地 裕俊
第9回	戦略的原価計算	菊地 裕俊
第10回	工場独立会計	菊地 裕俊
第11回	直前対策講義 過去問題解説(第191回、第193回)	菊地 裕俊
第12回	直前対策講義 過去問題解説(第195回、第197回)	菊地 裕俊
第13回	直前対策講義 過去問題解説(第199回、第201回)	菊地 裕俊
第14回	直前対策講義 過去問題解説(第203回、第205回)	菊地 裕俊
第15回	直前対策講義 過去問題解説(第207回、第209回)	菊地 裕俊
準備学習等	各回の復習を必ず行うこと。また、難解な項目もあるため、不明な点等は科目教員に質問や相談をすること。予習は不要。	
教科書 参考書等	【工業簿記・原価計算】 ALFA 1級工業簿記・原価計算 テキスト (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 問題集 (学校法人 大原学園) ALFA 1級工業簿記・原価計算 解答集 (学校法人 大原学園) 全経簿記上級 原価計算・管理会計テキスト (中央経済社) 簿記検定全経上級 直前対策講義 工業簿記・原価計算 (学校法人 大原学園)	
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 工業簿記上級は、上記学科の選択必修科目であるため各学科各学年合同授業となる。	

学科	OA事務学科(1年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法税務会計	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	23回
		成績評価方法	筆記試験 : 40 %
ミニテスト : 40 %			
授業態度 : 20 %			
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也	: %	: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせる。 また、過去の全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験の出題内容を実務に照らして解説することにより、実務に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	--

授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験1級に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。
--------------	---

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第13回	非課税資産の輸出等を行った 場合の仕入税額の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第14回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除①	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第15回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除②	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高 による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除 対象仕入税額(個別対応方式・ 一括比例配分方式)	小関 哲也	第17回	棚卸資産に係る仕入税額控除 の調整	小関 哲也
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第18回	課税標準	小関 哲也
第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第19回	簡易課税制度	小関 哲也

第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第20回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第22回	国等に対する特例	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第23回	総まとめ問題	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也			
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）、全国経理教育協会主催消費税法能力検定				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 消費税法税務会計は、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

		学科	税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士学科(3年課程)		
		学年	3学年・4学年		
科目名	宅地建物取引士		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	210時間		
		単位数	7単位		
科目教員	竹村 幸生		授業回数	35回	
			成績評価方法	筆記試験	: 40 %
				ミニテスト	: 40 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち実務経験教員			: %		
実務経験教員の実務経験に関する授業内容					
実務経験教員の実務経験内容					
授業目的到達目標	不動産の取引に関連する代表的な法律(宅地建物取引業法、民法、借地借家法等)の基礎を理解してもらうことを目的とする。実際の不動産取引の場面に応じて必要となる法律がある程度選別できること、不動産取引においては不利益を被る可能性の高い買主や借主の立場となり、その権利を守るための考え方ができるようになること、さらには宅地建物取引士資格試験に合格できる知識を身につけることを到達目標とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス、宅建業法(免許-1)	竹村 幸生	第19回	権利関係(賃貸借、使用貸借、委任、不法行為)	竹村 幸生
第2回	宅建業法(免許-2)	竹村 幸生	第20回	権利関係(相続)	竹村 幸生
第3回	宅建業法(営業保証金、宅地建物取引業保証協会)	竹村 幸生	第21回	権利関係(借地借家法-1)	竹村 幸生
第4回	宅建業法(宅地建物取引士)	竹村 幸生	第22回	権利関係(借地借家法-2、区分所有法)	竹村 幸生
第5回	宅建業法(業務を行う場所に関する規制、8種制限-1)	竹村 幸生	第23回	権利関係(不動産登記法)	竹村 幸生
第6回	宅建業法(8種制限-2)	竹村 幸生	第24回	法令上の制限(都市計画法-1)	竹村 幸生
第7回	宅建業法(一般的業務規制、取引態様の明示、媒介契約)	竹村 幸生	第25回	法令上の制限(都市計画法-2)	竹村 幸生
第8回	宅建業法(重要事項の説明等、契約書面の交付)	竹村 幸生	第26回	法令上の制限(建築基準法-1)	竹村 幸生
第9回	宅建業法(報酬、監督・罰則)	竹村 幸生	第27回	法令上の制限(建築基準法-2)	竹村 幸生

第10回	宅建業法(住宅瑕疵担保履行法)	竹村 幸生	第28回	法令上の制限(国土利用計画法、宅地造成等規制法)	竹村 幸生
第11回	権利関係(制限行為能力者、意思表示)	竹村 幸生	第29回	法令上の制限(農地法、土地区画整理法)	竹村 幸生
第12回	権利関係(代理、時効)	竹村 幸生	第30回	法令上の制限(所得税、登録免許税、印紙税)	竹村 幸生
第13回	権利関係(対抗要件、共有)	竹村 幸生	第31回	法令上の制限(不動産取得税、固定資産税、鑑定評価、地価)	竹村 幸生
第14回	権利関係(抵当権)	竹村 幸生	第32回	法令上の制限(景品表示法、住宅金融支援機構法)	竹村 幸生
第15回	権利関係(債権の発生・消滅・譲渡)	竹村 幸生	第33回	総まとめ問題①	竹村 幸生
第16回	権利関係(債務不履行、危険負担)	竹村 幸生	第34回	総まとめ問題②	竹村 幸生
第17回	権利関係(連帯債務、保証債務)	竹村 幸生	第35回	全国統一公開模擬試験	竹村 幸生
第18回	権利関係(売買、請負)	竹村 幸生			
準備学習等	学習する内容が多岐にわたり、日々新たな法律の理解を積み重ねていくこととなる。予習の必要はないが、講義で学んだ内容について、特にテキストを再読し、トレーニング問題集を複数回解き込むことにより、難解な法律であってもその読解力が身につく。復習を欠かさずに実施すること。				
教科書 参考書等	基礎講義 宅建業法テキスト (学校法人 大原学園) 宅建業法トレーニング問題集 (学校法人 大原学園) 基礎講義 権利関係テキスト (学校法人 大原学園) 権利関係トレーニング問題集 (学校法人 大原学園) 基礎講義 法令上の制限テキスト (学校法人 大原学園) 法令上の制限トレーニング問題集 (学校法人 大原学園)				
備考	各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合がある。 宅地建物取引士は、上記学科の選択科目および経理事務学科(2年課程)、OA事務学科(2年課程)、OA事務学科(1年課程)、情報システム学科(3年課程)、情報システム学科(2年課程)、ビジネス学科(2年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。				

学科	OA事務学科(1年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	FP技能士3級		授業形態	講義	
			選必の別	選択	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績評価方法	筆記試験	: 40 %
ミニテスト	: 40 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	ファイナンシャルプランナー（FP）はお金の専門家です。これからの時代、社会人となって必要不可欠となるのが今後の「人生設計」とそれに伴う「お金」の知識です。FP資格は年金・保険・税金といった生活を豊かにする知識の他、株式や預貯金などの金融資産、不動産、相続といったお金に関する幅広い分野を学習することができます。学習を通して基本的なライフプランニングができる知識の習得を目的とし、国家試験であるFP技能士3級検定試験の学科試験と実技試験の両方に合格することのできる能力を身につけることを到達目標とします。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス ライフプランニングと資金計画（FPとライフプランニング、教育・住宅取得資金計画、社会保険）	千葉 菜愛	第9回	タックスプランニング（税金の分類と計算体系、所得税の仕組み、各種所得の内容）	千葉 菜愛
第2回	ライフプランニングと資金計画（公的年金制度の概要、老後の生活資金設計と公的年金、公的年金における障害給付・遺族給付）	千葉 菜愛	第10回	タックスプランニング（課税標準に計算、所得控除、税額控除）	千葉 菜愛

第3回	ライフプランニングと資金計画（企業年金・自営業者のための年金、ライフプランニングの考え方）	千葉 菜愛	第11回	タックスプランニング（確定申告、個人住民税と個人事業税）	千葉 菜愛
第4回	リスク管理（リスクマネジメント、保険制度全般、生命保険の概略、生命保険商品の種類と内容）	千葉 菜愛	第12回	不動産（不動産の見方、不動産の取引、不動産に関する法令上の制限）	千葉 菜愛
第5回	リスク管理（損害保険の概略、損害保険商品の種類と内容、個人・法人の契約に関する税金、第三分野の保険・共済）	千葉 菜愛	第13回	不動産（不動産に係る税金、不動産の有効活用）	千葉 菜愛
第6回	金融資産運用（マーケット環境の理解、預貯金等、債券、株式）	千葉 菜愛	第14回	相続・事業承継（相続と法律、贈与と法律、贈与と税金、相続と税金）	千葉 菜愛
第7回	金融資産運用（投資信託、外貨建て商品、金融派生商品）	千葉 菜愛	第15回	相続・事業承継（財産の評価（不動産・金融資産）、相続対策）	千葉 菜愛
第8回	金融資産運用（ポートフォリオ理論、金融商品と税金、セーフティネット、関連法規）	千葉 菜愛	/		
準備学習等	予習の必要はありません。経済（社会）や法律を学ぶことになるため、不明な点は教員に質問をして、次回の講義に備えてください。				
教科書 参考書等	ファイナンシャル・プランナー3級 テキスト（大原出版） ファイナンシャル・プランナー3級 問題集（大原出版）				
備考	各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 FP技能士3級は、上記学科及び各学年の選択科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。				

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	F P 技能士 3 級演習		授業形態	演習
			選必の別	選択
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	15時間
			単位数	1単位
科目教員	千葉 菜愛		授業回数	5回
			成績評価方法	筆記試験
授業態度	: 30 %			
	: %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員				: %
実務経験教員の実務経験に関する授業内容				
実務経験教員の実務経験内容				
授業目的 到達目標	ファイナンシャルプランナーとして必要な年金、保険、金融資産、税金、不動産、相続などの知識を、過去試験問題や模擬問題を通して答案練習・解説することで、理解を深めてもらうことを目的としています。FP技能士3級受験のため学科及び実技問題を、本試験通りの時間設定の中で解答し、常に合格点数以上を取ることを達成目標とします。			
授業計画				
回数	授業内容			科目教員
第1回	ガイダンス 過去試験対策①			千葉 菜愛
第2回	過去試験対策②			千葉 菜愛
第3回	過去試験対策③			千葉 菜愛
第4回	模擬試験①			千葉 菜愛
第5回	模擬試験②			千葉 菜愛
準備学習等	反復の答案練習が必要となります。間違った問題の解き直しに全力を注いでください。また、学科試験、実技試験をバランスよく学習することを心がけてください。			

<p>教科書 参考書等</p>	<p>ファイナンシャル・プランナー3級 学科・実技過去試験問題集 問題編 (学校法人 大原学園)</p> <p>ファイナンシャル・プランナー3級 学科・実技過去試験問題集 解答編 (学校法人 大原学園)</p> <p>ファイナンシャル・プランニング技能検定3級 学科模擬試験 (学校法人 大原学園)</p> <p>ファイナンシャル・プランニング技能検定3級 実技模擬試験 (学校法人 大原学園)</p> <p>復習用教材として、FP技能士3級で使用しているテキストを持参してください。</p>
<p>備考</p>	<p>各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>F P 技能士 3 級演習は、上記学科及び各学年の選択科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。</p>

学科	OA事務学科(1年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	コンピュータ会計	授業形態	演習	
		選必の別	選択	
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	30時間	
		単位数	2単位	
科目教員	竹村 幸生	授業回数	8回	
		成績評価方法	筆記試験	: 50 %
			授業態度	: 50 %
				: %
				: %
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員				
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容				
実務経験教員の 実務経験内容				
授業目的 到達目標	簿記に関連した科目を履修したものが、その知識を実務でも活用できるよう会計ソフト(弥生会計)を使用し実習することで、簿記の知識(いわゆる受験簿記の知識)と会計ソフトを利用した場合の簿記とのつながり、相違点を理解してもらうことを目的としています。自ら会計ソフトを利用して基礎的な会計処理(入力・集計等)ができるようになること、コンピュータ会計能力検定2級を取得するための知識と技能を身につけることを到達目標とします。			
授業計画				
回数	授業内容	科目教員		
第1回	ガイダンス及び会計ソフトの操作	竹村 幸生		
第2回	企業の基幹業務と会計処理	竹村 幸生		
第3回	税金に関連する業務と会計処理	竹村 幸生		
第4回	会計データ(証ひょうによる)の入力処理と集計	竹村 幸生		
第5回	決算に関連する業務と会計処理	竹村 幸生		
第6回	予算管理と経営分析指標	竹村 幸生		
第7回	収益構造分析と短期利益計画	竹村 幸生		

第8回	キャッシュ・フロー分析	竹村 幸生
準備学習等	<p>パソコンを利用した会計処理の実習が中心となります。序盤は慣れない作業に苦勞することになりますが、繰り返し実習を積むことでその技術(入力の手速・精度)は上達します。空き時間等を利用し、積極的にパソコン教室での練習を心がけてください。なお、予習は不要です。</p>	
教科書 参考書等	<p>コンピュータ会計応用テキスト (実教出版) コンピュータ会計応用問題集 (実教出版) コンピュータ会計能力検定試験 過去問題集 (公益社団法人 全国経理教育協会)</p>	
備考	<p>各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>コンピュータ会計は、上記学科及び各学年の選択科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。</p>	

学科	税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・3学年・4学年

科目名	租税法(法人税法Ⅰ) (メディア授業)	授業形態	講義	
		選必の別	選択	
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	30時間	
		単位数	1単位	
科目教員	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	授業回数	10回	
		成績評価方法	筆記試験	: 70 %
			確認テスト	: 10 %
			授業態度	: 20 %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容				
実務経験教員の 実務経験内容				
授業目的 到達目標	法人税の基本的な計算及び納付に関する手続きを身につけ、企業での納税の重要性について理解する。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。			
授業計画				
回数	授業内容	科目教員		
第1回	法人税総則・課税標準	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生		
第2回	交際費等の損金不算入	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生		
第3回	減価償却（普通償却）	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生		
第4回	租税公課及び納税充当金	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生		
第5回	受取配当等の益金不算入・繰延資産	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生		
第6回	金銭債務の償却差損益・有価証券	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生		
第7回	第1回から第6回の確認を目的とした筆記試験 重要論点の解説	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生		
第8回	所得税額控除・寄附金の損金不算入	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生		
第9回	減価償却・特別償却準備金・リース取引	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生		
第10回	評価損益・使途秘匿金・外国税額控除・貸倒損失	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生		

準備学習等	講義内容をデータとして保存し、視聴時間帯に合わせてパソコン視聴できるシステムでの学習となります。受講生自身の自主的な取り組みが重要であるため、各回、配付レジュメを読んでから講義視聴に入り、視聴後も配付レジュメによる復習を欠かさず実施してください。
教科書 参考書等	租税法テキスト（法人税法上巻）、租税法テキスト（法人税法下巻）、問題（法人税法）、解答解説（法人税法） なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(2年4ヵ月課程、3年課程及び4年課程)3学年、4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)1学年の選択科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む租税法系の科目（法人税法Ⅱ、所得税法、消費税法）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・3学年・4学年

科目名	租税法(法人税法Ⅱ) (メディア授業)		授業形態	講義
			選必の別	選択
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	30時間
			単位数	1単位
科目教員	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生		授業回数	10回
			成績評価方法	筆記試験
確認テスト	: 10 %			
授業態度	: 20 %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容				
実務経験教員の 実務経験内容				
授業目的 到達目標	圧縮記帳・外貨建取引を始め、会計で起こりうる事象に関する法人税の取扱いについて理解する。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。			
授業計画				
回数	授業内容			科目教員
第1回	欠損金の繰越控除・繰戻し還付・収用等の特別控除			及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生
第2回	収用等の特別控除			及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生
第3回	圧縮記帳①			及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生
第4回	圧縮記帳②			及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生
第5回	同族会社の判定			及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生
第6回	役員給与・使用人給与			及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生
第7回	外国子会社から受ける配当等			及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生
第8回	みなし配当・帰属事業年度			及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生
第9回	税効果会計・外貨建取引			及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生
第10回	第1回から第9回の確認を目的とした筆記試験 重要論点の解説			及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生

準備学習等	講義内容をデータとして保存し、視聴時間帯に合わせてパソコン視聴できるシステムでの学習となります。受講生自身の自主的な取り組みが重要であるため、各回、配付レジュメを読んでから講義視聴に入り、視聴後も配付レジュメによる復習を欠かさず実施してください。
教科書 参考書等	租税法テキスト（法人税法上巻）、租税法テキスト（法人税法下巻）、問題（法人税法）、解答解説（法人税法） なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(2年4ヵ月課程、3年課程及び4年課程)3学年、4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)1学年の選択科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む租税法系の科目（法人税法Ⅰ、所得税法、消費税法）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・3学年・4学年

科目名	租税法(所得税法) (メディア授業)	授業形態	講義
		選必の別	選択
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	授業回数	10回
		成績評価方法	筆記試験
確認テスト	: 10 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	直接税の基幹を担う所得税の概念・計算過程を学び、租税の基本理念である「負担の公平」を身につける。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	所得税の概要	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第2回	課税標準・課税所得金額の計算①	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第3回	課税所得金額の計算②	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第4回	所得控除額の計算	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第5回	納付税額の計算	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第6回	申告・納付	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第7回	源泉徴収	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第8回	事業所得	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第9回	譲渡所得の金額の計算	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第10回	第1回から第9回の確認を目的とした筆記試験 重要論点の解説	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	

準備学習等	講義内容をデータとして保存し、視聴時間帯に合わせてパソコン視聴できるシステムでの学習となります。受講生自身の自主的な取り組みが重要であるため、各回、配付レジュメを読んでから講義視聴に入り、視聴後も配付レジュメによる復習を欠かさず実施してください。
教科書 参考書等	租税法テキスト（所得税法） なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(2年4ヵ月課程、3年課程及び4年課程)3学年、4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)1学年の選択科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む租税法系の科目（法人税法Ⅰ、Ⅱ、消費税法）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・3学年・4学年

科目名	租税法(消費税法) (メディア授業)	授業形態	講義
		選必の別	選択
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	授業回数	10回
		成績 評価 方法	筆記試験
確認テスト	: 10 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	直接税と間接税の違いをおさえ、消費税の性格である消費者に対する課税の公平性及び 税の累積排除の特性を理解する。年々変化する税法に対し最新の規定を学習し、到達目 標として、筆記試験の70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	消費税法の概要	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第2回	課税の対象・非課税	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第3回	輸出免税等・仕入れに係る消費税額	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第4回	仕入れ・売上げに係る対価の返還等	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第5回	貸倒れが生じた場合	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第6回	課税標準・納税義務の免除	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第7回	簡易課税制度・中間申告制度	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第8回	棚卸資産・調整対象固定資産に係る仕入税額控除	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第9回	中間申告に係る納付税額の計算	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	

第10回	第1回から第9回の確認を目的とした筆記試験 重要論点の解説	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生
準備学習等	講義内容をデータとして保存し、視聴時間帯に合わせてパソコン視聴できるシステムでの学習となります。受講生自身の自主的な取り組みが重要であるため、各回、配付レジュメを読んだから講義視聴に入り、視聴後も配付レジュメによる復習を欠かさず実施してください。	
教科書 参考書等	租税法テキスト（消費税法） なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(2年4ヵ月課程、3年課程及び4年課程)3学年、4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)1学年の選択科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む租税法系の科目（法人税法Ⅰ、Ⅱ、所得税法）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。	

学科	税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・3学年・4学年

科目名	経営学の原理(メディア授業)	授業形態	講義	
		選必の別	選択	
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	30時間	
		単位数	1単位	
科目教員	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	授業回数	10回	
		成績評価方法	確認テスト	: 70 %
			授業態度	: 30 %
				: %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容				
実務経験教員の 実務経験内容				
授業目的 到達目標	経営に関する基本的な考え方を身につけ、歴史的状況及び海外企業の経営等から、現代社会における日本経済の在り方を理解し、到達目標として、各回実施の確認テスト70点以上とする。			
授業計画				
回数	授業内容	科目教員		
第1回	アメリカ経営学説	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生		
第2回	組織構造論	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生		
第3回	組織文化論	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生		
第4回	経営戦略論の基礎概念	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生		
第5回	競争戦略・多角化戦略・国際化戦略	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生		
第6回	経営戦略の展開方式・技術経営	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生		
第7回	経営戦略論の学説史	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生		
第8回	日本的経営と日本の企業グループ	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生		
第9回	コーポレートガバナンス論	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生		

第10回	企業の社会的責任	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生
準備学習等	講義内容をデータとして保存し、視聴時間帯に合わせてパソコン視聴できるシステムでの学習となります。受講生自身の自主的な取り組みが重要であるため、各回、配付レジュメを読んだから講義視聴に入り、視聴後も配付レジュメによる復習を欠かさず実施してください。	
教科書 参考書等	経営学テキスト（上巻）、経営学テキスト（下巻）、経営学問題集、経営学ポケットコンパス（基礎編） なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(2年4ヵ月課程、3年課程及び4年課程)3学年、4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)1学年の選択科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む経営学系の科目（企業ファイナンス）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。	

学科	税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・3学年・4学年

科目名	企業ファイナンス(メディア授業)	授業形態	講義
		選必の別	選択
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	授業回数	10回
		成績評価方法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			: %
実務経験教員の 実務経験内容			: %
授業目的 到達目標	資産の運用や投資の意思決定をはじめとし、資金の調達や運営にかかわる戦略策定をするための知識を身につけ、到達目標として、各回実施の確認テスト70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	経営学概要	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生
第2回	投資理論（ポートフォリオ理論）	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生
第3回	投資理論（資本資産評価モデル）	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生
第4回	投資理論（債券評価）	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生
第5回	企業財務論（資本コスト・資本構成）①	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生
第6回	企業財務論（資本コスト・資本構成）②	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生
第7回	企業財務論（投資決定・配当政策）①	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生
第8回	企業財務論（投資決定・配当政策）②	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生
第9回	デリバティブ（先物取引）	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生

第10回	デリバティブ（オプション取引・スワップ取引）	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生
準備学習等	講義内容をデータとして保存し、視聴時間帯に合わせてパソコン視聴できるシステムでの学習となります。受講生自身の自主的な取り組みが重要であるため、各回、配付レジュメを読んでから講義視聴に入り、視聴後も配付レジュメによる復習を欠かさず実施してください。	
教科書 参考書等	経営学テキスト（上巻）、経営学テキスト（下巻）、経営学問題集、経営学ポケットコンパス（基礎編） なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(2年4ヵ月課程、3年課程及び4年課程)3学年、4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)1学年の選択科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む経営学系の科目（経営学の原理）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。	

学科	〇 A 事務学科(1 年課程)・〇 A 事務学科(2 年課程)・ビジネス学科(2 年課程)・経理事務学科(2 年課程)・情報システム学科(2 年課程)・情報システム学科(3 年課程)・税理士会計士学科(2 年課程)・税理士会計士学科(2 年 4 ヶ月課程)・税理士会計士学科(3 年課程)・税理士会計士学科(4 年課程)・税理士会計士専攻学科(1 年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	簿記論 I		授業形態		講義		
			選必の別		選必		
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数		120時間		
			単位数		4単位		
科目教員	竹村 幸生		授業回数		30回		
			成績評価方法	筆記試験		: 40 %	
				ミニテスト		: 40 %	
				授業態度		: 20 %	
						: %	
科目教員のうち実務経験教員				: %			
実務経験教員の実務経験に関する授業内容							
実務経験教員の実務経験内容							
授業目的到達目標	日商簿記検定2級（商業簿記）程度の簿記知識をすでに習得していることを前提に、中小企業にて行われる各種取引の会計処理について細部まで解説することで、理解を深めてもらうことを目的としています。そして、日々の取引から決算整理に至るまで、主要簿及び補助簿等への記入や締め切り、帳簿を基礎として作成される各種試算表や精算表といった、主に企業内部で使用される帳票類を自ら作成できる能力と、税理士試験簿記論に合格できる基礎能力を身につけることを到達目標とします。						
授業計画							
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員		
第1回	ガイダンス 簿記の目的、簿記の仕組み	竹村 幸生	第16回	当座預金の期末修正、当座借越	竹村 幸生		
第2回	主要簿及び補助簿、決算振替	竹村 幸生	第17回	その他資本剰余金、利益準備金・繰越利益剰余金	竹村 幸生		
第3回	精算表、貸借対照表及び損益計算書	竹村 幸生	第18回	自己株式の概要、自社利用目的のソフトウェア	竹村 幸生		
第4回	現金の範囲、現金過不足、当座預金（小切手）	竹村 幸生	第19回	税効果会計の概要、将来減算一時差異	竹村 幸生		
第5回	債権債務、約束手形	竹村 幸生	第20回	売上原価計上法、分記法、総記法	竹村 幸生		
第6回	三分法、商品有高帳、商品評価損等	竹村 幸生	第21回	償却原価法（利息法）、社債の買入償還	竹村 幸生		
第7回	固定資産の概要、減価償却、固定資産の売却等	竹村 幸生	第22回	原価率・利益率、仕入・売上の計上基準	竹村 幸生		

第8回	資本的支出と収益的支出、無形固定資産	竹村 幸生	第23回	自己株式の処分・消却、満期保有目的の債券	竹村 幸生
第9回	源泉所得税・社会保険料、賞与引当金	竹村 幸生	第24回	その他有価証券、有価証券の減損処理	竹村 幸生
第10回	貸倒損失、貸倒引当金(実績率法、財務内容評価法)	竹村 幸生	第25回	新株予約権、株主資本等変動計算書	竹村 幸生
第11回	損益の見越・繰延、退職給付(簡便法・退職一時金制度)	竹村 幸生	第26回	固定資産の売却等(手数料、消費税、値引)	竹村 幸生
第12回	有価証券の概要、売買目的有価証券、関係会社株式	竹村 幸生	第27回	割引現在価値の算定	竹村 幸生
第13回	法人税等、租税公課、消費税等	竹村 幸生	第28回	減損会計の概要、減損の兆候・認識の判定及び測定	竹村 幸生
第14回	手形の譲渡、社債の概要、償却原価法(定額法)	竹村 幸生	第29回	退職給付(原則法・退職一時金制度と企業年金制度)	竹村 幸生
第15回	純資産の概要、資本金・資本準備金	竹村 幸生	第30回	転換社債型新株予約権付社債(区分法)	竹村 幸生
準備学習等	会計処理の知識や帳簿記入の技術を身につけるためには、日々の復習を欠かさず地道な努力を継続することが何より求められます。項目によっては大変難易度の高い内容も含まれていますので、講義の中で全てが完結するものと考えず、講義後の復習(問題演習)を実施することでより理解が深まることを認識して下さい。なお、予習は不要です。				
教科書 参考書等	簿記論計算テキスト1(大原学園)、計算問題集1-1、1-2(大原学園) 簿記論計算テキスト2(大原学園)、計算問題集2-1、2-2(大原学園) 簿記論個別計算問題集(大原出版)、簿記論総合計算問題集基礎編(大原出版)				
備考	各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 簿記論Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	簿記論Ⅱ		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数		180時間	
			単位数		6単位	
科目教員	竹村 幸生		授業回数		45回	
			成績 評価 方法	筆記試験		: 40 %
ミニテスト		: 40 %				
授業態度		: 20 %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員					:	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容						
実務経験教員の 実務経験内容						
授業目的 到達目標	簿記論Ⅰで履修した中小企業を中心とした会計処理に加え、上場企業をも前提とした会計処理を詳細に解説し、理解してもらうことを目的としています。帳票類から情報を読み取り、企業を取り巻く利害関係者に報告するために作成される基本的な決算書類（損益計算書、貸借対照表、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書等）を自らある程度作成・表示できる能力を身につけること、また、税理士試験簿記論に合格できる知識と計算技術を身につけることを到達目標とします。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	ガイダンス リース取引（オペレーティング・リースとファイナンス・リース）	竹村 幸生	第24回	リース取引(リース料先払い)	竹村 幸生	
第2回	外貨建会計（外貨建項目の基本的な換算）、保険金の取り扱い	竹村 幸生	第25回	ソフトウェア(受注制作のソフトウェア)	竹村 幸生	
第3回	退職給付（原則法・各種差異）	竹村 幸生	第26回	有価証券(配当を受けた株主の処理、保有目的区分の変更)	竹村 幸生	
第4回	転換社債型新株予約権付社債（一括法）	竹村 幸生	第27回	資産除去債務(資産除去債務に係る税効果)	竹村 幸生	
第5回	外貨建会計（為替予約・独立処理）	竹村 幸生	第28回	本支店会計(在外支店)	竹村 幸生	
第6回	圧縮記帳(直接減額方式、積立金方式)	竹村 幸生	第29回	新株予約権付社債(外貨建転換社債型新株予約権付社債)	竹村 幸生	

第7回	試用販売(対照勘定法・手許商品区分法)	竹村 幸生	第30回	金利スワップ、会計上の変更(会計方針の変更に係る税効果)	竹村 幸生
第8回	本支店会計(期中手続、決算手続、合併財務諸表の作成)	竹村 幸生	第31回	リース取引(貸手側の処理)	竹村 幸生
第9回	製造業会計(製造業会計一巡)	竹村 幸生	第32回	伝票会計(三伝票制、五伝票制)、社債(抽選償還)	竹村 幸生
第10回	資産除去債務(概要、基本的な会計処理)	竹村 幸生	第33回	組織再編会計(株式交換、株式移転)、分配可能額	竹村 幸生
第11回	キャッシュ・フロー計算書(直接法)	竹村 幸生	第34回	リース取引(残価保証、中途解約、維持管理費用相当額)	竹村 幸生
第12回	外貨建会計(為替予約・振当処理)、ソフトウェア(市場販売目的)	竹村 幸生	第35回	連結会計(段階取得、連結税効果会計)	竹村 幸生
第13回	組織再編会計(企業結合)、貸倒引当金(キャッシュ・フロー見積法)	竹村 幸生	第36回	ストック・オプション(公正な評価単価の変更)	竹村 幸生
第14回	会計上の変更等(会計上の見積変更、過去の誤謬の訂正)	竹村 幸生	第37回	収益認識基準(概要、返金負債、契約資産・契約負債等)	竹村 幸生
第15回	連結会計(取得日連結、連結第1年度の処理)	竹村 幸生	第38回	令和3年税理士試験 本試験問題演習及び解説	竹村 幸生
第16回	本支店会計(支店間取引)、減損会計(共用資産)	竹村 幸生	第39回	令和4年税理士試験 本試験問題演習及び解説	竹村 幸生
第17回	委託販売・受託販売	竹村 幸生	第40回	令和5年税理士試験 本試験問題演習及び解説	竹村 幸生
第18回	キャッシュ・フロー計算書(間接法)	竹村 幸生	第41回	全国統一公開模擬試験 〔内容〕全範囲を対象とした本試験受験対策問題の演習及び解説	竹村 幸生
第19回	連結会計(持分法、持分法第1年度の処理)	竹村 幸生	第42回	第1回直前予想公開模擬試験 〔内容〕全範囲を対象とした本試験受験対策問題の演習及び解説	竹村 幸生
第20回	組織再編会計(事業分離)、ストック・オプション(概要)	竹村 幸生	第43回	第2回直前予想公開模擬試験 〔内容〕全範囲を対象とした本試験受験対策問題の演習及び解説	竹村 幸生
第21回	会計上の変更等(会計方針の変更)	竹村 幸生	第44回	総まとめ確認問題①	竹村 幸生
第22回	連結会計(連結第2年度以降の処理)	竹村 幸生	第45回	総まとめ確認問題②	竹村 幸生

第23回	リース取引(セール・アンド・リースバック)	竹村 幸生	
準備学習等	<p>会計処理の知識や帳簿記入の技術を身につけるためには、日々の復習を欠かさず地道な努力を継続することが何より求められます。項目によっては大変難易度の高い内容も含まれていますので、講義の中で全てが完結するものと考えず、講義後の復習（問題演習）を実施することでより理解が深まることを認識して下さい。なお、予習は不要です。</p>		
教科書 参考書等	<p>簿記論計算テキスト2(大原学園)、計算問題集2-2(大原学園) 簿記論計算テキスト3(大原学園)、計算問題集3(大原学園) 簿記論直前対策テキスト(大原学園)、直前対策問題集(大原学園) 簿記論個別計算問題集（大原出版）、簿記論総合計算問題集応用編（大原出版）</p>		
備考	<p>各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 簿記論Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。</p>		

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	財務諸表論Ⅰ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	120時間	
			単位数	4単位	
科目教員	千葉 菜愛		授業回数	30回	
			成績評価方法	筆記試験	: 40 %
				ミニテスト	: 40 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	企業の経済活動を表す損益計算書や貸借対照表などの財務諸表の作成に関する原理や原則を計算と理論に分けて学習します。計算では日々の取引を集計した残高試算表から、財務諸表を作成する能力を身につけ、理論では企業会計原則を理解し記述することができる力を身につけることを目的とします。また、税理士試験財務諸表論に合格できる能力の基礎を身につけることを到達目標とします。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	計算：ガイダンス 財務諸表論の概要、貸借対照表（株主資本除く）流動固定の分類基準、損益計算書	千葉 菜愛	第16回	計算：割引現在価値、資産除去債務 理論：費用収益対応の原則、一般販売の収益認識	千葉 菜愛
第2回	計算：現金及び預金、債権及び債務	千葉 菜愛	第17回	計算：当座借越 理論：特殊販売の収益認識	千葉 菜愛

第3回	計算：個別注記表（重要な会計方針）、B/S注記、損益の見越・繰延 理論：ガイダンス	千葉 菜愛	第18回	計算：関係会社に対する債権債務 理論：工事契約（基本）、P/L表示原則、B/S表示原則	千葉 菜愛
第4回	計算：銀行勘定調整表 理論：財務諸表論の基礎概念	千葉 菜愛	第19回	計算：ソフトウェア、税金（外形基準、租税公課） 理論：財務諸表論の基礎概念（資本循環と財務諸表、会計観）	千葉 菜愛
第5回	計算：棚卸資産（売上原価の算定） 理論：一般原則（真実性の原則）	千葉 菜愛	第20回	計算：税効果会計 理論：貸借対照表の本質	千葉 菜愛
第6回	計算：有形固定資産、無形固定資産 理論：一般原則（正規の簿記の原則）	千葉 菜愛	第21回	計算：源泉所得税、社会保険料、棚卸資産（返品、値引、割戻） 理論：資産総論（分類、評価）	千葉 菜愛
第7回	計算：引当金（一般債権）、給料等 理論：一般原則（明瞭性の原則）	千葉 菜愛	第22回	計算：株主資本等変動計算書 理論：棚卸資産（数量計算、評価方法）	千葉 菜愛
第8回	計算：引当金（懸念、破産） 理論：一般原則（継続性の原則）	千葉 菜愛	第23回	計算：減損会計 理論：固定資産の定義と分類、取得原価（自家建設）	千葉 菜愛
第9回	計算：退職給付（簡便法） 理論：一般原則（資本利益区別の原則）	千葉 菜愛	第24回	計算：棚卸資産（他勘定振替） 理論：固定資産の取得原価（現物出資、交換）	千葉 菜愛

第10回	計算：法人税等・追徴還付、株主資本 理論：一般原則（単一性の原則）	千葉 菜愛	第25回	計算：償却原価法（利息法） 理論：固定資産（減価償却、評価減）	千葉 菜愛
第11回	計算：その他の引当金 理論：一般原則（保守主義の原則）	千葉 菜愛	第26回	計算：為替予約（独立処理） 理論：固定資産（資本的支出、特殊な有形固定資産の費用化）	千葉 菜愛
第12回	計算：関係会社（議決権による判定） 理論：重要性の原則	千葉 菜愛	第27回	計算：有価証券（その他有価証券） 理論：資本総論（実体資本維持）	千葉 菜愛
第13回	計算：有価証券（基本的評価等） 理論：P/Lの本質と構造、発生主義会計と現金主義会計	千葉 菜愛	第28回	計算：圧縮記帳（直接）、消費税 理論：繰延資産（概念）、繰延資産（会計処理）	千葉 菜愛
第14回	計算：社債 理論：期間損益計算の基本原則及び収支額基準	千葉 菜愛	第29回	計算：外貨建有価証券 理論：負債（引当金）、負債（偶発債務）、財務諸表論の基礎概念（会計観 資産・負債）	千葉 菜愛
第15回	計算：外貨建取引（基本的換算） 理論：実現主義の原則、発生主義の原則	千葉 菜愛	第30回	計算：P/L注記（取締役に対する金銭債権債務）、有価証券（配当を受けた株主の処理） 理論：資産の評価（時価）、資産の評価（現価主義）	千葉 菜愛
準備学習等	財務諸表論については、計算と理論をバランスよく学習していきます。そのため、日々の復習と理論暗記を継続することが必要不可欠です。講義内で指示する問題演習を欠かさず実施することで、より理解が深まるものと解してください。なお、予習は不要です。				

教科書 参考書等	財務諸表論計算テキスト1（大原学園）、計算問題集1-1、1-2（大原学園）、理論テキスト1（大原学園） 財務諸表論計算テキスト2（大原学園）、計算問題集2-1、2-2（大原学園）、理論テキスト2（大原学園） 財務諸表論個別計算問題集（大原出版）、財務諸表論総合計算問題集基礎編（大原出版）
備考	各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 財務諸表論Ⅰは、上記学科及び各学年の選択科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	財務諸表論Ⅱ		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数		180時間	
			単位数		6単位	
科目教員	千葉 菜愛		授業回数		45回	
			成績 評価 方法	筆記試験		: 40 %
ミニテスト		: 40 %				
授業態度		: 20 %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員					:	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容						
実務経験教員の 実務経験内容						
授業目的 到達目標	財務諸表論Ⅰと同様に財務諸表の作成に関する原理や原則を計算と理論に分けて学習します。計算では、財務諸表論Ⅰで履修した損益計算書や貸借対照表以外にも、キャッシュ・フロー計算書等の利害関係者への報告資料の作成方法を習得し、理論では、概念フレームワークや金融商品会計基準といった財務諸表論Ⅰで履修した以外の会計基準について理解することを目的とします。また、税理士試験財務諸表論に合格できる計算能力と会計基準を記述する力を身につけることを到達目標とします。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	計算：ガイダンス 理論：ガイダンス	千葉 菜愛	第24回	計算：株主資本（新株式申込証拠金、新株自己株同時交付） 理論：キャッシュ・フロー計算書	千葉 菜愛	
第2回	計算：P/L注記（関係会社との取引高）、後発事象の注記 理論：概念フレームワーク	千葉 菜愛	第25回	計算：株主資本（一株当たり情報） 理論：株主資本等変動計算書	千葉 菜愛	

第3回	計算：リース会計 理論：損益計算論（投資のリスクからの解放）	千葉 菜愛	第26回	計算：分配可能額（のれん等調整額） 理論：企業結合会計	千葉 菜愛
第4回	計算：退職給付（原則法） 理論：資産の分類（事業投資・金融投資）	千葉 菜愛	第27回	計算：連結会計（取得日連結） 理論：事業分離会計	千葉 菜愛
第5回	計算：金融商品（証券投資信託、ゴルフ会員権） 理論：工事契約（応用）	千葉 菜愛	第28回	計算：連結会計（連結第1年度） 理論：連結財務諸表（基礎概念）	千葉 菜愛
第6回	計算：退職給付（原則法）各種差異 理論：金融商品の範囲、発生消滅認識、基本的評価	千葉 菜愛	第29回	計算：会計上の変更等（会計方針） 理論：連結財務諸表（純利益・包括利益）	千葉 菜愛
第7回	計算：製造業会計（基本） 理論：金融商品（金銭債権）	千葉 菜愛	第30回	計算：新株予約権、新株予約権付社債 理論：四半期財務諸表	千葉 菜愛
第8回	計算：研究開発費 理論：金融商品（有価証券）	千葉 菜愛	第31回	計算：ストック・オプション 理論：税効果会計	千葉 菜愛
第9回	計算：繰延資産 理論：金融商品（事業用資産・金融資産）	千葉 菜愛	第32回	計算：財務諸表等規則 理論：外貨換算会計	千葉 菜愛

第10回	計算：製造業会計（仕掛品評価） 理論：金融商品会計（金融負債の評価）	千葉 菜愛	第33回	計算：税効果会計（資産除去債務に係る税効果） 理論：ストック・オプション	千葉 菜愛
第11回	計算：為替予約（振当処理） 理論：金融商品会計（デリバティブ取引）	千葉 菜愛	第34回	計算：組織再編会計（株式交換） 理論：連結財務諸表（退職給付）	千葉 菜愛
第12回	計算：売価還元法 理論：金融商品会計（ヘッジ取引）	千葉 菜愛	第35回	理論：収益認識に関する会計基準	千葉 菜愛
第13回	計算：組織再編会計（合併、事業譲受） 理論：収益性の低下（固定資産）	千葉 菜愛	第36回	計算：組織再編会計（共通支配下の取引） 理論：実践問題対策（配分と評価、会計観）	千葉 菜愛
第14回	計算：組織再編会計（事業分離） 理論：収益性の低下（棚卸資産）	千葉 菜愛	第37回	計算：収益認識（売上割引） 理論：実践問題対策（資産及び負債の貸借対照表能力）	千葉 菜愛
第15回	計算：為替予約（ヘッジ会計） 理論：収益性の低下（工事損失引当金）	千葉 菜愛	第38回	計算：収益認識（カスタマー・ロイヤルティ・プログラム） 理論：実践問題対策（割引現在価値、純資産と包括利益）	千葉 菜愛
第16回	計算：金利スワップ 理論：リース会計	千葉 菜愛	第39回	理論総まとめ① （一般原則、P/L総論、B/S総論）	千葉 菜愛

第17回	計算：引当金（CF見積法） 理論：研究開発費・ソフトウェア	千葉 菜愛	第40回	理論総まとめ② （棚卸資産、固定資産、繰延資産、負債）	千葉 菜愛
第18回	計算：退職給付（簡便法）企業年金併用 理論：退職給付会計	千葉 菜愛	第41回	理論総まとめ③ （概念フレームワーク、金融商品、負債）	千葉 菜愛
第19回	計算：圧縮記帳（積立金） 理論：資産除去債務	千葉 菜愛	第42回	理論総まとめ④ （純資産会計、企業結合会計、事業分離会計）	千葉 菜愛
第20回	計算：分配可能額 理論：分配可能額	千葉 菜愛	第43回	令和3年度 本試験問題演習及び解説	千葉 菜愛
第21回	計算：C/F（営業活動） 理論：純資産会計（資本の概念）	千葉 菜愛	第44回	令和4年度 本試験問題演習及び解説	千葉 菜愛
第22回	計算：C/F（投資・財務活動） 理論：純資産会計（自己株式）	千葉 菜愛	第45回	令和5年度 本試験問題演習及び解説	千葉 菜愛
第23回	計算：会計上の変更等（見積り、減価償却方法の変更） 理論：会計上の変更及び誤謬の訂正	千葉 菜愛	/		

準備学習等	財務諸表論については、計算と理論をバランスよく学習していきます。そのため、日々の復習と理論暗記を継続することが必要不可欠です。講義内で指示する問題演習を欠かさず実施することで、より理解が深まるものと解してください。なお、予習は不要です。
教科書 参考書等	財務諸表論計算テキスト2（大原学園）、計算問題集2-1、2-2（大原学園）、理論テキスト1（大原学園） 財務諸表論計算テキスト3（大原学園）、計算問題集3（大原学園）、理論テキスト2（大原学園） 直前対策テキスト1（大原出版）、直前対策テキスト2（大原出版）、過去試験問題集（大原出版） 財務諸表論個別計算問題集（大原出版）、 財務諸表論総合計算問題集応用編（大原出版）
備考	各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 財務諸表論Ⅱは、上記学科及び各学年の選択科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	消費税法Ⅰ		授業形態		講義		
			選必の別		選必		
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		120時間		
			単位数		4単位		
科目教員	小関 哲也		授業回数		30回		
			成績評価方法	筆記試験		: 40 %	
				ミニテスト		: 40 %	
				授業態度		: 20 %	
		: %					
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也				: %		
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。						
実務経験教員の実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。						
授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算及び消費税法の法解釈を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、消費税法の計算と理論を体系的に学習することにより、税理士試験消費税法に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。						
授業計画							
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員		
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高による納税義務の免除の特例	小関 哲也		
第2回	課税の対象	小関 哲也	第17回	相続があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也		
第3回	非課税項目	小関 哲也	第18回	合併があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也		
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第19回	会社分割があった場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也		
第5回	課税売上割合の計算及び控除対象仕入税額(個別対応方式・一括比例配分方式)	小関 哲也	第20回	新設法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也		
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	特定新規設立法人の納税義務の免除の特例	小関 哲也		

第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第22回	合併があった場合の中間申告に係る納付税額の計算の特例	小関 哲也
第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第23回	棚卸資産に係る仕入税額控除の調整	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第24回	課税標準	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第25回	簡易課税制度①	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第26回	簡易課税制度②	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也	第27回	軽減税率 旧税率に関する経過措置	小関 哲也
第13回	非課税資産の輸出等を行った場合の仕入税額の特例	小関 哲也	第28回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第14回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除①	小関 哲也	第29回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第15回	調整対象固定資産に係る仕入税額控除②	小関 哲也	第30回	国等に対する特例	小関 哲也

準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合がある。 消費税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	180時間
		単位数	6単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	45回
		成績 評価 方法	筆記試験
ミニテスト	: 40 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	<p>実務における各事例に対応した消費税を計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。</p> <p>また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験消費税法に対応できる知識を習得する授業を行う。</p>
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	<p>一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。</p>
-------------------	---

授業目的 到達目標	<p>実務における各事例に対応した消費税の計算及び消費税法の法解釈ができ、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。</p> <p>また、消費税法Ⅰ・Ⅱの総括として、税理士試験消費税法において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験消費税法の合格レベルを目指す。</p>
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	改正税制講義②	小関 哲也
第2回	課税の対象を論点とする取引 関係の事例	小関 哲也	第25回	改正税制講義③	小関 哲也
第3回	国内取引の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第26回	平成19年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第4回	非課税の判定を論点とする取 引関係の事例	小関 哲也	第27回	平成20年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第5回	輸出免税の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第28回	平成23年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第6回	電気通信利用役務提供を論点 とする事例	小関 哲也	第29回	平成25年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第7回	税額控除等を論点とする取引 関係の事例①	小関 哲也	第30回	平成28年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也

第8回	税額控除等を論点とする取引関係の事例②	小関 哲也	第31回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第9回	税額控除等を論点とする取引関係の事例③	小関 哲也	第32回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第10回	税額控除等を論点とする取引関係の事例④	小関 哲也	第33回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第11回	納税義務の判定事例（相続）	小関 哲也	第34回	公開模擬試験①	小関 哲也
第12回	納税義務の判定事例（合併）	小関 哲也	第35回	公開模擬試験②	小関 哲也
第13回	納税義務の判定事例（分割等）	小関 哲也	第36回	公開模擬試験③	小関 哲也
第14回	納税義務の判定事例（吸収分割）	小関 哲也	第37回	公開模擬試験④	小関 哲也
第15回	納税義務の判定事例（新設法人）	小関 哲也	第38回	公開模擬試験⑤	小関 哲也
第16回	納税義務の判定事例（特定新規設立法人）	小関 哲也	第39回	公開模擬試験⑥	小関 哲也
第17回	納税義務の判定事例（高額特定資産を取得した場合）	小関 哲也	第40回	公開模擬試験⑦	小関 哲也
第18回	課税期間の判定事例	小関 哲也	第41回	公開模擬試験⑧	小関 哲也
第19回	納税地の判定事例	小関 哲也	第42回	公開模擬試験⑨	小関 哲也
第20回	届出関係の事例①	小関 哲也	第43回	総まとめテスト①	小関 哲也
第21回	届出関係の事例②	小関 哲也	第44回	総まとめテスト②	小関 哲也
第22回	届出関係の事例③	小関 哲也	第45回	総まとめテスト③	小関 哲也
第23回	改正税制講義①	小関 哲也			
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。 なお、各回において復習のための総合問題を解答します。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅡ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集応用編（大原出版）、税理士試験過去問題集（大原学園）、公開模擬試験（大原学園）				

備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。 消費税法Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同 授業となる。
----	--

学科	税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・ 税理士会計士学科(4年課程)
学年	2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法Ⅲ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	180時間
		単位数	6単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	45回
		成績 評価 方法	筆記試験
ミニテスト	: 40 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	<p>実務における各事例に対応した消費税を計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、その計算方法が消費税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。</p> <p>また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験消費税法に対応できる知識を習得する授業を行う。</p>
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	<p>一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。</p>
-------------------	---

授業目的 到達目標	<p>実務における各事例に対応した消費税の計算及び消費税法の法解釈ができ、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。</p> <p>また、消費税法の総括として、税理士試験消費税法において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験消費税法の合格レベルを目指す。</p>
--------------	---

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	改正税制講義②	小関 哲也
第2回	課税の対象を論点とする取引 関係の事例	小関 哲也	第25回	改正税制講義③	小関 哲也
第3回	国内取引の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第26回	平成19年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第4回	非課税の判定を論点とする取 引関係の事例	小関 哲也	第27回	平成20年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第5回	輸出免税の判定を論点とする 取引関係の事例	小関 哲也	第28回	平成23年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第6回	電気通信利用役務提供を論点 とする事例	小関 哲也	第29回	平成25年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也
第7回	税額控除等を論点とする取引 関係の事例①	小関 哲也	第30回	平成28年税理士試験問題の 事例解説	小関 哲也

第8回	税額控除等を論点とする取引関係の事例②	小関 哲也	第31回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第9回	税額控除等を論点とする取引関係の事例③	小関 哲也	第32回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第10回	税額控除等を論点とする取引関係の事例④	小関 哲也	第33回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第11回	納税義務の判定事例（相続）	小関 哲也	第34回	公開模擬試験①	小関 哲也
第12回	納税義務の判定事例（合併）	小関 哲也	第35回	公開模擬試験②	小関 哲也
第13回	納税義務の判定事例（分割等）	小関 哲也	第36回	公開模擬試験③	小関 哲也
第14回	納税義務の判定事例（吸収分割）	小関 哲也	第37回	公開模擬試験④	小関 哲也
第15回	納税義務の判定事例（新設法人）	小関 哲也	第38回	公開模擬試験⑤	小関 哲也
第16回	納税義務の判定事例（特定新規設立法人）	小関 哲也	第39回	公開模擬試験⑥	小関 哲也
第17回	納税義務の判定事例（高額特定資産を取得した場合）	小関 哲也	第40回	公開模擬試験⑦	小関 哲也
第18回	課税期間の判定事例	小関 哲也	第41回	公開模擬試験⑧	小関 哲也
第19回	納税地の判定事例	小関 哲也	第42回	公開模擬試験⑨	小関 哲也
第20回	届出関係の事例①	小関 哲也	第43回	総まとめテスト①	小関 哲也
第21回	届出関係の事例②	小関 哲也	第44回	総まとめテスト②	小関 哲也
第22回	届出関係の事例③	小関 哲也	第45回	総まとめテスト③	小関 哲也
第23回	改正税制講義①	小関 哲也			
準備学習等	<p>消費税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。</p> <p>なお、各回において復習のための総合問題を解答します。</p>				
教科書 参考書等	<p>消費税法計算テキストⅡ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集応用編（大原出版）、税理士試験過去問題集（大原学園）、公開模擬試験（大原学園）、年内完結問題集（大原学園）、完全合格問題集（大原学園）</p>				

備考	<p>授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する 場合がある。</p> <p>消費税法Ⅲは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年の消 費税法Ⅱと合同授業となる。</p> <p>ただし、宿題とする問題については、消費税法Ⅱより発展的な難解な問題となる。</p>
----	---

学科	〇 A 事務学科(1 年課程)・〇 A 事務学科(2 年課程)・ビジネス学科(2 年課程)・経理事務学科(2 年課程)・情報システム学科(2 年課程)・情報システム学科(3 年課程)・税理士会計士学科(2 年課程)・税理士会計士学科(2 年 4 ヶ月課程)・税理士会計士学科(3 年課程)・税理士会計士学科(4 年課程)・税理士会計士専攻学科(1 年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	法人税法 I		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間	
			単位数	4単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	30回	
			成績評価方法	筆記試験	: 40 %
ミニテスト	: 40 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	実務において、法人税を計算することができる基礎知識を身につけさせるとともに、その計算の根拠となる法人税法のどの条文に規定しているかを体系的に学習させる。また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。				
実務経験教員の実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	法人税の仕組みを理解し、法人税の計算及び法人税法の法解釈を基礎から学び、法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法の計算と理論を体系的に学習することにより、公益社団法人全国経理教育協会主催文部科学省後援法人税法能力検定試験2級又は1級の合格レベル、及び税理士試験法人税に出題される基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 法人税法の概要	小関 哲也	第16回	役員判定・役員給与①	小関 哲也
第2回	交際費等の損金不算入①・減価償却①	小関 哲也	第17回	役員判定・役員給与②・使用人給与	小関 哲也
第3回	減価償却②・受取配当等の益金不算入①	小関 哲也	第18回	交際費等の損金不算入③・特定資産の買換え	小関 哲也
第4回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第19回	租税公課及び納税充当金②	小関 哲也
第5回	寄付金の損金不算入①・有価証券①	小関 哲也	第20回	地方法人税の計算・みなし配当①	小関 哲也
第6回	減価償却③・有価証券②	小関 哲也	第21回	資本等取引①・租税公課及び納税充当金③・外国税額控除	小関 哲也

第7回	別表4の作成	小関 哲也	第22回	外国子会社から受ける配当等の益金不算入・寄付金の損金不算入③	小関 哲也
第8回	使途秘匿金の課税の特例・貸倒損失	小関 哲也	第23回	保険差益・リース取引	小関 哲也
第9回	貸倒引当金①・欠損金①	小関 哲也	第24回	繰延資産・欠損金②	小関 哲也
第10回	貸倒引当金②・外貨建取引	小関 哲也	第25回	交換差益・受取配当等の益金不算入③	小関 哲也
第11回	収用等①・受取配当金の益金不算入②	小関 哲也	第26回	租税公課及び納税充当金④・確定決算型	小関 哲也
第12回	交際費等の損金不算入②・寄付金の損金不算入②	小関 哲也	第27回	グループ法人税制①	小関 哲也
第13回	租税公課等及び納税充当金②・有価証券③	小関 哲也	第28回	欠損金額・資産の評価損益	小関 哲也
第14回	所得額控除・国庫補助金等・別表5作成・有価証券④	小関 哲也	第29回	グループ法人税制②	小関 哲也
第15回	圧縮記帳の概要・収用等②・接待飲食費	小関 哲也	第30回	修正申告・税効果会計・設立事業年度	小関 哲也
準備学習等	法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。 また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。				
教科書 参考書等	法人税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）・個別計算問題集（大原出版）				
備考	授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合がある。また、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入した授業となる場合がある。 法人税法Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、原則、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	180時間
		単位数	6単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	45回
		成績 評価 方法	筆記試験
ミニテスト	: 40 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務における各事例に対応した法人税の計算することができる実務的な知識を身につけさせるとともに、法人税の申告書である各別表の記入方法を学習させる。 また、過去の税理士試験の出題内容を実務に照らし解説することにより、税理士試験法人税法に対応できる知識を習得する授業を行う。
-----------------------------	---

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	---

授業目的 到達目標	実務における各事例に対応した法人税の計算及び法人税法の法解釈ができ、各法人の法人税の計算ができることを目的とする。 また、法人税法Ⅰ・Ⅱの総括として、税理士試験において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験法人税法の合格レベルを目指す。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 事例アプローチ	小関 哲也	第24回	総まとめ① (資産又は費用・欠損金・企業再生税制・組織再編税制)	小関 哲也
第2回	組織再編税制 (概要・合併)	小関 哲也	第25回	総まとめ② (総則・定義・所得金額の計算・配当金・グループ法人税制)	小関 哲也
第3回	組織再編税制 (合併)	小関 哲也	第26回	総まとめ③ (資産の評価損益・申告納付・組織再編税制)	小関 哲也
第4回	組織再編税制 (分割型分割・分社型分割)	小関 哲也	第27回	総まとめ④ (帰属年度の特例・賃貸借契約に基づく使用料等の帰属の特例)	小関 哲也

第5回	帰属事業年度の特例・みなし配当金	小関 哲也	第28回	総まとめ得⑤ (部分完成基準・値増金の益金不算入)	小関 哲也
第6回	試験研究費の特別控除①	小関 哲也	第29回	総まとめ⑥ (保証金等のうち返還しないものの帰属の特例)	小関 哲也
第7回	借地権等・保険料・資本取引等	小関 哲也	第30回	総まとめ⑦ (圧縮記帳・外国税制)	小関 哲也
第8回	試験研究費の特別控除②	小関 哲也	第31回	総まとめ⑧ (税額計算・解散税制)	小関 哲也
第9回	特定の長期所有土地等の所得の特別控除等	小関 哲也	第32回	総まとめ⑨ (引当金)	小関 哲也
第10回	グループ通算税制①	小関 哲也	第33回	総まとめ⑩ (試験研究費の特別控除)	小関 哲也
第11回	グループ通算税制②	小関 哲也	第34回	総まとめ⑪ (グループ通算税制)	小関 哲也
第12回	グループ通算税制②	小関 哲也	第35回	令和5年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第13回	解散税制①	小関 哲也	第36回	令和4年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第14回	解散税制②	小関 哲也	第37回	令和3年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第15回	解散税制③	小関 哲也	第38回	総まとめテスト	小関 哲也
第16回	解散税制④	小関 哲也	第39回	平成30年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第17回	改正税法①	小関 哲也	第40回	平成29年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第18回	改正税法②	小関 哲也	第41回	平成28年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第19回	短期前払費用	小関 哲也	第42回	平成27年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第20回	消耗品の処理	小関 哲也	第43回	平成26年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第21回	前期損益修正	小関 哲也	第44回	平成25年税理士試験問題の事例解説	小関 哲也
第22回	当初申告要件の廃止及び適用額の制限の見直し	小関 哲也	第45回	総まとめ確認テスト	小関 哲也
第23回	DES (デット・エクイテイ・スワップ)	小関 哲也			

<p>準備学習等</p>	<p>法人税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に法人税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。</p> <p>なお、一部の講義回において復習のための総合問題を解答します。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	<p>法人税法計算テキストⅢ・Ⅳ（大原学園）、法人税法計算問題集Ⅲ・Ⅳ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、法人税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集（大原出版）、個別計算問題集（大原出版）、応用理論問題集（大原出版）、税理士試験過去問題集(大原学園)、公開模擬試験(大原学園)、直前対策テキスト（大原学園）</p>
<p>備考</p>	<p>授業計画の各回の内容等については、税法改正等に伴い一部変更する場合がある。</p> <p>法人税法Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。</p> <p>なお、受講生の理解度や進捗度等に応じて一部メディアを導入したメディア授業となる場合がある。メディア授業は、メディアセンターで受講する。</p>

学科	〇 A 事務学科(1 年課程)・〇 A 事務学科(2 年課程)・ビジネス学科(2 年課程)・経理事務学科(2 年課程)・情報システム学科(2 年課程)・情報システム学科(3 年課程)・税理士会計士学科(2 年課程)・税理士会計士学科(2 年 4 ヶ月課程)・税理士会計士学科(3 年課程)・税理士会計士学科(4 年課程)・税理士会計士専攻学科(1 年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	相続税法 I		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数		120時間	
			単位数		4単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数		30回	
			成績 評価 方法	筆記試験		:
ミニテスト		:		40	%	
授業態度		:		20	%	
		:			%	
科目教員のうち 実務経験教員					:	%
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容						
実務経験教員の 実務経験内容						
授業目的 到達目標	相続税の仕組みを理解し、相続税の計算及び相続税法の法解釈を基礎から学び、相続税の計算ができることを目的とする。 また、相続税法の計算と理論を体系的に学習することにより、税理士試験相続税法に出題される基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	ガイダンス・相続税法の概要	小関 哲也	第16回	預貯金・上場株式の評価	小関 哲也	
第2回	相続税と民法・相続人等の判 及び相続分・承認と放棄	小関 哲也	第17回	小規模宅地等の減額①	小関 哲也	
第3回	相続税の納税義務者・生命保 険金等・相続税の非課税・相 続税の計算方法	小関 哲也	第18回	構築物・貸付金債権等・受取 手形等の評価	小関 哲也	
第4回	生命保険等の非課税・退職手 当金等の非課税・贈与税の概 要・贈与税の計算方法	小関 哲也	第19回	角切り宅地の間口距離	小関 哲也	
第5回	弔慰金等・債務控除・相続時 精算課税制度の概要	小関 哲也	第20回	間口が狭小な宅地等・使用貸 借の宅地等の評価	小関 哲也	
第6回	相続税額の加算・相続税の総 額・算出相続税額	小関 哲也	第21回	利用区分が異なる建物の宅 地・借地権等の評価	小関 哲也	
第7回	相続税額の計算・贈与税贈与 税控除・配偶者の税額軽減	小関 哲也	第22回	取引相場のない株式の評価①	小関 哲也	

第8回	未成年者控除・障害者控除	小関 哲也	第23回	邦貨換算・不整形地の評価・取引相場のない株式の評価②	小関 哲也
第9回	特定納税義務者及び特定納税義務者の債務控除・障害者控除	小関 哲也	第24回	がけ地等の評価	小関 哲也
第10回	評価の原則・自用地①・自家用家屋・家屋と構造上一体となっている宅地の評価	小関 哲也	第25回	評価会社が退職手当金等を支払った場合	小関 哲也
第11回	特別養子制度・生命保険契約に関する権利	小関 哲也	第26回	小規模宅地等の減額②	小関 哲也
第12回	被保険者でない保険契約者が死亡した場合・法定相続人・本来の財産	小関 哲也	第27回	同族会社に対して土地を相当の地代により貸付けている場合	小関 哲也
第13回	自用地②・地区区分の異なる宅地・側方路線等に宅地の一部が接している場合	小関 哲也	第28回	旗竿状の宅地等の評価	小関 哲也
第14回	普通借地権・貸宅地・貸家建付地・貸家の評価	小関 哲也	第29回	容積率の異なる宅地・都市計画道路予定区域内の宅地の評価	小関 哲也
第15回	一般動産・たな卸商品等・書画骨董品の評価	小関 哲也	第30回	建設中の家屋の評価・小規模宅地等の減額③	小関 哲也
準備学習等	<p>相続税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に相続税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。</p>				
教科書 参考書等	<p>相続税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、相続税計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、財産評価テキスト・相続税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）、個別計算問題集（大原出版）</p>				
備考	<p>授業計画の前提となる内容等については、法改正等に応じて一部変更する場合がある。</p> <p>相続税法Ⅰは、メディア授業であることからメディアセンターで受講する。</p>				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	相続税法Ⅱ		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数		180時間	
			単位数		6単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数		45回	
			成績 評価 方法	筆記試験		: 40 %
ミニテスト		: 40 %				
授業態度		: 20 %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員					: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容						
実務経験教員の 実務経験内容						
授業目的 到達目標	<p>相続税の仕組みを理解し、相続税の計算及び相続税法の法解釈を基礎から学び、相続税の計算ができることを目的とする。</p> <p>また、相続税法の計算と理論を体系的に学習することにより、税理士試験相続税法及び全国経理教育協会主催相続税法能力検定試験1級に出題される問題を解答できるレベルを目指す。</p>					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	ガイダンス・相続税法の概要	小関 哲也	第24回	がけ地等の評価	小関 哲也	
第2回	相続税と民法・相続人等の判 及び相続分・承認と放棄	小関 哲也	第25回	評価会社が退職手当金等を支 払った場合	小関 哲也	
第3回	相続税の納税義務者・生命保 険金等・相続税の非課税・相 続税の計算方法	小関 哲也	第26回	小規模宅地等の減額②	小関 哲也	
第4回	生命保険等の非課税・退職手 当金等の非課税・贈与税の概 要・贈与税の計算方法	小関 哲也	第27回	同族会社に対して土地を相当 の地代により貸付いている場 合	小関 哲也	
第5回	弔慰金等・債務控除・相続時 精算課税制度の概要	小関 哲也	第28回	旗竿状の宅地等の評価	小関 哲也	
第6回	相続税額の加算・相続税の総 額・算出相続税額	小関 哲也	第29回	容積率の異なる宅地・都市計 画道路予定区域内の宅地の 評価	小関 哲也	
第7回	相続税額の計算・贈与税贈与 税控除・配偶者の税額軽減	小関 哲也	第30回	建設中の家屋の評価・小規模 宅地等の減額③	小関 哲也	

第8回	未成年者控除・障害者控除	小関 哲也	第31回	総まとめ① (相続税の納税義務者・生命保険金等・相続税の非課税・相続税の計算方法)	小関 哲也
第9回	特定納税義務者及び特定納税義務者の債務控除・障害者控除	小関 哲也	第32回	総まとめ② (生命保険等の非課税・退職手当金等の非課税・贈与税の概要・贈与税の計算方法)	小関 哲也
第10回	評価の原則・自用地①・自家用家屋・家屋と構造上一体となっている宅地の評価	小関 哲也	第33回	総まとめ③ (弔慰金等・債務控除・相続時精算課税制度の概要)	小関 哲也
第11回	特別養子制度・生命保険契約に関する権利	小関 哲也	第34回	総まとめ④ (相続税額の加算・相続税の総額・算出相続税額)	小関 哲也
第12回	被保険者でない保険契約者が死亡した場合・法定相続人・本来の財産	小関 哲也	第35回	総まとめ⑤ (相続税額の計算・贈与税贈与税控除・配偶者の税額軽減)	小関 哲也
第13回	自用地②・地区区分の異なる宅地・側方路線等に宅地の一部が接している場合	小関 哲也	第36回	総まとめ⑥ (未成年者控除・障害者控除)	小関 哲也
第14回	普通借地権・貸宅地・貸家建付地・貸家の評価	小関 哲也	第37回	総まとめ⑦ (特定納税義務者及び特定納税義務者の債務控除・障害者控除)	小関 哲也
第15回	一般動産・たな卸商品等・書画骨董品の評価	小関 哲也	第38回	総まとめテスト	小関 哲也
第16回	預貯金・上場株式の評価	小関 哲也	第39回	第1回確認テスト	小関 哲也
第17回	小規模宅地等の減額①	小関 哲也	第40回	第2回確認テスト	小関 哲也
第18回	構築物・貸付金債権等・受取手形等の評価	小関 哲也	第41回	第3回確認テスト	小関 哲也
第19回	角切り宅地の間口距離	小関 哲也	第42回	第4回確認テスト	小関 哲也
第20回	間口が狭小な宅地等・使用貸借の宅地等の評価	小関 哲也	第43回	第5回確認テスト	小関 哲也
第21回	利用区分が異なる建物の宅地・借地権等の評価	小関 哲也	第44回	第6回確認テスト	小関 哲也
第22回	取引相場のない株式の評価①	小関 哲也	第45回	第7回確認テスト	小関 哲也
第23回	邦貨換算・不整形地の評価・取引相場のない株式の評価②	小関 哲也			

準備学習等	<p>相続税法の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に相続税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。</p>
教科書 参考書等	<p>相続税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、相続税計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、財産評価テキスト、相続税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）、個別計算問題集（大原出版）</p>
備考	<p>授業計画の前提となる内容等については、法改正等に応じて一部変更する場合がある。</p> <p>相続税法Ⅱは、メディア授業であることからメディアセンターで受講する。</p>

学科	税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）
学年	3学年・4学年

科目名	事業税 I		授業形態		講義		
			選必の別		選必		
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数		60時間		
			単位数		2単位		
科目教員	竹村 幸生		授業回数		15回		
			成績評価方法	筆記試験		: 40 %	
				ミニテスト		: 40 %	
				授業態度		: 20 %	
						: %	
科目教員のうち 実務経験教員					: %		
実務経験教員の実務経験に関する授業内容							
実務経験教員の実務経験内容							
授業目的 到達目標	事業税の仕組みを理解し、法人事業税及び個人事業税の計算並びに地方税法に規定する事業税の法解釈を基礎から学び、事業税の計算ができることを目的とする。 また、税理士試験事業税に出題される計算問題を解答できるレベルを到達目標とする。						
授業計画							
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員		
第1回	ガイダンス	竹村 幸生	第9回	特別法人の税額算定①・異なる分割基準を併せてお可能場合の原則①	竹村 幸生		
第2回	事業税の概要①・基本条文・課税要件①・納税義務者①	竹村 幸生	第10回	法人事業税の所得の算定方法①・特別の定め	竹村 幸生		
第3回	事業税の課税団体①・課税標準①・課税客体①	竹村 幸生	第11回	特定内国法人の税額算定	竹村 幸生		
第4回	法人事業税の概要①・所得の計算方法①	竹村 幸生	第12回	外国標準課税の概要①	竹村 幸生		
第5回	軽減税率の適用の有無の判定①・分割基準①・税率①	竹村 幸生	第13回	付加価値割額の算定①	竹村 幸生		
第6回	分割基準の概要①・従業者の数①	竹村 幸生	第14回	資本割額の算定①	竹村 幸生		
第7回	従業者の数の詳細①・固定資産の価額①	竹村 幸生	第15回	外形対象法人の欠損金の繰越控除①	竹村 幸生		
第8回	軌道の延長キロメートル数①・事務所又は事業所の数①	竹村 幸生					

準備学習等	<p>事業税の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に事業税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行ってください。</p>
教科書 参考書等	<p>事業税基礎応用完成テキスト1・2（大原学園）・事業税基礎応用完成計算問題集1・2（大原学園）・事業税理論テキスト（大原学園）</p>
備考	<p>授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。</p> <p>事業税Ⅰ（メディア授業）は、メディア授業であることからメディアセンターで受講する。</p>

学科	税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・ 税理士会計士学科(4年課程)
学年	3学年・4学年

科目名	事業税Ⅱ		授業形態		講義		
			選必の別		選必		
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数		90時間		
			単位数		3単位		
科目教員	竹村 幸生		授業回数		23回		
			成績 評価 方法	筆記試験		: 40 %	
				ミニテスト		: 40 %	
				授業態度		: 20 %	
						: %	
科目教員のうち 実務経験教員				: %			
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容							
実務経験教員の 実務経験内容							
授業目的 到達目標	<p>事業税の応用の知識を身につけ、実務における法人事業者及び個人事業者の各事例に対応した事業税の計算及び地方税法の法解釈ができ、法人事業税及び個人事業税を計算することができることを目的とする。</p> <p>また、税理士試験事業税において過去に出題された問題を解答することができ、税理士試験事業税の合格レベルを到達目標とする。</p>						
授業計画							
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員		
第1回	ガイダンス	竹村 幸生	第13回	電気供給業	竹村 幸生		
第2回	鉱物の掘採事業と精錬事業	竹村 幸生	第14回	所得課税事業者と収入金額課税事業者とを合わせて行う場合	竹村 幸生		
第3回	2以上の課税標準の特別な計算を要する場合	竹村 幸生	第15回	特定内国法人の収入割の課税標準の算定	竹村 幸生		
第4回	外形標準課税の概要②	竹村 幸生	第16回	法人事業税の手続き規定・中間申告納付額の算定②	竹村 幸生		
第5回	付加価値割額の算定②	竹村 幸生	第17回	外形対象法人の中間申告納付額の算定②	竹村 幸生		
第6回	資本割額の算定②	竹村 幸生	第18回	事業税の課税要件③・分割基準③	竹村 幸生		
第7回	特定内国法人の付加価値割、資本割の課税標準額の計算	竹村 幸生	第19回	個人事業税の税額算定(基礎編)・特別の定め・各種控除	竹村 幸生		
第8回	外形対象法人の欠損金の繰越控除②	竹村 幸生	第20回	個人事業税の税額算定(応用編)・申告形式による場合	竹村 幸生		

第9回	法人事業税（収入割）の税額算定①	竹村 幸生	第21回	個人事業税の各納期の納付額の算定、税額計算(事業廃止した場合)	竹村 幸生
第10回	生命保険事業②・損害保険事業②	竹村 幸生	第22回	清算中の法人の税額算定	竹村 幸生
第11回	少額短期保険業者②・ガス供給業②	竹村 幸生	第23回	適格合併があった場合の中間申告納付・分割基準の留意事項	竹村 幸生
第12回	法人事業税（収入割）の税額算定②	竹村 幸生			
準備学習等	<p>事業税の学習は、積み重ねが大切であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に事業税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。</p> <p>また、税理士試験受験を希望する生徒は、理論テキスト及び理論問題集を使用し法解釈の復習も行うこと。</p> <p>なお、一部の講義回において復習のための総合問題を解答します。</p>				
教科書 参考書等	<p>事業税計算テキスト 2（大原学園）・事業税計算問題集 2（大原学園）・事業税理論テキスト（大原学園）・事業税応用理論テキスト（大原学園）・税理士試験事業税過去問題集(大原学園)・公開模擬試験(大原学園)・直前対策テキスト（大原学園）</p>				
備考	<p>授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。</p> <p>事業税Ⅱは、メディア授業であることからメディアセンターで受講する。</p>				

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	簿記論演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	竹村 幸生		授業回数	12回	
			成績評価方法	筆記試験	:
演習問題	:	50		%	
授業態度	:	20		%	
	:			%	
科目教員のうち 実務経験教員				:	%
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	簿記論Ⅰで履修した簿記知識及び計算・記帳技術について、問題演習を通して反復練習・解説することで理解を深めてもらうことを目的としています。税理士試験簿記論受験のための基礎的な個別問題・総合問題を、設定された制限時間内に解答するための解法手順、図式化などができるようになることを到達目標とします。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 第1回演習問題(現金預金、債権債務)	竹村 幸生	第7回	第7回演習問題(割引現在価値、減損会計)	竹村 幸生
第2回	第2回演習問題(商品売買、固定資産)	竹村 幸生	第8回	第8回演習問題(転換社債型新株予約権付社債)	竹村 幸生
第3回	第3回演習問題(貸倒引当金、退職給付会計※簡便法)	竹村 幸生	第9回	第9回演習問題(勘定復元①)	竹村 幸生
第4回	第4回演習問題(有価証券、税金)	竹村 幸生	第10回	第10回演習問題(勘定復元②)	竹村 幸生
第5回	第5回演習問題(社債、純資産)	竹村 幸生	第11回	第11回演習問題(推定簿記①)	竹村 幸生
第6回	第6回演習問題(ソフトウェア、税効果会計)	竹村 幸生	第12回	第12回演習問題(推定簿記②)	竹村 幸生

準備学習等	簿記論Ⅰで履修した内容の問題演習となりますので、事前に各項目の内容を復習したうえで講義に臨んでください。また、個別形式の問題と総合問題は異なる問題です。いずれかの形式に偏った復習にならないよう、バランスよく学習することを心がけてください。
教科書 参考書等	各回とも演習問題を配付します。 復習用教材として、簿記論Ⅰで使用している計算テキストを持参してください。
備考	各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 簿記論演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	簿記論演習Ⅱ		授業形態		
			演習	演習	
実務経験のある教員による科目の有無			選必の別	選必	
			授業時間数	90時間	
科目教員	竹村 幸生		単位数	3単位	
			授業回数	18回	
科目教員のうち 実務経験教員			成績 評価 方法	筆記試験 : 30 %	
				演習問題 : 50 %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容				授業態度 : 20 %	
				: %	
実務経験教員の 実務経験内容				: %	
授業目的 到達目標	簿記論Ⅰに加えて、簿記論Ⅱで履修した簿記知識及び計算・記帳技術について、問題演習を通して反復練習・解説することで理解を深めてもらうことを目的としています。税理士試験簿記論受験のための応用的な個別問題・総合問題を、設定された制限時間内に解答するための解法手順、図式化などができるようになることを到達目標とします。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 項目別まとめ問題① 〔内容〕 製造業会計	竹村 幸生	第10回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕 簿記論Ⅱ(Ⅰを含む) の範囲を主とする個別・総合 問題	竹村 幸生
第2回	項目別まとめ問題② 〔内容〕 キャッシュ・フロー 計算書	竹村 幸生	第11回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕 簿記論Ⅱ(Ⅰを含む) の範囲を主とする個別・総合 問題	竹村 幸生
第3回	項目別まとめ問題③ 〔内容〕 本支店会計	竹村 幸生	第12回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕 簿記論Ⅱ(Ⅰを含む) の範囲を主とする個別・総合 問題	竹村 幸生
第4回	項目別まとめ問題④ 〔内容〕 特殊商品売買	竹村 幸生	第13回	第1回プレ模擬試験 〔内容〕 簿記論試験未出題項 目を含む個別・総合問題	竹村 幸生

第5回	項目別まとめ問題⑤ 〔内容〕連結会計	竹村 幸生	第14回	第2回プレ模擬試験 〔内容〕簿記論試験未出題項目を含む個別・総合問題	竹村 幸生
第6回	項目別まとめ問題⑥ 〔内容〕帳簿組織	竹村 幸生	第15回	第3回プレ模擬試験 〔内容〕簿記論試験未出題項目を含む個別・総合問題	竹村 幸生
第7回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕簿記論Ⅰの範囲を主とする個別・総合問題	竹村 幸生	第16回	第1回直前対策模擬試験 〔内容〕簿記論応用論点を主とする個別・総合問題	竹村 幸生
第8回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕簿記論Ⅰの範囲を主とする個別・総合問題	竹村 幸生	第17回	第2回直前対策模擬試験 〔内容〕簿記論応用論点を主とする個別・総合問題	竹村 幸生
第9回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕簿記論Ⅰの範囲を主とする個別・総合問題	竹村 幸生	第18回	第3回直前対策模擬試験 〔内容〕簿記論応用論点を主とする個別・総合問題	竹村 幸生
準備学習等	簿記論Ⅰ・Ⅱで履修した内容の問題演習となりますので、事前に苦手とする分野の各項目の内容を復習したうえで講義に臨んでください。また、個別形式の問題と総合問題は異なる問題です。いずれかの形式に偏った復習にならないよう、バランスよく学習することを心がけてください。				
教科書 参考書等	各回とも項目別まとめ問題及び、実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付します。 復習用教材として、簿記論Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキストを持参してください。				
備考	各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 簿記論演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。				

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	財務諸表論演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	千葉 菜愛	授業回数	12回
		成績評価方法	筆記試験 : 30 %
			演習問題 : 50 %
			授業態度 : 20 %
科目教員のうち 実務経験教員			: %
			: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	
-------------------	--

授業目的 到達目標	財務諸表論Ⅰで履修した計算及び理論の知識について、問題演習を通して反復練習・解説することで理解を深めてもらうことを目的としています。税理士試験財務諸表論受験のための基礎的な総合計算問題・理論の記述問題を、設定された制限時間内に解答するための解法手順、会計基準の適正な記述などができるようになることを到達目標とします。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 第1回演習問題（理論：一般原則）	千葉 菜愛	第7回	第7回演習問題（理論：企業会計原則注解、注15繰延資産）	千葉 菜愛
第2回	第2回演習問題（理論：会計観 貸借対照表の役割・損益計算 書原則、一）	千葉 菜愛	第8回	第8回演習問題（理論：会計 観・概念フレームワークにつ いて）	千葉 菜愛
第3回	第3回演習問題（理論：損益計 算書原則、一A）	千葉 菜愛	第9回	第9回演習問題（理論：資産評 価、減損会計）	千葉 菜愛

第4回	第4回演習問題（理論：企業会計原則注解、注18引当金について）	千葉 菜愛	第10回	第10回演習問題（理論：リース取引に関する会計基準・資産除去債務に関する会計基準）	千葉 菜愛
第5回	第5回演習問題（理論：資産の評価について）	千葉 菜愛	第11回	第11回演習問題（理論：リース債務、資産除去債務の共通点、相違点）	千葉 菜愛
第6回	第6回演習問題（理論：貸借対照表原則、五）	千葉 菜愛	第12回	第12回演習問題（理論：退職給付に係る会計基準・純資産会計）	千葉 菜愛
準備学習等	財務諸表論Ⅰで履修した内容の問題演習となりますので、事前に各項目の内容を復習したうえで講義に臨んでください。特に、理論については事前暗記が必須です。計算、理論のいずれかに偏った復習にならないよう、バランスよく学習することを心がけてください。				
教科書 参考書等	各回とも演習問題を配付します。 復習用教材として、財務諸表論Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参してください。				
備考	各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 財務諸表論演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	財務諸表論演習Ⅱ		授業形態		
			演習		
実務経験のある教員による科目の有無			選必の別		
			選必		
			授業時間数		
			90時間		
			単位数		
			3単位		
科目教員			千葉 菜愛		
			授業回数		
科目教員のうち 実務経験教員			18回		
			成績 評価 方法	筆記試験	:
演習問題	:	50		%	
授業態度	:	20		%	
	:			%	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標			財務諸表論Ⅰ・Ⅱで履修した計算及び理論の知識について、問題演習を通して反復練習・ 解説することで理解を深めてもらうことを目的としています。税理士試験財務諸表論受 験のための応用的な総合計算問題・理論の記述問題を、設定された制限時間内に解答す るための解法手順、会計基準の適正な記述などができるようになることを到達目標とし ます。		
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス	千葉 菜愛	第10回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの 範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛
第2回	項目別問題①（理論：一般原 則、貸借対照表の役割・損益 計算書原則）	千葉 菜愛	第11回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの 範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛
第3回	項目別問題②（理論：企業会 計原則注解）	千葉 菜愛	第12回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの 範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛

第4回	項目別問題③（理論：会計観、概念フレームワーク）	千葉 菜愛	第13回	第1回プレ模擬試験 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛
第5回	項目別問題④（理論：リース取引に関する会計基準、資産除去債務に関する会計基準）	千葉 菜愛	第14回	第2回プレ模擬試験 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛
第6回	項目別問題⑤（理論：退職給付に係る会計基準）	千葉 菜愛	第15回	第3回プレ模擬試験 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛
第7回	項目別問題⑥（理論：純資産会計）	千葉 菜愛	第16回	第1回直前対策模擬試験 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛
第8回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛	第17回	第2回直前対策模擬試験 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛
第9回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛	第18回	第3回直前対策模擬試験 〔内容〕財務諸表論Ⅰ・Ⅱの範囲 理論及び計算問題	千葉 菜愛
準備学習等	財務諸表論Ⅰ・Ⅱで履修した内容の問題演習となりますので、事前に各項目の内容を復習したうえで講義に臨んでください。特に、理論については事前暗記が必須です。計算、理論のいずれかに偏った復習にならないよう、バランスよく学習することを心がけてください。				
教科書 参考書等	各回とも項目別まとめ問題及び、実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)、プレ模擬試験(学校法人大原学園作成)、直前対策模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付します。 復習用教材として、財務諸表論Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参してください。				
備考	各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 財務諸表論演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。				

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	消費税法演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	12回
		成績評価方法	筆記試験 : 30 %
			演習問題 : 50 %
			授業態度 : 20 %
: %			
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也	: %	: %

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる消費税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。
-----------------------------	--

実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
-------------------	--

授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身に付けることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。
--------------	--

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態における消費税額 計算の注意点	小関 哲也	第7回	商品販売業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第2回	不動産業等を営む法人を前提 とした消費税額の計算①	小関 哲也	第8回	製造業等を営む個人事業者を 前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第3回	商品販売業等を営む法人を前 提とした消費税額の計算	小関 哲也	第9回	建築業等を営む個人事業者を 前提とした消費税額の計算	小関 哲也
第4回	製造業等を営む法人を前提と した消費税額の計算①	小関 哲也	第10回	不動産業等を営む法人を前提 とした消費税額の計算②	小関 哲也
第5回	建築業等を営む法人を前提と した消費税額の計算	小関 哲也	第11回	製造業等を営む法人を前提と した消費税額の計算②	小関 哲也
第6回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ①	小関 哲也	第12回	不動産業等を営む個人事業者 を前提とした消費税額の計算 ②	小関 哲也

準備学習等	消費税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付する。 復習用教材として、消費税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅱ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	18回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 30 %
ミニテスト	: 50 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務における消費税の確定申告書等を記載するための消費税の計算ができるように指導する。また、消費税の計算の基となる消費税法の本法に加え施行令、基本通達等、更に租税特別措置法の各条文理解をさせる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身に付けることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態の注意点及び納税義務のまとめ	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の中間申告を含む原則計算	小関 哲也
第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕不動産業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也

第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕 商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕 不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕 不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕 商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕 製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕 不動産業等を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例を含む簡易課税制度	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕 不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
準備学習等	消費税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身に付け授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付します。 復習用教材として、消費税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・ 税理士会計士学科(4年課程)
学年	2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法演習Ⅲ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	18回
		成績評価方法	筆記試験 : 30 % 演習問題 : 50 % 授業態度 : 20 % : :
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務における消費税の確定申告書等を記載するための消費税の計算ができるように指導する。また、消費税の計算の基となる消費税法の本法に加え施行令、基本通達等、更に租税特別措置法の各条文理解をさせる授業を行う。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。		
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、消費税を計算し確定申告書及び各付表を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身につけることを目的とする。 また、各業種等の消費税の計算ができ、税理士試験消費税法に対応する問題を解答できるレベルを目指す。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各業種業態の注意点及び納税義務のまとめ	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、合併があった場合の中間申告を含む原則計算	小関 哲也
第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕不動産業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也

第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、事業年度の変更があった場合及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、特定新規設立法人の特例及び簡易課税制度	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕商品の販売業を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕製造業を営む法人を前提とし、調整対象固定資産の調整を含む原則計算	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕不動産業等を営む法人を前提とし、合併があった場合の特例を含む簡易課税制度	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕不動産業を営む個人事業者を前提とし、相続があった場合の特例及び調整対象固定資産を含む原則計算	小関 哲也
準備学習等	消費税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、消費税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付します。 復習用教材として、消費税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。 宿題として、年内完結確認テスト(大原学園)、完全合格確認テスト(大原学園)を使用する。				
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 消費税法演習Ⅲは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年の消費税法Ⅱと合同授業となる。 ただし、宿題とする問題については、消費税法Ⅱより発展的な難解な問題となる。				

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	法人税法演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回	
			成績評価方法	筆記試験	: 30 %
				演習問題	: 50 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務的で特に注意をしなければならない項目を学習する。 また、計算の基となる法人税法の本法を中心に、各条文を理解させる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした演習問題を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身につけることを目的とする。 また、各法人の法人税の計算ができ、税理士試験法人税法及び全国経理教育協会法人税法能力検定試験1級に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 基本項目のまとめ	小関 哲也	第7回	貸倒引当金の設定事例を基にした問題演習及び第104回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第2回	交際費等の取引事例を基にした問題演習及び第96回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第8回	租税公課の事例を基にした問題演習及び第105回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第3回	減価償却の事例を基にした問題演習及び第97回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第9回	受取配当金等の取引事例を基にした問題演習及び第107回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也

第4回	寄付金の取引事例を基にした問題演習及び第98回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第10回	有価証券の取引事例を基にした問題演習及び第108回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也
第5回	貸倒損失の取引事例を基にした問題演習及び第99回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第11回	国庫補助金等の圧縮記帳を基にした問題演習及び土地収用法の圧縮記帳を基にした問題演習	小関 哲也
第6回	欠損金の事例を基にした問題演習及び第100回法人税法能力検定試験問題の事例解説	小関 哲也	第12回	役員判定の事例を基にした問題演習及びリース取引等の取引事例を基にした問題演習	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付し、また、法人税法能力検定試験過去問題集（全国経理教育協会出版）を使用する。 復習用教材として、法人税法Ⅰで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の前提となる業種及び法人等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	法人税法演習Ⅱ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	90時間	
			単位数	3単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	18回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 30 %
演習問題	: 50 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	小関 哲也			:	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	問題演習の解説を中心とし、実務における法人税の確定申告書(別表1及別表4・別表5等)を記載するための法人税の計算ができるように指導する。また、法人税の計算の基となる法人税法の主たる条文理解をさせる授業を行う。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、経理責任者として日々の会計処理の管理、決算整理から財務諸表の作成に携わり、会計事務所と共同で、法人税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。				
授業目的 到達目標	各企業の取引事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、法人税を計算し確定申告書、特に別表1及別表4・別表5を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身につけることを目的とする。 また、各業種等を前提とした法人税の計算ができ、税理士試験に対応する計算問題を解答できるレベルを目指す。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 各項目の注意点及び別表記入の注意点	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、同族会社の判定、受取配当等、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕確定決算型、寄付金、資産の評価損益、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、減価償却、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也

第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、自己株式、受取配当等、所得税額控除、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕受取配当等、外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也
第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、外国子会社配当、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也	第13回	応用模擬試験① 〔内容〕確定決算型、寄付金、資産の評価損益、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、適格合併、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕特別償却、リース取引、外国税額控除、資本等取引、自己株式、受取配当等、所得税額控除、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕保険料、特定資産の買換、交際費等、貸倒損失、使用人給与、資本等取引等を含む総合問題	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕租税公課、留保金課税、同族会社の判定、役員判定、繰延資産、外国子会社配当、役員給与等を含む総合問題	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕還付税金、試験研究費、グループ法人税制、国庫補助金等、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕外貨建取引、みなし配当、特別償却準備金、交際費等、適格合併、寄付金、別表五（一）等を含む総合問題	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕減価償却費、貸倒引当金、貸倒損失、繰延資産、所得税額控除、受取配当等、みなし配当等を含む総合問題	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕保険料、特定資産の買換、交際費等、貸倒損失、使用人給与、資本等取引等を含む総合問題	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕確定決算型、寄付金、交際費等、同族会社の判定、保険差益、減価償却、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕還付税金、試験研究費、グループ法人税制、国庫補助金等、貸倒引当金等を含む総合問題	小関 哲也
準備学習等	法人税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、法人税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身に付け授業に臨むこと。				

教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付する。 復習用教材として、法人税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。
備考	授業計画の前提となる内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 法人税法演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	相続税法演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	小関 哲也		授業回数	12回	
			成績評価方法	筆記試験	: 30 %
				演習問題	: 50 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	各相続事例を基にした演習問題を通して財産評価を行い、相続税を計算し申告書を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身につけることを目的とする。 また、税理士試験相続税法に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを到達目標とする。				

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 基本項目のまとめ	小関 哲也	第7回	問題演習⑥ 〔内容〕相続人の判定及び相続分・生命保険等・生前贈与加算・相続税額の加算・障害者控除を含む総合問題	小関 哲也
第2回	問題演習① 〔内容〕相続人の判定及び相続分・生命保険等・退職手当金等・未成年者控除・障害者控除を含む総合問題	小関 哲也	第8回	問題演習⑦ 〔内容〕相続人の判定及び相続分・生命保険等・債務控除・相続税額加算を含む総合問題	小関 哲也
第3回	問題演習② 〔内容〕相続人の判定及び相続分・生命保険等・債務控除・相続税額加算を含む総合問題	小関 哲也	第9回	問題演習⑧ 〔内容〕生命保険等・債務控除・相続税額の加算・配偶者に対する相続税額の軽減を含む総合問題	小関 哲也

第4回	問題演習③ 〔内容〕生命保険等・債務控除・相続税額の加算・配偶者に対する相続税額の軽減を含む総合問題	小関 哲也	第10回	問題演習⑨ 〔内容〕生命保険等・退職手当金等（弔慰金を含む）・債務控除（保証債務）を含む総合問題	小関 哲也
第5回	問題演習④ 〔内容〕生命保険等・退職手当金等（弔慰金を含む）・債務控除（保証債務）を含む総合問題	小関 哲也	第11回	問題演習⑩ 〔内容〕相続人の判定及び相続分・生命保険等・債務控除・相続税額加算を含む総合問題	小関 哲也
第6回	問題演習⑤ 〔内容〕生命保険等・退職手当金等・債務控除・障害者控除を含む総合問題	小関 哲也	第12回	事業承継の対策及び節税対策	小関 哲也
準備学習等	相続税法Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、相続税法Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配付し、また、相続税法総合計算問題集基礎編（大原出版）を使用する。 復習用教材として、法人税法Ⅰで使用している計算テキスト、財産評価テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の内容の主要項目については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 相続税法演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・2学年・3学年・4学年

科目名	相続税法演習Ⅱ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	小関 哲也	授業回数	18回
		成績評価方法	筆記試験 : 30 % 演習問題 : 50 % 授業態度 : 20 % : :
科目教員のうち 実務経験教員			: % :
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	相続事例を基にした実力判定公開模擬試験を通して、財産評価及び相続税を計算し申告書を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身につけることを目的とする。 また、税理士試験相続税法に対応する計算問題を解答できるレベルを到達目標とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 財産評価の注意点	小関 哲也	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕がけ地、公社債、上場株式、ゴルフ会員権、貸付金債権等、取引相場のない株式を含む総合問題	小関 哲也
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕邦貨換算、共有持分、不整形地、受益証券等、農地、容積率の異なる宅地、取引相場のない株式評価を含む総合問題	小関 哲也	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕上場株式、取引相場のない株式、宅地の評価単位、不整形地、私道、山林、立木、預貯金等を含む総合問題	小関 哲也
第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕がけ地、公社債、上場株式、ゴルフ会員権、貸付金債権等、取引相場のない株式を含む総合問題	小関 哲也	第12回	実力判定公開模擬試験⑫ 〔内容〕不整形地、家屋、土地の無償返還に関する届出書、定期借地権等、取引相場のない株式等を含む総合問題	小関 哲也

第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕上場株式、取引相場のない株式、宅地の評価単位、不整形地、私道、山林、立木、預貯金等を含む総合問題	小関 哲也	第13回	応用模擬試験①〔内容〕邦貨換算、共有持分、不整形地、受益証券等、農地、容積率の異なる宅地、取引相場のない株式評価を含む総合問題	小関 哲也
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕不整形地、家屋、土地の無償返還に関する届出書、定期借地権等、取引相場のない株式等を含む総合問題	小関 哲也	第14回	応用模擬試験② 〔内容〕がけ地、公社債、上場株式、ゴルフ会員権、貸付金債権等、取引相場のない株式を含む総合問題	小関 哲也
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕邦貨換算、共有持分、不整形地、受益証券等、農地、容積率の異なる宅地、取引相場のない株式評価を含む総合問題	小関 哲也	第15回	応用模擬試験③ 〔内容〕上場株式、取引相場のない株式、宅地の評価単位、不整形地、私道、山林、立木、預貯金等を含む総合問題	小関 哲也
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕がけ地、公社債、上場株式、ゴルフ会員権、貸付金債権等、取引相場のない株式を含む総合問題	小関 哲也	第16回	応用模擬試験④ 〔内容〕不整形地、家屋、土地の無償返還に関する届出書、定期借地権等、取引相場のない株式等を含む総合問題	小関 哲也
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕上場株式、取引相場のない株式、宅地の評価単位、不整形地、私道、山林、立木、預貯金等を含む総合問題	小関 哲也	第17回	応用模擬試験⑤ 〔内容〕邦貨換算、共有持分、不整形地、受益証券等、農地、容積率の異なる宅地、取引相場のない株式評価を含む総合問題	小関 哲也
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕不整形地、家屋、土地の無償返還に関する届出書、定期借地権等、取引相場のない株式等を含む総合問題	小関 哲也	第18回	応用模擬試験⑥ 〔内容〕がけ地、公社債、上場株式、ゴルフ会員権、貸付金債権等、取引相場のない株式を含む総合問題	小関 哲也
準備学習等	相続税法Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、相続税法Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付する。 復習用教材として、相続税法Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト、財産評価テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の内容の主要項目については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 相続税法演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	3学年・4学年

科目名	事業税演習 I		授業形態		演習	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数		60時間	
			単位数		2単位	
科目教員	竹村 幸生		授業回数		12回	
			成績評価方法	筆記試験		: 30 %
演習問題		: 50 %				
授業態度		: 20 %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員					: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容						
実務経験教員の 実務経験内容						
授業目的 到達目標	<p>法人事業者及び個人事業者の各事例を基にした演習問題を通して、事業税を計算し申告書を作成できる計算理論の基礎知識並びに基本的な技術を身につけることを目的とする。</p> <p>また、税理士試験事業税に対応する基礎計算問題を解答できるレベルを到達目標とする。</p>					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	ガイダンス 基本項目のまとめ問題	竹村幸生	第7回	問題演習⑥ 〔内容〕法人税の明細書に 関する問題①・個人事業税基 本問題（新規開業①）	竹村幸生	
第2回	問題演習① 〔内容〕所得課税法人の基本 問題①・従業者の数の算定に 関する問題①	竹村幸生	第8回	問題演習⑦ 〔内容〕法人税の明細書に 関する問題②・所得税法の計 算の例によらない事項に 関する問題①	竹村幸生	
第3回	問題演習① 〔内容〕従業者の数の算定に 関する問題②・事務所棟の数 と従業者の数の算定に 関する問題②	竹村幸生	第9回	問題演習⑧ 〔内容〕法人税の明細書に 関する問題③・事業専従者に 関する問題①	竹村幸生	

第4回	問題演習③ 〔内容〕異なる分割基準を合わせて行う法人の問題①・特別法人の基本問題（医療法人①）	竹村幸生	第10回	問題演習⑨ 〔内容〕所得課税法人の基本問題②・従業者の数の算定に関する問題②	竹村幸生
第5回	問題演習④ 〔内容〕所得課税法人の所得の算定に関する問題①・個人事業税基本問題（分割法人①）	竹村幸生	第11回	問題演習⑩ 〔内容〕従業者の数の算定に関する問題③・事務所棟の数と従業者の数の算定に関する問題③	竹村幸生
第6回	問題演習⑤ 〔内容〕所得課税法人の所得の算定に関する問題②・個人事業税基本問題（異なる税率が適用される事業を合わせて行う場合①）	竹村幸生	第12回	問題演習⑪ 〔内容〕異なる分割基準を合わせて行う法人の問題②・特別法人の基本問題（医療法人②）	竹村幸生
準備学習等	事業税Ⅰで学習した内容の問題演習となるため、事業税Ⅰの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	事業税計算問題集基礎編（大原出版） 復習用教材として、事業税Ⅰで使用している基礎完成テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の各回の内容の主要項目については、受講生の理解度や進捗度に応じて、一部変更する場合がある。 事業税演習Ⅰは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	3学年・4学年

科目名	事業税演習Ⅱ		授業形態		演習		
			選必の別		選必		
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数		90時間		
			単位数		3単位		
科目教員	竹村 幸生		授業回数		18回		
			成績評価方法	筆記試験	:	30	%
				演習問題	:	50	%
				授業態度	:	20	%
科目教員のうち実務経験教員				:	%		
実務経験教員の実務経験に関する授業内容				:	%		
実務経験教員の実務経験内容				:	%		
授業目的到達目標	<p>法人事業税及び個人事業税の課税事例等を基にした実力判定公開模擬試験を通して、事業税を計算し申告書を作成できる計算理論の応用の知識並びに技術を身につけることを目的とする。</p> <p>また、税理士試験事業税に対応する計算問題及び理論問題を解答できるレベルを到達目標とする。</p>						
授業計画							
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員		
第1回	ガイダンス 法人事業税及び個人事業税の注意点	竹村幸生	第10回	実力判定公開模擬試験⑨ 〔内容〕外形標準課税、収入金額課税、個人事業税の課税客体、事業税の非課税を含む総合問題	竹村幸生		
第2回	実力判定公開模擬試験① 〔内容〕外形標準課税、収入金額課税、個人事業税の課税客体、事業税の非課税を含む総合問題	竹村幸生	第11回	実力判定公開模擬試験⑩ 〔内容〕外形標準課税、個人事業税、事業税のと事務所又は事業所、所得割の課税標準である所得の算定方を含む総合問題	竹村幸生		
第3回	実力判定公開模擬試験② 〔内容〕外形標準課税、個人事業税、事業税のと事務所又は事業所、所得割の課税標準である所得の算定方を含む総合問題	竹村幸生	第12回	実力判定公開模擬試験⑪ 〔内容〕外形標準課税、収入金額課税、電気供給業及びガス供給業の課税標準の算定方法を含む総合問題	竹村幸生		

第4回	実力判定公開模擬試験③ 〔内容〕外形標準課税、収入金額課税、電気供給業及びガス供給業の課税標準の算定方法を含む総合問題	竹村幸生	第13回	改正税法	竹村幸生
第5回	実力判定公開模擬試験④ 〔内容〕外形標準課税、個人事業税、資本割の課税標準である資本金等の額の算定方法を含む総合問題	竹村幸生	第14回	令和3年税理士試験問題の事例解説	竹村幸生
第6回	実力判定公開模擬試験⑤ 〔内容〕外形標準課税、収入金額課税、個人事業税の課税標準の算定方法及び事業専従者の取扱いを含む総合問題	竹村幸生	第15回	令和4年税理士試験問題の事例解説	竹村幸生
第7回	実力判定公開模擬試験⑥ 〔内容〕外形標準課税、個人事業税における各種控除を含む総合問題	竹村幸生	第16回	令和5年税理士試験問題の事例解説	竹村幸生
第8回	実力判定公開模擬試験⑦ 〔内容〕外形標準課税、収入金額課税、個人事業税の分割基準、法人事業税の分割基準を含む総合問題	竹村幸生	第17回	公開模擬試験①	竹村幸生
第9回	実力判定公開模擬試験⑧ 〔内容〕外形標準課税、個人事業税、中間申告納付制度、確定申告納付制度を含む総合問題	竹村幸生	第18回	公開模擬試験②	竹村幸生
準備学習等	事業税Ⅰ・Ⅱで学習した内容の問題演習となるため、事業税Ⅰ・Ⅱの内容を復習し理解しておくことが重要。学習内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い問題演習ができるレベルの知識を身につけ授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に実力判定公開模擬試験(学校法人大原学園作成)を配付する。 復習用教材として、事業税Ⅰ・Ⅱで使用している計算テキスト及び理論テキストを持参すること。				
備考	授業計画の前提となる内容等については、法改正等に応じて、一部変更する場合があります。 事業税演習Ⅱは、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計の原理		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
確認テスト	: 10 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本原理、仕訳、勘定記入といっ た帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。				
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、資産に関する取引が帳簿上、どのよう に記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標として、筆記 試験の80点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	デリバティブ取引・ヘッジ会 計等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	商品売買	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	有形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	棚卸資産の期末評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	現金及び預金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	無形固定資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	割引現在価値 債権・債務等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	研究開発費とソフトウェア 投資その他の資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	貸倒れと貸倒引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	固定資産の減損 繰延資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	有価証券	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。				

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅠ、問題Ⅰ、答案用紙Ⅰ、解答解説Ⅰ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅰ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
確認テスト	: 10 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。				
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、負債・純資産に関する取引が帳簿上、 どのように記帳され、財務諸表上、認識・測定されていくかを身に付け、到達目標とし て、筆記試験の80点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	社債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	ストック・オプション	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	税金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	退職給付①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	税効果会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	退職給付②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	税効果会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	外貨建取引①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	純資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	外貨建取引②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	第1回から第6回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透	第15回	第8回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	新株予約権と新株予約権付社 債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。				

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅡ、問題Ⅱ、答案用紙Ⅱ、解答解説Ⅱ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅱ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
確認テスト	: 10 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的原理、仕訳、勘定記入と いった帳簿記入並びに決算及び財務諸表の作成を学習する。また、企業におけるキャッ シュの流れを理解し、資金繰りの必要性を学習する。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決 算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。				
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的を理解したうえで、利益計算と収支計算の違いを理解し、 キャッシュフロー計算書の作成と収益に関する取引の記帳を身に付け、到達目標とし て、筆記試験の70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	キャッシュ・フロー計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	収益認識①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結キャッシュ・フロー計算 書①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	収益認識②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結キャッシュ・フロー計算 書②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	帳簿組織	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	セグメント情報等の開示	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	本支店会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	在外支店	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	会計上の変更及び誤謬の訂正	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	製造業（商的工業簿記）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	1株当たり情報	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習す ること。				

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅤ、問題Ⅴ、答案用紙Ⅴ、解答解説Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	連結財務諸表Ⅰ		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		60時間	
			単位数		2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数		15回	
			成績 評価 方法	筆記試験		: 70 %
確認テスト		: 10 %				
授業態度		: 20 %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業集団を会計単位として作成される連結財務諸表作成手順を確認し、企業集団における会社間取引の相殺や未実現利益消去の必要性、連結特有の会計処理を学習する。					
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。					
授業目的 到達目標	本講義では、個別財務諸表と連結財務諸表の作成目的の違いを理解し、連結子会社及び持分法適用関連会社が各々2社以上ある場合の連結財務諸表作成手順を身に付け、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	連結財務諸表総論、資本連結 ①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	在外子会社	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第2回	資本連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結の範囲	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第3回	成果連結①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	第7回から第10回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第4回	成果連結②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合総論、取得	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第5回	持分法	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第6回	第1回から第5回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透	第14回	事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第7回	連結税効果会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第12回から第14回の範囲の筆 記試験・論点の解説	阿部 透	
第8回	包括利益	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛				
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。					

教科書 参考書等	財務会計論(計算)テキストⅢ・Ⅳ、問題Ⅲ・Ⅳ、答案用紙Ⅲ・Ⅳ、解答解説Ⅲ・Ⅳ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、財務報告基準Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅰ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績評価方法	確認テスト : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論及び会計諸規則、諸基準から、現行制度に至った背景や考え方を学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、財務報告の目的である意思決定に有用な情報を提供するうえでの会計理論及び会計処理の手続きを理解し、到達目標として、各回実施のミニテストにて70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	財務会計の意義と機能 企業会計制度と会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第2回	財務会計の基礎概念	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第3回	収益と費用 資産と負債	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第4回	棚卸資産 固定資産、繰延資産と引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第5回	負債、純資産 財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第6回	金融商品、ストック・オプション等 リース	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第7回	退職給付、研究開発費とソフトウェア 固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第8回	法人税等 連結財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第9回	企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	

第10回	外貨換算 四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。	
教科書 参考書等	財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。	

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	管理会計の原理		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
				確認テスト	: 10 %
				授業態度	: 20 %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	本講義では、管理会計の目的を理解したうえで、財務会計との関わり、実際の活用方法を学ぶ。到達目標として、筆記試験の80点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	管理会計の意義と目的	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第9回	第1回から第8回の範囲の筆記 試験・論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第2回	管理会計の体系	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第10回	直接原価計算と全部原価計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第3回	原価計算基準の設定について	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第11回	固定費調整	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第4回	原価計算の目的と一般的基準	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第12回	資金管理	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第5回	財務会計との結びつき	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第13回	活動基準原価計算の意義・背 景	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第6回	短期利益計画のプロセス	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第14回	活動基準原価計算の有用性 リストラチャリング [®] への効果	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第7回	CVP分析・経営レバレッジと 経営行動	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第15回	第10回から第14回の範囲の筆 記試験・論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第8回	原価態様に基づく原価分類	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。				
教科書 参考書等	管理会計論テキストⅡ、問題Ⅱ、解答解説Ⅱ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。				

備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む管理会計系の科目(原価計算、意思決定会計、戦略管理会計、管理会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。
----	---

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	原価計算	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	授業回数	20回
		成績 評価 方法	筆記試験
確認テスト	: 10 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	本講義では、管理会計の目的を理解したうえで、原価計算基準を用いての原価の算定方法を身に付ける。到達目標として、筆記試験の80点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 原価計算基準	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第11回	総合原価計算(副産物・工程別 原価計算非累加法)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第2回	費目別計算(材料費・労務費)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第12回	総合原価計算(連産品原価計 算)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第3回	費目別計算(経費・製造間接 費)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第13回	第9回から第12回の範囲の筆記 試験・論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第4回	部門別計算(第1、2、3次集計)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第14回	標準原価計算の目的	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第5回	部門別計算(複合費の取り扱 い)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第15回	標準原価の種類(原価改訂頻度 の相違による分類)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第6回	個別原価計算(直接経費処理・ 間接経費処理)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第16回	標準原価の種類(標準の厳格度 の相違による分類)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第7回	個別原価計算(作業屑・異常仕 損の処理)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第17回	標準原価差異の種類・把握方 法	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第18回	標準原価差異の勘定記入方法	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第9回	総合原価計算と個別原価計算 の相違	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第19回	標準原価差異の追加配賦	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第10回	総合原価計算(非度外視法・率 安定的減損)	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第20回	第14回から第19回の範囲の筆 記試験・論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	管理会計論テキストⅠ、問題Ⅰ、解答解説Ⅰ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む管理会計系の科目(管理会計の原理、意思決定会計、戦略管理会計、管理会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	意思決定会計	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	授業回数	10回
		成績 評価 方法	筆記試験
確認テスト	: 10 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	本講義では、管理会計の目的を理解したうえで、企業の将来の意思決定の為の意思決定 会計を身に付ける。到達目標として、筆記試験の80点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	意思決定会計の基礎	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第2回	関連原価と無関連原価	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第3回	経済的発注量分析	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第4回	継続・廃止の意思決定	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第5回	受注可否の意思決定	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第6回	追加加工の可否の意思決定	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第7回	部品の自製・購入の意思決定	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第8回	最適プロダストミックス	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第9回	シャドープライス・リデューストコスト	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第10回	第1回から第9回の確認を目的とした筆記試験、重要論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	<p>管理会計論テキストⅡ、問題Ⅱ、解答解説Ⅱ</p> <p>なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
備考	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む管理会計系の科目（管理会計論の原理、原価計算、戦略管理会計、管理会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。</p>

		税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）		
		1学年・2学年・3学年・4学年		
科目名	戦略管理会計	授業形態	講義	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	30時間	
		単位数	1単位	
科目教員	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	授業回数	10回	
		成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
			確認テスト	: 10 %
			授業態度	: 20 %
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容				
実務経験教員の 実務経験内容				
授業目的 到達目標	本講義では、管理会計の目的を理解したうえで、企業の将来の意思決定の為の戦略管理 会計を身に付ける。到達目標として、筆記試験の80点以上とする。			
授業計画				
回数	授業内容	科目教員		
第1回	特殊原価概念	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		
第2回	資本コストの算定と在り方	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		
第3回	投資案評価方法（NPV法・収益性指数法・内部利益率法）	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		
第4回	投資案評価方法（回収期間法・投資利益率法・原価比較法）	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		
第5回	不確実性を考慮した意思決定	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		
第6回	予算管理と責任会計	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		
第7回	予算編成・予算統制	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		
第8回	目標管理・予算スラックの形成	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		
第9回	資金管理の収益性と安全性	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		
第10回	第1回から第9回の確認を目的とした筆記試験重要論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	<p>管理会計論テキストⅡ、問題Ⅱ、解答解説Ⅱ</p> <p>なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
備考	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む管理会計系の科目（管理会計論の原理、原価計算、意思決定会計、管理会計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。</p>

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	監査論 I		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		60時間	
			単位数		2単位	
科目教員	鈴木 翔太		授業回数		20回	
			成績 評価 方法	確認テスト		70 %
授業態度		30 %				
		%				
		%				
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太				% %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	財務諸表監査を中心とした監査の制度的な枠組み、必要性、関係する法令・基準・監査 実務指針等を理解する。					
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築 支援等の業務を行っている。					
授業目的 到達目標	本講義は、財務諸表監査について理解したうえで、効果的かつ効率的な監査を行うため の実施や報告に関する基礎知識を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて 70点以上とする。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	財務諸表監査総論	鈴木 翔太	第11回	関連当事者との関係及び 取引、会計上の見積りの監査	鈴木 翔太	
第2回	意見表明の対象である財務諸 表	鈴木 翔太	第12回	財務諸表監査における不正の 検討及び法令の検討	鈴木 翔太	
第3回	監査主体論、監査基準論	鈴木 翔太	第13回	グループ監査、内部監査の利 用、専門家の業務の利用	鈴木 翔太	
第4回	監査業務のプロセス、財務諸 表の適正性の立証プロセス	鈴木 翔太	第14回	監査の品質管理、監査人の交 代、コミュニケーション、監査調書	鈴木 翔太	
第5回	監査証拠、監査手続①	鈴木 翔太	第15回	監査意見に関する知識	鈴木 翔太	
第6回	監査手続②、監査業務の契約	鈴木 翔太	第16回	追記情報	鈴木 翔太	
第7回	監査計画、リスク・アプロー チ	鈴木 翔太	第17回	比較情報、特別目的の財務諸 表の監査等	鈴木 翔太	
第8回	リスク評価手続き及び評価し たリスクに対応する手続き	鈴木 翔太	第18回	継続企業の前提	鈴木 翔太	
第9回	監査証拠の入手方法	鈴木 翔太	第19回	中間監査、四半期レビュー	鈴木 翔太	

第10回	監査における重要性、特別な 検討を必要とするリスク	鈴木 翔太	第20回	内部統制報告制度、わが国の 監査の歴史	鈴木 翔太
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。				
教科書 参考書等	監査論テキスト(上巻)、監査論テキスト(下巻)、監査論問題集、監査論ポケットコンパス、監査論肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。				
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む監査論系の科目(監査演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。				

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法Ⅰ		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		60時間	
			単位数		2単位	
科目教員	鈴木 翔太		授業回数		15回	
			成績 評価 方法	確認テスト		70 %
授業態度		30 %				
		%				
		%				
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太				% %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち、株式会社の設立から運営および組織構造等に関する基礎知識を学習する。					
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。					
授業目的 到達目標	本講義は、会社法の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	設立総説、発起設立と募集設立	鈴木 翔太	第9回	株主総会②、取締役①	鈴木 翔太	
第2回	変態設立事項に関する規制、 設立関与者の責任	鈴木 翔太	第10回	取締役②	鈴木 翔太	
第3回	設立の瑕疵、株主の権利・義務①	鈴木 翔太	第11回	取締役③	鈴木 翔太	
第4回	株主の権利・義務②、株主平等原則	鈴木 翔太	第12回	取締役④、代表取締役①	鈴木 翔太	
第5回	株式の譲渡、自己株式の取得・処分等の制限①	鈴木 翔太	第13回	代表取締役②、監査役①	鈴木 翔太	
第6回	自己株式の取得・処分等の制限②、株主名簿①	鈴木 翔太	第14回	監査役②、指名委員会等設置会社①	鈴木 翔太	
第7回	株主名簿②、株式等売渡請求	鈴木 翔太	第15回	指名委員会等設置会社②、監査等委員会設置会社	鈴木 翔太	
第8回	機関総説、株主総会①	鈴木 翔太				
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。					

教科書 参考書等	企業法テキスト(会社法)、企業法問題集、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅱ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科（2年課程）・税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・ 税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）・税理 士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	企業法Ⅱ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績 評価 方法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	会社法のうち資金調達や組織再編行為等の仕組みや手順等の規制、商法のうち商人および商行為に関する規制、金融商品取引法のうち情報開示制度に関する規制について学習する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義は、各種法令の趣旨を理解したうえで、法規制とそれに関連する事例に基づく判例の見解を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	募集株式の発行等の効力発生等①	鈴木 翔太	
第2回	募集株式の発行等の効力発生等② 新株予約権	鈴木 翔太	
第3回	社債 資本金・準備金・剰余金	鈴木 翔太	
第4回	剰余金の配当 事業譲渡等	鈴木 翔太	
第5回	組織再編	鈴木 翔太	
第6回	解散・清算、持分会社 特例有限会社・外国会社	鈴木 翔太	
第7回	商法総則①	鈴木 翔太	
第8回	商法総則② 商法為法	鈴木 翔太	
第9回	金融商品取引法総論 発行開示	鈴木 翔太	
第10回	流通開示 開示の実効性・公正確保のための制度	鈴木 翔太	

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された肢別チェックの問題を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	<p>企業法テキスト（会社法）、企業法テキスト（商法・金商法）、企業法問題集Ⅱ、企業法ポケットコンパス、企業法肢別チェック</p> <p>なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
備考	<p>本講義は、税理士会計士学科(全課程)1学年・2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目(企業法Ⅰ、企業法演習)を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。</p>

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅰ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	20回
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透	成績評価 方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。企業等と連携した講義内容により、実務に必要な能力の向上を図り、各論点の会計処理方法を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の習得および財務諸表の数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	商品売買、棚卸資産の期末評価など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	連結会計③	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	債権債務、貸倒れと貸倒引当金など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	有価証券、デリバティブ取引、ヘッジ会計等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	企業結合会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	事業分離等①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	ソフトウェア、固定資産の減損など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	事業分離等②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	社債、退職給付、税効果会計など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第16回	キャッシュフロー会計など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	新株予約権、ストックオプションなど	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第17回	会計上の変更及び誤謬の訂正、1株当たり情報など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	資産除去債務、外貨建取引など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第18回	帳簿組織、本支店会計、収益認識など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	連結会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第19回	近年実務において必要な論点①	阿部 透

第10回	連結会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第20回	近年実務において必要な論点 ②	阿部 透
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。				
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。				
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。				

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅱ		授業形態	演習
			選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	30時間
			単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	10回
			成績評価方法	筆記試験
授業態度	: 30 %			
	: %			
	: %			
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %
				: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する。			
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。			
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の理論的背景および財務諸表に記載される数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。			
授業計画				
回数	授業内容			科目教員
第1回	財務会計の意義と機能、企業会計制度と会計基準			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	財務会計の基礎概念、収益と費用			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	資産と負債、棚卸資産			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	固定資産、繰延資産と引当金			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	純資産、財務諸表、金融商品			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	ストックオプション、リース			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	退職給付、研究開発とソフトウェア			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	固定資産の減損、法人税等、連結貸借対照表及び連結損益・包括利益計算書			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	連結財務諸表(持分法)、企業結合と事業分離			阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	外貨換算、四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。	
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅲ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な企業結合会計及び連結会計に関する事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表、リース会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	連結精算表、包括利益	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結財務諸表、有価証券の信用取引、先物取引	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	セグメント情報等、子会社への投資に関する一時差異	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結会計、親子間の吸収合併、退職給付信託など	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	連結財務諸表、子会社による親会社株式の売却	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	企業集団内の吸収合併及び事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	企業結合、事業分離等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	企業結合（暫定的な会計処理など）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	個別財務諸表と連結財務諸表の作成、固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	個別財務諸表と連結財務諸表の作成	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	個別財務諸表、リース、予定取引のヘッジ	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	リース（中途解約）、在外子会社（間接法・簡便法）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	退職給付制度の終了、税効果会計、ソフトウェア	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	連結キャッシュ・フロー計算書（国内及び在外子会社）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			

準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。
-------	---------------------------

教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計演習Ⅳ	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	10回
		成績評価方法	筆記試験 : 70 % 授業態度 : 30 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。各論点の会計処理方法及び理論的背景を学習し、財務諸表の数値を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の理論的背景および財務諸表(個別・連結)に記載される数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として筆記試験の70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表(計算)①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	連結財務諸表(計算)②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	連結財務諸表(計算)③	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	個別財務諸表(計算)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	連結キャッシュ・フロー計算書(計算)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	企業結合(会計理論)①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	企業結合(会計理論)②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	有価証券の評価(会計理論)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第9回	キャッシュフロー計算書(会計理論)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛

第10回	リース会計（会計理論）	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。	
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は財務会計系の科目(財務会計の原理、財務会計Ⅰ、Ⅱ、連結財務諸表Ⅰ、財務報告基準Ⅰ)を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	管理会計演習Ⅰ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
				授業態度	: 30 %
					: %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の習得および原価計算の計算の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	費目別計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第9回	標準原価計算③	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第2回	部門別計算・個別原価計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第10回	CVP分析・直接原価計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第3回	費目別計算・部門別計算・個別原価計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第11回	予算管理・業務的意思決定	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第4回	総合原価計算①	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第12回	戦略的意思決定・事業部制会計	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第5回	総合原価計算②	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第13回	原価管理・ABC	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第6回	総合原価計算③	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第14回	企業価値・財務情報分析・資金管理	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第7回	標準原価計算①	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第15回	総まとめ	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第8回	標準原価計算②	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美			
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。				

教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は管理会計系の科目（管理会計の原理、原価計算、意思決定会計、戦略管理会計）を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	管理会計演習Ⅱ		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		授業回数	15回	
			成績評価方法	筆記試験	: 70 %
				授業態度	: 30 %
					: %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の習得および原価計算の数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	費目別計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第9回	予算管理	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第2回	部門別計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第10回	業務的意思決定	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第3回	個別原価計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第11回	戦略的意思決定・事業部制会計	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第4回	総合原価計算①	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第12回	原価管理・ABC	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第5回	総合原価計算②	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第13回	資金管理	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第6回	標準原価計算①	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第14回	企業価値	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第7回	標準原価計算②	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第15回	財務情報分析	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第8回	CVP分析・直接原価計算	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美			
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。				

教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は管理会計系の科目（管理会計の原理、原価計算、意思決定会計、戦略管理会計）を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。

		学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)				
		学年	1学年・2学年・3学年・4学年				
科目名	管理会計演習Ⅲ		授業形態	演習			
			選必の別	選必			
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数		30時間			
		単位数		1単位			
科目教員	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		授業回数		10回		
			成績 評価 方法	筆記試験	:	70	%
				授業態度	:	30	%
					:		%
					:		%
科目教員のうち 実務経験教員				:	%		
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容							
実務経験教員の 実務経験内容							
授業目的 到達目標	会計に関する専門的能力を有する公認会計士として必要な会計処理方法の習得および原価計算の数値の理解を目的に、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。						
授業計画							
回数	授業内容				科目教員		
第1回	費目別計算・部門別計算				及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		
第2回	個別原価計算・総合原価計算				及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		
第3回	標準原価計算				及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		
第4回	CVP分析・直接原価計算				及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		
第5回	予算管理				及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		
第6回	業務的意思決定				及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		
第7回	戦略的意思決定				及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		
第8回	原価管理・ABC				及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		
第9回	資金管理				及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		

第10回	企業価値	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。	
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義は管理会計系の科目（管理会計の原理、原価計算、意思決定会計、戦略管理会計）を履修することで得た知識の確認と維持を図る内容となっている。	

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	監査演習	授業形態	演習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回
		成績 評価 方法	筆記試験
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。わが国における監査の制度的な枠組みを学習し、監査基準や監査実務指針等の規制を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査（金融商品取引法、会社法等）、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。		
授業目的 到達目標	本講義では、監査制度に関する網羅的な知識を習得したうえで、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	財務諸表監査総論、意見表明の対象である財務諸表、監査主体論、監査基準論	鈴木 翔太	
第2回	監査業務のプロセス、財務諸表の適正性の立証プロセス、監査証拠、監査手続、職業倫理	鈴木 翔太	
第3回	監査業務の契約、監査計画、リスク・アプローチ	鈴木 翔太	
第4回	リスク評価手続及び評価したリスクに対応する手続、監査証拠の入手方法、監査における重要性	鈴木 翔太	
第5回	特別な検討を必要とするリスク、会計上の見積りの監査、関連当事者との関係など	鈴木 翔太	
第6回	財務諸表監査における法令の検討、グループ監査、内部監査の利用、専門家の業務の利用など	鈴木 翔太	
第7回	監査報告論	鈴木 翔太	
第8回	継続企業の前提、中間監査、四半期レビュー、内部統制報告制度	鈴木 翔太	
第9回	会社法会計監査人監査、金融商品取引法、公認会計士法	鈴木 翔太	
第10回	保証債務、情報技術と監査、監査の歴史	鈴木 翔太	

準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む監査論系の科目（監査論Ⅰ）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

		学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)		
		学年	1学年・2学年・3学年・4学年		
科目名	企業法演習		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無		有	授業時間数	30時間	
			単位数	1単位	
科目教員	鈴木 翔太		授業回数	10回	
			成績 評価 方法	筆記試験	:
授業態度	:	30		%	
	:			%	
	:			%	
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太			:	%
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	事例問題を使用した問題演習を1時間実施し、その後90分程度解説を行う。法の趣旨に基づいた規制を学習し、公認会計士に必要な会社に関する制限を理解する。				
実務経験教員の 実務経験内容	公認会計士として、法定監査（金融商品取引法、会社法等）、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。				
授業目的 到達目標	本講義は、会社に関係する各種法令や判例等を網羅的に理解し、事例問題を使用し、実務に必要な能力の向上を図る。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容			科目教員	
第1回	設立、株式①			鈴木 翔太	
第2回	株式②、機関①			鈴木 翔太	
第3回	機関②			鈴木 翔太	
第4回	資金調達			鈴木 翔太	
第5回	社債、計算			鈴木 翔太	
第6回	組織再編①			鈴木 翔太	
第7回	組織再編②			鈴木 翔太	
第8回	持分会社等			鈴木 翔太	
第9回	商法総則・商行為			鈴木 翔太	
第10回	金融商品取引法			鈴木 翔太	

準備学習等	毎回の出題範囲を事前に学習してから講義に臨むこと。
教科書 参考書等	各回に演習問題を配布します。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む企業法系の科目（企業法Ⅰ、Ⅱ）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅲ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績 評価 方法	筆記試験	: 70 %
				確認テスト	: 10 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的項目からの発展項目として、リース会計、金融商品会計の仕訳、勘定記入といった記帳方法、株主資本等変動計算書及びキャッシュ・フロー計算書の作成を学習する。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。				
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容であるリース、金融商品の会計処理から財務諸表に認識・測定される数値を理解し、株主資本等変動計算書及びキャッシュ・フロー計算書作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	社債、資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	金銭債権、金銭債務 有価証券	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	株主資本、評価・換算差額 等、新株予約権	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	複合金融商品、デリバティブ	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	株主資本等変動計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	ヘッジ会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	キャッシュフロー・計算書①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	ストックオプション等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	キャッシュフロー・計算書②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	リース会計①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	会計上の変更及び誤謬の訂正 ①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	リース会計②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	会計上の変更及び誤謬の訂正 ②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。				

教科書 参考書等	財務会計論（計算）テキストⅠ、Ⅱ、Ⅴ、問題Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ、答案用紙Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ、解答解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務会計Ⅳ		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数		60時間	
			単位数		2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数		15回	
			成績 評価 方法	筆記試験		: 70 %
確認テスト		: 10 %				
授業態度		: 20 %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに企業における簿記手続きの理解に必要な基本的項目からの発展項目として、退職給付会計、税効果会計などの仕訳、勘定記入といった記帳方法、連結財務諸表及び四半期財務諸表の作成を学習する。					
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。					
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である退職給付会計、税効果会計および企業結合、事業分離の会計処理から連結財務諸表に認識・測定される数値を理解し、連結財務諸表及び四半期財務諸表の作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	退職給付①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	連結財務諸表①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第2回	退職給付②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結財務諸表②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第3回	収益認識	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	企業結合と事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第4回	研究開発とソフトウェア	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	外貨建取引	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第5回	固定資産の減損	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	在外支店及び在外子会社等の 財務諸表の換算	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第6回	法人税等①	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	四半期財務諸表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	
第7回	法人税等②	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第9回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透	
第8回	第1回から第7回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透				
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。					

教科書 参考書等	財務会計論（計算）テキストⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、問題Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、答案用紙Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、解答解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	連結財務諸表Ⅱ	授業形態		講義	
		選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数		60時間	
		単位数		2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数		15回	
		成績 評価 方法	筆記試験		:
確認テスト			:	10 %	
授業態度			:	20 %	
			:	%	
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			:	%
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	例題をもとに連結財務諸表作成手順を確認し、持分変動、連結除外といった連結範囲の変動を中心に連結修正仕訳を学習する。また、企業結合及び事業分離による個別財務諸表と連結財務諸表の会計処理を確認する。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。				
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である連結財務諸表作成の持分変動を理解し、企業結合及び事業分離による連結財務諸表の作成方法を身につけ、到達目標として、筆記試験の70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	連結財務諸表総論 資本連結(段階取得)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	第1回から第8回の範囲の筆記 試験・論点の解説	阿部 透
第2回	資本連結(子会社株式の追加 取得、一部売却)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	取得、段階取得、逆取得	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	資本連結(連結除外)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	資本連結(株主割当有償増 資、第三者割当有償増資)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	事業分離	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	資本連結(子会社の新株予約 権、自己株式)	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	結合当事企業の株主に係る会 計処理	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	評価差額の実現	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	共同支配企業の形成	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	連結の範囲、持分法の適用範 囲	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	第10回から第14回の範囲の筆 記試験・論点の解説	阿部 透
第8回	間接所有	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。				

教科書 参考書等	財務会計論（計算）テキストⅢ、Ⅳ、問題Ⅲ、Ⅳ、答案用紙Ⅲ、Ⅳ、解答解説Ⅲ、Ⅳ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・ 税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)・ 税理士会計士専攻学科(1年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅱ		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績 評 価 方 法	確認テスト	: 70 %
				授業態度	: 30 %
					: %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論として、会社計算規則、財務諸表等規則の他、企業会計基準委員会公表の会計基準を学習し、複数の考え方から現行制度に至った背景を理解する。				
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。				
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である財務会計の基礎概念である財務会計の概念フレームワークの考え方を身につけ、到達目標として、各回実施の確認テストの70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	財務会計の意義、財務会計の機能	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	棚卸資産の範囲、取得原価の決定、払出数量・単価の計算	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	企業会計制度、会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	棚卸資産の評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	企業会計原則の一般原則	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	固定資産総論、有形・無形固定資産、投資その他の資産	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	会計公準、会計主体論	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	繰延資産、引当金	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	利益概念	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	偶発債務、資産除去債務	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	概念フレームワーク	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	資本の概念、株主資本、評価・換算差額等、新株予約権	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	収益と費用の分類、損益計算の原則	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	資産と負債の分類、資産の評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を実施し、復習を中心に学習すること。				

教科書 参考書等	財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）問題集 なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(全課程)2学年・3学年・4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）
学年	3学年・4学年

科目名	財務報告基準Ⅲ	授業形態	講義
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間
		単位数	2単位
科目教員	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	授業回数	15回
		成績評価方法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員	阿部 透		: %
			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	企業等の財務諸表の作成及び理解に必要な会計理論として、会社計算規則、財務諸表等規則の他、企業会計基準委員会公表の会計基準を学習し、複数の考え方から現行制度に至った背景を理解する。		
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社の取締役として、財務に関する業務に携わり、日々の会計処理及び月次決算、年度決算の管理を行い、3か月ごとの財務情報を株主に報告を行っていた。		
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容であるの企業会計基準委員会公表の会計基準、適用指針の考え方を身につけ、到達目標として、各回実施の確認テストの70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	金融資産及び金融負債の範囲、発生・消滅の認識、評価	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第9回	法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第2回	貸倒見積高の算定、複合金融商品、ヘッジ会計	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第10回	連結の範囲、個別財務諸表の修正、連結貸借対照表	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第3回	ストック・オプション会計の概要、会計処理	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第11回	連結損益・包括利益計算書、持分法、注記	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第4回	リース取引の意義と分類、リース取引の会計処理	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第12回	取得、共同支配企業の形成、共通支配下の取引等	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第5回	確定給付制度の会計処理、確定拠出制度、複数事業主制度	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第13回	事業分離等の会計、外貨換算会計の概要	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第6回	研究開発費、ソフトウェア製作費	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第14回	外貨建取引の換算、在外業務活動体の財務諸表項目の換算	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第7回	減損損失の認識と測定、財務諸表における開示	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛	第15回	四半期財務諸表の概要、四半期財務諸表の作成基準	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛
第8回	税効果会計の仕組み、一時差異等、認識と測定	阿部 透 竹村 幸生 千葉 菜愛			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を実施し、復習を中心に学習すること。				

教科書 参考書等	財務会計論（理論）テキスト、財務会計論（理論）ポケットコンパス、財務会計論（理論）問題集 なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(3年課程及び4年課程)3学年・4学年の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）
学年	3学年・4学年

科目名	経営分析		授業形態		講義	
			選必の別		選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数		60時間	
			単位数		2単位	
科目教員	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		授業回数		15回	
			成績評価方法	筆記試験		: 70 %
確認テスト		: 10 %				
授業態度		: 20 %				
		: %				
科目教員のうち 実務経験教員					: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					: %	
実務経験教員の 実務経験内容						
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容であるバリュー・エンジニアリングの論点、企業価値算定及びその他の経営分析の論点を学び、管理会計の応用論点に対応する知識を身につける。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。					
授業計画						
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員	
第1回	財務情報分析の意義と種類	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第9回	社内金利制度・社内資本金制度	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第2回	バリュー・エンジニアリング	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第10回	アメーバ経営・ラインカンパニー制	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第3回	事業部制組織と職能別組織	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第11回	シェアードサービス	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第4回	本社費共通費の取扱い・責任会計	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第12回	フリーキャッシュフローモデルによる企業価値の算定	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第5回	事業部の業績評価（投資利益率・残余利益）	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第13回	経済付加価値モデルによる企業価値の算定	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第6回	事業部間の内部振替価格	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第14回	ディシジョン・ツリーによる段階的な意思決定	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第7回	第1回から第6回の範囲の筆記試験・論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第15回	第8回から第14回の範囲の筆記試験・論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	
第8回	マネジメント・コントロールとバランス・スコアカード	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美				
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。					
教科書 参考書等	管理会計論テキストⅡ、問題Ⅱ、解答解説Ⅱ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。					

備考	本講義は、税理士会計士学科(3年課程及び4年課程)3学年・4学年の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。
----	---

学科	税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）
学年	3学年・4学年

科目名	原価管理		授業形態	講義	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美		授業回数	15回	
			成績評価方法	筆記試験	: 70 %
				確認テスト	: 10 %
				授業態度	: 20 %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容				: %	
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である原価管理の論点、活動基準原価計算及びその他の原価管理の論点を学び、管理会計の応用論点に対応する知識を身につける。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	原価管理・原価企画の意義	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第9回	品質管理会計	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第2回	原価低減の意義・目的	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第10回	JIT生産方式の意義	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第3回	顧客志向の製品開発	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第11回	スループット会計	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第4回	活動基準原価計算の意義・背景	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第12回	サプライチェーンマネジメント	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第5回	活動基準原価計算の有用性 リストラクチャリングへの効果	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第13回	セル生産方式	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第6回	活動基準原価管理	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第14回	マテリアルフローコスト会計	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第7回	第1回から第6回の範囲の筆記 試験・論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美	第15回	第8回から第14回の範囲の筆記 試験・論点の解説	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美
第8回	ライフサイクルコストニング	及川 亮太 菊地 裕俊 熊谷 茜美			
準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題演習を実施し、復習を中心に学習すること。				
教科書 参考書等	管理会計論テキストⅡ、問題Ⅱ、解答解説Ⅱ なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。				

備考	本講義は、税理士会計士学科(3年課程及び4年課程)3学年・4学年の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。
----	---

学科	税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）
学年	3学年・4学年

科目名	監査論Ⅱ	授業形態	講義	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間	
		単位数	2単位	
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	20回	
		成績評価方法	確認テスト	: 70 %
			授業態度	: 30 %
				: %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	わが国の監査の制度的な枠組み、必要性、関係する法令・基準・監査実務指針等を理解する。			
実務経験教員の実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。			
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である監査制度に関する網羅的かつ実務につながる知識を習得し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	財務諸表監査総論	鈴木 翔太	第11回	監査報告論 継続企業の前提	鈴木 翔太
第2回	意見表明の対象である財務諸表	鈴木 翔太	第12回	中間監査 四半期レビュー	鈴木 翔太
第3回	監査主体論①	鈴木 翔太	第13回	特別目的の財務諸表の監査等	鈴木 翔太
第4回	監査主体論②	鈴木 翔太	第14回	内部統制報告制度	鈴木 翔太
第5回	監査基準論①	鈴木 翔太	第15回	会社法会計監査人監査	鈴木 翔太
第6回	監査基準論②	鈴木 翔太	第16回	金融商品取引法	鈴木 翔太
第7回	監査実施論①	鈴木 翔太	第17回	公認会計士法	鈴木 翔太
第8回	監査実施論②	鈴木 翔太	第18回	倫理規則	鈴木 翔太
第9回	監査実施論③	鈴木 翔太	第19回	保証業務	鈴木 翔太
第10回	監査実施論④	鈴木 翔太	第20回	わが国の監査の歴史	鈴木 翔太

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を解答し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	監査論テキスト(上巻)、監査論テキスト(下巻)、監査論問題集、監査論ポケットコンパス なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(3年課程及び4年課程)3学年・4学年の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）
学年	3学年・4学年

科目名	会社法	授業形態	講義	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	60時間	
		単位数	2単位	
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	15回	
		成績評価方法	確認テスト	: 70 %
			授業態度	: 30 %
				: %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	会社法のうち、株式会社を中心とした会社の設立・運営等に関する法規制、株式会社以外の会社に関し株式会社との相違点を学習する。			
実務経験教員の実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。			
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である会社法の趣旨に基づいた会社全般に関する法規制を理解し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	イントロダクション	鈴木 翔太	第9回	社債	鈴木 翔太
第2回	設立	鈴木 翔太	第10回	計算	鈴木 翔太
第3回	株式①	鈴木 翔太	第11回	定款変更	鈴木 翔太
第4回	株式②	鈴木 翔太	第12回	事業譲渡等と組織再編行為	鈴木 翔太
第5回	機関①	鈴木 翔太	第13回	解散・清算	鈴木 翔太
第6回	機関②	鈴木 翔太	第14回	持分会社	鈴木 翔太
第7回	機関③	鈴木 翔太	第15回	特例有限会社・外国会社	鈴木 翔太
第8回	資金調達	鈴木 翔太			

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	企業法テキスト(会社法)、企業法問題集、企業法ポケットコンパス なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。

備考	本講義は、税理士会計士学科(3年課程及び4年課程)3学年・4学年の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。
----	---

学科	税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）
学年	3学年・4学年

科目名	商法	授業形態	講義	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間	
		単位数	1単位	
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回	
		成績評価方法	確認テスト	: 70 %
			授業態度	: 30 %
				: %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	商法のうち、商人および商行為に関する法規制を理解したうえで、会社法規制とのつながりを学習する。			
実務経験教員の実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。			
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である商法の趣旨に基づいた商人全般に関する法規制を理解し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。			

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	商法の基本概念（商人・商行為）	鈴木 翔太
第2回	商業使用人	鈴木 翔太
第3回	商業登記	鈴木 翔太
第4回	商業帳簿	鈴木 翔太
第5回	商号	鈴木 翔太
第6回	営業の譲渡	鈴木 翔太
第7回	商行為法総論	鈴木 翔太
第8回	仲介業	鈴木 翔太
第9回	運送営業	鈴木 翔太
第10回	倉庫・場屋営業	鈴木 翔太

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	企業法テキスト（会社法）、企業法テキスト（商法・金商法）、企業法問題集、企業法ポケットコンパス なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(3年課程及び4年課程)3学年・4学年の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	税理士会計士学科（3年課程）・税理士会計士学科（4年課程）
学年	3学年・4学年

科目名	金融商品取引法	授業形態	講義	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	30時間	
		単位数	1単位	
科目教員	鈴木 翔太	授業回数	10回	
		成績評価方法	確認テスト	: 70 %
			授業態度	: 30 %
				: %
				: %
科目教員のうち 実務経験教員	鈴木 翔太		: %	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	金融商品取引法のうち、発行市場および流通市場における情報開示規制を中心に学習する。			
実務経験教員の実務経験内容	公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務を行っている。			
授業目的 到達目標	本講義では、公認会計士論文式試験レベルの内容である金融商品取引法の趣旨に基づいた適用会社全般に関する法規制を理解し、到達目標として、各回実施の確認テストにて70点以上とする。			
授業計画				
回数	授業内容	科目教員		
第1回	金融商品取引法総論	鈴木 翔太		
第2回	発行開示①	鈴木 翔太		
第3回	発行開示②	鈴木 翔太		
第4回	流通開示①	鈴木 翔太		
第5回	流通開示②	鈴木 翔太		
第6回	公開買付け①	鈴木 翔太		
第7回	公開買付け②	鈴木 翔太		
第8回	大量保有開示	鈴木 翔太		
第9回	電子開示	鈴木 翔太		
第10回	開示の実効性・公正確保のための制度	鈴木 翔太		

準備学習等	講義終了後、理解度を高めるために指示された問題を実施し、復習を中心に学習すること。
教科書 参考書等	企業法テキスト（会社法）、企業法テキスト（商法・金商法）、企業法問題集、企業法ポケットコンパス なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(3年課程及び4年課程)3学年・4学年の選択必修科目であるため、各学科合同授業となる。また、授業計画の各回の内容等については、基準等の改正に伴い一部変更する場合がある。

学科	OA事務学科(1年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	消費税法税務会計	授業形態	講義	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有	授業時間数	90時間	
		単位数	3単位	
科目教員	小関 哲也	授業回数	23回	
		成績評価方法	筆記試験	: 40 %
			ミニテスト	: 40 %
			授業態度	: 20 %
				: %
科目教員のうち実務経験教員	小関 哲也		: %	

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	実務において、消費税を計算することができる基礎知識を身につけさせる。 また、過去の全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験の出題内容を実務に照らして解説することにより、実務に対応できる基礎知識を習得する授業を行う。
実務経験教員の 実務経験内容	一般事業会社において、財務責任者として会計事務所と共同で、消費税に関する日々の会計処理を行うとともに、消費税を計算し確定申告書の作成及び各届出書の業務を行っていた。
授業目的 到達目標	消費税の仕組みを理解し、消費税の計算を基礎から学び、事業者(法人及び個人事業者)の消費税の計算ができることを目的とする。 また、全国経理教育協会主催消費税法能力検定試験1級に出題される計算問題を解答できるレベルを目指す。

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス 消費税法の概要	小関 哲也	第13回	非課税資産の輸出等を行った 場合の仕入税額の特例	小関 哲也
第2回	課税の対象	小関 哲也	第14回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除①	小関 哲也
第3回	非課税項目	小関 哲也	第15回	調整対象固定資産に係る仕入 税額控除②	小関 哲也
第4回	輸出免税項目	小関 哲也	第16回	特定期間における課税売上高 による納税義務の免除の特例	小関 哲也
第5回	課税売上割合の計算及び控除 対象仕入税額(個別対応方式・ 一括比例配分方式)	小関 哲也	第17回	棚卸資産に係る仕入税額控除 の調整	小関 哲也
第6回	売り上げに係る対価の返還等	小関 哲也	第18回	課税標準	小関 哲也
第7回	貸し倒れが生じた場合	小関 哲也	第19回	簡易課税制度	小関 哲也

第8回	課税仕入れの範囲	小関 哲也	第20回	高額特定資産を取得した場合の納税義務の免除の特例	小関 哲也
第9回	仕入に係る対価の返還等	小関 哲也	第21回	資産の譲渡等の時期 居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合の仕入れ税額控除の調整	小関 哲也
第10回	国境を越えた役務の提供	小関 哲也	第22回	国等に対する特例	小関 哲也
第11回	中間申告に係る納付税額の計算	小関 哲也	第23回	総まとめ問題	小関 哲也
第12回	課税仕入れ等の分類等 課税仕入れ等の時期	小関 哲也			
準備学習等	消費税法の学習は、積み重ねが重要であることから復習を十分に行い理解しておくとともに、計算問題集を活用して実際に消費税の計算の演習を行うことが重要。各回の内容の理解が不十分な場合には、教員に質問・相談を行い次回の授業に臨むこと。				
教科書 参考書等	消費税法計算テキストⅠ・Ⅱ（大原学園）、消費税法計算問題集Ⅰ・Ⅱ（大原学園）、理論テキスト（大原学園）、消費税法規通達集（中央経済社）、総合計算問題集基礎編（大原出版）、全国経理教育協会主催消費税法能力検定				
備考	授業計画の各回の内容等については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 消費税法税務会計は、上記学科及び各学年の選択必修科目であるため、各学科及び各学年合同授業となる。				

学科	税理士会計士学科(4年課程)・税理士会計士学科(3年課程)
学年	3学年・4学年

科目名	宅地建物取引士		授業形態		講義		
			選必の別		選必		
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数		210時間		
			単位数		7単位		
科目教員	竹村 幸生		授業回数		35回		
			成績評価方法	筆記試験	:	40	%
				ミニテスト	:	40	%
				授業態度	:	20	%
					:		%
科目教員のうち実務経験教員				:	%		
実務経験教員の実務経験に関する授業内容							
実務経験教員の実務経験内容							
授業目的到達目標	不動産の取引に関連する代表的な法律(宅地建物取引業法、民法、借地借家法等)の基礎を理解してもらうことを目的とする。実際の不動産取引の場面に応じて必要となる法律がある程度選別できること、不動産取引においては不利益を被る可能性の高い買主や借主の立場となり、その権利を守るための考え方ができるようになること、さらには宅地建物取引士資格試験に合格できる知識を身につけることを到達目標とする。						
授業計画							
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員		
第1回	ガイダンス、宅建業法(免許-1)	竹村 幸生	第19回	権利関係(賃貸借、使用貸借、委任、不法行為)	竹村 幸生		
第2回	宅建業法(免許-2)	竹村 幸生	第20回	権利関係(相続)	竹村 幸生		
第3回	宅建業法(営業保証金、宅地建物取引業保証協会)	竹村 幸生	第21回	権利関係(借地借家法-1)	竹村 幸生		
第4回	宅建業法(宅地建物取引士)	竹村 幸生	第22回	権利関係(借地借家法-2、区分所有法)	竹村 幸生		
第5回	宅建業法(業務を行う場所に関する規制、8種制限-1)	竹村 幸生	第23回	権利関係(不動産登記法)	竹村 幸生		
第6回	宅建業法(8種制限-2)	竹村 幸生	第24回	法令上の制限(都市計画法-1)	竹村 幸生		
第7回	宅建業法(一般的業務規制、取引態様の明示、媒介契約)	竹村 幸生	第25回	法令上の制限(都市計画法-2)	竹村 幸生		
第8回	宅建業法(重要事項の説明等、契約書面の交付)	竹村 幸生	第26回	法令上の制限(建築基準法-1)	竹村 幸生		
第9回	宅建業法(報酬、監督・罰則)	竹村 幸生	第27回	法令上の制限(建築基準法-2)	竹村 幸生		

第10回	宅建業法(住宅瑕疵担保履行法)	竹村 幸生	第28回	法令上の制限(国土利用計画法、宅地造成等規制法)	竹村 幸生
第11回	権利関係(制限行為能力者、意思表示)	竹村 幸生	第29回	法令上の制限(農地法、土地区画整理法)	竹村 幸生
第12回	権利関係(代理、時効)	竹村 幸生	第30回	法令上の制限(所得税、登録免許税、印紙税)	竹村 幸生
第13回	権利関係(対抗要件、共有)	竹村 幸生	第31回	法令上の制限(不動産取得税、固定資産税、鑑定評価、地価)	竹村 幸生
第14回	権利関係(抵当権)	竹村 幸生	第32回	法令上の制限(景品表示法、住宅金融支援機構法)	竹村 幸生
第15回	権利関係(債権の発生・消滅・譲渡)	竹村 幸生	第33回	総まとめ問題①	竹村 幸生
第16回	権利関係(債務不履行、危険負担)	竹村 幸生	第34回	総まとめ問題②	竹村 幸生
第17回	権利関係(連帯債務、保証債務)	竹村 幸生	第35回	全国統一公開模擬試験	竹村 幸生
第18回	権利関係(売買、請負)	竹村 幸生			
準備学習等	学習する内容が多岐にわたり、日々新たな法律の理解を積み重ねていくこととなる。予習の必要はないが、講義で学んだ内容について、特にテキストを再読し、トレーニング問題集を複数回解き込むことにより、難解な法律であってもその読解力が身につく。復習を欠かさずに実施すること。				
教科書 参考書等	基礎講義 宅建業法テキスト (学校法人 大原学園) 宅建業法トレーニング問題集 (学校法人 大原学園) 基礎講義 権利関係テキスト (学校法人 大原学園) 権利関係トレーニング問題集 (学校法人 大原学園) 基礎講義 法令上の制限テキスト (学校法人 大原学園) 法令上の制限トレーニング問題集 (学校法人 大原学園)				
備考	各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合がある。 宅地建物取引士は、上記学科の選択科目および経理事務学科(2年課程)、OA事務学科(2年課程)、OA事務学科(1年課程)、情報システム学科(3年課程)、情報システム学科(2年課程)、ビジネス学科(2年課程)の選択必修科目であるため、各学科各学年合同授業となる。				

学科	OA事務学科(1年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	FP技能士3級		授業形態	講義	
			選必の別	選択	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	千葉 菜愛		授業回数	15回	
			成績評価方法	筆記試験	: 40 %
ミニテスト	: 40 %				
授業態度	: 20 %				
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	ファイナンシャルプランナー（FP）はお金の専門家です。これからの時代、社会人となって必要不可欠となるのが今後の「人生設計」とそれに伴う「お金」の知識です。FP資格は年金・保険・税金といった生活を豊かにする知識の他、株式や預貯金などの金融資産、不動産、相続といったお金に関する幅広い分野を学習することができます。学習を通して基本的なライフプランニングができる知識の習得を目的とし、国家試験であるFP技能士3級検定試験の学科試験と実技試験の両方に合格することのできる能力を身につけることを到達目標とします。				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	ガイダンス ライフプランニングと資金計画（FPとライフプランニング、教育・住宅取得資金計画、社会保険）	千葉 菜愛	第9回	タックスプランニング（税金の分類と計算体系、所得税の仕組み、各種所得の内容）	千葉 菜愛
第2回	ライフプランニングと資金計画（公的年金制度の概要、老後の生活資金設計と公的年金、公的年金における障害給付・遺族給付）	千葉 菜愛	第10回	タックスプランニング（課税標準に計算、所得控除、税額控除）	千葉 菜愛

第3回	ライフプランニングと資金計画（企業年金・自営業者のための年金、ライフプランニングの考え方）	千葉 菜愛	第11回	タックスプランニング（確定申告、個人住民税と個人事業税）	千葉 菜愛
第4回	リスク管理（リスクマネジメント、保険制度全般、生命保険の概略、生命保険商品の種類と内容）	千葉 菜愛	第12回	不動産（不動産の見方、不動産の取引、不動産に関する法令上の制限）	千葉 菜愛
第5回	リスク管理（損害保険の概略、損害保険商品の種類と内容、個人・法人の契約に関する税金、第三分野の保険・共済）	千葉 菜愛	第13回	不動産（不動産に係る税金、不動産の有効活用）	千葉 菜愛
第6回	金融資産運用（マーケット環境の理解、預貯金等、債券、株式）	千葉 菜愛	第14回	相続・事業承継（相続と法律、贈与と法律、贈与と税金、相続と税金）	千葉 菜愛
第7回	金融資産運用（投資信託、外貨建て商品、金融派生商品）	千葉 菜愛	第15回	相続・事業承継（財産の評価（不動産・金融資産）、相続対策）	千葉 菜愛
第8回	金融資産運用（ポートフォリオ理論、金融商品と税金、セーフティネット、関連法規）	千葉 菜愛	/		
準備学習等	予習の必要はありません。経済（社会）や法律を学ぶことになるため、不明な点は教員に質問をして、次回の講義に備えてください。				
教科書 参考書等	ファイナンシャル・プランナー3級 テキスト（大原出版） ファイナンシャル・プランナー3級 問題集（大原出版）				
備考	各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。 FP技能士3級は、上記学科及び各学年の選択科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。				

学科	〇 A 事務学科(1年課程)・〇 A 事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1 学年・2 学年・3 学年・4 学年

科目名	F P 技能士 3 級演習		授業形態	演習	
			選必の別	選択	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	15時間	
			単位数	1単位	
科目教員	千葉 菜愛		授業回数	5回	
			成績評価方法	筆記試験	: 70 %
				授業態度	: 30 %
					: %
					: %
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	ファイナンシャルプランナーとして必要な年金、保険、金融資産、税金、不動産、相続などの知識を、過去試験問題や模擬問題を通して答案練習・解説することで、理解を深めてもらうことを目的としています。FP技能士3級受験のため学科及び実技問題を、本試験通りの時間設定の中で解答し、常に合格点数以上を取ることを達成目標とします。				
授業計画					
回数	授業内容			科目教員	
第1回	ガイダンス 過去試験対策①			千葉 菜愛	
第2回	過去試験対策②			千葉 菜愛	
第3回	過去試験対策③			千葉 菜愛	
第4回	模擬試験①			千葉 菜愛	
第5回	模擬試験②			千葉 菜愛	
準備学習等	反復の答案練習が必要となります。間違った問題の解き直しに全力を注いでください。また、学科試験、実技試験をバランスよく学習することを心がけてください。				

<p>教科書 参考書等</p>	<p>ファイナンシャル・プランナー3級 学科・実技過去試験問題集 問題編 (学校法人 大原学園)</p> <p>ファイナンシャル・プランナー3級 学科・実技過去試験問題集 解答編 (学校法人 大原学園)</p> <p>ファイナンシャル・プランニング技能検定3級 学科模擬試験 (学校法人 大原学園)</p> <p>ファイナンシャル・プランニング技能検定3級 実技模擬試験 (学校法人 大原学園)</p> <p>復習用教材として、FP技能士3級で使用しているテキストを持参してください。</p>
<p>備考</p>	<p>各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>F P 技能士 3 級演習は、上記学科及び各学年の選択科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。</p>

学科	OA事務学科(1年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年4ヵ月課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	1学年・2学年・3学年・4学年

科目名	コンピュータ会計	授業形態	演習
		選必の別	選択
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	30時間
		単位数	2単位
科目教員	竹村 幸生	授業回数	8回
		成績評価方法	筆記試験
授業態度	: 50 %		
	: %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	簿記に関連した科目を履修したものが、その知識を実務でも活用できるよう会計ソフト(弥生会計)を使用し実習することで、簿記の知識(いわゆる受験簿記の知識)と会計ソフトを利用した場合の簿記とのつながり、相違点を理解してもらうことを目的としています。自ら会計ソフトを利用して基礎的な会計処理(入力・集計等)ができるようになること、コンピュータ会計能力検定2級を取得するための知識と技能を身につけることを到達目標とします。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	ガイダンス及び会計ソフトの操作	竹村 幸生	
第2回	企業の基幹業務と会計処理	竹村 幸生	
第3回	税金に関連する業務と会計処理	竹村 幸生	
第4回	会計データ(証ひょうによる)の入力処理と集計	竹村 幸生	
第5回	決算に関連する業務と会計処理	竹村 幸生	
第6回	予算管理と経営分析指標	竹村 幸生	
第7回	収益構造分析と短期利益計画	竹村 幸生	

第8回	キャッシュ・フロー分析	竹村 幸生
準備学習等	<p>パソコンを利用した会計処理の実習が中心となります。序盤は慣れない作業に苦労することになりますが、繰り返し実習を積むことでその技術(入力の手速・精度)は上達します。空き時間等を利用し、積極的にパソコン教室での練習を心がけてください。なお、予習は不要です。</p>	
教科書 参考書等	<p>コンピュータ会計応用テキスト（実教出版） コンピュータ会計応用問題集（実教出版） コンピュータ会計能力検定試験 過去問題集（公益社団法人 全国経理教育協会）</p>	
備考	<p>各回の授業計画等の内容については、受講生の理解度や進捗度に応じて一部変更する場合があります。</p> <p>コンピュータ会計は、上記学科及び各学年の選択科目であるため、各学科及び各学年合同授業となります。</p>	

学科	税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・3学年・4学年

科目名	租税法(法人税法Ⅰ) (メディア授業)	授業形態	講義
		選必の別	選択
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	授業回数	10回
		成績評価方法	筆記試験
確認テスト	: 10 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	法人税の基本的な計算及び納付に関する手続きを身につけ、企業での納税の重要性について理解する。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	法人税総則・課税標準	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第2回	交際費等の損金不算入	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第3回	減価償却（普通償却）	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第4回	租税公課及び納税充当金	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第5回	受取配当等の益金不算入・繰延資産	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第6回	金銭債務の償却差損益・有価証券	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第7回	第1回から第6回の確認を目的とした筆記試験 重要論点の解説	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第8回	所得税額控除・寄附金の損金不算入	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第9回	減価償却・特別償却準備金・リース取引	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第10回	評価損益・使途秘匿金・外国税額控除・貸倒損失	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	

準備学習等	講義内容をデータとして保存し、視聴時間帯に合わせてパソコン視聴できるシステムでの学習となります。受講生自身の自主的な取り組みが重要であるため、各回、配付レジュメを読んでから講義視聴に入り、視聴後も配付レジュメによる復習を欠かさず実施してください。
教科書 参考書等	租税法テキスト（法人税法上巻）、租税法テキスト（法人税法下巻）、問題（法人税法）、解答解説（法人税法） なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(2年4ヵ月課程、3年課程及び4年課程)3学年、4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)1学年の選択科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む租税法系の科目（法人税法Ⅱ、所得税法、消費税法）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・3学年・4学年

科目名	租税法(法人税法Ⅱ) (メディア授業)	授業形態	講義
		選必の別	選択
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	授業回数	10回
		成績評価方法	筆記試験
確認テスト	: 10 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	圧縮記帳・外貨建取引を始め、会計で起こりうる事象に関する法人税の取扱いについて理解する。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	欠損金の繰越控除・繰戻し還付・収用等の特別控除	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第2回	収用等の特別控除	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第3回	圧縮記帳①	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第4回	圧縮記帳②	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第5回	同族会社の判定	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第6回	役員給与・使用人給与	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第7回	外国子会社から受ける配当等	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第8回	みなし配当・帰属事業年度	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第9回	税効果会計・外貨建取引	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第10回	第1回から第9回の確認を目的とした筆記試験 重要論点の解説	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	

<p>準備学習等</p>	<p>講義内容をデータとして保存し、視聴時間帯に合わせてパソコン視聴できるシステムでの学習となります。受講生自身の自主的な取り組みが重要であるため、各回、配付レジュメを読んでから講義視聴に入り、視聴後も配付レジュメによる復習を欠かさず実施してください。</p>
<p>教科書 参考書等</p>	<p>租税法テキスト（法人税法上巻）、租税法テキスト（法人税法下巻）、問題（法人税法）、解答解説（法人税法） なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。</p>
<p>備考</p>	<p>本講義は、税理士会計士学科(2年4ヵ月課程、3年課程及び4年課程)3学年、4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)1学年の選択科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む租税法系の科目（法人税法Ⅰ、所得税法、消費税法）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。</p>

学科	税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・3学年・4学年

科目名	租税法(所得税法) (メディア授業)	授業形態	講義
		選必の別	選択
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	授業回数	10回
		成績 評価 方法	筆記試験
確認テスト	: 10 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	直接税の基幹を担う所得税の概念・計算過程を学び、租税の基本理念である「負担の公平」を身につける。到達目標として、筆記試験の70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	所得税の概要	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第2回	課税標準・課税所得金額の計算①	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第3回	課税所得金額の計算②	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第4回	所得控除額の計算	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第5回	納付税額の計算	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第6回	申告・納付	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第7回	源泉徴収	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第8回	事業所得	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第9回	譲渡所得の金額の計算	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第10回	第1回から第9回の確認を目的とした筆記試験 重要論点の解説	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	

準備学習等	講義内容をデータとして保存し、視聴時間帯に合わせてパソコン視聴できるシステムでの学習となります。受講生自身の自主的な取り組みが重要であるため、各回、配付レジュメを読んだから講義視聴に入り、視聴後も配付レジュメによる復習を欠かさず実施してください。
教科書 参考書等	租税法テキスト（所得税法） なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。
備考	本講義は、税理士会計士学科(2年4ヵ月課程、3年課程及び4年課程)3学年、4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)1学年の選択科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む租税法系の科目（法人税法Ⅰ、Ⅱ、消費税法）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。

学科	税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・3学年・4学年

科目名	租税法(消費税法) (メディア授業)	授業形態	講義
		選必の別	選択
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	授業回数	10回
		成績 評価 方法	筆記試験
確認テスト	: 10 %		
授業態度	: 20 %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	直接税と間接税の違いをおさえ、消費税の性格である消費者に対する課税の公平性及び 税の累積排除の特性を理解する。年々変化する税法に対し最新の規定を学習し、到達目 標として、筆記試験の70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	消費税法の概要	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第2回	課税の対象・非課税	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第3回	輸出免税等・仕入れに係る消費税額	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第4回	仕入れ・売上げに係る対価の返還等	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第5回	貸倒れが生じた場合	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第6回	課税標準・納税義務の免除	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第7回	簡易課税制度・中間申告制度	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第8回	棚卸資産・調整対象固定資産に係る仕入税額控除	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第9回	中間申告に係る納付税額の計算	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	

第10回	第1回から第9回の確認を目的とした筆記試験 重要論点の解説	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生
準備学習等	講義内容をデータとして保存し、視聴時間帯に合わせてパソコン視聴できるシステムでの学習となります。受講生自身の自主的な取り組みが重要であるため、各回、配付レジュメを読んでから講義視聴に入り、視聴後も配付レジュメによる復習を欠かさず実施してください。	
教科書 参考書等	租税法テキスト（消費税法） なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(2年4ヵ月課程、3年課程及び4年課程)3学年、4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)1学年の選択科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む租税法系の科目（法人税法Ⅰ、Ⅱ、所得税法）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。	

学科	税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・3学年・4学年

科目名	経営学の原理(メディア授業)	授業形態	講義
		選必の別	選択
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	授業回数	10回
		成績評価方法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			: %
実務経験教員の 実務経験内容			
授業目的 到達目標	経営に関する基本的な考え方を身につけ、歴史的状況及び海外企業の経営等から、現代社会における日本経済の在り方を理解し、到達目標として、各回実施の確認テスト70点以上とする。		
授業計画			
回数	授業内容	科目教員	
第1回	アメリカ経営学説	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第2回	組織構造論	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第3回	組織文化論	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第4回	経営戦略論の基礎概念	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第5回	競争戦略・多角化戦略・国際化戦略	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第6回	経営戦略の展開方式・技術経営	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第7回	経営戦略論の学説史	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第8回	日本的経営と日本の企業グループ	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	
第9回	コーポレートガバナンス論	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	

第10回	企業の社会的責任	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生
準備学習等	講義内容をデータとして保存し、視聴時間帯に合わせてパソコン視聴できるシステムでの学習となります。受講生自身の自主的な取り組みが重要であるため、各回、配付レジュメを読んだから講義視聴に入り、視聴後も配付レジュメによる復習を欠かさず実施してください。	
教科書 参考書等	経営学テキスト（上巻）、経営学テキスト（下巻）、経営学問題集、経営学ポケットコンパス（基礎編） なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(2年4ヵ月課程、3年課程及び4年課程)3学年、4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)1学年の選択科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む経営学系の科目（企業ファイナンス）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。	

学科	税理士会計士学科（2年4ヵ月課程）・税理士会計士学科（3年課程）・ 税理士会計士学科（4年課程）・税理士会計士専攻学科（1年課程）
学年	1学年(税理士会計士専攻学科1年課程)・3学年・4学年

科目名	企業ファイナンス(メディア授業)	授業形態	講義
		選必の別	選択
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	30時間
		単位数	1単位
科目教員	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生	授業回数	10回
		成績評価方法	確認テスト
授業態度	: 30 %		
	: %		
	: %		
科目教員のうち 実務経験教員			: %
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容			: %
実務経験教員の 実務経験内容			: %
授業目的 到達目標	資産の運用や投資の意思決定をはじめとし、資金の調達や運営にかかわる戦略策定をするための知識を身につけ、到達目標として、各回実施の確認テスト70点以上とする。		

授業計画

回数	授業内容	科目教員
第1回	経営学概要	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生
第2回	投資理論（ポートフォリオ理論）	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生
第3回	投資理論（資本資産評価モデル）	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生
第4回	投資理論（債券評価）	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生
第5回	企業財務論（資本コスト・資本構成）①	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生
第6回	企業財務論（資本コスト・資本構成）②	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生
第7回	企業財務論（投資決定・配当政策）①	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生
第8回	企業財務論（投資決定・配当政策）②	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生
第9回	デリバティブ（先物取引）	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生

第10回	デリバティブ（オプション取引・スワップ取引）	及川 亮太 阿部 透 竹村 幸生
準備学習等	講義内容をデータとして保存し、視聴時間帯に合わせてパソコン視聴できるシステムでの学習となります。受講生自身の自主的な取り組みが重要であるため、各回、配付レジュメを読んだから講義視聴に入り、視聴後も配付レジュメによる復習を欠かさず実施してください。	
教科書 参考書等	経営学テキスト（上巻）、経営学テキスト（下巻）、経営学問題集、経営学ポケットコンパス（基礎編） なお、上記教材は学校法人大原学園のオリジナル教材である。	
備考	本講義は、税理士会計士学科(2年4ヵ月課程、3年課程及び4年課程)3学年、4学年及び税理士会計士専攻学科(1年課程)1学年の選択科目であるため、各学科各学年合同授業となる。授業計画の各回の内容等については、法改正等に伴い一部変更する場合がある。なお、本講義を含む経営学系の科目（経営学の原理）を履修することで、公認会計士レベルの試験に対応できる内容となっている。	

学科	行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・情報システム学科(2年課程)・情報システム学科(3年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)				
	学年	2学年・3学年・4学年			
科目名	社会人総合演習		授業形態	演習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無	有		授業時間数	120時間	
			単位数	7単位	
科目教員	久保田 佳子、千葉 佳名江、伊藤 浩彰、大野 直哉、中島 京哉、高橋 敬、鈴木 裕治、河野 賢一、五十嵐 久子、瀬尾 幸江、草野 淳子、長澤 千春		授業回数	40回	
			成績評価方法	確認テスト	: 60 %
				実技試験	: 30 %
				レポート	: 10 %
科目教員のうち実務経験教員	瀬尾 幸江、草野 淳子、長澤 千春		:	%	
実務経験教員の実務経験に関する授業内容	[草野淳子・瀬尾幸江・長澤千春] [ビジネスマナー]の授業内容を行う上で、実務で対応できる丁寧な電話対応の指導や、状況に応じた臨機応変な対応力、感じの良い対応ができる実践力を指導する。				
実務経験教員の実務経験内容	<p>[草野淳子] 旅行会社において国内旅行業務に携わり、商品企画・パンフレット作成および当該商品の販売管理・集客状況分析、または関係機関との交渉等を担当していた。2005年より、現公益財団法人実務技能検定協会より委託され秘書技能検定準1級の面接試験の審査員、係員を担当していた。</p> <p>[瀬尾幸江] 宿泊施設での電話交換業務、一般企業での総務事務、労務事務、経理事務等を長年経験し、文書作成管理、電話対応、来客対応などの業務を担当していた。秘書・サービス接遇検定1級、電話実践級を取得。秘書技能検定準1級面接試験審査員・係員を担当している。</p> <p>[長澤千春] 専門学校での教務事務を経験し、高校生対象のキャリア教育セミナーや社会人マナーの講義経験があり、サービス接遇検定1級を取得している。</p>				

授業目的 到達目標	<p>[Word・Excel]</p> <p>状況に合ったビジネス文書を作成できる。基本的な関数を利用し、グラフの作成・編集ができる。</p> <p>「時事研究」</p> <p>最近のニュースに興味・関心を持ち、様々な媒体から情報収集を行い、自分の考えを述べることができる。</p> <p>[販売管理・仕入管理務]</p> <p>売上事務および請求書の作成から代金回収管理までの流れを理解し、必要書類が作成できる。</p> <p>[ビジネスマナー]</p> <p>ビジネスの場にふさわしい心構えを学び、適切な敬語の表現ができる。初期動作から伝言の受け取りまで、一連の電話応対をスムーズに行うことができる。状況に応じた電話応対ができる。</p>
--------------	---

授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	Word 文書の作成と管理・基本操作	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第21回	販売管理・仕入管理 売上事務の流れ、納品書の作成、売上計上	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第2回	Word 一般的なビジネス文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第22回	販売管理・仕入管理 請求書の発行、代金回収管理	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第3回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第23回	販売管理・仕入管理 複数の取引先との取引	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治

第4回	Word レポートおよび報告書の作成 表、画像、図形を使った文書の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第24回	販売管理・仕入管理 仕入事務の流れ、仕入管理の 記帳	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第5回	Word 総合問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第25回	販売管理・仕入管理 仕入代金の支払い、買掛金管 理	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第6回	Word 表、画像、図形を使った文書 の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第26回	販売管理・仕入管理 総合問題演習	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第7回	Word 表、画像、図形を使った文書 の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第27回	販売管理・仕入管理 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第8回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第28回	ビジネスマナー 職場のマナー	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第9回	Word 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第29回	ビジネスマナー あいさつと敬語	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治

第10回	Word 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第30回	ビジネスマナー あいさつと敬語	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第11回	Excel 表作成の基本操作、数式・関数を活用した集計表の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第31回	ビジネスマナー 電話対応のマナー	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治
第12回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第32回	ビジネスマナー 電話対応の受け方	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第13回	Excel 見やすく使いやすい表にする 編集操作	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第33回	ビジネスマナー 電話対応のかけ方	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第14回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第34回	ビジネスマナー 状況別電話対応	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第15回	Excel 総合問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第35回	ビジネスマナー 電話対応ロールプレイング	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一

第16回	Excel グラフの基本、目的に応じた グラフの作成と編集	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第36回	ビジネスマナー 電話対応ロールプレイング	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第17回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第37回	ビジネスマナー 電話対応ロールプレイング 実技確認テスト	久保田 佳子 草野 淳子 長澤 千春 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第18回	Excel 数式・関数を活用した集計表 の作成	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第38回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第19回	Excel 問題演習	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第39回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
第20回	Excel 総合問題演習 確認テスト	久保田 佳子 千葉 佳名江 伊藤 浩彰 高橋 敬 中島 京哉 河野 賢一 五十嵐 久子 大野 直哉 鈴木 裕治	第40回	時事研究 個人研究	久保田 佳子 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 千葉 佳名江 高橋 敬 中島 京哉 大野 直哉 鈴木 裕治 河野 賢一
準備学習等	復習を行い、知識の定着を図ること。 学習したことは必ず実践し、繰り返して、習慣にする。				
教科書 参考書等	PCPパソコン実習 PCPビジネスマナー PCP販売仕入管理 PCP時事(大原学園)				

備考	<p>複数学科・複数学年による合同授業となる。</p> <p>受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性はある。</p> <p>ビジネスの場に対応できる実践力が養われたかを測るため、各項目ごとに確認テスト等を実施し、総合的に評価する。</p> <p>実務を意識した授業であるため、追試等を実施し、実務レベルに相当する力をつけさせる。</p>
----	--

学科	行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	2学年・3学年・4学年

科目名	社会人総合実習Ⅰ		授業形態	実習	
			選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無			授業時間数	60時間	
			単位数	2単位	
科目教員	久保田 佳子、中島 京哉		授業回数	20回	
			成績評価方法	確認テスト	: 80 %
				授業態度	: 20 %
					: %
	: %				
科目教員のうち 実務経験教員				: %	
				: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容					
実務経験教員の 実務経験内容					
授業目的 到達目標	<p>【経理実務・実務編】 【計算技能 電卓演習】 給与に係る税金(所得税、個人住民税)、社会保険の基礎および日常業務に関する仕訳を理解している。証憑書類(領収書、小切手帳)の作成等ができる。P/L、B/Sを読むことができ、基本的な財務分析を理解している。正確で迅速な処理ができるように計算力を向上させる。</p> <p>【経理実務・給与計算】 【計算技能 電卓演習】 所得税法の基礎および源泉徴収、給与計算、年末調整の事務手続きを理解し、申告書等の作成ができる。正確で迅速な処理ができるように計算力を向上させる。</p>				
授業計画					
回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	経理実務 実務編 1. 経理・総務の年間カリキュラム 2. 小切手、手形の実務上のポイント 計算技能 電卓演習	久保田 佳子 中島 京哉	第11回	経理実務 給与計算編 1. 所得税の基礎知識	久保田 佳子 中島 京哉

第2回	<p>経理実務 実務編</p> <p>3. 入出金伝票と現金出納帳</p> <p>4. 当座預金出納帳と手形記入帳</p> <p>5. 交際費、福利厚生費及び会議費等の区分(基礎)</p> <p>計算技能 電卓演習</p>	<p>久保田 佳子</p> <p>中島 京哉</p>	第12回	<p>経理実務 給与計算編</p> <p>2. 年末調整のしかた</p>	<p>久保田 佳子</p> <p>中島 京哉</p>
第3回	<p>経理実務 実務編</p> <p>6. 健康保険、厚生年金保険の概要及び会計処理</p> <p>計算技能 電卓演習</p>	<p>久保田 佳子</p> <p>中島 京哉</p>	第13回	<p>経理実務 給与計算編</p> <p>2. 年末調整のしかた</p>	<p>久保田 佳子</p> <p>中島 京哉</p>
第4回	<p>経理実務 実務編</p> <p>7. 源泉所得税(給与)の徴収・納付事務</p> <p>計算技能 電卓演習</p>	<p>久保田 佳子</p> <p>中島 京哉</p>	第14回	<p>経理実務 給与計算編</p> <p>2. 年末調整のしかた</p>	<p>久保田 佳子</p> <p>中島 京哉</p>
第5回	<p>経理実務 実務編</p> <p>8. 源泉所得税(報酬)の徴収・納付事務(基礎)</p> <p>9. 源泉所得税(報酬)の徴収・納付事務(応用)</p> <p>計算技能 電卓演習</p>	<p>久保田 佳子</p> <p>中島 京哉</p>	第15回	<p>経理実務 給与計算編</p> <p>3. 法定調書の流れ</p>	<p>久保田 佳子</p> <p>中島 京哉</p>
第6回	<p>経理実務 実務編</p> <p>10. 個人住民税の徴収及び納付</p> <p>11. 印紙税の基礎知識</p> <p>計算技能 電卓演習</p>	<p>久保田 佳子</p> <p>中島 京哉</p>	第16回	<p>経理実務 給与計算編</p> <p>4. 労働保険の概要及び会計処理</p>	<p>久保田 佳子</p> <p>中島 京哉</p>
第7回	<p>経理実務 実務編</p> <p>12. 受取利息の会計処理</p> <p>13. 消費税法の概要</p> <p>14. 消費税の会計処理</p> <p>計算技能 電卓演習</p>	<p>久保田 佳子</p> <p>中島 京哉</p>	第17回	<p>経理実務 給与計算編</p> <p>4. 労働保険の概要及び会計処理</p>	<p>久保田 佳子</p> <p>中島 京哉</p>

第8回	経理実務 実務編 15. 原則的な日々の記帳から決算までの流れ(記帳入門) 計算技能 電卓演習	久保田 佳子 中島 京哉	第18回	経理実務 ビジネス会計	久保田 佳子 中島 京哉
第9回	経理実務 実務編 16. 財務分析 計算技能 電卓演習	久保田 佳子 中島 京哉	第19回	経理実務 ビジネス会計	久保田 佳子 中島 京哉
第10回	経理実務 ビジネス会計	久保田 佳子 中島 京哉	第20回	経理実務 ビジネス会計	久保田 佳子 中島 京哉
準備学習等	復習を行い、知識の定着を図ること。 学習したことは必ず実践し、繰り返して、自分の習慣にする。				
教科書 参考書等	経理事務Ⅰ実務編 経理事務Ⅱ給与計算編 (大原学園) ビジネス会計検定試験 テキスト 問題集 (中央経済社)				
備考	複数学科・複数学年による合同授業となる。 受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性はある。 ビジネスの場に対応できる実践力が養われたかを測るため、各項目ごとに確認テストを実施し、総合的に評価する。				

279.マナー実習 (オフィスワーク)	学科	行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
	学年	2学年・3学年・4学年

科目名	マナー実習 (オフィスワーク)	授業形態	実習
		選必の別	選必
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	90時間
		単位数	3単位
科目教員	久保田 佳子・高橋 敬・伊藤 浩彰 千葉 佳名江・中島 京哉・瀬尾 幸江 鈴木 裕治・河野 賢一・大野 直哉	授業回数	30回
		成績評価方法	確認テスト : 80 % 授業態度・提出物 : 20 % : % : % : %
科目教員のうち 実務経験教員			

実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容	授業内容を行う上で、実務で対応できる丁寧な電話対応の指導や、状況に応じた臨機応変な対応力、感じの良い対応、接客力等の実践力を指導する。
-----------------------------	---

実務経験教員の 実務経験内容	旅行会社において国内旅行業務に携わり、商品企画・パンフレット作成および当該商品の販売管理・集客状況分析、または関係機関との交渉等を担当していた。2005年より、現公益財団法人実務技能検定協会より委託され秘書技能検定準1級の面接試験の審査員、係員を担当していた。
-------------------	--

授業目的 到達目標	<p>【オフィスワーク 接客マナー】 受付の対応から応接室への案内まで、一連の流れをスムーズに行うことができる。</p> <p>【オフィスワーク 電話応対応用】 実務に即した伝言の取り次ぎ、電話応対をスムーズに行うことができる。</p> <p>【オフィスワーク 事務職総合演習】 オフィスでの通常業務や、電話応対および受付対応など、臨機応変な対応を行うことができる。</p>
--------------	---

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	オフィスワーク 接客マナー 心構え・お茶の入れ方、出し方	久保田 佳子 高橋 敬 千葉 佳名江 中島 京哉 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 鈴木 裕治 河野 賢一 大野 直哉	第16回	オフィスワーク 電話応対応用 実技試験	久保田 佳子 高橋 敬 千葉 佳名江 中島 京哉 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 鈴木 裕治 河野 賢一 大野 直哉
第2回	オフィスワーク 接客マナー 接客の流れ	久保田 佳子 高橋 敬 千葉 佳名江 中島 京哉 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 鈴木 裕治 河野 賢一 大野 直哉	第17回	オフィスワーク 事務職総合演習 ロールプレイング形式での トレーニング	久保田 佳子 高橋 敬 千葉 佳名江 中島 京哉 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 鈴木 裕治 河野 賢一 大野 直哉

第3回	オフィスワーク 接客マナー ロールプレイング	久保田 佳子 高橋 敬 千葉 佳名江 中島 京哉 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 鈴木 裕治 河野 賢一 大野 直哉	第18回	オフィスワーク 事務職総合演習 ロールプレイング形式での トレーニング	久保田 佳子 高橋 敬 千葉 佳名江 中島 京哉 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 鈴木 裕治 河野 賢一 大野 直哉
第4回	オフィスワーク 接客マナー ロールプレイング	久保田 佳子 高橋 敬 千葉 佳名江 中島 京哉 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 鈴木 裕治 河野 賢一 大野 直哉	第19回	オフィスワーク 事務職総合演習 ロールプレイング形式での トレーニング	久保田 佳子 高橋 敬 千葉 佳名江 中島 京哉 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 鈴木 裕治 河野 賢一 大野 直哉
第5回	オフィスワーク 接客マナー ロールプレイング	久保田 佳子 高橋 敬 千葉 佳名江 中島 京哉 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 鈴木 裕治 河野 賢一 大野 直哉	第20回	オフィスワーク 事務職総合演習 ロールプレイング形式での トレーニング	久保田 佳子 高橋 敬 千葉 佳名江 中島 京哉 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 鈴木 裕治 河野 賢一 大野 直哉
第6回	接客マナー 実技試験	久保田 佳子 高橋 敬 千葉 佳名江 中島 京哉 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 鈴木 裕治 河野 賢一 大野 直哉	第21回	オフィスワーク 事務職総合演習 ロールプレイング形式での トレーニング	久保田 佳子 高橋 敬 千葉 佳名江 中島 京哉 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 鈴木 裕治 河野 賢一 大野 直哉
第7回	オフィスワーク 電話応対応用 状況別挨拶練習、伝言メモの ポイント、伝言記述練習、電 話応対ロールプレイング	久保田 佳子 高橋 敬 千葉 佳名江 中島 京哉 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 鈴木 裕治 河野 賢一 大野 直哉	第22回	オフィスワーク 事務職総合演習 ロールプレイング形式での トレーニング	久保田 佳子 高橋 敬 千葉 佳名江 中島 京哉 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 鈴木 裕治 河野 賢一 大野 直哉
第8回	オフィスワーク 電話応対応用 状況別挨拶練習、伝言メモの ポイント、伝言記述練習、電 話応対ロールプレイング	久保田 佳子 高橋 敬 千葉 佳名江 中島 京哉 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 鈴木 裕治 河野 賢一 大野 直哉	第23回	オフィスワーク 事務職総合演習 ロールプレイング形式での トレーニング	久保田 佳子 高橋 敬 千葉 佳名江 中島 京哉 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 鈴木 裕治 河野 賢一 大野 直哉
第9回	オフィスワーク クレーム対応	久保田 佳子 高橋 敬 千葉 佳名江 中島 京哉 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 鈴木 裕治 河野 賢一 大野 直哉	第24回	オフィスワーク 事務職総合演習 実技試験	久保田 佳子 高橋 敬 千葉 佳名江 中島 京哉 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 鈴木 裕治 河野 賢一 大野 直哉

第10回	オフィスワーク 電話応対応用 状況別挨拶練習、伝言メモの ポイント、伝言記述練習、電 話応対ロールプレイング	久保田 佳子 高橋 敬 千葉 佳名江 中島 京哉 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 鈴木 裕治 河野 賢一 大野 直哉	第25回	オフィスワーク ビジネス文書作成と ビジネスメール	久保田 佳子 高橋 敬 千葉 佳名江 中島 京哉 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 鈴木 裕治 河野 賢一 大野 直哉
第11回	オフィスワーク 電話応対応用 状況別挨拶練習、伝言メモの ポイント、伝言記述練習、電 話応対ロールプレイング	久保田 佳子 高橋 敬 千葉 佳名江 中島 京哉 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 鈴木 裕治 河野 賢一 大野 直哉	第26回	オフィスワーク ビジネス文書作成と ビジネスメール	久保田 佳子 高橋 敬 千葉 佳名江 中島 京哉 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 鈴木 裕治 河野 賢一 大野 直哉
第12回	オフィスワーク 電話応対応用 電話応対ロールプレイング	久保田 佳子 高橋 敬 千葉 佳名江 中島 京哉 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 鈴木 裕治 河野 賢一 大野 直哉	第27回	オフィスワーク 会食マナー 酒席のマナー	久保田 佳子 高橋 敬 千葉 佳名江 中島 京哉 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 鈴木 裕治 河野 賢一 大野 直哉
第13回	オフィスワーク 電話応対応用 電話応対ロールプレイング	久保田 佳子 高橋 敬 千葉 佳名江 中島 京哉 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 鈴木 裕治 河野 賢一 大野 直哉	第28回	オフィスワーク 冠婚葬祭マナー(慶事・弔事)	久保田 佳子 高橋 敬 千葉 佳名江 中島 京哉 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 鈴木 裕治 河野 賢一 大野 直哉
第14回	オフィスワーク 電話応対応用 電話応対ロールプレイング	久保田 佳子 高橋 敬 千葉 佳名江 中島 京哉 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 鈴木 裕治 河野 賢一 大野 直哉	第29回	新しいビジネス環境について	久保田 佳子 高橋 敬 千葉 佳名江 中島 京哉 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 鈴木 裕治 河野 賢一 大野 直哉
第15回	オフィスワーク 電話応対応用 電話応対ロールプレイング	久保田 佳子 高橋 敬 千葉 佳名江 中島 京哉 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 鈴木 裕治 河野 賢一 大野 直哉	第30回	新しいビジネス環境について	久保田 佳子 高橋 敬 千葉 佳名江 中島 京哉 伊藤 浩彰 瀬尾 幸江 鈴木 裕治 河野 賢一 大野 直哉
準備学習等	復習を行い、知識の定着を図ること。 学習したことは必ず実践し、繰り返して、自分の習慣にする。				
教科書 参考書等	P C P ビジネスマナー(大原学園)				

備考	<p>複数学科・複数学年による合同授業となる。</p> <p>受講生の習熟の度合い、進捗度や検定試験の出題範囲改正等に伴う授業内容の変更の可能性がある。</p> <p>ビジネスの場に対応できる実践力が養われたかを測るため、各項目ごとに確認テストを実施し、総合的に評価する。</p> <p>実務を意識した授業であるため、追試等を実施し、実務レベルに相当する力をつけさせる。</p>
----	---

学科	行政公務員学科(2年課程)・法律公務員学科(2年課程)・総合公務員学科(2年課程)・OA事務学科(2年課程)・ビジネス学科(2年課程)・経理事務学科(2年課程)・税理士会計士学科(2年課程)・税理士会計士学科(3年課程)・税理士会計士学科(4年課程)
学年	2学年・3学年・4学年

科目名	ビジネスパソコンスキル実習	授業形態	実習	
		選必の別	選必	
実務経験のある教員による科目の有無		授業時間数	120時間	
		単位数	4単位	
科目教員	久保田 佳子、伊藤 浩彰、千葉 佳名江	授業回数	40回	
		成績評価方法	確認テスト	: 80 %
			授業態度	: 20 %
				: %
				: %
科目教員のうち実務経験教員			: %	
			: %	
実務経験教員の 実務経験に関する 授業内容				
実務経験教員の 実務経験内容				
授業目的 到達目標	<p>【Excel応用】 業務に役立つ関数およびデータベース機能を活用し、状況に合った集計および資料作成ができる。</p> <p>【PowerPoint応用演習】 サーティファイ PowerPoint検定 上級取得を目指す。</p> <p>【Excel応用演習】 サーティファイ Excel検定 1・2級取得を目指す。</p> <p>【Word応用演習】 サーティファイ Word検定 1・2級取得を目指す。</p>			

授業計画

回数	授業内容	科目教員	回数	授業内容	科目教員
第1回	Excel応用 データベース機能の利用(並べ替え等)	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江	第21回	Word応用演習 Word検定対策	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江
第2回	Excel応用 問題演習	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江	第22回	Word応用演習 Word検定対策	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江
第3回	Excel応用 数式・関数を活用した集計表の作成(VLOOKUP関数)	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江	第23回	Word応用演習 Word検定対策	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江
第4回	Excel応用 問題演習	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江	第24回	Word応用演習 Word検定対策	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江

第5回	Excel応用 効果測定 授業の類似問題（2問）	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江	第25回	Word応用演習 Word検定対策	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江
第6回	Excel応用 データの抽出	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江	第26回	Word応用演習 Word検定対策	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江
第7回	Excel応用 問題演習	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江	第27回	Word応用演習 Word検定対策	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江
第8回	Excel応用 ピボットテーブル、 マクロによる作業の自動化	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江	第28回	Word応用演習 総合問題実習	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江
第9回	Excel応用 問題演習（見積書の作成）	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江	第29回	Word応用演習 総合問題実習	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江
第10回	Excel応用 効果測定 総合問題（3問）	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江	第30回	Word応用演習 総合問題実習	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江
第11回	PowerPoint応用演習 PowerPoint検定対策	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江	第31回	Excel応用演習 Excel検定対策	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江
第12回	PowerPoint応用演習 PowerPoint検定対策	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江	第32回	Excel応用演習 Excel検定対策	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江
第13回	PowerPoint応用演習 PowerPoint検定対策	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江	第33回	Excel応用演習 Excel検定対策	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江
第14回	PowerPoint応用演習 PowerPoint検定対策	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江	第34回	Excel応用演習 Excel検定対策	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江
第15回	PowerPoint応用演習 PowerPoint検定対策	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江	第35回	Excel応用演習 Excel検定対策	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江
第16回	PowerPoint応用演習 プレゼンテーション資料作成	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江	第36回	Excel応用演習 Excel検定対策	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江
第17回	PowerPoint応用演習 プレゼンテーション資料作成	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江	第37回	Excel応用演習 Excel検定対策	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江
第18回	PowerPoint応用演習 プレゼンテーション資料作成	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江	第38回	Excel応用演習 総合問題実習	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江

第19回	PowerPoint応用演習 プレゼンテーション資料作成	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江	第39回	Excel応用演習 総合問題実習	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江
第20回	PowerPoint応用演習 プレゼンテーション資料作成	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江	第40回	Excel応用演習 総合問題実習	久保田 佳子 伊藤 浩彰 千葉 佳名江
準備学習等	<p>復習を行い、知識の定着を図ること。 学習したことは必ず実践し、繰り返して、自分の習慣にする。</p>				
教科書 参考書等	<p>パソコン実習（大原学園）、 PowerPointプレゼンテーション技能認定試験問題集（株式会社サーティファイ）、 Excel表計算処理技能認定試験1・2級問題集（株式会社サーティファイ）、 Word文書処理技能認定試験1・2級問題集（株式会社サーティファイ）</p>				
備考	<p>複数学科・複数学年による合同授業となります。 受講生の習熟の度合い、進捗に伴う授業内容の変更の可能性があります。 ビジネスの場に対応できる実践力が養われたかを測るため、各項目ごとに確認テストを実施し、総合的に評価する。 実務を意識した授業であるため、追試等を実施し、実務レベルに相当する力をつけさせる。</p>				